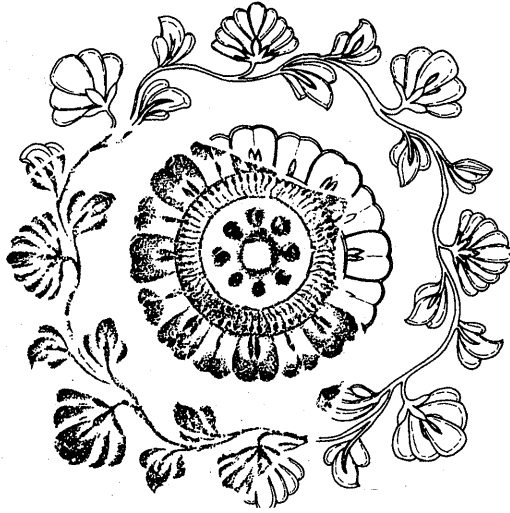


太宰府市の文化財 第44集

太宰府・佐野地区遺跡群 IX

前田遺跡第8・9・10・11次調査

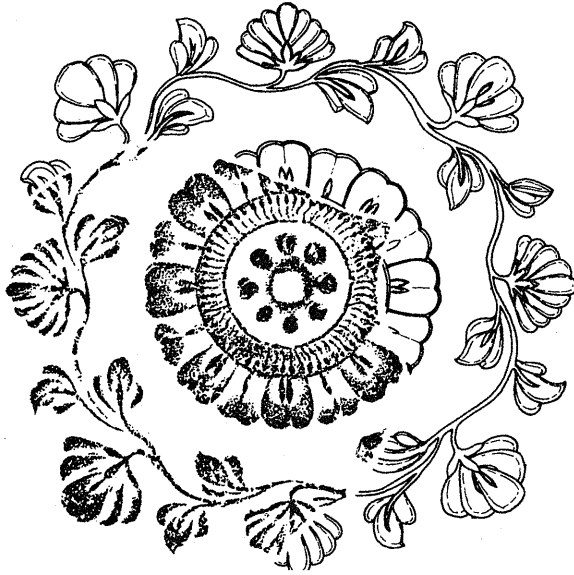


1999

太宰府市教育委員会

太宰府・佐野地区遺跡群 IX

前田遺跡第8・9・10・11次調査



1999

太宰府市教育委員会

序

本書は平成2年度から7年度にかけて佐野区画整理事業にともない太宰府市が発掘調査をおこないました佐野地区遺跡群のうち、大字向佐野に所在します前田遺跡の第8次から第11次までの調査報告を集成したものです。

前田遺跡は弥生時代、古代を中心とした遺跡ですが、旧石器時代の石器から中世の遺構面までを検出しました。

今回はコンピュータの普及にともない情報提供の新たな試みとして報告書の体裁を印刷物からCD-ROM版に重心をおいてデジタル化を進めました。これによりさらに多くの情報を盛り込むことができたと考えております。本書が太宰府市の歴史を考え、これからの太宰府市を創造していく一助になれば幸いです。

最後になりましたが資料の提供やご指導いただきました各機関、先生方、さらには発掘調査および整理作業に御協力いただきました作業員の皆様に感謝申し上げる次第です。

平成11年3月

太宰府市教育委員会
教育長 長野 治己

例 言

1. 本書は平成2年から7年までに太宰府市教育委員会が、太宰府市がおこなう佐野区画整理事業にともない緊急発掘調査をおこなった前田遺跡第8～11次調査の報告書である。
2. 遺構の実測及び写真撮影は、各調査担当者のほか瓜生秀文・塩地潤一・井上信正・河田聡・柴田剛・立田理・林大智がおこなった。調査地の空中写真は（有）空中写真企画がおこなった。遺構全体図はアジア航測（株）に委託した。
3. 遺構の実測には、国土調査法第II座標系を使用した。したがって本書に示される方位は特に注記のない限り座標北（G.N.）を示し、本文中に記される遺構の角度及び距離もこれを基準としている。
4. 出土した金属製品及び木製品の保存処理は下川可容子がおこなった。
5. 遺物の実測と写真撮影及び図版の浄書は、各整理担当者のほか塩地潤一・井上由紀子・松隈里恵子・酒井三保子・阿部浩子・白水文恵・黒木美幸・時津裕子がおこなった。
6. 本書の執筆分担は目次に記した。編集作業はデジタルデータ化まで各整理担当者がおこない、とりまとめを城戸康利がおこなった。

目 次

I. この報告書の使用方法について	
II. 調査地の位置と歴史的環境	山村信榮
III. 調査の概要	
1. 第8次調査	山村
2. 第9次調査	城戸康利
3. 第10次調査	井上信正
4. 第11次調査	高橋学

CD-ROM目次

I. はじめに	山村
II. 調査組織	山村
III. 調査記録	
1. 前田遺跡第8次調査	山村
2. 前田遺跡第9次調査	城戸
3. 前田遺跡第10次調査	井上
4. 前田遺跡第11次調査	高橋

I. この報告書の使用方法について

1. 報告書の構成

本報告書は印刷物とCD-ROMにより構成されており、印刷物では遺跡の概要をかいつまんで記述しています。CD-ROMに収納しているファイルが従来の印刷された報告書の内容を持つもので、遺跡の詳細についてはこれをご覧ください。

2. CD-ROMについて

本CD-ROMはMacintosh／Windowsどちらの環境でも閲覧できる様、ハイブリッド形式で記録しております。

報告書はPDF形式にて作成されていますので、これを表示させるためにはAcrobat Readerがコンピュータにインストールされている必要があります。

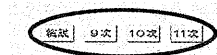
また、Acrobat Reader（米、アドビシステムズ社製、フリーウェア）は本CD-ROM内に添付してあります。ただし、Macintosh用Acrobat Reader4.0はPower Macintosh専用になっていますので、それ以前のもの（CPUが68040シリーズのもの）にはAcrobat Reader3.0の方をご使用ください。その他、動作環境及びインストールの詳細に関しては、ソフトウェア内に添付の説明テキストがございますので、そちらの方をご参照願います。

PDFドキュメントの説明

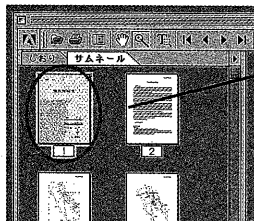
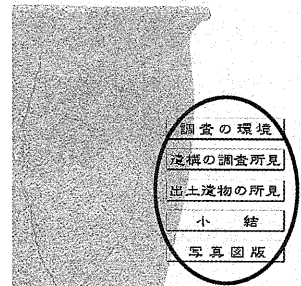
・PDFドキュメントは全部で5ファイルの構成になっています。（序から総説までがtop.pdf。以下、各次の報告書がM08.pdfからM11.pdfにそれぞれ対応します。）

・各ファイルは独立して起動できますが、それぞれのファイル間は表紙のボタンをクリックすることで、インタラクティブに移動できるようにリンクが設定してあります。

・各項目へは各次表紙のメニューボタンと詳細な内容のしおりが用意してありますので、クリックで移動できます。また、サムネールをダブルクリックしても該当のページにジャンプすることができます。



第8次調査



II. 調査地の位置と歴史的環境

佐野地区は玄界灘に開けた福岡平野の南端、太宰府市の南西に位置する。南西方向には標高1000m級の背振山があり、本報告の前田遺跡はそこから派生する丘陵裾と福岡平野の最南部が接する位置にあり、地区内を南西から北西に流れる大佐野川は南の筑紫野市二日市方面から流れる鷺田川と合流し、水城を越えて博多湾に北流する。太宰府市は玄界灘に連なる博多湾に面した福岡平野と有明海に面した筑後平野を溝状に繋ぐ一番狭い場所にあたり、古代にはこの地形を利用して防衛施設としての水城が築かれている。

弥生時代では遺跡の密度からいえば北の春日市の岡本丘陵を中心とした大集落群と南の筑紫野市から小郡市にまたがる三国丘陵から夜須町にかけての筑紫平野北側の集落群に挟まれた形となり、両地域に比べれば点々とその痕跡が辿れるに過ぎないと考えられてきた。しかし、この佐野地区ではじまった調査によって、すでに報告した地区の北にある原口遺跡では弥生前期中頃（板付II式期）に5棟の円形住居からなる集落跡が、前田遺跡とは大佐野川を挟んで対峙する籬川、フケ遺跡では弥生後期から終末、古墳時代の初頭にかけての低湿地を利用した木製品貯蔵、加工の場所や堀立柱建物からなる集落の跡などが検出され、さらにそれに切られる形で板付式期に該当する円形に展開する前期集落が発見された。近年では御笠川北岸の四王寺山裾の国分～水城地域で濠を伴った中期の集落も発見され、不鮮明であったこの地域の弥生時代の様相が次第に明らかにされつつある。

歴史時代にあっては地区内を東西に横たわる字宮ノ本の丘陵は過去の調査で「買地券」（墓誌）を伴った大宰府官人（推定）の葬送の場所として利用されていたことが判明しており、その後の調査でこの墳墓群の葬送の時期が奈良時代に遡り、下限は10世紀代におかれることがわかってきた。また、隣接する前田遺跡において水城西門から大宰府政庁にいたる道幅約10mの古代官道が発見され、先の宮ノ本墳墓群の地理的位置づけに、付加すべき新たな情報を提供している。

今回の前田遺跡10、11次調査は弥生時代前期、後期の集落の中核部分の一角を開けた調査であり10次では古代官道の一部が検出されている。前田遺跡8、9次調査は古代の墳墓のあり方や広がり、官衙的な建物群の外縁部に存在する金属関連や水稻の生産を伴う集落、中世の集落などを考察するためには重要な発掘調査である。

参考文献

- 『太宰府・佐野地区遺跡群I～VIII』 1989～97 太宰府市教育委員会
- 『宮ノ本遺跡』 1980 太宰府市教育委員会
- 『宮ノ本遺跡II』 1992 太宰府市教育委員会
- 『太宰府市史考古資料編』 1993 太宰府市

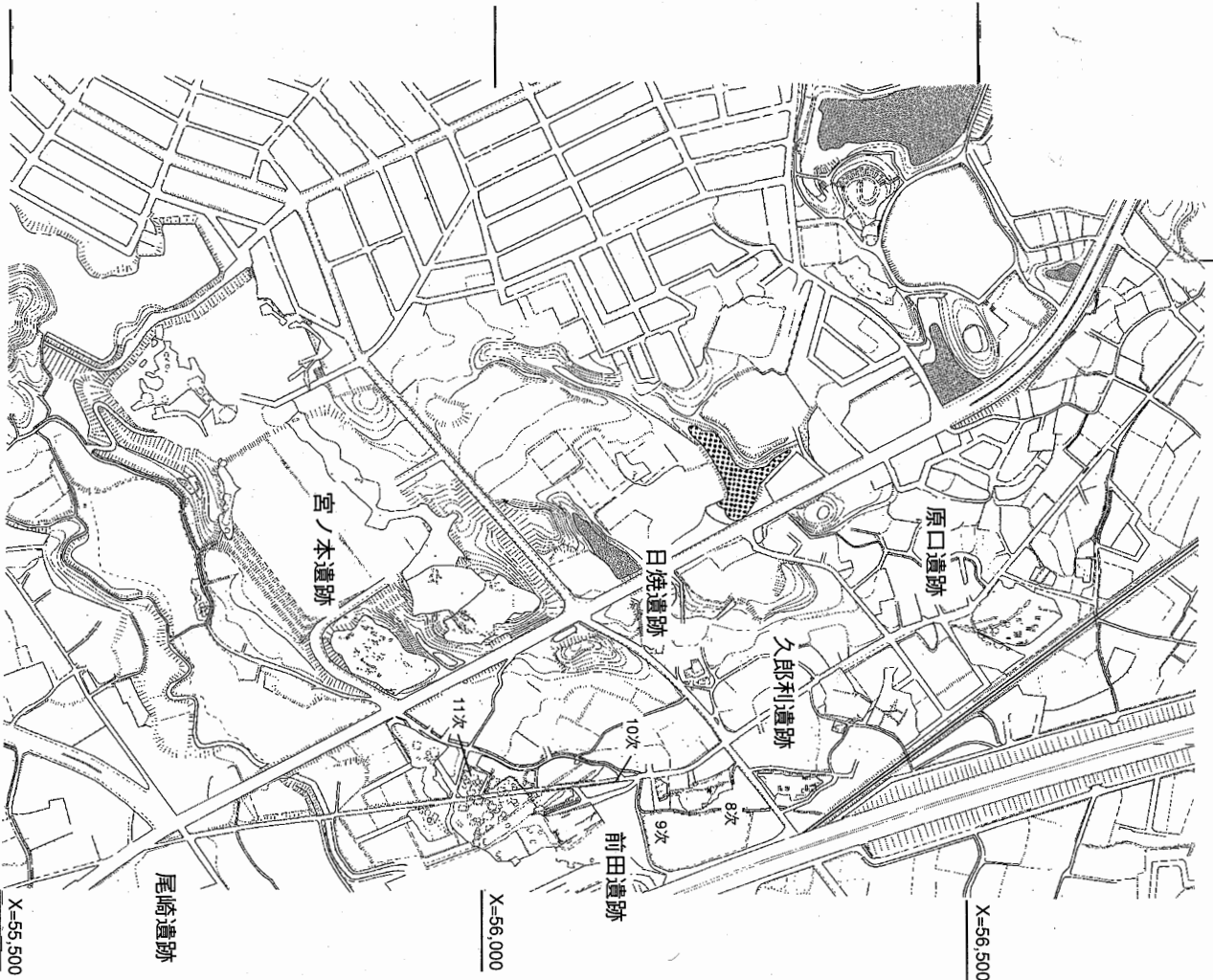


図1 佐野地区周辺の遺跡

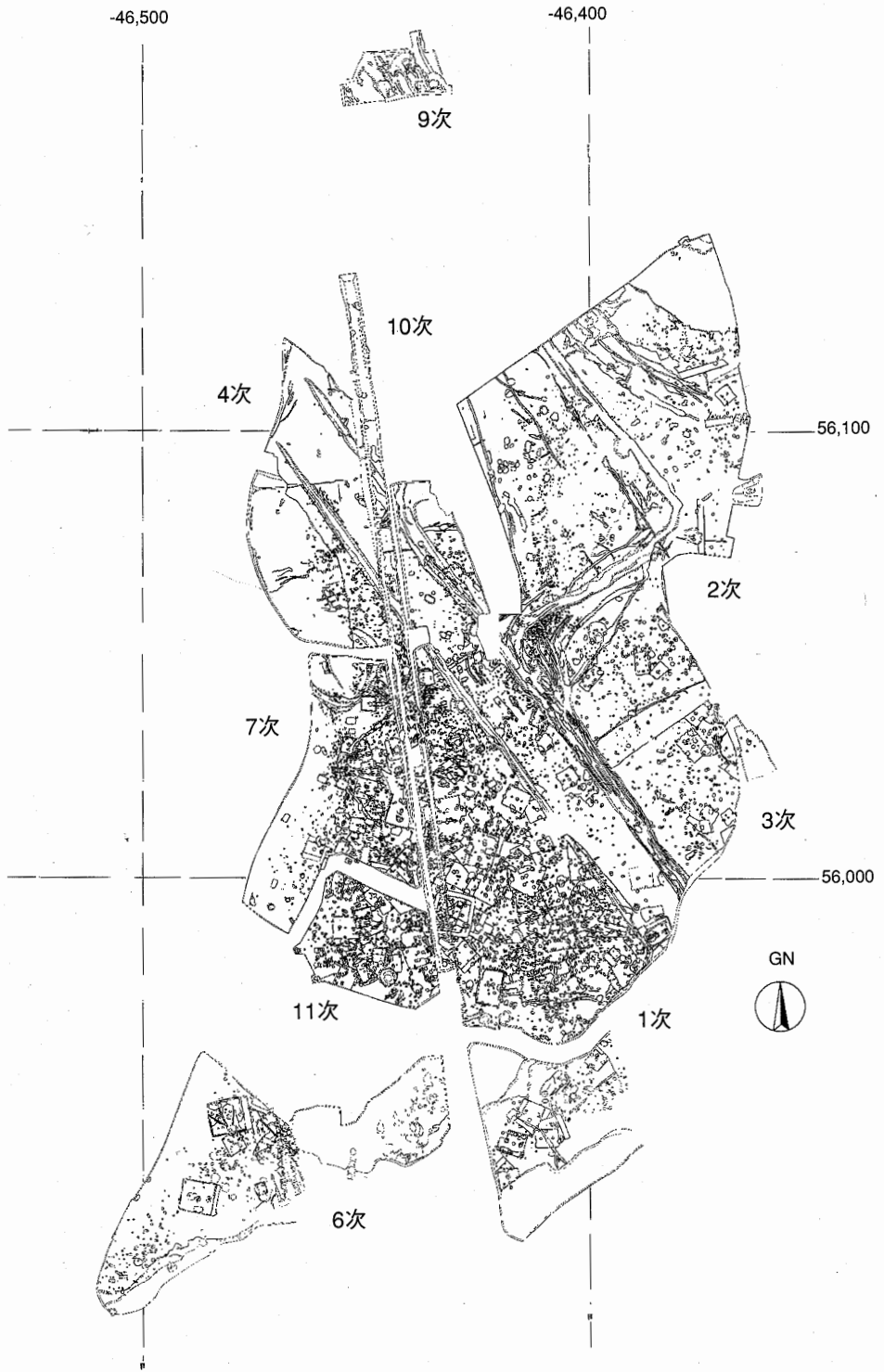


図2 前田遺跡調査区位置図

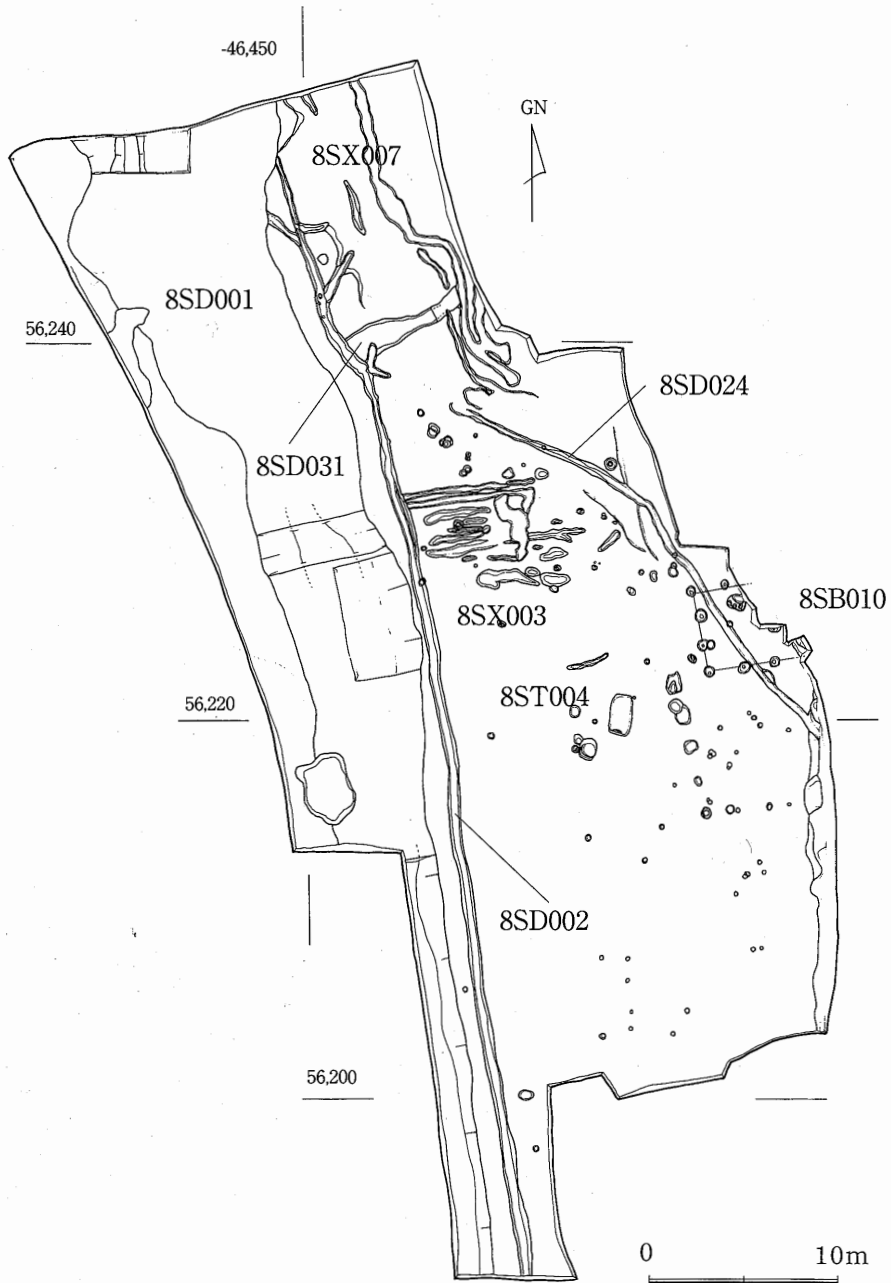


図3 第8次遺構配置図 (1/400)

III. 調査の概要

1. 第8次調査

前田遺跡8次調査で明確にされた所見は、古代にあっては金属生産に関連した遺物を伴う8世紀中頃以降の遺物の分布が認められ、その時期に該当する掘立柱建物と水田給水施設としての

一定の方向性を持った溝が検出されたことが挙げられる。中世では古代の水路とほぼ同じ方向を踏襲する大きな溝があり、13世紀後半から14世紀前半頃の生活廃棄物とその埋没過程で投棄された状況が見られ、至近に集落が存在することを示唆している。

8世紀については周辺の調査所見をあわせて考えると、この丘陵裾の平坦部には8世紀前半に幅12mの古代官道が敷設され、中頃から後半にかけて官道の側溝が埋没する過程で金属生産を伴う掘立柱建物を中心とした水田を伴う生活空間が現れる。この空間の北側に近接する原口、久郎利遺跡では官衛的な建物群が展開している。

8世紀後半から9世紀には官道が廃絶する、という展開が見られる。

2. 第9次調査

旧水田面の下で南東から北西または北に向かう溝を数条検出した。前9SD001は幅約3m、深さ1m程で、12世紀中頃までの遺物を含む。前9SD002の掘り直しの可能性がある。前8SD001に続くものである。前9SD002は幅約3m、深さ約0.6mである。前9SD005は幅約3m、深さ約0.4mで、前9SD002に切られている。前9SD004は幅約2.5m、深さ約0.2mで、近世以降の埋没である。前9SD006は幅約0.7m、深さ約0.2mを測る。前8SD002と同一のものである。奈良時代までの遺物を出土している。前9SD001から剥片尖頭器を出土した。

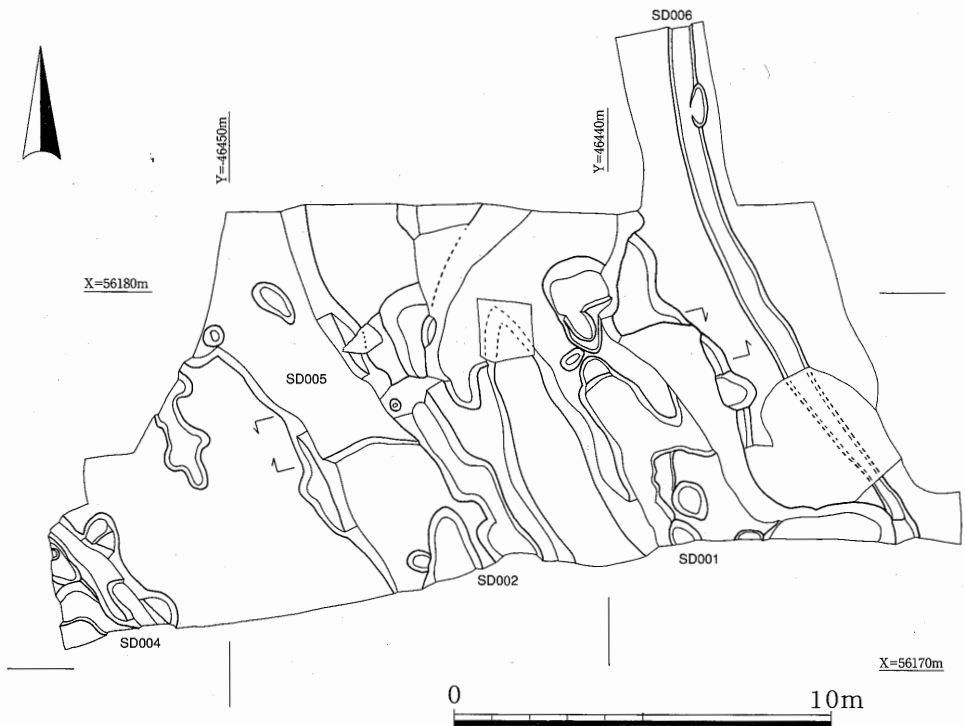


図4 第9次調査遺構配置図 (1/200)



第8次調査全景（北から 奥は天拝山）



第9次調査全景（上が東）

3. 第10次調査

佐野地区区画整理事業に伴い道路の付け替えが行われ、その旧道部分を調査した。いずれも調査範囲が狭いため、詳細については今後の周辺調査区での成果に委ねる部分が多い。

【弥生時代前期】

本調査区の西側の前田遺跡第7次調査（既報告）を中心に弥生時代前期の集落が同心円状に展開しているが、本調査区の南側がこの集落の東側にあたる。ここでは住居は検出されなかったが、貯蔵穴が6基検出された。各遺構とも遺物量は少ないが、前10SK025は比較的まとまって遺物が出土している。

【弥生時代後期～古墳時代前期】

調査区南側一体で、当時の竪穴住居・溝等を検出した。本調査区の範囲が狭いため、隣地調査区で同一遺構が検出される場合が多く、本調査区のみでは全体像を把握するのが困難である。周辺調査の整理報告とあわせて、今後再検討する必要がある。なお前10SD005および前10SD035について、本調査区内では直接両遺構の関連はわからないが、周辺調査区の成果よりこの両者は同一遺構とみられ、方形周溝等と考えられる。

【奈良時代】

調査区北側で、北西－南東方向に走行する溝が2本平行に検出された（前10SD001・前10SD100）。周辺調査成果より水城西門を通る官道側溝とみられる。なお両遺構に挟まれた

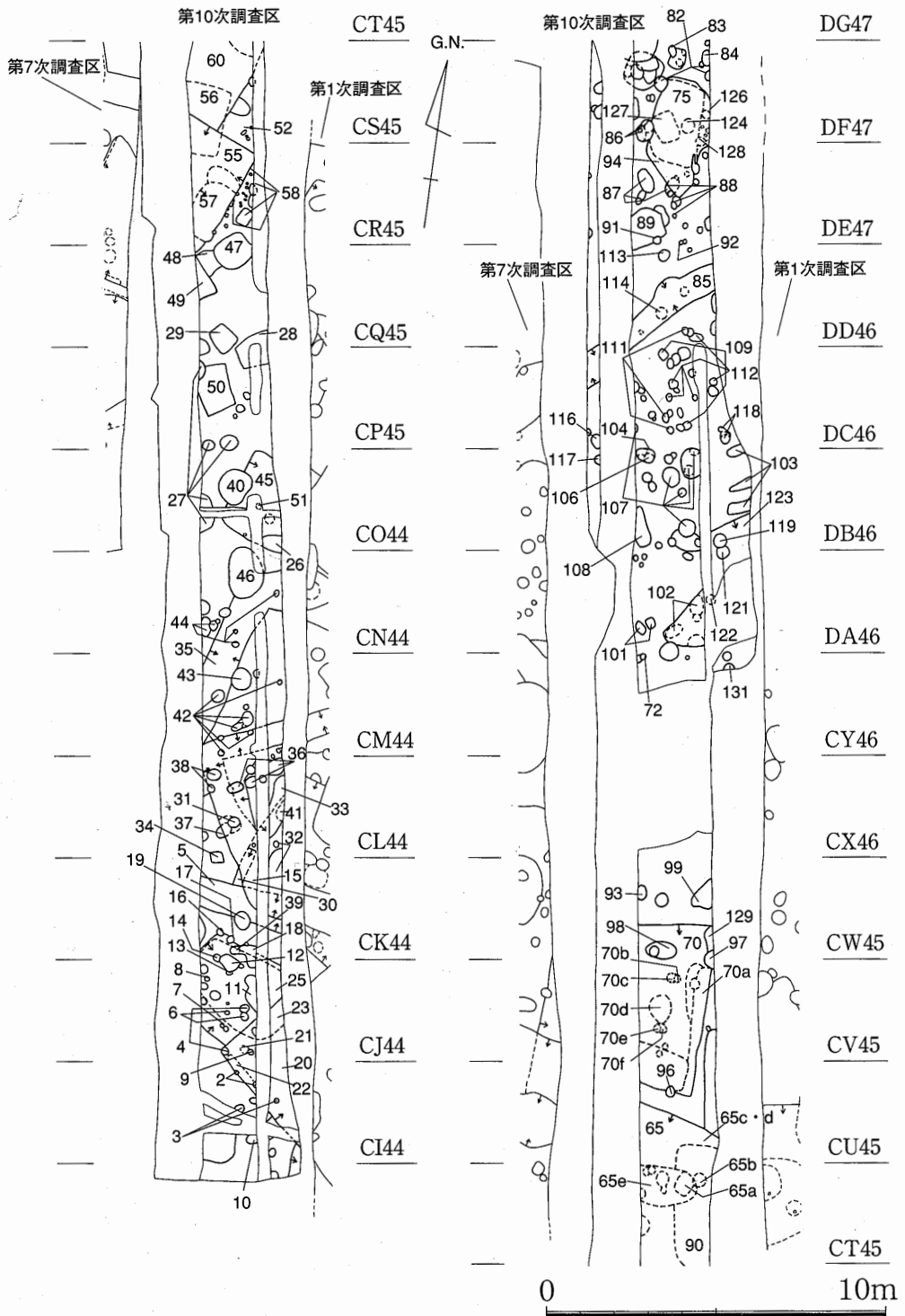


図5 第10次調査遺構配置図 (1) (1/200)

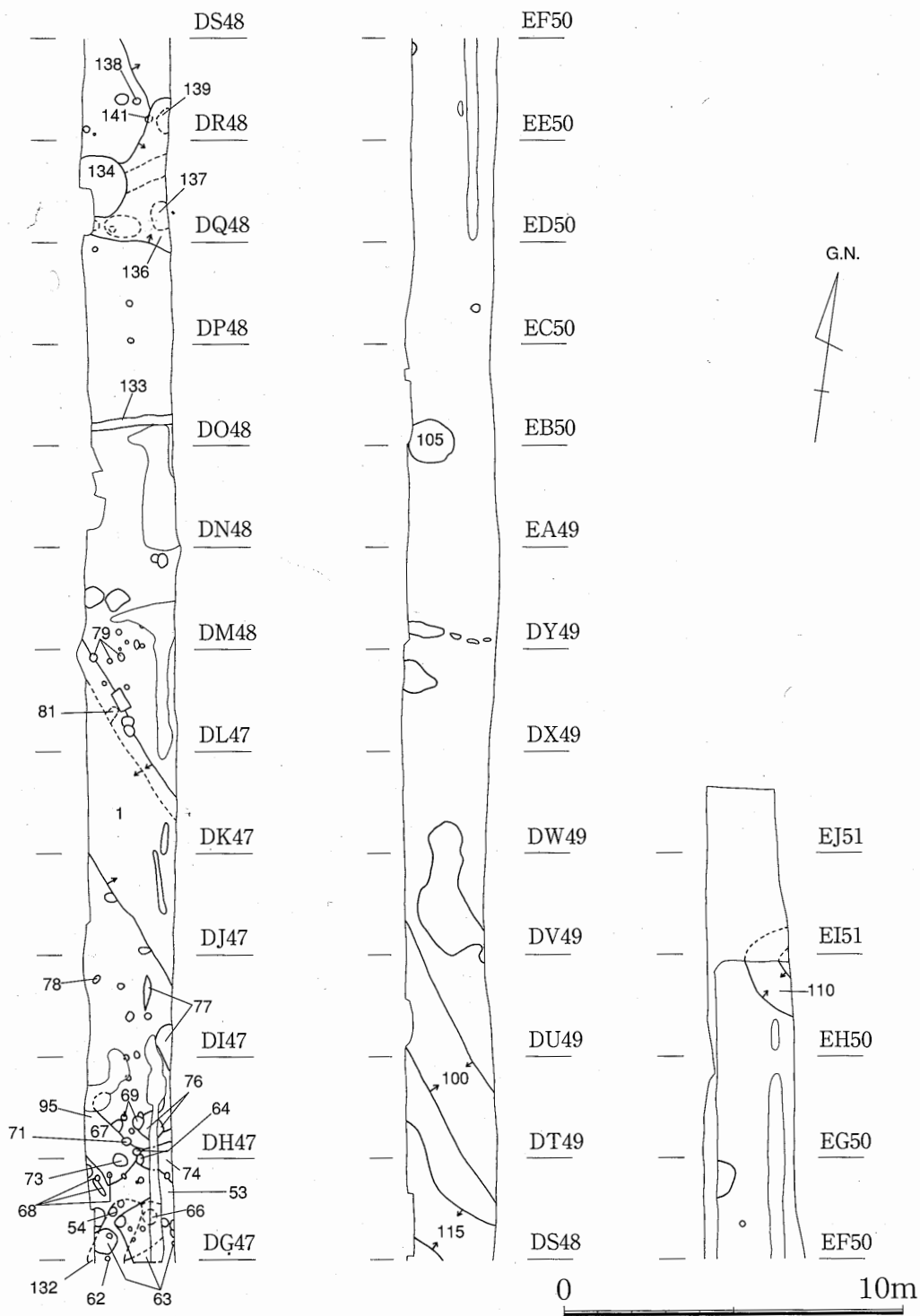


図6 第10次調査遺構配置図 (2) (1/200)

部分に路面痕跡は残存していなかった。このほか奈良期の溝・土塋等が調査区中央～北側にかけて検出されている。

最後に、官道西側溝とみられる前10SD001の溝底において直径20cm強程度の小穴状遺構を複数確認した。これは溝を掘削したときの鋤痕跡とみられる。

鋤で地面を掘削するという事は、まず地面に対して垂直または垂直に近い方向に鋤を突き刺し、鋤先を地中深く押し込み、それから鋤を傾けて土を掘り起こすという作業となる。このことを念頭におきながら鋤痕跡を観察した。

鋤痕跡の平面プランはほぼ円形を呈しているが、詳細をみると、鋤を突き刺したとみられる部分の地山との境界は

比較的直線状を呈しており、他の部分は平面プランがやや乱れている。そこで鋤が当たったとみられる直線状の部分に対して垂直にたち割り、断面観察すると、地面を掘りこんで鋤先があたった最下部は鋭角を呈し、土を掘り起こした部分は半月状に土が堆積している状況がみられた。このことは、実験的にスコップを使用して溝底を掘り、埋め戻したものを同様に断面観察した場合も同じ結果が得られた。(なお、溝底はシルト質～砂質の軟質の地盤である。)

こうして得られた鋤痕跡を追ってみると、溝底のみならず溝肩の東側(官道路面側)にも幅1m程度の範囲でも確認され、土層観察とあわせてこの溝がテラス状の段を有することが判明した。また鋤の方向から掘削作業単位を一部確認できたことも大きな成果であった(本文Pl.10-7参照)。

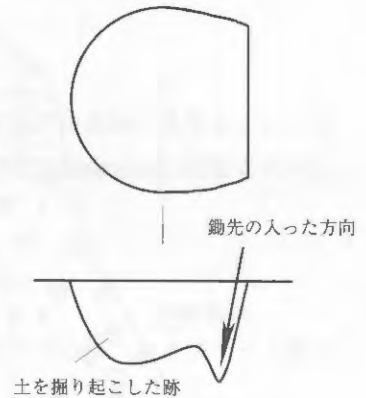
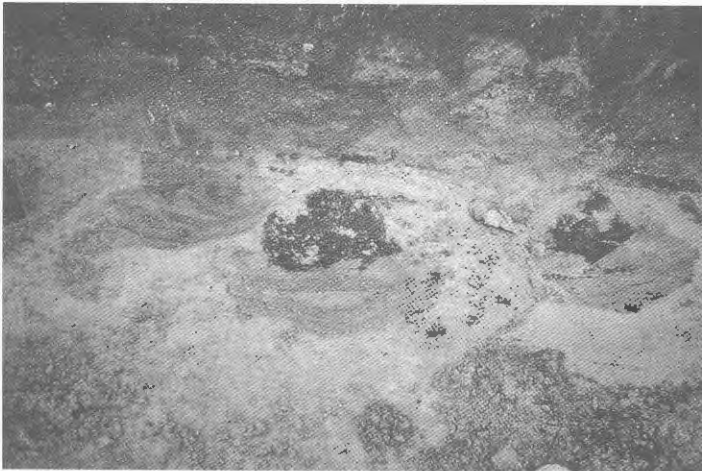


図7 鋤痕跡断面模式図



前10SD001溝底の鋤痕跡断面観察(西から撮影)

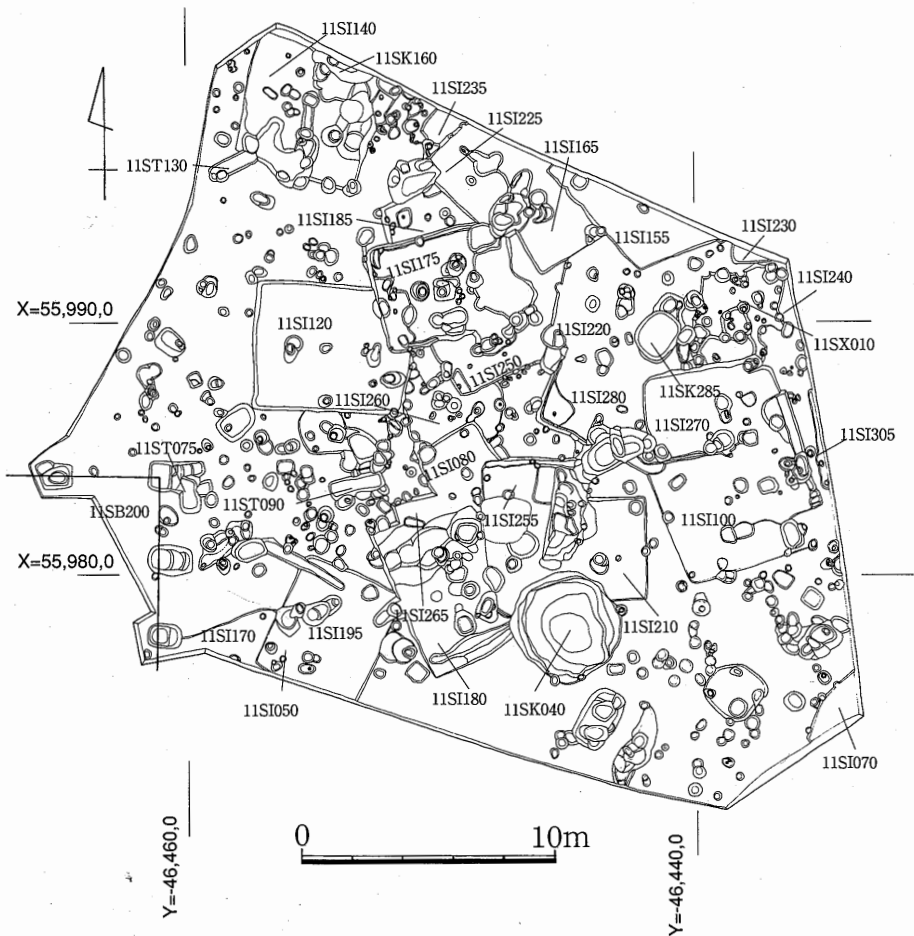


図8 第11次調査遺構配置図 (1/300)

4. 第11次調査

前田遺跡第11次調査の調査区は、前田遺跡第6・7・10次調査地点に囲まれた土地である。この土地は大佐野川の北岸にあたり、宮ノ本丘陵の東裾に位置する。地形は宮ノ本丘陵から東の平野に向かって延びている傾斜地の中位にあたる。遺構は主に黄灰色粘質土層を掘削して構築されている。

以下、時代別に概観していく。

【弥生時代以前】

本調査区内では旧石器時代の遺構、遺物は検出されなかった。縄文時代については、弥生時代の住居内埋土から後期、晩期の土器片が若干量出土している。出土土器の分布をみると、



前田遺跡第11次調査 調査区全景（上が北）

後期の土器片は前11SB100・210・280から、晩期の土器片は前11SB180から出土しており、傾向として調査区中央部東よりに集中して分布していることがわかる。このあたりに当該期の遺構が存在していたとすれば、明確な遺構を伴わない利用形態だったと思われる。これは前田遺跡の前報告で述べられているような小規模なキャンプ地という性格があてはまるだろう。

【弥生時代前期】

この時期に該当する遺構は前11SI255・260・265、前11SK285があげられる。ただし前11SI260・305は積極的な時期比定が難しいため可能性があるという程度にとどめておきた

い。前田遺跡全体からみた場合に本調査地区は、前期前田集落の中心部からやや南西に外れた場所に位置する。それは遺構の展開にも表れており、住居とそれに付随する貯蔵穴という組み合わせとしては検出例が少ないため、判断は付けにくい。集落内の位置づけなどは連接する調査の成果が出された時点で考えていくべきと思われる。

【弥生時代後期】

本調査では当該期の住居が密集しており活動が盛んだったことを思わせる。時期別にみると、後期前半～中頃の住居は前11SI070、中頃～後半は前11SI100.195.210.230、後半～末期は前11SI140.175.185.220.225.270などである。厳密な時期の特定はできないが後期の住居として前11SI170.240.250も含まれる。それぞれの時期で頻繁な建て替えが行われているが、明確な方向などの規則性は認められない。とくに後期から末期にかけては調査区北部に帯状に密集しており、住居の建て替えが盛んだったことを示している。

【古墳時代前期】

前期初頭の布留式段階の住居が多く、弥生時代後期末葉から連続して形成されたと思われる。前11SI120.155.165.180があげられる。ただしこれに継続する遺構は検出していない。

【奈良時代】

8世紀中頃～後半に掘立柱建物1棟、竈付き堅穴住居2棟、大型土坑2個が併存している。前11SB200は正方位に近い振れを持つ大型掘立柱建物で、各々の掘り方の断面形状が有段を持つ特色を有する。同様な構造を持つ掘立柱建物が前田遺跡第1次調査でも検出されている。竈付き堅穴住居は出入口を2棟とも南西方向に向けている。その理由としては前田遺跡第4次調査で検出されている古代官道（西門ルート）と同時期に併存していることが理由の1つと思われる。つまり官道から堅穴住居の入口が直接見えないようにする視覚的な規制が存在した可能性がある。周辺の調査事例と合わせて今後検討していきたい。前11SK040は最終的に



前田遺跡第11次調査SI050床面検出状況（西から）

は8世紀後半から末期に埋没しているが、最初に掘られたのは8世紀前半である。多量の土器が廃棄されていた土坑だが、その大きさゆえ生活に関連する性格とは考え難い。何らかの祭祀に関連した土器を継続して廃棄した土坑の可能性もあるだろう。これらの奈良時代の遺構群は前田遺跡第7次調査の奈良時代の遺構群とほぼ同時期であるため密接な関連性があると考えている。ただし、前11SB200と前11SK090はそれらよりも若干先行する可能性を示唆しておきたい。

【平安時代】

古代末以降、隣接する宮ノ本丘陵を中心に展開していた墳墓群は前田遺跡の範囲まで下ってくる。前11ST090は木棺墓で、副葬品から9世紀前半から中頃と考えられ、方位は東へ大きく振れる。前11ST130は削平を受けているため不明な点が多いが、方位の振れが近いため11ST090と同じ時期の木棺墓と推定しておきたい。また前11ST075は副葬品の土器から10世紀中頃の時期に帰属すると思われる方位の振れもほぼ正方位に近い。

【中世】

11世紀以降、土地利用としては鎌倉時代までは何らかの土地利用がされていたと思われるが、ピットや土坑などが主で遺構の性格の把握は難しい。前11SX010は墓の可能性が指摘できるが大きく削平を受けており判断が難しい。それら以後、昨今まで耕作面として利用されていたと思われる。

上記の様に本調査地は縄文時代から中世までの複合遺跡であり、特に注目されるのは弥生時代前期、弥生時代後期～古墳時代初頭、奈良時代の大きく3期の集落としての利用がされていることである。今後は周辺の調査成果と合わせて検討していき、前田遺跡の全貌を明らかにしていくことが課題であろう。

佐野地区遺跡群 IX

前田遺跡第8・9・10・11次調査
太宰府市の文化財第44集

1999年3月15日

発行 太宰府市教育委員会

太宰府市観世音寺1-1-1

太宰府・佐野地区遺跡群 IX

第8次調査

写真図版

第9次調査

写真図版

第10次調査

写真図版

第11次調査

写真図版

序

本書は平成2年度から7年度にかけて佐野区画整理事業にともない太宰府市が発掘調査をおこないました佐野地区遺跡群のうち、大字向佐野に所在します前田遺跡の第8次から第11次までの調査報告を集成したものです。

前田遺跡は弥生時代、古代を中心とした遺跡ですが、旧石器時代の石器から中世の遺構面までを検出しました。

今回はコンピュータの普及にともない情報提供の新たな試みとして報告書の体裁を印刷物からCD-ROM版に重心をおいてデジタル化を進めました。これによりさらに多くの情報を盛り込むことができたと考えております。本書が太宰府市の歴史を考え、これからの太宰府市を創造していく一助になれば幸いです。

最後になりましたが資料の提供やご指導いただきました各機関、先生方、さらには発掘調査および整理作業に御協力いただきました作業員の皆様に感謝申し上げます次第です。

平成11年3月
太宰府市教育委員会
教育長 長野 治己

例 言

1. 本書は平成2年から7年までに太宰府市教育委員会が、太宰府市がおこなう佐野区画整理事業にともない緊急発掘調査をおこなった前田遺跡第8～11次調査の報告書である。
2. 遺構の実測及び写真撮影は、各調査担当者のほか瓜生秀文・塩地潤一・井上信正・河田聡・柴田剛・立田理・林大智がおこなった。調査地の空中写真は（有）空中写真企画がおこなった。遺構全体図はアジア航測（株）に委託した。
3. 遺構の実測には、国土調査法第II座標系を使用した。したがって本書に示される方位は特に注記のない限り座標北（G.N.）を示し、本文中に記される遺構の角度及び距離もこれを基準としている。
4. 出土した金属製品及び木製品の保存処理は下川可容子がおこなった。
5. 遺物の実測と写真撮影及び図版の浄書は、各整理担当者のほか塩地潤一・井上由紀子・松隈里恵子・酒井三保子・阿部浩子・黒木美幸・白水文恵・時津裕子がおこなった。
6. 本書の執筆分担は調査組織の最後に記した。編集作業はデジタルデータ化まで各整理担当者がおこない、とりまとめを城戸康利がおこなった。
7. 遺物の分類は、以下に記載された分類によっている。

- 土器 太宰府市教育委員会（1983）『大宰府条坊跡 II 』
太宰府市教育委員会（1992）『宮ノ本遺跡 II -窯跡篇-』
- 陶磁器 太宰府市教育委員会（1983）『大宰府条坊跡 II 』
山本信夫（1995）「中世前期の貿易陶磁器」『概説 中世の土器・陶磁器』
- 焼塩壺 森田勉（1983）「焼塩壺考」『大宰府古文化論叢 -下巻-』
- 石鍋 森田勉（1983）「滑石製容器 -特に石鍋を中心として-」『佛教藝術』
148号

8. 掲載したデータの収蔵管理は下記の場所でおこなっている。
太宰府市文化ふれあい館
（福岡県太宰府市国分4-9-1 tel:092-924-8533 fax:092-924-8609）

総説

(1) 佐野地区遺跡群の歴史的環境

佐野地区は玄界灘に開けた福岡平野の南端、太宰府市の南西に位置する。南西方向には標高1000m級の背振山があり、本報告の前田遺跡はそこから派生する丘陵裾と福岡平野の最南部が接する位置にあり、地区内を南西から北西に流れる大佐野川は南の筑紫野市二日市方面から流れる鷺田川と合流し、水城を越えて博多湾に北流する。太宰府市は玄界灘に連なる博多湾に面した福岡平野と有明海に面した筑後平野を溝状に繋ぐ一番狭い場所にあたり、古代にはこの地形を利用して防衛施設としての水城が築かれている。

弥生時代では遺跡の密度からいえば北の春日市の岡本丘陵を中心とした大集落群と南の筑紫野市から小郡市にまたがる三国丘陵から夜須町にかけての筑紫平野北側の集落群に挟まれた形となり、両地域に比べれば点々とその痕跡が辿れるに過ぎないと考えられてきた。しかし、この佐野地区ではじまった調査によって、すでに報告した地区の北にある原口遺跡では弥生前期中頃（板付Ⅱ式期）に5棟の円形住居からなる集落跡が、前田遺跡とは大佐野川を挟んで対峙する雑川、フケ遺跡では弥生後期から終末、古墳時代の初頭にかけての低湿地を利用した木製品貯蔵、加工の場所や堀立柱建物からなる集落の跡などが検出され、さらにそれに切られる形で板付式期に該当する円形に展開する前期集落が発見された。近年では御笠川北岸の四王寺山裾の国分～水城地域で濠を伴った中期の集落も発見され、不鮮明であったこの地域の弥生時代の様相が次第に明らかにされつつある。

歴史時代にあっては地区内を東西に横たわる字宮ノ本の丘陵は過去の調査で「買地券」(墓誌)を伴った大宰府官人(推定)の葬送の場所として利用されていたことが判明しており、その後の調査でこの墳墓群の葬送の時期が奈良時代に遡り、下限は10世紀代におかれることがわかってきた。また、隣接する前田遺跡において水城西門から大宰府政庁にいたる道幅約10mの古代官道が発見され、先の宮の本墳墓群の地理的位置づけに、付加すべき新たな情報を提供している。

今回の前田遺跡10、11次調査は弥生時代前期、後期の集落の中核部分の一角を開けた調査であり10次では古代官道の一部が検出されている。前田遺跡8、9次調査は古代の墳墓のあり方や広がり、官衙的な建物群の外縁部に存在する金属関連や水稻の生産を伴う集落、中世の集落などを考察するためには重要な

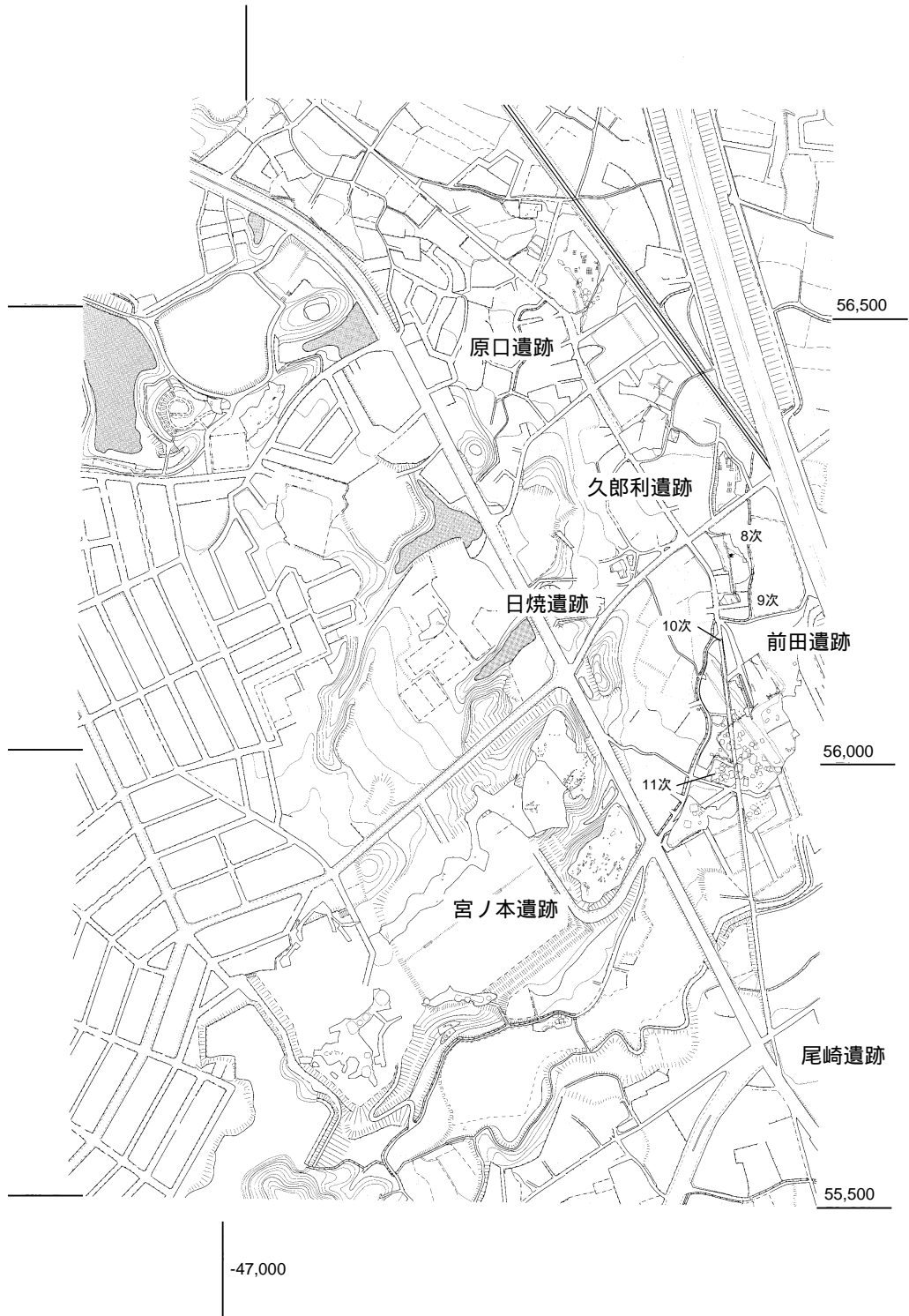


図1 佐野地区周辺の遺跡

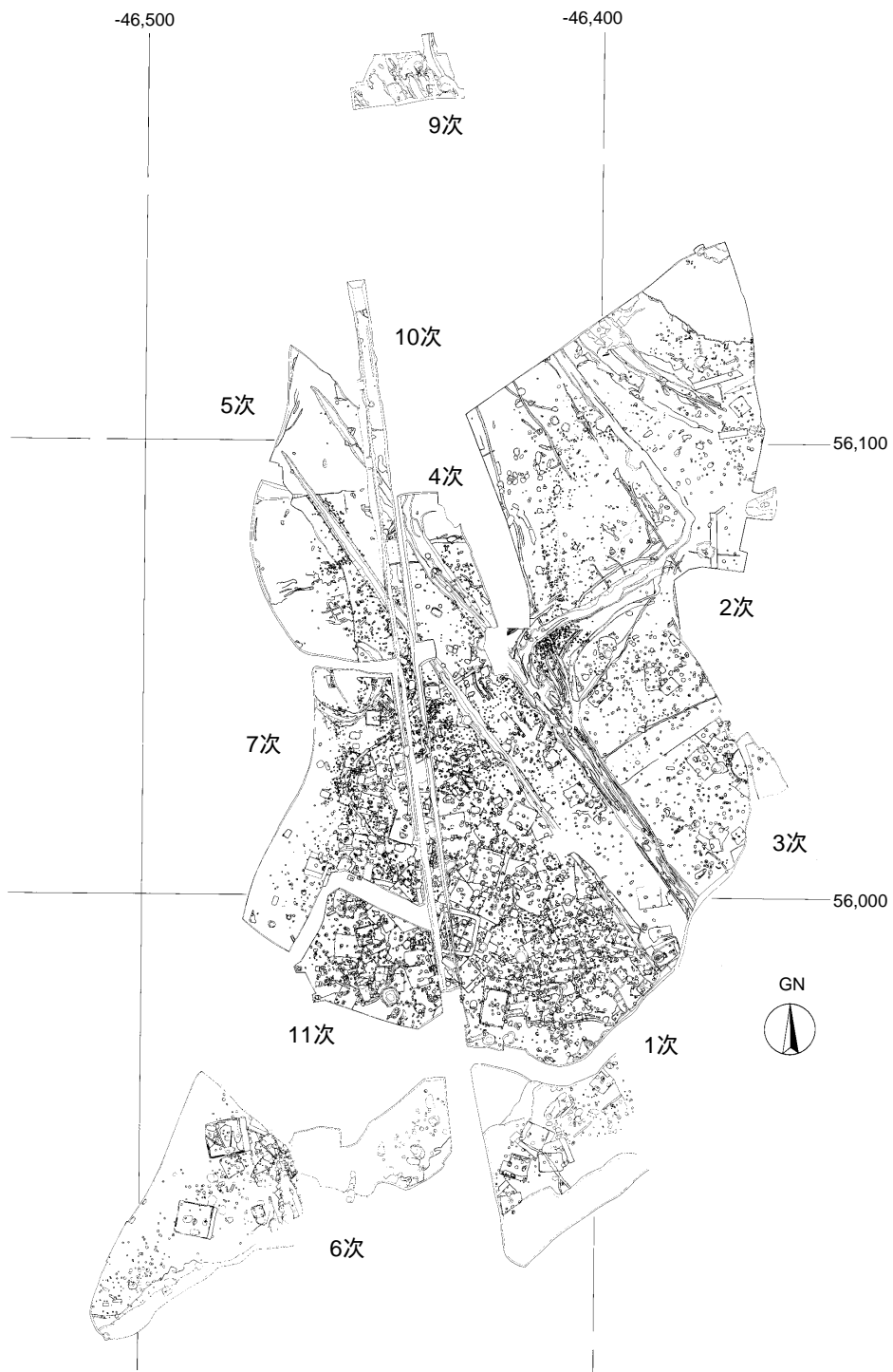


図2 前田遺跡調査区位置図

発掘調査である。

参考文献

- 『太宰府・佐野地区遺跡群I～VII』 1989～97 太宰府市教育委員会
 『宮ノ本遺跡』 1980 太宰府市教育委員会
 『宮ノ本遺跡II』 1992 太宰府市教育委員会
 『太宰府市史考古資料編』 1993 太宰府市

調査に至る経緯および調査・整理の方法

基本的な調査に至る経緯および本市における調査・整理の流れや分類基準に関する参考文献については以下の文献をご参照いただきたい。

『太宰府・佐野地区遺跡群I』1989太宰府市教育委員会

(2) 調査組織

報告する調査が多年度にまたがるため、ここで一括して調査体制を列挙する。

(平成2 / 1990年度) 前田 8 次調査

総括	教育長	長野治己
庶務	教育部長	西山義則
	社会教育課長	関岡 勉
調査	文化財係長	鬼木富士夫
	主任主事	岡部大治
	主 事	白水伸司
	主任技師	山本信夫
	技 師	狭川真一
		城戸康利 (2年7月1日～)
		城戸康利 (～2年6月30日)
		緒方俊輔
		山村信榮 (調査担当)
	技師 (囑託)	中島恒次郎
		狭川麻子 (保存処理担当)

(平成3 / 1991年度) 前田9次調査

総括	教育長	長野治己
庶務	教育部長	中川シゲ子
	文化課長	佐藤恭宏
	埋蔵文化財係長	富田 謙
	文化振興係長	大田重信

	主任主事	岡部大治
		川谷 豊
調査	主任技師	山本信夫
		狭川真一
		城戸康利（調査担当）
		緒方俊輔
	技 師	山村信榮
		中島恒次郎
		塩地潤一
（平成4 / 1992年度）前田10次調査		
総括	教育長	長野治己
庶務	教育部長	中川シゲ子
	文化課長	佐藤恭宏
	埋蔵文化財係長	高田克二
	文化振興係長	大田重信
	主任主事	岡部大治
		川谷 豊
調査	主任技師	山本信夫
		狭川真一（調査担当）
		城戸康利
		緒方俊輔
		山村信榮（4年7月1日～）
	技 師	山村信榮（～4年6月30日）
		中島恒次郎
		塩地潤一
	技師（囑託）	田中克子
（平成7 / 1995年度）前田11次調査		
総括	教育長	長野治己
庶務	教育部長	白木三男
	文化課長	花田勝彦
	文化財保護係長	高田克二（～7年5月31日）
		和田敏信（7年6月1日～）
	文化振興係長	大田重信
	主任主事	岡部大治
		川谷 豊
	主 事	今村江利子
調査	技術主査	山本信夫

	主任技師	狭川真一 城戸康利 山村信榮 中島恒次郎 重松麻里子（～7年6月30日）
	技 師	井上信正 高橋 学（調査担当）
	技師（囑託）	下川可容子（保存処理担当）
（平成10 / 1998年度）整理作業		
総括	教育長	長野治己
庶務	教育部長	小田勝弥
	文化財課長	津田秀司
	文化財保護係長	和田敏信
	文化財調査係長	山本信夫
	主任主事	藤井泰人
	主 事	今村江利子
調査	技術主査	狭川真一
	主任技師	城戸康利（整理担当） 山村信榮（整理担当） 中島恒次郎 井上信正（整理担当）
	技 師	高橋 学（整理担当） 宮崎亮一
	技師（囑託）	下川可容子（保存処理担当） 森田レイ子

また、このほか工事関係者をはじめとする多くの方々のご協力とご教示をいただき調査をおこなうことができました。記して感謝申し上げます。

このCD-ROMに収容されているデータの内容と編集責任者は次のようになっている。

太宰府市 前田遺跡

総説	山村信榮
第8次調査	山村信榮
第9次調査	城戸康利
第10次調査	井上信正
第11次調査	高橋学

総説

9次

10次

11次

第8次調査

調査の環境

遺構の調査所見

出土遺物の所見

小 結

写真図版

前田遺跡 8 次調査

調査の環境

8 次調査は太宰府市大字向佐野字久郎利465-1の水田で1990年10月19日から、同年11月3日の期間におこなわれた区画整理事業に伴う緊急調査である。調査対象面積は3,300㎡である。調査は山村信榮、狭川真一が担当し、測量・実測には瓜生秀文（現前原市教育委員会）が参加した。

調査は現代の水田耕作土（灰色土、暗灰色土）とその下の床土（黄色土）を重機で除去し、遺構検出をおこなった。遺構検出の結果、溝、掘立柱建物跡、ピット群、畝状遺構、水田跡と考えられる土壌堆積箇所などが確認された。調査期間の確保など十分な状況が確保できず溝8SD001は完全に掘り上げることができなかった。溝8SD001と溝8SD002は南側の隣地でおこなわれた前田遺跡9次調査でその延長が確認されている。

遺物には古代の須恵器、土師器、金属生産関連の土製品が8SD002から、中世では8SD001から土師器皿、天目椀、白磁坏（IX類、枢府系）、青磁椀、国産陶器（東播系）こね鉢、木製下駄、蓋、8SX007からはそれら以外に青磁香炉、国産陶器（中世須恵器）、甕などが出土している。この9次、8次調査地点の南側には弥生時代前期から古墳時代前期にかけての拠点的な集落が検出されているが、当箇所では弥生時代に属する遺物の出土はほとんど認められない。

遺構、遺物の総合的な所見から、古代には一棟の掘立柱建物を中心とした生活空間とそのかたわらに水田水利に関わる小規模な水路がある空間が、中世（鎌倉時代後半ころ）には至近に拠点的な集落があったことを物語る廃棄機能を持った水路が調査区西側を縦断する形となっている。

以下にその詳細を述べる。

遺構の調査所見

a 古代の遺構

溝状遺構

8SD002（Fig8-5、8-6、Pla8-3、8-4、8-5、8-6）

調査区の中央を縦断する幅約30cm、深さ30cmの溝状遺構で、検出した南と北側間での値では約N-11° 18'-Wの、遺構中央から南半分の直線的な部分ではN-8° 19'-Wの振れを持つ溝で、北に流れている。

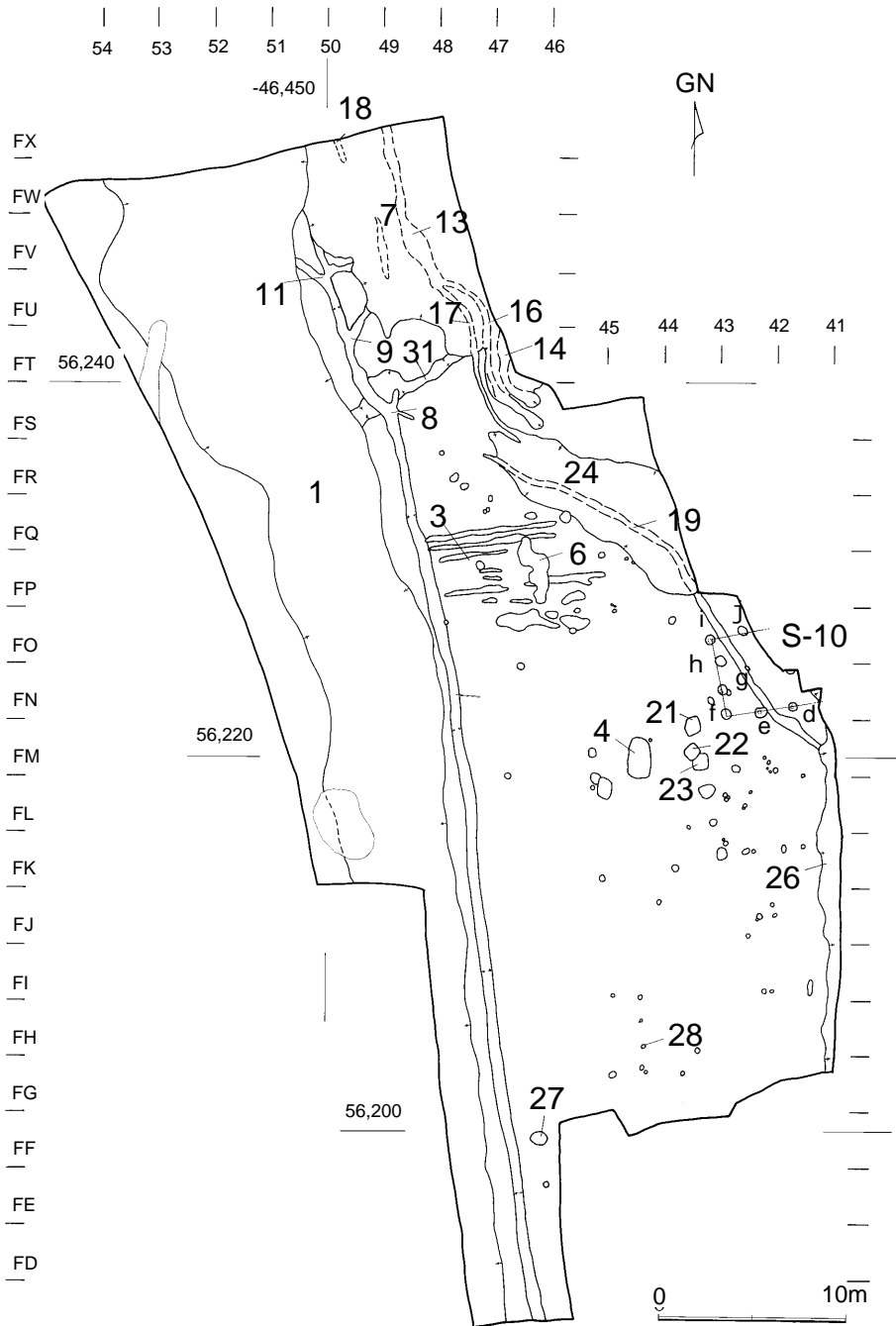


Fig.8-1 前田遺跡第8次調査遺構略図

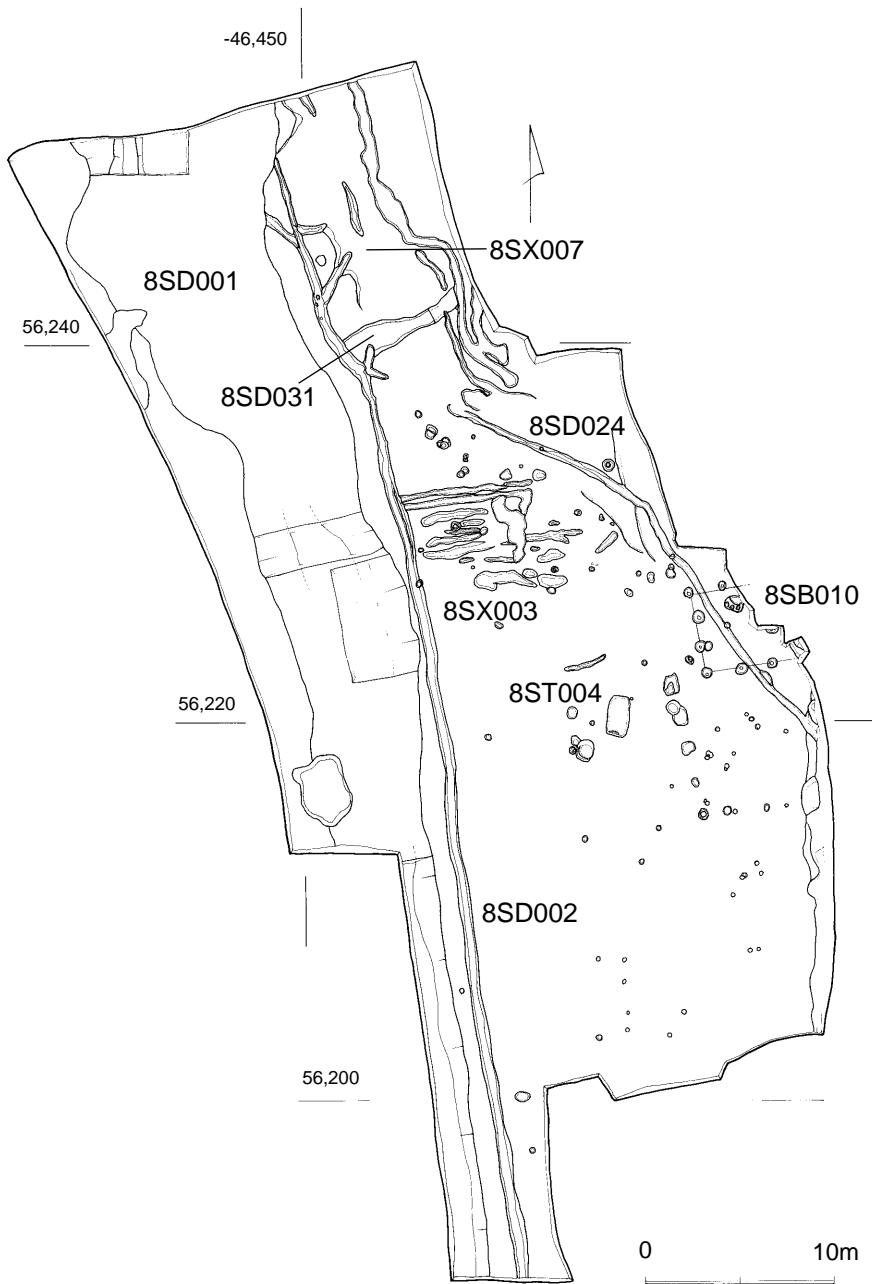


Fig.8-2 前田遺跡第8次調査遺構配置図

北側には3箇所の分水点があり、それぞれには南から順に8SX008、8SX009、8SX011の個別番号を充てている。分水はこの溝を中心に東西両方向におこなわれているが、分水部分の構造を観察すると、本線から枝別れした溝底の高さが本線溝の中位から上位にあり、本線の一定の水量が満たされたときにオーバーフローするように設定されていたことが考えられる。分水、流下したその先は残念ながら中世の8SX007（水田土壌堆積）、8SD001（大溝）によって切られて消滅している。おそらく両側に奈良時代の水田が広がっていたことと考えられる。

土層の堆積状況は縦方向の観察状況では大きく3つの層群に分けられ、上から暗灰土、暗灰褐色土、淡灰褐色砂質土であり、出土遺物もこの層名によって取り上げている。土層状態から、溝は初期には花崗岩風化土に由来する白色の砂粒が流される流量を保っていたが、後に流量が落ちて褐色、灰色系の周辺の土壌が流入し、やがて被覆されるプロセスが観察される。溝が埋没した後に杭が、E～F間を中心に数カ所に打ち込まれている。現代の水田床土直下で検出されており、上面は多少削平されている可能性がある。

溝の平面形状は後述する建物8SB030以北の分水点近くまでは直線的で、分水点8SX008でさらに西に向きを変えている。出土遺物は上位の暗灰土に多く、破片状態のものばかりであるが、割れ口の磨耗の度合いは低い。時期は8世紀中頃以降に想定される。

8SD031（Fig8-2、Pla8-5、8-6）

溝8SD002の分水点8SX008付近の下で検出された南西から北東に向かう溝状遺構で、8世紀に属す須恵器坏と蓋の破片が出土しており、8SD002に先行する8世紀代の遺構である。上下二つの層群に分けられる。

掘立柱建物

8SB010（Fig8-3、Pla8-15、8-16、8-17）

東西2間以上（3.5m）、南北3間（4.5m）の掘立柱建物である。柱間は東西列が1.8m・1.7m+で、南北列は1.4m・1.5m・1.6mである。土層観察では全ての柱穴に柱痕跡が残されていた。建物の規模はその一部が調査区域外に伸びているので全容は掴めていない。柱掘り方は概ね円形で、柱痕跡下端が掘り方底より浅いものがある（g,i,f）。柱の太さは10～20cmと多少幅がある。

遺構の掘り方の深さは遺構面から10～30cmと浅い。建物の主軸方向の振れはN-10°57'-Wである。

出土遺物は図化しがたい小片ばかりで、柱穴gで土師器の甕、hで須恵器の鉢片

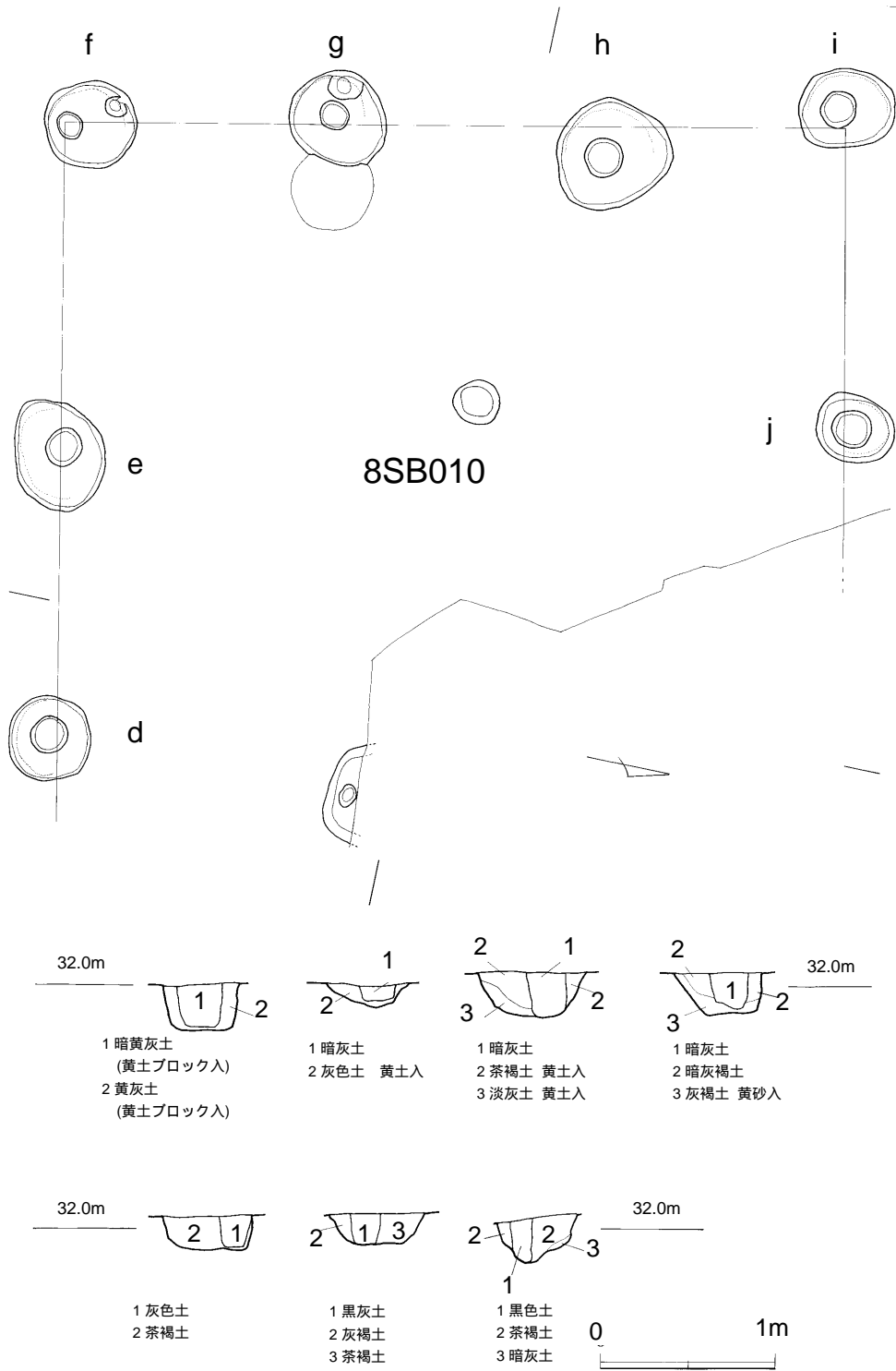


Fig.8-3 8SB010掘立柱建物実測図

が、hで須恵器坏c片が出土し、奈良時代に帰属する遺構と判断できる。

墳墓

8ST004 (Fig8-4、Pla8-13、8-14)

規模は2.1m×0.9m、深さ1.0mを測る。角が丸い長方形の掘り方を持つが、平面的には棺のプランを見つけることはできなかった。断面観察では北側で明確な黒色粘質土の立ち上がりが見られ、棺小口の痕跡と判断した。床面に近い高さまで掘り下げたところ北側に土師器坏が3点が出土した。釘は一点もなく、木釘を使用したか組み木であったかのいずれかであろう。遺物は正置に近い形で出ており、棺内に副葬されたものと考えている。土器の所属時期から9世紀末から10世紀前半頃の所産と考えられる。

西の丘陵部を主体とする宮の本遺跡からここ前田遺跡にかけては、8世紀以降は都市大宰府における官人の葬送地の一つとして利用されているが、本例は平地を占める前田遺跡の墳墓群にあっては最北端での検出例として注目される。

b 中世の遺構

溝状遺構

8SD001 (Fig8-7、Pla8-18、8-19)

調査区の西側を8SD002に沿うような形で北流する、幅6～9m、深さ1.3m以上の規模の溝で、その8SD002を踏襲するような方向性から初期には人為的に開削されたものと考えられる。調査は諸般の事情から一部に止まってしまった。土層の堆積状況は大きく上下に二分され、上層は淡黄灰色土、淡灰色土、下層は灰色系の砂と粘土の互層群からなる。下層は湧水が著しい状況であり、この粘土層中には下駄や蓋などの木製の遺物が遺存していた。下層群はかなりの流量があったことを示している。

遺物には土師器皿、天目椀、白磁坏(IX類、枢府系)、青磁椀、国産陶器(東播系)こね鉢、木製下駄、蓋などが見られる。土器は上層群に多く見られる。下駄以外はいずれも破片資料であり、廃棄行為に伴うものであると考えられる。調査区南西側に13世紀後半から14世紀前半頃にかけての集落が隣接していたものと考えられる。

8SD019 (Fig8-2、Pla8-3、8-4)

調査区の東側を8SX024の溜まり状遺構を通じて水田土壌の堆積層と考えられる8SX007に繋がる溝である。平均的な部位では幅約40cm、深さ約15cmの断面形が

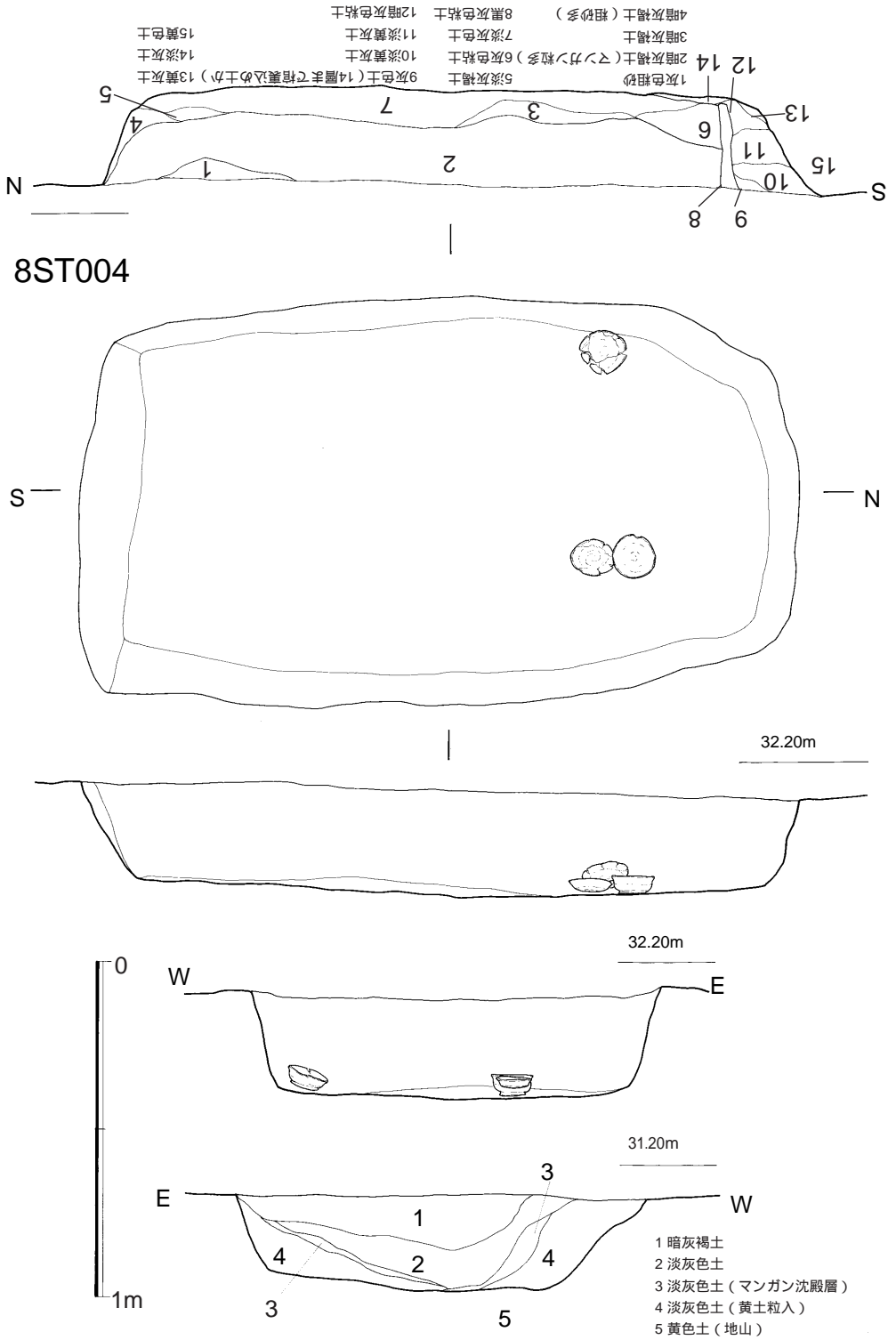


Fig.8-4 ST004墳墓実測図

8SD002

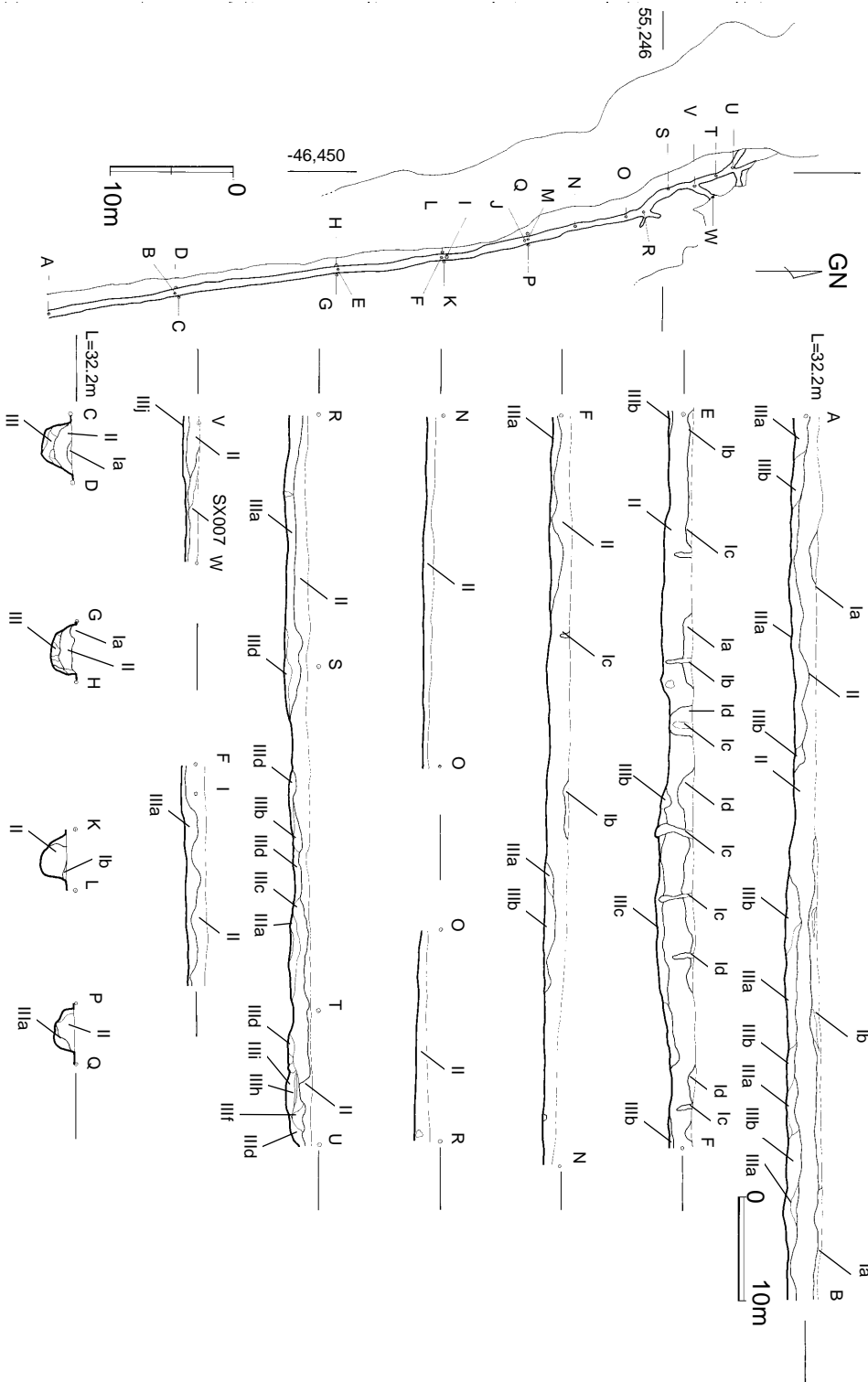
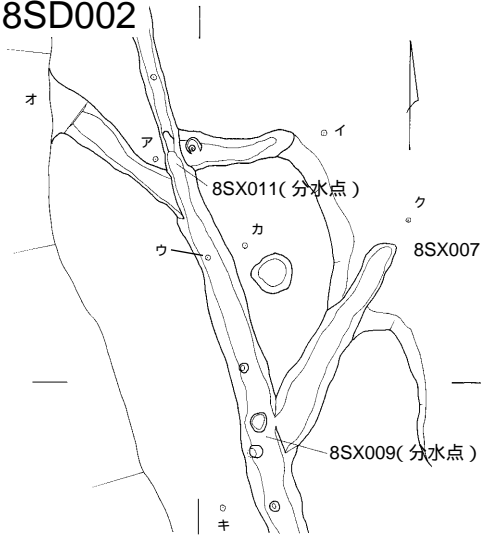
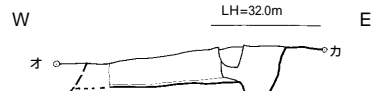
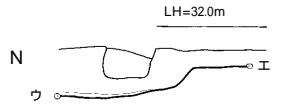
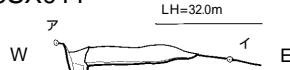


Fig.8-5 8SD002土層実測図

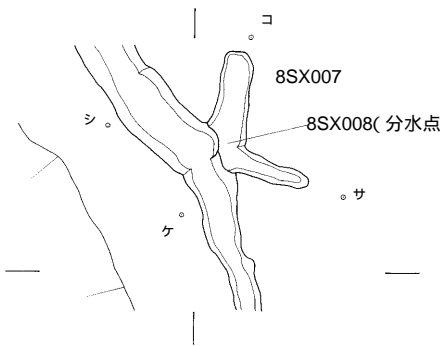
8SD002



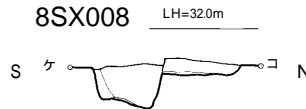
8SX011



8SX009



8SX008



8SX007北壁土層

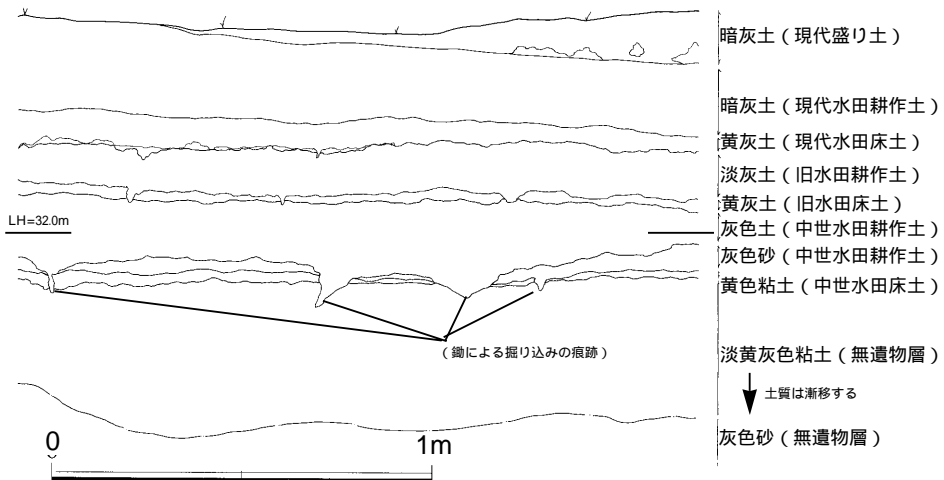
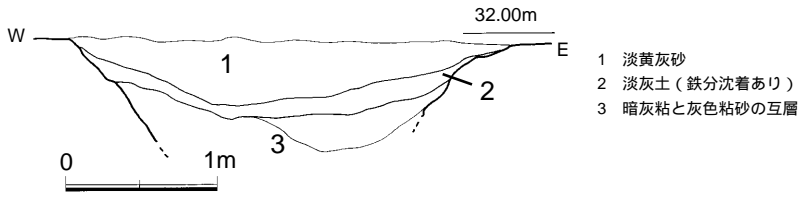
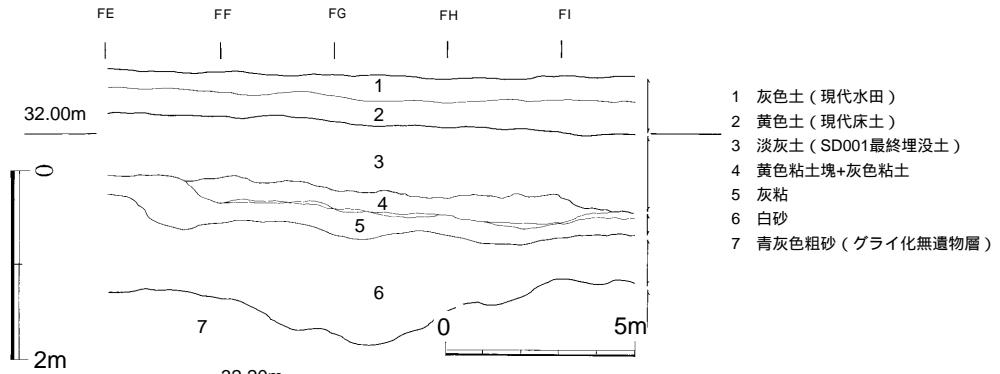


Fig.8-6 SD002 SX007実測図

8SD001



8SD001縦断面



8SD019

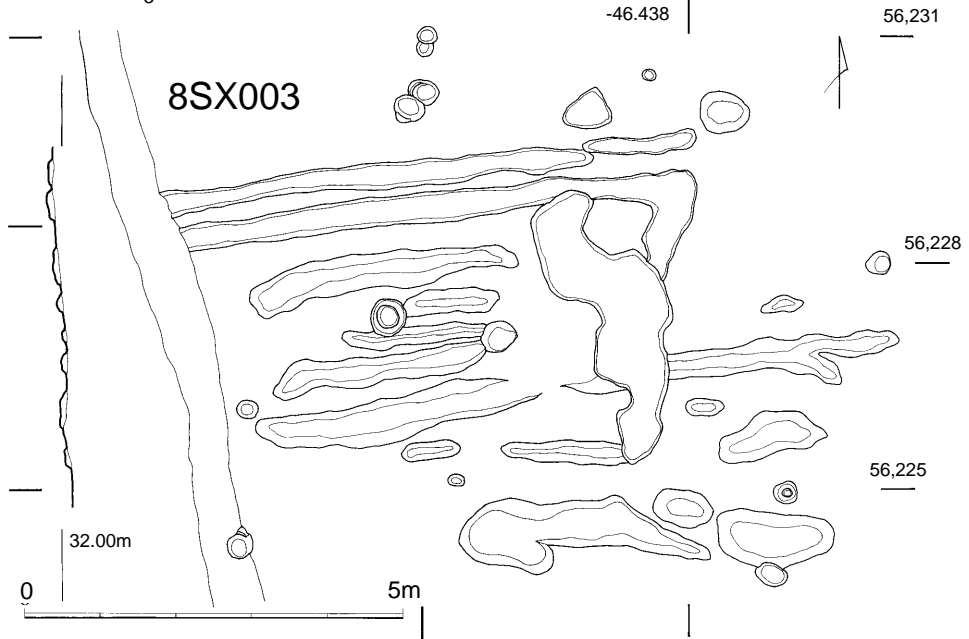
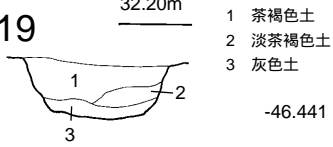


Fig.8-7 8SD001 8SX003実測図

逆台形を呈する。下層は細かな砂が混じる灰色土が、上層には茶褐色の土層が堆積している。8SX007に繋がることから灌漑用の水路である可能性がある。

水田関連遺構

8SX007 (Fig8-2、Pla8-20)

調査区の北東部にある灰色土を上層、灰色砂を下層とする土壌堆積部分を水田土壌と推定した。調査区北壁面の土層観察によれば灰色土が所々で楔状に下位の土層に食い込んでいる。この箇所を起耕痕跡と認識した。このような現象は下層の灰色砂の一部にも認められることから、上下2面の耕作土壌として考えることが可能であろうと思う。この2層の下に床土と考えられる黄色粘土層があり、この層を中心としたレベルから下に向かって鉄分の斑状の凝集が見られる。

プラントオパール分析の土壌採取をおこなっているが未分析のため現時点では水田関連遺構としている。

出土遺物には12世紀から13世紀代に属する陶磁器片が出土しており、土層関係では13世紀後半以降の8SD001の最終堆積層に切られていることから、本遺構は出土土器が示す時期に相当するものと思われる。

畑状遺構

8SX003 (Fig8-7、Pla8-21)

調査区中央やや北寄りの場所に幅約15cm程度の数条の東西方向の小溝が並列している箇所がある。8SD002の埋土を切っておりこの遺構より後出する。類例から畑の畝立ての際の溝の形成痕跡と考えている。埋土の状態から中世に属す可能性がある。

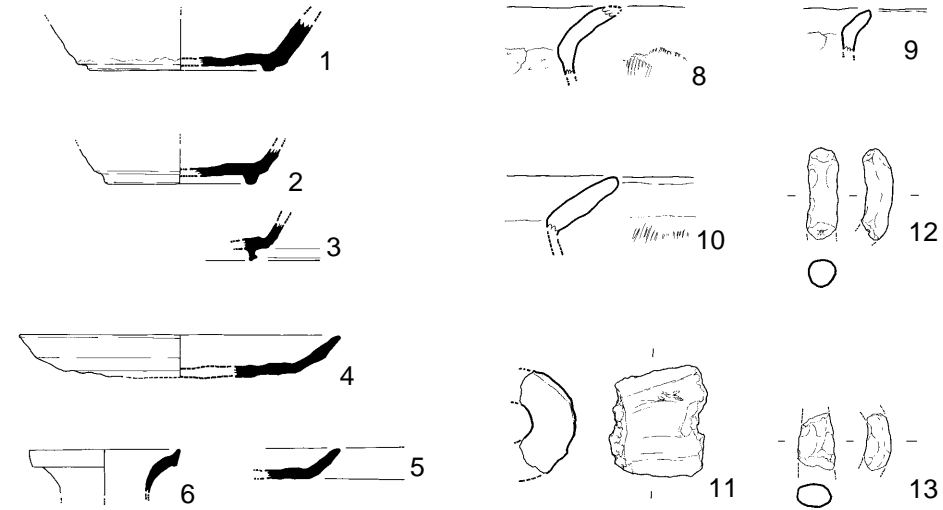
出土遺物の所見

図示した遺物の個々の所見、図示していない遺物については遺物観察表、出土遺物一覧表を参照いただきたい。ここでは全体の様相と特徴的な所見について述べる。

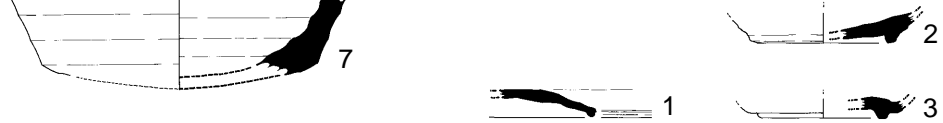
8SD002暗灰土出土遺物 (Fig8-8、Pla8-2、8-3)

須恵器の坏c、皿、壺、鉢b、土師器甕aと金属製品生産に関係するフイゴ羽口、棒状土製品などが出土している。坏は角のある底平なaタイプのものが主体となっている。皿は底平と突形の両者がある。8世紀中頃から後半にかけての時期を示す

8SD002 暗灰土



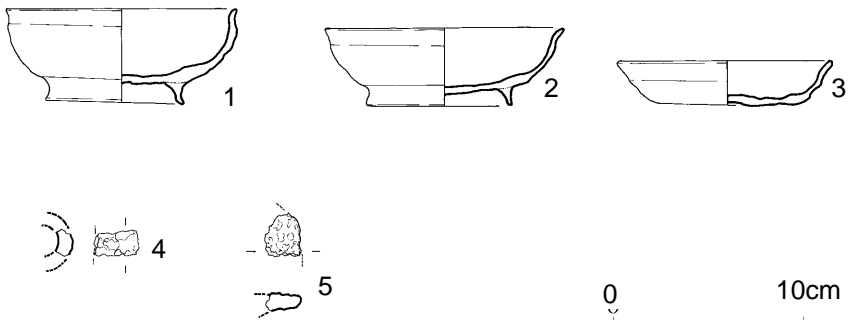
8SD002 淡灰褐砂質土



8SB010



8ST004



8SD031 灰砂

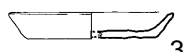
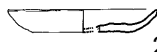
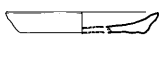


Fig.8-8 8次調査出土遺物実測図1

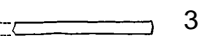
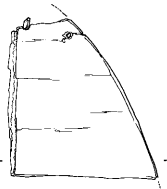
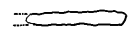
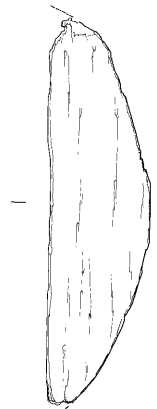
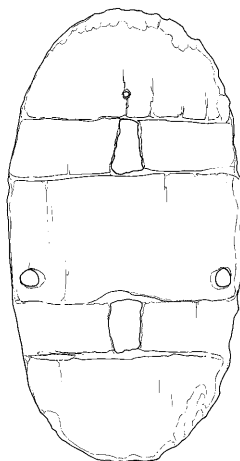
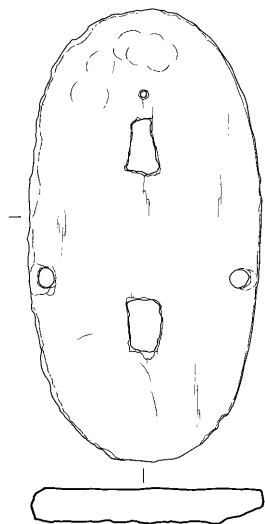
8SD001



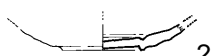
8SD001淡黄灰土



8SD001灰粘



8SX007灰色土



8SD007灰砂

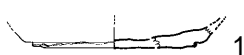
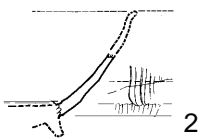


Fig.8-9 8次調査出土遺物実測図2

ものである。生産に関連した遺物には後述の8ST004のものがあるが、本来は本遺構の埋没時期前後の遺物が棺材の陥没とともに混入したものと考えられる。

8SD002淡灰褐色砂質土出土遺物 (Fig8-8、Pla8-2、8-3)

須恵器坏蓋と坏cが出土している。口縁端部の断面三角形折り返し状況や高台の取り付く位置などから、8SD002暗灰色土出土遺物とはほぼ同時期のものと判断される。

8SB010出土遺物 (Fig8-8、Pla8-24)

柱跡gから土師器甕の口縁片、hから須恵器鉢の口縁片、と坏cが出土している。鉢の端部はナデによって小さな玉縁状になっている。8世紀の所産である。

8ST004出土遺物 (Fig8-8、Pla8-25)

土師器椀と坏a、フイゴ羽口小片と椀型滓片が出土している。生産関連のものは8世紀に属す遺物と考えられ、小規模な鍛冶などがおこなわれていた可能性を示唆している。南約50mの前田遺跡4次の古代官道の側溝から、多量の鉄と思われる金属滓が出土しており、また、7次調査では8世紀の建物周辺の遺構から金属生産に関わる取瓶などが見つかったことから、一体でこれらの存在を位置付けていく必要がある。本調査区北側の久郎利遺跡や原口遺跡では8世紀代の官衛的建物群が検出されており、これらとの関わりも考慮しなければならない。

墳墓の棺内副葬品と考えられる土師器の椀は体部が張って口縁端部が屈曲する要素が認められ、坏は高さが3cmを越える要素があることなどから9世紀後半から10世紀前半の幅の中で捉えている。

8SD031灰色砂出土遺物 (Fig8-8)

須恵器坏蓋と坏の小片が出土している。蓋の口縁端部はS字型に屈曲している。

8SD001淡灰色土出土遺物 (Fig8-9、Pla8-26、8-27)

白磁の坏はいわゆる「口禿」と称されるIX類と、見込にスタンプがある枢府系のものの2種が出土している。天目椀は茶色系の色調で中国華南産のものと考えられる。鉢には国産東播系のものと在地産の瓦質土器がある。遺物の供伴関係から13世紀後半から14世紀前半代の所産と考えられる。枢府系坏の出土は太宰府では往事の都市中枢であった観世音寺周辺以外では珍しい。

8SD001淡黄灰色土出土遺物 (Fig8-9、Pla8-26、8-27)

土師器の小皿と青磁坏III-4類が出土している。体部外面に施された蓮弁は先端が丸く、弁間にすきまがある意匠である。14世紀前半代に属すものか。

8SD001灰色粘土出土遺物 (Fig8-9、Pla8-26、8-27)

木製の下駄と円筒形容器の蓋ないしは底になる板状部材であろうものが出土し

ている。下駄は差歯式のもので底には二字形の平行するくりこみの中央に縦長い台形の穴があげられている。鼻緒のひも穴は三角形に配置され、指部分の穴位置は中央にある。その穴の外側には2cm前後の重複した円形のくぼみがあり、使用によるものとも考えられる。蓋の一部には木釘が残存している。木取りは板目である。

8SX007灰色土出土遺物（Fig8-9、Pla8-30、8-31）

白磁V類系皿、黄色釉盤など平安後期的なものと龍泉窯系青磁椀I類など新しい傾向の遺物とがみられる。

8SX007灰色砂出土遺物（Fig8-9、Pla8-30、8-31）

同安窯系青磁椀、龍泉窯系青磁香炉片、中世須恵器の甕の口縁部片等が見られる。香炉の外面には八卦文が施される。8SX007は古い傾向の遺物も見られるが、龍泉窯系製品の存在から13世紀代に下げて考える必要がある。

小結

前田遺跡8次調査で明確にされた所見は、古代にあっては金属生産に関連した遺物を伴う8世紀中頃以降の遺物の分布が認められ、その時期に該当する掘立柱建物と水田給水施設としての一定の方向性を持った溝が検出されたことが挙げられる。中世では古代の水路とほぼ同じ方向を踏襲する大きな溝があり、13世紀後半から14世紀前半頃の生活廃棄物とその埋没過程で投棄された状況が見られ、至近に集落が存在することを示唆している。

8世紀については周辺の調査所見をあわせて考えると、この丘陵裾の平坦部には8世紀前半に幅12mの古代官道が敷設され、中頃から後半にかけて官道の側溝が埋没する過程で金属生産を伴う掘立柱建物を中心とした水田を伴う生活空間が現れる。この空間の北側に近接する原口、久郎利遺跡では官衙的な建物群が展開している。8世紀後半から9世紀には官道が廃絶するという展開が見られる。

付 Fig8-5 8SD002 土層凡例

第I層群

Ia暗灰土 Ib淡灰褐色粘質土 Ic淡灰褐色粘質土（鉄分混じり）

第II層群

II暗灰色粘質土

第III層群

IIIa暗茶褐色粘質土 IIIb暗茶褐色粘質土（黄色粘土混じり） IIIc灰黑色粘質土

IIId淡灰褐色砂質土 IIIe暗茶褐色粘質土（砂混じり） IIIf暗灰色粘質土

IIIg暗灰褐色粘質土 IIIh淡灰色粘質土 IIIi暗灰色砂質土

前田8次調査 遺構番号台帳

S-番号	遺構番号	種 別	地区
1	8SD001	大溝 中国天目、東播鉢、坏a系 14c ~	
2	8SD002	溝 (黒灰色土) 須恵器、坏c 8c中~後	
3		ウネ状遺構 (淡質灰砂状土) 無遺物 埋土色より中世か	FQ47
4	8ST004	土壌基 (暗灰土) 須恵器、坏c、小皿a 10c	FM44
5		柵? 小屋の側柱の痕跡か?	
6		水流によるたまり状 (灰砂) 須恵器、土師器 ?	FP46
7	8SX007	水田? (灰色土たまり状) 同安窯系青磁 12c ~	FW49付近
8		S-1第1分水地点	FS49
9		S-2第2分水地点	FT49
10	8SB010	掘立柱建物 d~i 須恵器鉢? 10 19可能性高いだけで確定的でない	FN42
11		S-2第3分水地点	FV50
12		ピット (黒灰土) 須恵器、土師器 8c ~ ?	FL45
13		溝 S-7灰砂と共存(埋土同一) FV48で17と16に分岐	FV48
14		ピット S-7灰砂と共存(埋土同一)	FV47
15		欠番	
16		溝 S-7灰砂と同時 FV48で13に一本化する	
17		溝 S-7灰砂と同時 FV48で13に一本化する	
18		溝 S-7灰砂と同時	FX48
19		溝	
20		欠番	
21		ピット	FM43
22		ピット	FM43
23		ピット	FM43
24		たまり	
25		欠番	
26		落ち (茶土) (現代水路の肩部) 磁器 近、現代	41ライン
27		ピット 土師器、古墳環?	FF46
28		ピット 須恵器	FH44
29		ピット群 須恵器、砥石	FR47
30		欠番	
31	8SX031	溝 須恵器、坏蓋 8c ~	FTライン

Tab8-1

前田8次遺物観察表凡例

R番号とは遺物に付与された整理番号で、収蔵後の検索にはこの番号を用いる。

土器以外の法量は口径・高さ・底径を、長さ・幅・厚みに読み変える。

数値後の+は欠損状況での数値、*は復元状況での数値で表記している。

前田8次遺物観察表

遺構	No.	図版番号	写真番号	R番号	器種	口径 cm	高さ cm	底径 cm	備考 (+は欠損、*は復原値)
8SD002暗灰土 (S-2暗灰土)	1			001	須恵 長頸壺	-	2.8+	10.0*	
" (S-2)	2			002	須恵 坏c3	-	1.8+	8.0*	
" (S-2)	3			003	須恵 坏c3	-	2.0+	-	
" (S-2)	4			004	須恵 皿a	17.0*	2.2+	12.2*	
" (S-2)	5			005	須恵 皿a	-	1.6+	-	
" (S-2)	6			006	須恵 壺f	8.0*	2.4+	-	
" (S-2)	7			007	須恵 鉢b	-	4.5+	-	
" (S-2)	8			008	土師 甗	-	2.6+	-	
" (S-2)	9			009	土師 甗a	-	2.3+	-	
" (S-2暗灰褐土)	10			010	土師 甗	-	3.0+	-	
" (S-2)	11			011	土製品 鞆羽口	7.8+	5.2+	3.0+	
" (S-2)	12			012	土製品 棒状土製品	4.80	1.60	1.30	
" (S-2暗灰褐土)	13			013	土製品 棒状土製品	3.00	1.50	1.90	
8SD002淡灰褐砂質土 (S-2淡灰褐砂質土)	1			001	須恵 坏蓋3	-	1.5+	-	
" (S-2淡灰褐砂質土)	2			002	須恵 坏c3	-	1.6+	9.6*	
" (S-2淡灰褐砂質土)	3			003	須恵 坏c3	-	1.1+	7.0*	
8SB010 (S-10g)	1			001	土師 甗a	-	1.2+	-	
" (S-10h)	2			002	須恵 鉢a	-	4.4+	-	
" (S-10h)	3			003	須恵 坏c	-	1.3+	-	
8ST004 (S-4)	1			001	土師 椀c	12.30	5.10	7.30	
" (S-4)	2			003	土師 椀c	12.70	4.10	7.30	
" (S-4)	3			002	土師 坏a	11.40	2.40	7.30	
" (S-4)	4			004	土製品 鞆羽口	2.40	1.30	0.90	
" (S-4)	5			005	金属 金属滓	2.2+	1.9+	0.95	
8SX031灰砂 (S-31灰砂)	1			001	須恵 高坏	-	0.8+	-	
" (S-31灰砂)	2			002	須恵 坏	-	2.4+	-	
8SD001淡灰土 (S-1淡灰土)	1			001	土師 小皿a	8.2*	1.10	6.6*	
" (S-1淡灰土)	2			002	陶器 天目椀	10.00	3.3+	-	
" (S-1淡灰土)	3			003	白磁 皿 IX-1	-	2.9+	-	
" (S-1淡灰土)	4			004	白磁 坏	-	1.6+	-	枢府系
" (S-1淡灰土)	5			005	須質 二ね鉢	-	2.7+	-	東播系
" (S-1淡灰土)	6			006	瓦質 すり鉢	-	3.1+	-	
8SID001淡黄灰土 (S-1淡黄灰土)	1			001	土師 小皿a	6.4*	1.10	4.6*	
" (S-1淡黄灰土)	2			002	土師 小皿a	8.0*	1.20	2.7*	
" (S-1淡黄灰土)	3			003	土師 小皿a	8.8*	1.40	6.6*	
" (S-1淡黄灰土)	4			004	青磁 坏 III類	12.2*	2.3+	-	龍泉窯系青磁
" (S-1淡黄灰土)	5			005	土製品 棒状土製品	5.3+	3.0+	1.30	
8SID001灰粘 (S-1灰粘)	1			001	木製品 下駄	24.00	12.30	2.00	
" (S-1灰粘)	2			002	木製品 桶蓋	20.50	5.30	0.75	
" (S-1灰粘)	3			003	木製品 桶蓋	8.40	7.70	0.75	
8SX007灰色土 (S-19茶褐土)	1			001	青磁 椀 I類	-	1.6+	-	龍泉窯系青磁
" (S-7灰色土)	2			002	白磁 皿 VII類	-	1.4+	4.4*	
" (S-7灰色土)	3			003	陶器 盤	-	3.8+	-	黄釉
8SX007灰砂 (S-7灰砂)	1			001	土師 坏a	-	1.1+	8.8*	
" (S-7灰砂)	2			002	青磁 椀	-	3.4+	-	同安窯系青磁
" (S-7灰砂)	3			003	青磁 香炉	-	2.4+	-	龍泉窯系青磁
" (S-7灰砂)	4			004	須恵 甗	-	3.1+	-	中世東海産か

Tab8-2

前田遺跡第8次調査出土遺物一覧表1

表土		S-1淡灰土	
須恵器	坏c、蓋3、甕、長頸壺	須恵器	坏c3、蓋1、蓋3、蓋4、甕
土師器	甕		高坏、鉢b、横瓶
瓦質土器	鉢	土師器	壺、高坏、小皿a(イト)
瓦類	丸瓦、平瓦		坏a(イト)
黄色土		須恵質土器	東播鉢
		龍泉窯系青磁	椀; I-5-b、I
		白磁	皿; 森田D x
須恵器	坏c3、蓋、甕、瓶、鉢b		壺他; 坏aIX-
土師器	甕、坏a	中国陶器	他器種; 天目椀
須恵質土器	甕	土製品	瓦玉
越州窯系青磁	椀; I	石製品	ob-AP(1)
白磁	椀; VI	瓦質土器	甕
瓦類	丸瓦(格子叩)、平瓦	瓦類	平瓦
金属製品	鋳滓		
		S-1暗灰粘	
S-1			
		須恵器	甕、小甕
須恵器	坏c3、蓋c、短頸壺、甕、鉢	土師器	片
土師器	小皿a(イト)、坏a(イト)	石製品	ob-f(1)
	丸坏		
龍泉窯系青磁	椀; I	S-1灰粘	
白磁	椀; VI		
中国陶器	壺; 長胴壺	須恵器	坏c3、甕、鉢b
石製品	砥石(2)	土師器	片
木製品	曲げ物片		
弥生土器	高坏	S-2	
瓦類	平瓦		
その他	木炭	須恵器	坏c3、皿、鉢b、甕、高坏 蓋1
S-1淡黄灰土		土師器	甕、小甕
		金属製品	鋳滓
須恵器	坏c3、坏IV、蓋1、蓋3、蓋4 鉢、横瓶、長頸壺、高坏	土製品	棒状、フイゴ羽口
土師器	坏a(イト)、小皿a(イト)	石製品	ob-f(1)
	高坏	瓦類	平瓦
須恵質土器	東播鉢	S-2暗灰土	
龍泉窯系青磁	椀; I-5-b、I		
	皿; III	須恵器	坏c3
青白磁	合子	土師器	甕
中国陶器	甕; 片		
	他器種; 天目椀	S-2暗灰褐土	
土製品	棒状		
石製品	玄武岩フレーク	須恵器	甕、坏、皿x
瓦類	丸瓦(格子叩)	土師器	甕
		土製品	棒状

Tab8-3

前田遺跡第8次調査出土遺物一覽表2

S-2淡灰褐砂質土		S-10h	
須恵器	坏c3、蓋3、鉢b x	須恵器	坏c3
土師器	片、甕	土師器	甕片
S-4		S-13	
須恵器	坏c3	須恵器	片
土師器	坏a x	弥生土器	片 x
金属製品	鋳滓		
土製品	フイゴ羽口	S-14	
S-6		須恵器	坏
須恵器	坏	S-16	
土師器	片		
		須恵器	甕片
		土師器	片
S-7灰色土		土製品	焼土塊（鑄型 x）
須恵器	坏c3、蓋c、長頸壺、鉢b		
	蓋3	S-17	
土師器	小皿a（イト）		
龍泉窯系青磁	碗；l x	須恵器	坏c2、蓋2
同安窯系青磁	碗；片	土師器	丸坏c x（混入か？）
中国陶器	黄釉盤	白磁	皿；片 x（混入か？）
土製品	トリベ		
石製品	石炭片、and-f（1）	S-18	
瓦類	丸瓦、平瓦（格子叩）		
		須恵器	坏
S-7灰砂			
		S-19	
須恵器	坏c、蓋c、蓋1、甕、高坏		
土師器	坏a（イト）	須恵器	片、壺
同安窯系青磁	碗；片	土師器	片
青白磁	壺 x		
		S-19茶褐土	
S-9灰色土			
		須恵器	坏c、甕、高坏
須恵器	坏c3	白磁	皿；片（ごけ底）（混入か？）
S-10g		S-21	
須恵器	鉢	須恵器	片
土師器	小甕	土師器	片
金属製品	鋳滓		

Tab8-4

PI.01/02



PL08-01 前田遺跡8次調査全景1 (北より)



PL08-02 前田遺跡8次調査全景2 (東より)

PI.03/04



PL08-03 前田遺跡8次調査俯瞰1（北半を西より）



PL08-04 前田遺跡8次調査俯瞰2（中ほどを西より）

PI.05/06



PL08-05 前田遺跡8次調査俯瞰3 (中ほどを北より)



PL08-06 前田遺跡8次調査俯瞰4 (北半検出時北より)

PI.07/08



PL08-07 8SD002土層縦断面1



PL08-08 8SD002土層縦断面2

PI.09/10



PL08-09 8SD002分水地点（南より）



PL08-10 8SD002完掘状況（北より）

Pl.11/12



PL08-11 8SD002土層堆積狀況 (CD断面)



PL08-12 8SD002土層堆積狀況 (GH断面)

Pl.13/14



PL08-13 8ST004完掘時（西より）



PL08-14 8ST004遺物と土層状態（西より）

Pl.15/16/17



PL08-15 8SB010掘立柱建物（西より）



PL08-16 8SB010f



PL08-17 8SB010h

PI.18/19



PL08-18 8SD001土層状況 (FP49区北より)

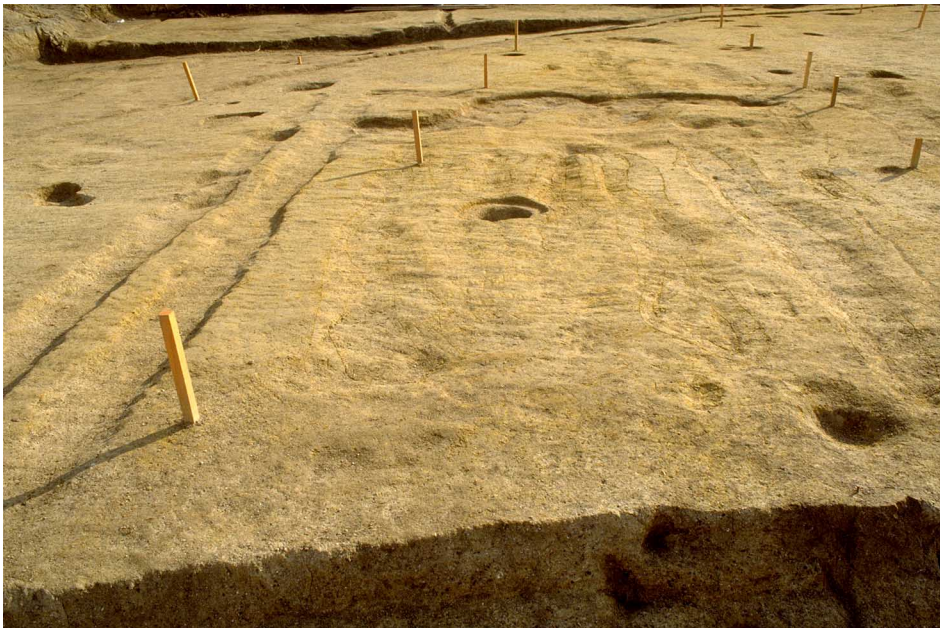


PL08-19 8SD001土層状況 (FG47区東より)

PI.20/21



PL08-20 8SX007北壁土層



PL08-21 8SX003完掘状況（西より）

Pl.22/23



PL08-22 8SD002出土遺物1



PL08-23 8SD002出土遺物2

Pl.24/25



PL08-24 8SB010出土遺物



PL08-25 ST004出土遺物

総説

8次

10次

11次

第9次調査

はじめに

層 序

遺 構

遺 物

小 結

写真図版

前田遺跡第9次調査

はじめに (Pl. 9-1)

調査地は太宰府市大字向佐野字前田467に所在し、調査前は住宅が建っていた。佐野土地区画整理により、当該地が宅地および道路の一部に改変されることに先立って発掘調査を実施した。

調査は平成3(1991)年7月31日から9月2日まで実施した。調査面積は300m²である。調査は城戸康利が担当した。

層序

住宅が建っていたことから表土中には解体の際の廃材等が廃棄されていた。表土下には一部旧水田面らしい水平堆積の土層が見られたが、多くは表土からの攪乱で失われていた。

遺構面は旧水田面直下で検出され、黄灰色砂質土の沖積層にのっている。中世から近世まで同一面で検出された。旧水田面形成時までには削平を受けたことが考えられる。

遺構 (Pl. 9-2)

前9SD001 (Fig. 9-1 Pl. 9-3)

調査区中央で検出した南東から北西方向の溝である。検出長は約10m、幅は約3~4m、深さ約1mで、蛇行している。断面は逆台形状を示し、底面は凸凹がある。9SD002を切っている。東肩の様子から人工的に掘られた溝と考えており、その後改修されることなく徐々に埋没しながら自然流路と化したと思われる。埋土は大きく上層は粘質土を中心とし、下層は砂質土を中心としている。

前9SD002 (Fig.9-1 Pl.9-4)

調査区中央で検出したほぼ南北方向の溝である。検出長約6m、幅約3m、深さ約0.6mで、北を向いて少し東に湾曲している。9SD001に切られている。埋土は上層から下層へ砂粒を含む土から粗砂層へ変化している。

前9SD004 (Fig.9-1)

調査区西端で検出した南東から北西方向の溝である。検出長約4m、幅約2.5m以上、深さ約0.2mである。底面は乱れていて凹凸が激しい。埋土は上層は暗茶色土、下層は灰色砂質土である。

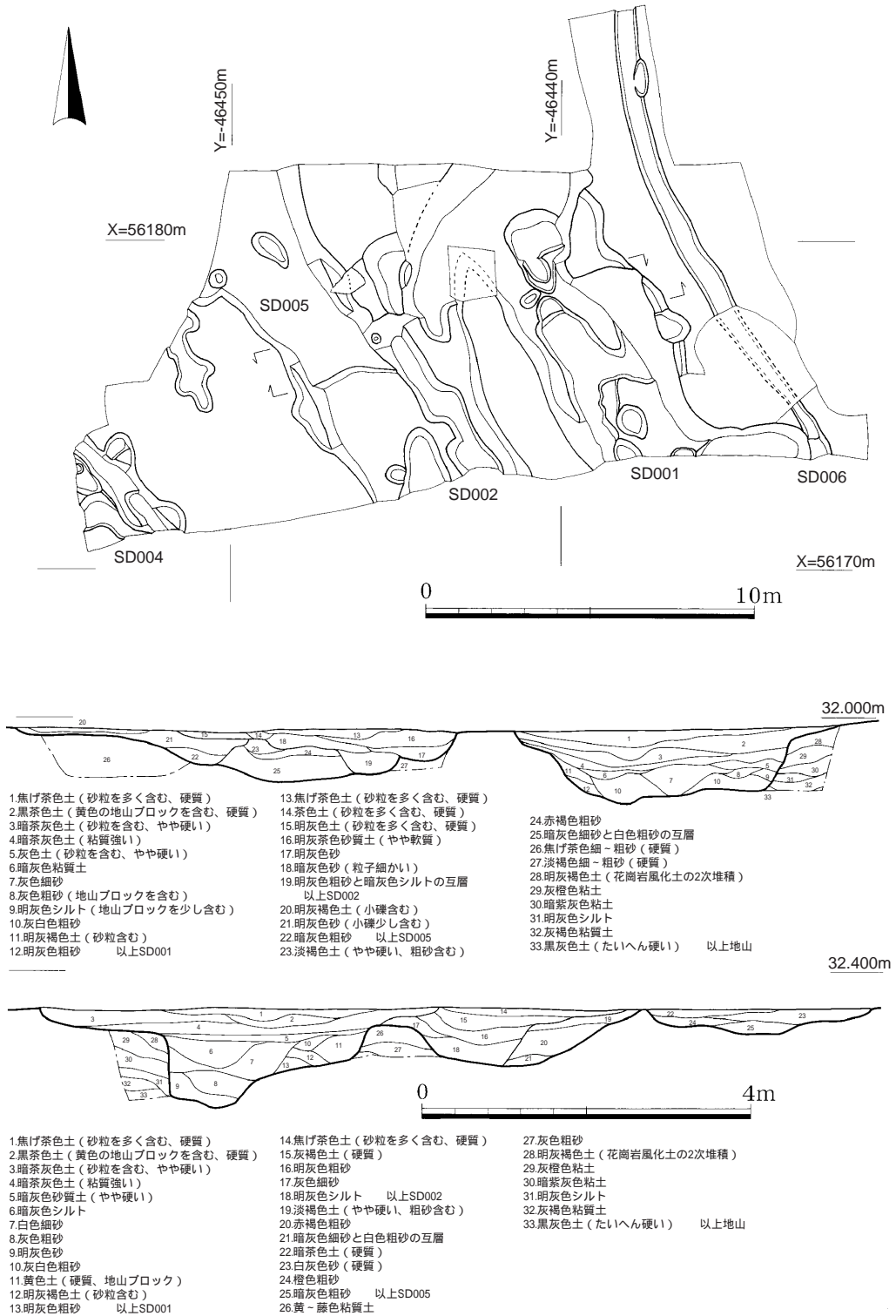


Fig.9-1 前田遺跡第9次調査遺構配置図、前9SD001・002・005土層断面図

前9SD005 (Fig.9-1 PI.9-5)

調査区中央で検出した南東から北西方向の溝である。検出長約11m、幅約3m、深さ約0.4mである。底面は凸レンズ状をしており、肩はゆるく立ち上がっている。埋土は小礫を含んだ砂層を主体としている。自然流路の可能性も考えられる。

前9SD006 (Fig.9-1 PI.9-7)

調査区東側で検出した南北方向の溝である。検出長約15m、幅約0.7m、深さ約0.2mで西側に少し湾曲している。断面はU字を呈し、埋土は暗茶色土の単一層であった。

遺物 (Fig.9-2、PI.9-8・9)

前9SD001出土遺物

1は須恵器の小壺の破片である。胴部最大径は12.2cm。調整は全てヨコナデで、肩部に焼成の際の溶着痕がある。胎土は多孔質で灰色を呈する。搬入品と考えられる。2は土師器の坏である。口径15.1cm、器高2.9cm、底径11.2cmを測る。底部は糸切りで、板状圧痕が付く。胎土は精良で金雲母と白色粒子を含む。色調はくすんだ黄灰色を呈する。3は安山岩を使用した剥片先尖器である。長さ5.9cm、幅3.4cm、厚さ0.95cm、重量18.3gを測る。腹面、背面とも右側から先端部にかけて二次加工を施す。

前9SD004出土遺物

a・bは肥前系の磁器である。aは椀、bは皿と考えられる。cは国産の陶器と考えられる。内外面ともに青みを帯びた灰白色の不透明釉がかかる。胎土は茶黄色をしてざらついた感じがする。ほかに、漆椀片が出土した。内面は赤色、外面は黒色を呈し、残存部位に文様は見られない。

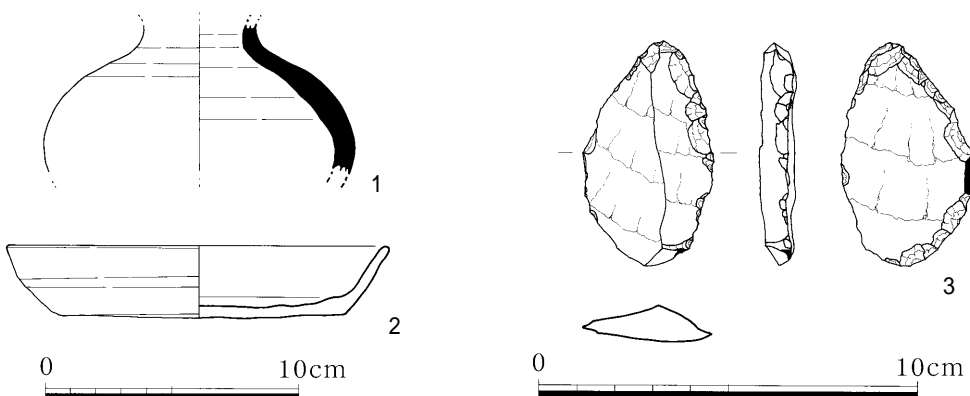


Fig.9-2 前田遺跡9次調査出土遺物実測図

小結

検出した主な遺構は溝もしくは流路と表現できるもので、人工の水路が自然流路と化し埋没していったと考えられる。以下、遺構ごとに年代観を示しまとめたい。

前9SD001 前8SD001に続くもので、前9SD002を切っている。出土遺物は8世紀代のものを中心とするが、底面近くからXV期の坏aを検出している。

前9SD002 前9SD001に切られて、前9SD005を切っている。出土遺物は古代に収まる破片ばかりであった。前9SD001は当溝の掘り直しの可能性もある。

前9SD005 前9SD001・002に比べ浅く、遺構の肩も明瞭ではなく自然流路とも考えられる。出土遺物は陶磁器がD期のものであり、およそ12世紀中頃以降に埋没したと考えられる。

以上、三本の溝は切り合い関係から前9SD001、前9SD002、前9SD005の順に古くなっていることがわかり、埋没時期も近接していたと思われる。流れの方向はおおよそ付近の等高線や現在の大佐野川に沿っており、現状では何を目的として掘削された溝かは不明である。

前9SD004 肥前系の磁器を出土したことから近世以降に埋没したものと思われる。

前9SD006 前8SD002と同一の溝である。遺物は古墳から奈良時代の須恵器・土師器を少量出土したが、前9SD001の例を考えると古代よりさらに下る時期の溝の可能性も考えられる。

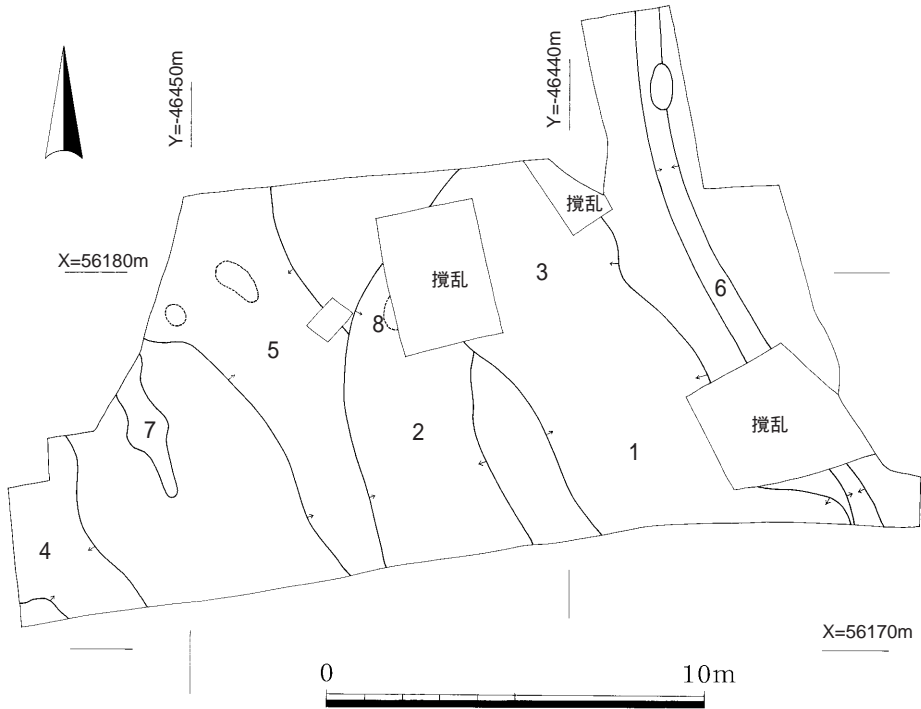


Fig.9-3 前田遺跡第9次調査略測図

Tab.9-1 前田遺跡第9次調査遺構番号一覧

S-番号	遺構番号	種 別
1	9SD001	溝又は流路 12c 中～
2	9SD002	溝又は流路 9SD002 9SD001
3	9SD001	溝又は流路 9SD001と同一の溝
4	9SD004	溝又は流路
5	9SD005	溝又は流路 9SD005 9SD002
6	9SD006	溝 奈良～
7	9SD007	溝 近世～
8		ピット

Tab.9-2 前田遺跡第9次調査出土遺物一覧

S-1		S-8	
須恵器	坏a、坏c、蓋1、蓋3、高坏	土師器	坏a、小皿a
	壺b、鉢b、甕	瓦器	椀c
土師器	坏a(イト)、坏d、椀c、高坏	白磁	椀V
	甕a		
黒色土器A	椀		
須恵質土器	壺		
S-2			
須恵器	蓋c3、坏c、甕×壺、片		
土師器	坏、高坏、片		
黒色土器B	椀		
S-3			
須恵器	坏a、坏c、蓋3、壺d、甕		
土師器	坏c、甕、取手、片		
S-4			
国産陶器	染付；椀 白釉；椀		
S-5			
須恵器	坏c、蓋c、蓋3、蓋4、壺e?		
	壺、甕		
土師器	高坏		
龍泉窯系青磁	不明片		
同安窯系青磁	椀I-1b		
白磁	皿片		
須恵質(輸入)	朝鮮系無釉陶器：甕		
瓦類	平		
石製品	砥石？		
S-6			
須恵器	坏、壺		
土師器	坏、蓋、取手		
瓦類	平(縄目、燻し)		
S-7			
須恵器	坏c、坏		



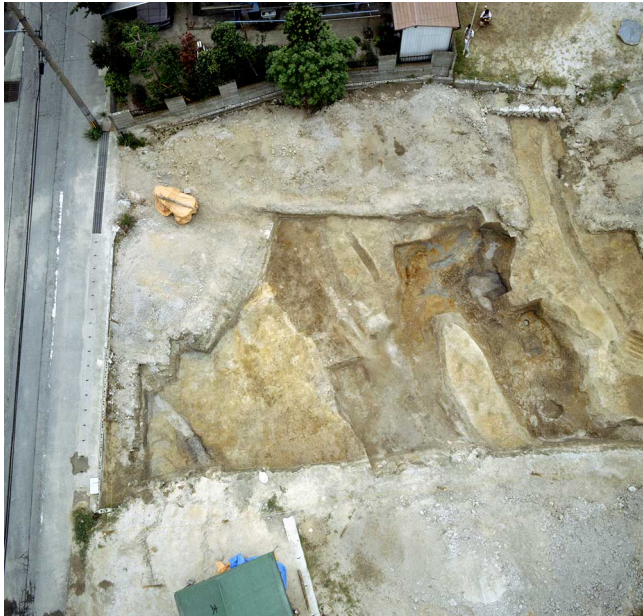
調査地から水城跡を望む（上が北）



調査地から宮ノ本遺跡を望む（上が南西）



前田遺跡第9次調査調査区遠景（上が北、右上の空き地が第8次調査地）



前田遺跡第9次調査調査区全景（上が北）



前田遺跡第9次調査調査区近景（上が北）



前田遺跡第9次調査SD001土層断面（南から）



前田遺跡第9次調査SD002・005土層断面（南から、向って左が005）



前田遺跡第9次調査SD005土層断面（北から）



前田遺跡第9次調査SD005土層断面（南から）



前田遺跡第9次調査SD002土層断面（南から）



前田遺跡第9次調査SD001・002土層断面（北から、向って左から001・002）



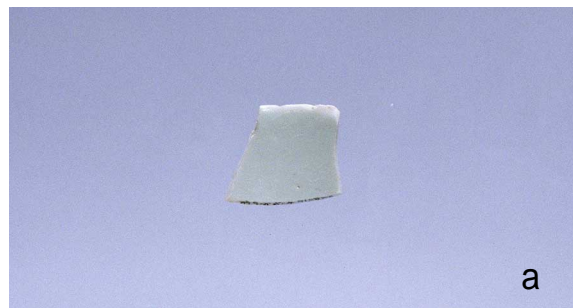
前田遺跡第9次調査SD001・002・005土層断面（北から、向って左から001・002・005）



前田遺跡第9次調査SD006土層断面（南から）

前9SD001





前9SD001



ステレオ写真です。立体視ができますのでおためし下さい。

総説

8次

9次

11次

第10次調査

調査に至る経緯

層 位

遺 構

遺 物

ま と め

写 真 図 版

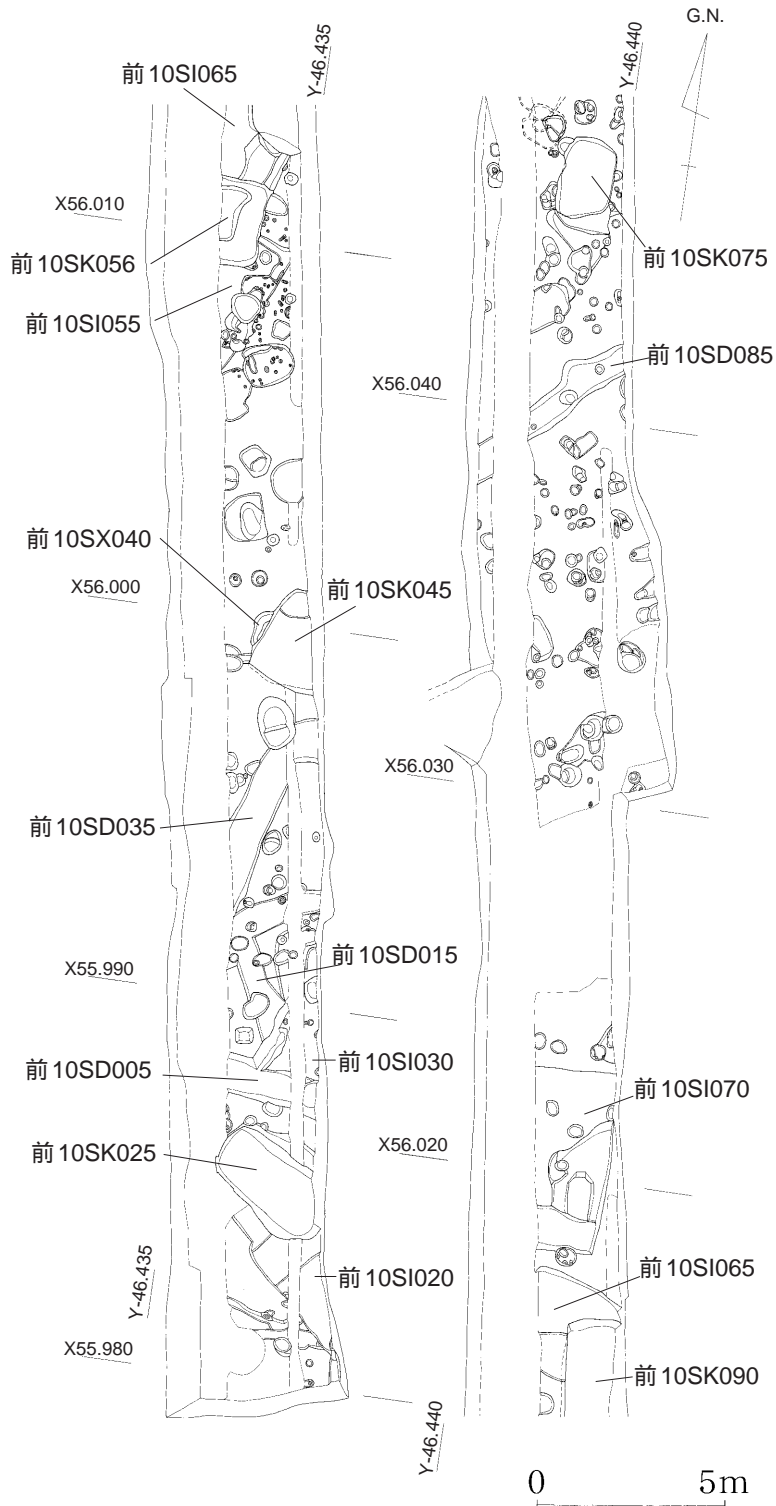


Fig.10-1 前田遺跡第10次調査全体遺構図(1)

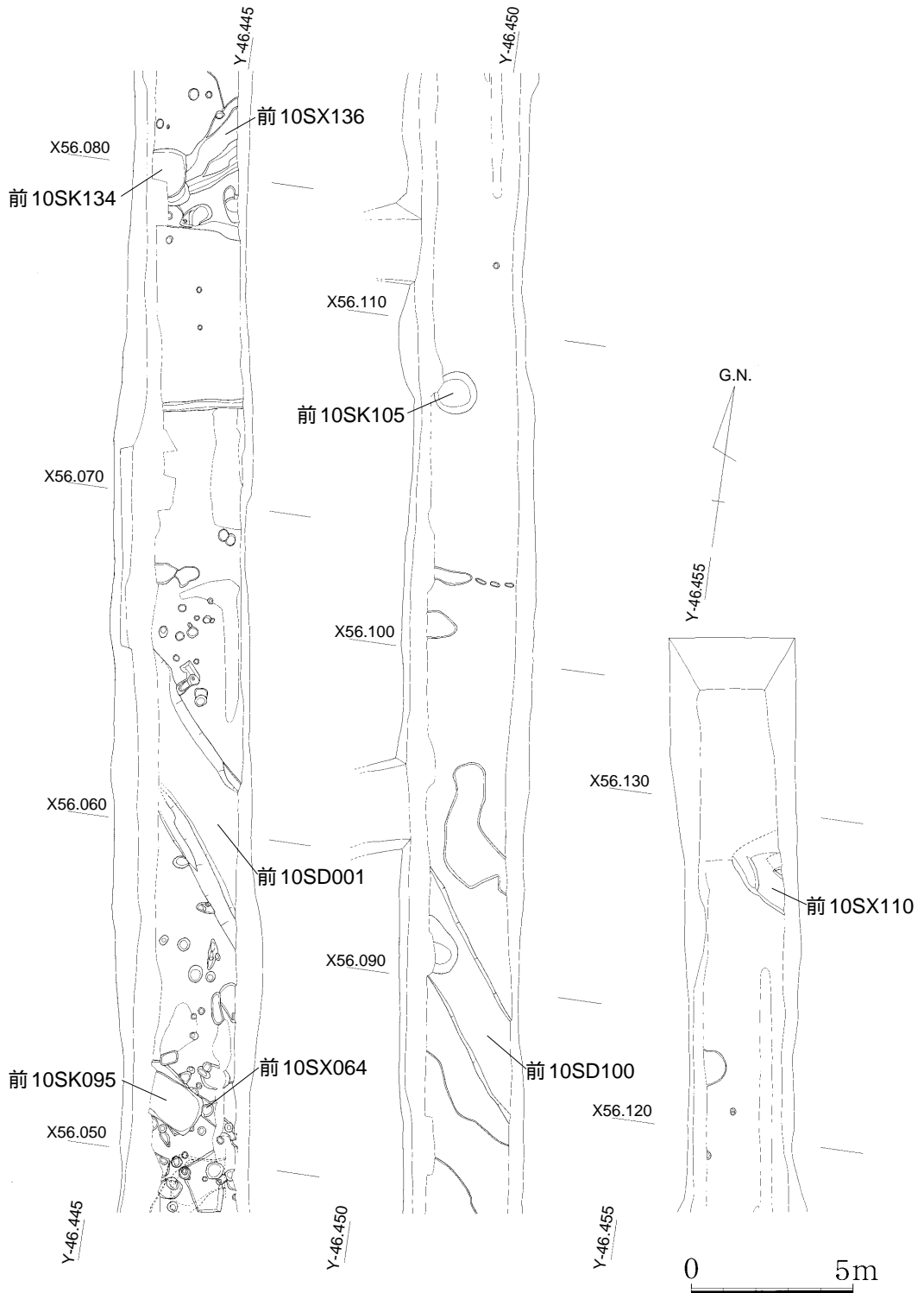


Fig.10-2 前田遺跡第10次調査全体遺構図(2)

III 調査の記録

3. 前田遺跡第10次調査

1) 調査に至る経緯

調査地は太宰府市大字向佐野字前田703に所在する。ここは、調査前は市道として使用されてきたが、佐野地区区画整理事業により市道が東側に付け替えられたため、旧道部分の調査が行われることになった。

調査区は長さ157.2mにわたって設定し、排土置き場等関係で北と南の半分づつ調査区を区切って調査を行った。表土除去作業を行うと、道路の下は、過去の複数の配管工事で遺構が壊されている状況で、これらの攪乱により、調査範囲は幅約2m程度しか確保できなかった。

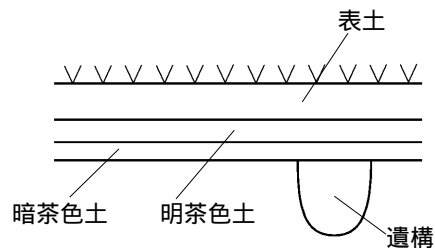
調査面積は約550㎡、調査期間は平成3(1992)年7月13日～同年10月3日である。

なお遺構表記については、『太宰府・佐野地区遺跡群I』(1989)に従って遺構番号の前には調査略称を付す。例えば「前10S-60」は前田遺跡第10次調査のS-60という遺構を表し、「前7SD001」は前田遺跡第7次調査のSD001を示す。

2) 層位 (Fig.10-3)

本調査区の基本的な層序については、遺構面を暗茶色土層が覆っており、その上を旧耕作土とみられる層が数面存在し、最上部には旧道に伴う層が堆積している。表土除去作業は、暗茶色土層下面まで重機にておこなったため、暗茶色土層より上層の遺物はほとんど採集できていない。ただし、CT45地区において暗茶色土層のすぐ上層で耕作土下面の酸化層である明茶色土で発見したものは、「明茶色土」遺物として、その他で発見したものは、「表土」遺物として採集した。

なお、調査区北側(およそ前10SD001以北)では暗茶色土層はあまり発達していなかったが、便宜上、遺構検出時の遺物を「暗茶色土」出土として取り上げている。また、DF47～DH47地区において、「黄茶色土」として地山を掘り下げるが、遺物の検出はみなかった。



なおDF47～DH47地区の地山を「黄茶色土」とした。

Fig.10-3 前田遺跡第10次調査層位模式図

3) 遺構

上記のとおり、本調査区の東西は過去発掘調査が行われているものの、狭いトレンチ状の調査区である上、調査区に添って配管工事の攪乱があるため、遺構の全容をつかむのが大変難しい状況であった。調査時には過去の調査をいく分かは参考にすることができたものの、特に遺構密度が高いところは、切り合い関係を十分把握できていないものもあるとみられる。今後報告される周辺の調査成果と併せて検討していく必要がある。

さて、調査した遺構の内容を以下に述べるが、遺構の詳細については本文の他、Tab.10-1 ~ Tab.10-9を併せて参照していただきたい。

溝

前10SD001 (Fig.10-2、Pl.10-6・7・8)

調査区の中央北よりを北西 - 南東方向に走行する溝である。検出長10.2m、幅約3m、深さ最大0.67mを測る。遺構掘削時には確認できなかったが、土層観察より東側に幅約0.6mのテラス状の段を有しているのが確認される。テラス状の段の下に幅約2.1mの断面台形を呈した溝の本体があり、およそGL-40 ° 13 23 -W (溝下場任意中軸) に振れている。

テラス部分および溝最下部には、溝開削時あるいは掘り返し時のものと見られる鋤痕跡が複数確認され、中に黒茶褐色粘質土 ~ 灰色砂質土が堆積している。

埋土は大きく3層に分層される。最下層の茶黑色砂は溝が機能していた時期の堆積層とみられ、地山の茶色砂を多くまばらに含んでいる状況から、若干の流水作用があった可能性がある。ただし、上記のように鋤痕跡が比較的明瞭に残存し

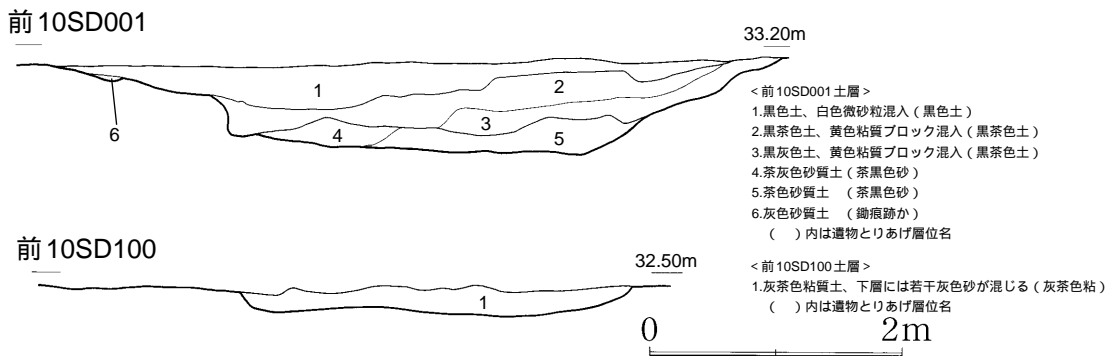


Fig.10-4 前田遺跡第10次調査SD001・SD100土層図

<いずれも調査区東壁を実測>

ていることから、流量はさほど多くはなかったのであろう。なお、上層の黒茶色土層には、黄色地山土ブロックが若干含まれるため、なんらかの埋め戻し行為が行われた可能性がある。最上層の黒色土層については、自然堆積したものと考えている。

前 10SD005 (Fig.10-1)

調査区の南で検出されたほぼ東西に走行する溝である。検出長2.45m、幅約1m、深さ約0.22～0.44mを測る。

遺構自体は浅いものの、埋土は茶色系埋土と茶褐色土に分けられる。茶色系埋土は、掘削時に一部別遺構の未掘部分を含んでいることが判明した、別遺構を含む部分を前10SD005上層とし、茶色系埋土を単純に示すものを前10SD005下層出土遺物として弁別している。なお、埋土の主体はこの茶色系埋土で、最下層の茶褐色土は床面に近いところで部分的に検出されたのみである。

前 10SD015 (Fig.10-1)

調査区の南で検出された溝である。調査区内では南東 - 北西方向に走行し、北端で北東に向きをかえている。南端も幾分難東に向きをかえつつあるのが窺える。幅約1m、深さ最大0.16m。

埋土は黒色土および淡茶色土に弁別される。黒色土は淡茶色土の直上を平行して幾分幅広めに堆積し、これを除去すると淡茶色土層がこれより狭い範囲で検出される。溝の本体は淡茶色土とみられる。

前 10SD035 (Fig.10-1)

調査区の南で検出された、南西 - 北東方向に走行する溝である。検出長5.7m、幅約1m、深さ約0.14～0.21mを測る。

埋土は茶色土、黄褐色土の2層に大きく弁別される。埋土の主体は茶色土で、黄褐色土は、地山土が混入している最下層の層位とみなしてよい。

なお、調査時に別遺構との切り合い関係に若干の疑義があったため、最上層のみ土色名なしで遺物とりあげを行っている。整理の段階では、新しい時期の遺物の混入は確認されなかったため、基本的には、茶色土層と同一とみなしてよいだろう。

前10SD085 (Fig.10-1)

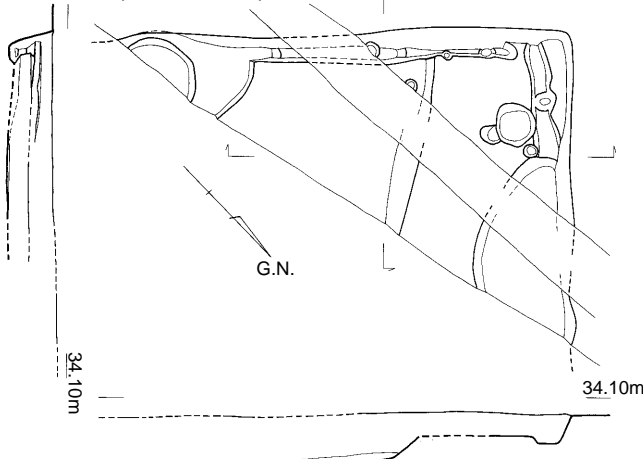
調査区中央を北東 - 南西方向に走る溝である。検出長3.5m、幅0.75 ~ 1.04m、深さ0.21 ~ 0.32mを測る。

前10SD100 (Fig.10-2、PI.10-9・10)

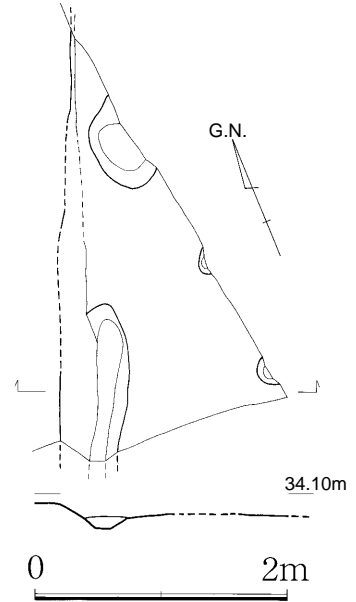
調査区の中央北よりを北西 - 南東方向に走行している。検出長8.2m、幅約1m、深さ約0.1 ~ 0.2mを測る。遺構は後世にかなり削平されており、溝の走行方向はおよそGL-36°44'27"-W (溝下場任意中軸) に振れている。

埋土は、灰茶色粘質土が薄く堆積している。粘質は比較的強く、埋土の状況および土層観察からは流水作用は確認できなかった。

前10SI020(住居使用時)



前10SI030



前10SI020(貼床除去時)

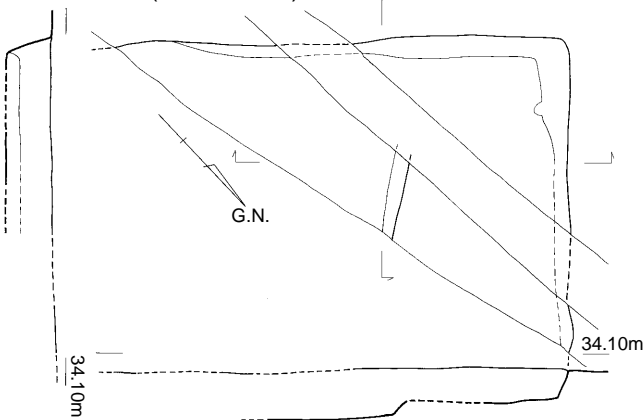


Fig.10-5 前田遺跡第10次調査SI020・SI030実測図

竪穴住居

前10SI020 (Fig.10-5)

平面プランは四角形を呈すとみられる。3.6m × 2.25m分を検出した。深さは最大0.42mを測り、床面に約5cm程度の貼床を施す。北西側にベッドを有し、壁溝がベッドを切るように巡っている。住居壁沿い床面に小穴等が掘削されている。なお北側のベッド上の窪みは下層の前10SK025の沈み込みによるものである。

前10SI030 (Fig.10-5)

平面プランは四角形を呈すとみられる。3.4m × 1.8m分を検出した。深さは、0.08mを測り、貼床はここでは確認できなかった。

前10SI055 (Fig.10-6)

平面プランは四角形を呈すとみられる。

3.7m × 2.35m分を検出した。深さを0.14mを測り、貼床は確認できなかった。北東隅には溝状のものが壁に沿っている。

なお、北西端の下層には前10SK056があり、この遺構の埋土の沈み込みにより、付近の床面がはっきりしなかった部分がある。

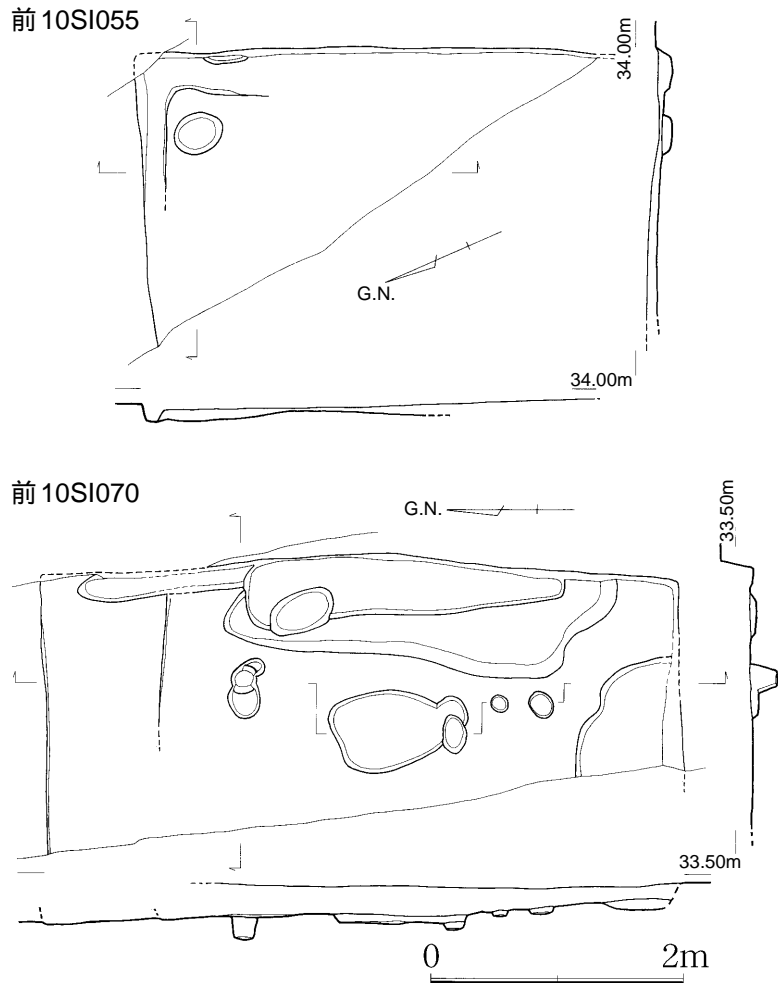


Fig.10-6 前田遺跡第10次調査SI055・SI070実測図

前10SI065 (Fig.10-7、Pl.10-10)

平面プランは長方形を呈す。東西は約4.2m、南北長6.44m分を検出した。北壁にそって幅約1m程のベッド状遺構がある。床面には約10cm程度の貼床（茶黄色土）を施す。貼床を施した後、その上にベッド状遺構を設けているようである。東側の貼床上には溝がある。この下にも溝状遺構（前10SI065f・g）があり、貼床上の溝状のものは、下層の掘り込みの埋土の沈み込みによる可能性もある。貼床上には小穴が確認されるがいずれも浅く、柱穴と断定はできなかった。

さて、本遺構の南1/3程度については、S-60として調査を行ったが、狭範囲のため、遺構検出時に本遺構埋土と貼床とを弁別できなかった。これは、本遺構の下には前10SK056および前10SK090があり、この埋土の沈み込みにより床面がはっきりしなかったことにもよる。このことが調査時に判明したため、残りの部分の調査については、遺構番号を新たにS-65（前10SI065）とし調査を行っている。ちなみにS-60黒茶色土は、前10SI065黒茶色土（埋土）および茶黄色土（貼床）を併せた層位である。

なお、前10SI065の後にアルファベットの小文字を付す遺構番号のものがある。a～bは黒茶色土（埋土）除去時に床面で検出された小穴であり、c・dはベッド状遺構（cが上層）、eは貼床除去時に検出された北側の土坑状遺構で、f・gは貼床除去時に検出された東側の溝の埋土（fが上層）である。

前10SI070 (Fig.10-6、Pl.10-11)

平面プランは四角形を呈す。南北長5.05m、東西は約2.4m分を検出した。削平が進んでおり、北側はわずかに残存する程度であったが、北壁にそってわずかにベッド状遺構とみられる痕跡（黄黒色土）を確認している。床面には約10cm程度の貼床（茶色土）を施す。黄黒色土の下にも茶色土は入っているようである。東側の床面には溝状のものがみられる。この下（貼床除去時）には不定形の掘り込みが施されており、貼床上の溝状のものは、下層の掘り込みの埋土の沈み込みによる可能性もある。ただこの溝の北側部分は壁溝とみられる。溝の最北端はベッドにまで及んでいる。床面には小穴が確認されるがいずれも浅く、柱穴と断定はできなかった。

なお、遺構名（前10SI070）の後にアルファベットの小文字を付す遺構番号のものがある。a～fは黒茶色土（埋土）除去時に床面で検出された小穴であり、gは貼床除去時に検出された不定形の掘り込み、h・iは貼床除去時に検出された小

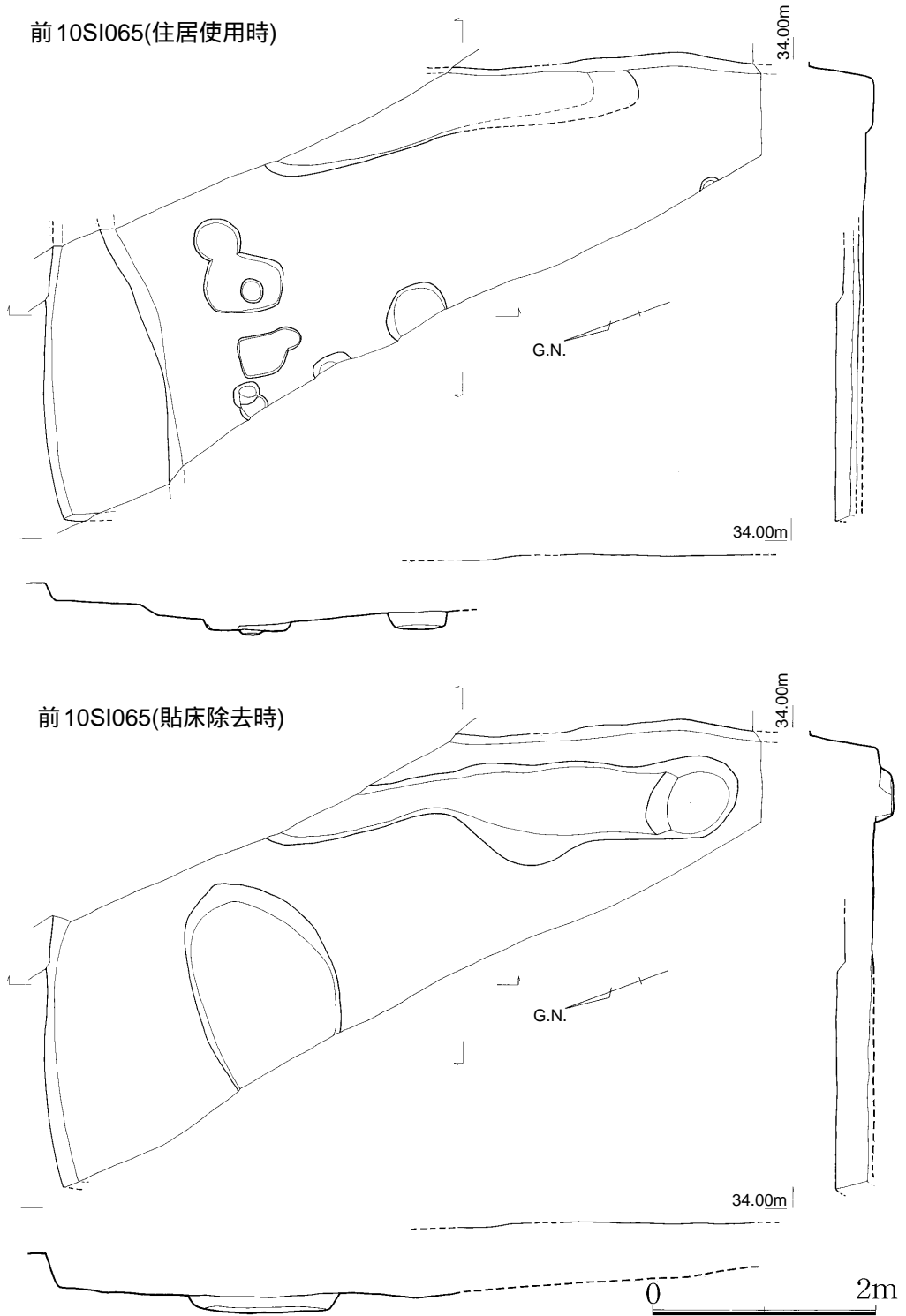


Fig.10-7 前田遺跡第10次調査 SI065実測図

穴である。

土坑

前10SK025 (Fig.10-8、 PI.10-12)

平面プランは楕円形を呈す。長軸3.5m、短軸2.24m、深さ1.14m。埋土は大きく茶色土、茶色土下層、黄色砂、茶黒色土、暗灰色砂に分かれる。検出時には、本遺構の沈み込みによる堆積層（茶色土）が確認されたが、たまり状遺構との認識で掘り進めたため土層に一部不明な点がある。おそらく茶色土層（土層1）までは沈み込みによるもので、小穴などの未確認の別遺構が含まれていた可能性があり、茶色土下層以下が本体とみられる。

前10SK045 (Fig.10-8、 PI.10-13・14)

平面プランは隅丸四角形を呈すように見えるが、調査区東壁により寸断されているため詳しくはわからない。2.44m × 1.96mを検出し、深さ0.88mを測り、北側の床面には浅いくぼみを有す。部分的に断面が袋状を呈している。埋土は大きく黒茶色土、茶灰色土、黒黄色土、灰色砂、黄色粘に分かれる。

前10SK056 (Fig.10-8、 PI.10-14)

弥生時代後期の竪穴住居（前10SI055・前10SI065）の下から検出された遺構である。平面プランは隅丸長方形呈すが、調査区の西の攪乱により破壊されている。長軸は2.36m、短軸は1.4m分検出している。深さは0.86m程度であり、底には浅いくぼみを有す。部分的に断面が袋状を呈している。埋土は大きく黒灰色土、灰色砂、灰褐色砂、黄色砂、茶灰色砂に分かれる。なお、黒灰色土は、上面の竪穴住居（前10SI055・前10SI065）の床面の一部が沈みこんだものとみられる。

前10SK075 (Fig.10-9、 PI.10-15)

平面プランは隅丸長方形を呈す。長軸は2.48m、短軸は1.44m、深さ0.8mを測る。東西壁がわずかながら袋状を呈している。南側は大きく削平されたような状況であるが、埋土に大きく切り合い関係があるわけでないことから、開口時に地崩れをおこして崩壊した形跡と考える。すると本来の長軸は約2.2m程度に復元されよう。埋土は大きく黒色土、黒茶色土、暗黄色土、黒褐色土に分かれる。

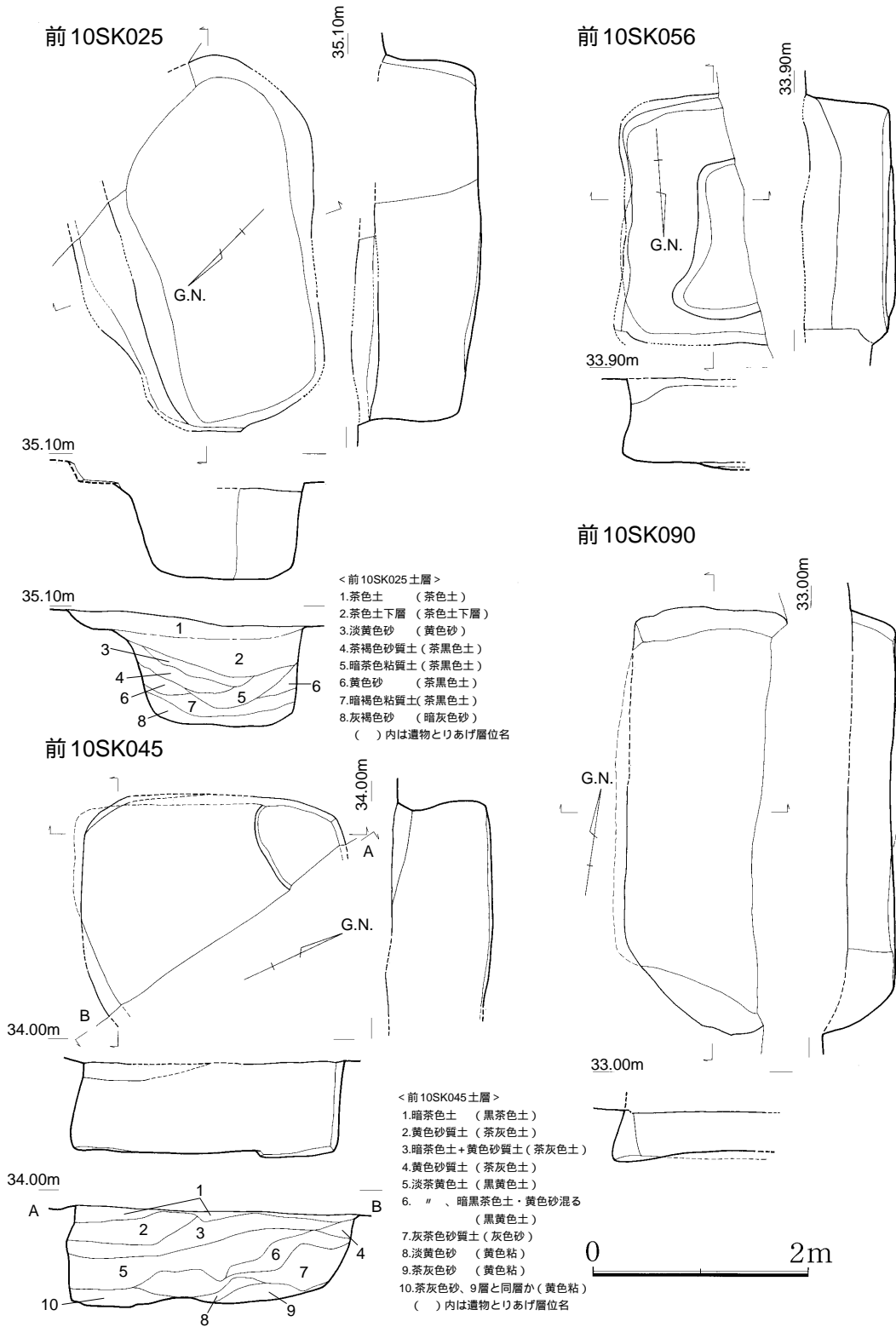


Fig.10-8 前田遺跡第10次調査SK025・SK045・SK056・SK090実測図

前10SK090 (Fig.10-8、PI.10-16)

前10SI065の下で検出された遺構である。調査区東壁により寸断されているが、平面プランは隅丸長方形を呈すとみられる。長軸は4.0m、検出幅は1.4m、深さ0.64mを測る。南側の壁の立ち上がりは大きく外方に広がっており、開口時に地崩れをおこして崩壊したとみられる。西壁は袋状を呈している。埋土は大きく黒色土、黄色砂に分かれる。

前10SK095 (Fig.10-9)

調査区中央付近で検出された遺構である。攪乱により遺構西側を破壊されているが、平面プランは隅丸長方形を呈すと見られる。長軸は検出長1.96m、短軸は1.28m、深さ0.82mを測る。埋土は大きく茶色土、黒色土、黒茶色土に分かれる。

前10SK105 (Fig.10-9、PI.10-16)

調査区北側で検出された遺構で、平面プランは円形を呈す。直径約1.3m、深さ0.38mを測る。埋土は前10SD100埋土に類似した粘質土が堆積し、大きく紫灰色粘、灰色粘に分かれる。

前10SK134 (Fig.10-2)

調査区中央北側で検出された遺構である。調査区西壁のため、西側については不明だが、平面プラン円形を呈すとみられ、径1.5mを測ると推測される。深さは0.3m。

その他の遺構

前10SX004 (Fig.10-1)

調査区南端で検出された小穴群である。これらの一部が前10SK025に切

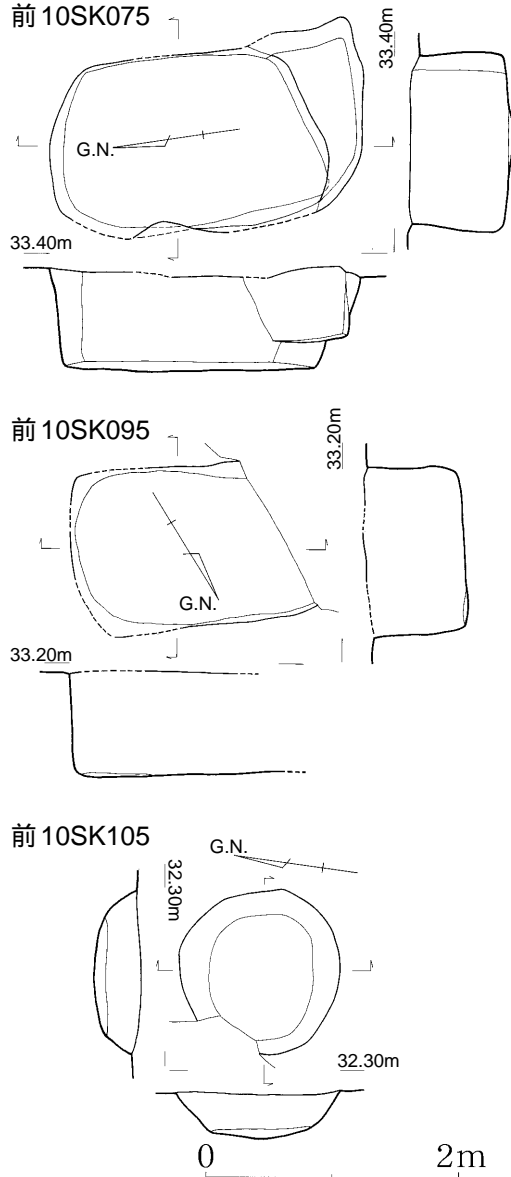


Fig.10-9 前田遺跡第10次調査SK075
・SK095・SK105実測図

り込んでいる。

前10SX040 (Fig.10-1)

前10SK045に一部切り込む小穴である。埋土は黒色土、茶灰色土、黒黄色土混土（遺物未出土）に分かれる。

前10SX064 (Fig.10-2)

前10SK095に一部切り込む小穴群である。

前10SX094

たまり状の遺構である。前10SK075を覆うように堆積しており、本遺構除去後に前10SK075の他、前10SX127等が検出される。

前10SX110 (Fig.10-2)

調査区最北端付近で検出した遺構である。調査区最北端は表土除去時に試掘トレンチを入れたため、本遺構の北側が破壊されたため、詳細は不明であるが、埋土が南側から東側に向かっているのを確認しており、溝等の遺構と考えられる。

前10SX127

前10SX094の下層で検出した小穴である。前10SK075に切り込む。

前10SX136 (Fig.10-2)

たまり状遺構である。埋土は灰色砂、茶色土に分かれる。

4) 遺物

本調査では、調査範囲が極めて狭いことも起因してか、遺物がまとまって出土する遺構はあまりない。出土遺物が少ないことは遺構の時期や性格を考える材料にとぼしいといえるが、遺構を性格づけるため、図化できるものは破片資料でも可能な限り図化し報告することにつとめた。

なお弥生時代前期の土器の器面調整等については、『佐野地区遺跡群VIII～前田遺跡第7次調査～』（1998）での表記法を参考にしている。

刻目1・・・刻目が口縁端部全体に施されるもの。

刻目2・・・刻目が口縁端部中央から下にかけて施されるもの。

刻目3・・・刻目が口縁端部の下角に小さく施されるもの。

ナデa・・・細かい繊維状の条線を残し、工具の当たりや縁があるもの。

ナデb・・・ナデaより条線は粗い。いわゆるハケ目調整。

ナデc・・・全体に平滑。条線は直線的でない。工具を使用せず、指によるものか。

ナデd・・・ごく細かな直線的な条線を残す。ケズリにもみえる。

なおナデについて、口縁部で横方向に強く施されるものは、a2、b2のように数字の2を付ける。

その他、遺物の詳細については、本文のほか Tab.10-10 ~ Tab.10-24 を併せて参照していただきたい。

土器・鉄製品

溝出土遺物

前10SD001出土遺物 (Fig.10-10、Pl.10-17)

(黒色土)

須恵器

蓋3(1) 天井部から口縁部にかけて残存する破片である。現存高1.3cm。全面に回転ナデを施すが、天井部はヘラ切り後、軽くナデを施す。口縁部は断面三角形に整形する。内面は回転ナデ後、軽くナデを施す。

坏c(2・3) 底部付近が残存する破片である。現存高2.6 ~ 2.75cm、底径9.4 ~ 10.0cm。ハの字状に踏ん張った高台を有す。底部はヘラ切り。その他の部分は全面に回転ナデを施し、最後に内面底部にナデを施す。2の胎土は0.5mm程度の砂粒をわずかに含み、灰白色を呈す。3の胎土は精良で、灰青色を呈す。

坏片(4) 口縁部から体部にかけて残存する破片である。現存高4.3cm。全面に回転ナデを施した後、体部と底部の境付近にヘラケズリを施す。胎土は精良で、灰青色を呈す。

土師器

坏d(5) 体部から底部にかけて残存する破片である。現存高2.1cm。風化により見にくいものの、全面に回転ヘラミガキが施される。胎土はごくわずかに1mm程度の砂を含むが精良で、やや暗い橙灰色を呈す。

なおPl.10-17-aは、図化していないものの、この層位から出土した須恵器壺の底部である。

前10SD005出土遺物 (Fig.10-10、Pl.10-19)

(下層)

弥生土器 (後期)

甕×壺 (7) 底部と胴部の一部が残存する。破片資料のため、器種は断定には至っていない。現存高2.9cm。内面、外面、底部のいずれもハケ目調整を施す。内面のハケ目の単位はやや細かい様相を呈す。外面はハケ目調整後、若干の器面調整を施す。胎土は1mm以下の砂粒をわずかに含み、焼成は良好である。外面、底部は淡茶灰色、内面は淡灰黒色を呈す。

器台×高坏 (8) 脚部の一部が残存する。破片資料のため、器種は断定には至っていない。現存高7.9cm、断面径18.75cm (復元値)。断面観察から、同心円状に粘土を足して器壁を厚くしている状況がみられる。外面はハケ状の工具で調整を施した後、指押さえにて器面調整を行い、さらにその後布状のもので表面を軽くなでる。内面はしぼり痕が見え、これを軽くナデている状況が見受けられる。胎土は1～3mm程度の砂粒を多く含み、焼成は良好。外面は黄灰色、内面および断面は淡橙灰色を呈す。

前10SD015出土遺物 (Fig.10-10、Pl.10-19)

(黒色土)

弥生土器 (後期)

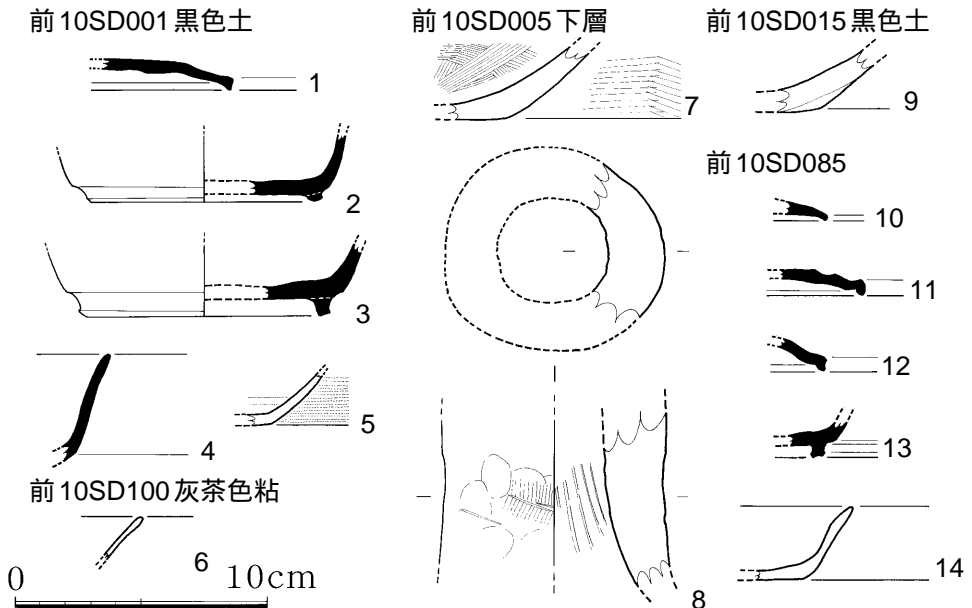


Fig.10-10 前田遺跡第10次調査SD001・SD005

・SD015・SD085・SD100出土遺物実測図

壺(9) 底部と胴部の一部が残存する破片である。現存高2.5cm。内外とも風化により調整不明。胎土は1mm前後の砂粒を含み、焼成は良好。外面は淡黄灰色、内面は淡灰黒色を呈す。

前10SD085出土遺物 (Fig.10-10、Pl.10-20)

須恵器

蓋3(10～12) いずれも口縁部付近が残存する破片である。現存高0.8～1.35cm。断面三角形の口縁を有す。10の口縁部は断面三角形が不明瞭である。全面に回転ナデを施し、11は天井部にヘラ切り痕が確認される。

坏c(13) 底部の一部が残存する破片である。現存高1.45cm。断面四角形の高台を有す。切り離しはヘラ切りと見られる。全面に回転ナデを施す。

土師器

坏(14) 底部から口縁部にかけて残存する破片である。器高3.0cm。破片のため断定できないが、口径17～18cmに復元されよう。底部は工具状のもので同心円状に数回に分けてナデており、底部切り離しは不明。その他の部分は回転ナデを施し、最後に内面底部にナデを施す。胎土はわずかに砂粒を含むものの概ね精良で、焼成も良好。明橙灰色を呈す。

なおPl.10-20-bは、図化していないものの、この層位から出土した白磁椀(IV×V類)である。

前10SD100出土遺物 (Fig.10-10、Pl.10-18)

(灰茶色粘)

土師器

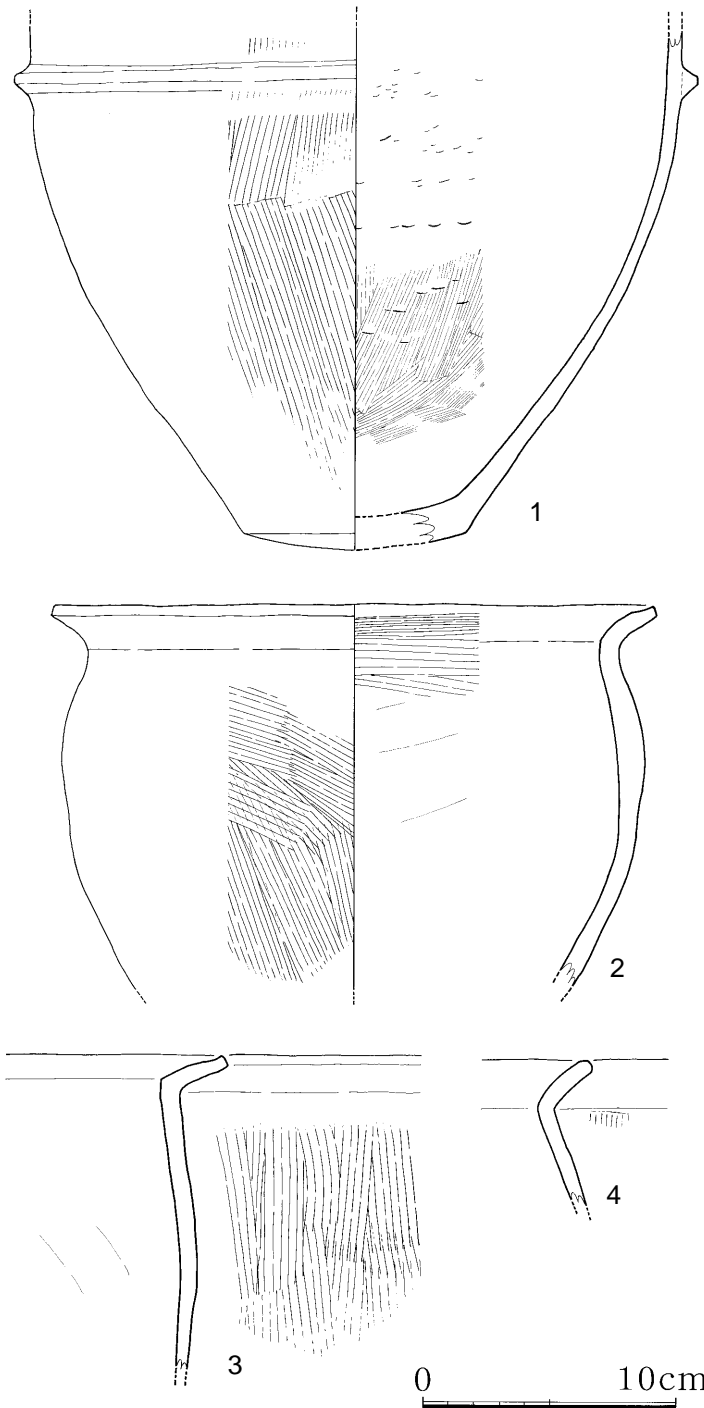
坏(6) 口縁部付近のみ残存する破片である。現存高1.8cm。破片のため断定できないが、口径はおよそ12cm程度に復元されよう。全面に回転ナデを施す。胎土は精良で、焼成はあまい。淡白茶色を呈す。

竪穴住居出土遺物

前10SI020出土遺物 (Fig.10-11、Pl.10-21・22)

(黒茶色土)

前SI020黒茶色土



弥生土器（後期）
 壺（1） 胴部下半から底部にかけて残存する。現存高20.4cm、胴部最大径27.0cm、底部8.8cm。胴部中央で最大径を有すとみられ、ここに断面台形の突帯を一条貼り付ける。底部は凸レンズ状を呈す。内面はハケ目調整を施した後、胴部中央および底部にナデを施す。胴部中央には人の爪の痕跡が複数確認される。爪の痕跡は水平方向に連なっており、ナデの痕跡に沿っていることから、ナデを施した時に同時についたと考えられる。外面はハケ目を施し、突帯部付近および胴部の最下部付近はナデが施されている。底部の調整は不明。胎土は1mm前後の砂粒を含み、焼成は良好。内面はややくすんだ淡灰橙色を呈し、外面はくすんだ淡黄灰色を呈す。

甕（2～4） いずれも口縁部から胴部の一

Fig.10-11 前田遺跡第10次調査SI020出土遺物実測図

部が残存する破片である。2は、口径24.0cm、現存高15.25cm。内面は八ケ目調整の後、口縁部付近を除いてナデを施す。外面は八ケ目調整の後、口縁部付近にナデを施す。胎土は1～1.5mmの砂粒を多く含み、焼成は良好。内面は淡橙灰色、外面は暗茶褐色を呈す。

3は、現存高12.5cm。内面はナデを施し、外面は縦方向に八ケ目調整を施す。口縁部はヨコナデを施す。胎土は1mm以下の砂粒をわずかに含み、焼成は良好。内面は淡橙灰色、外面は淡茶灰色を呈す。

4は、現存高5.85cm。内面は風化により調整不明。外面は風化が著しいものの八ケ目調整が施されている。口縁部はヨコナデとみられる。胎土は1mm以下の砂粒をごくわずかに含み、焼成はあまい。内面は明るい淡橙灰色、外面は明るい淡茶灰色を呈す。

前10SI055出土遺物 (Fig.10-12、Pl.10-23)

(SI055)

弥生土器 (後期)

壺 (1) 頸部の一部と胴部が残存する破片である。現存高15.4cm。胴部の最上位に断面三角形の突帯を一条貼り付ける。内面は指押さえ後ナデを施す。外面は八ケ目調整を施す。口縁部および突帯部はナデを施すか。胎土は1mm程度を中心に1～3mmの砂粒を含み、焼成はあまい。内外面ともに淡灰茶色を呈す。

(黒色土)

弥生土器 (後期)

甕 (2) 底部から体部の一部にかけて残存する破片である。現存高2.25cm。底部は凸レンズ状を呈す。底部に八ケ目調整が確認されるが、その他の部分は風化により調整不明。胎土は1mm以下の砂粒を含み、焼成はややあまい。内外面ともに淡橙灰色を呈す。

前10SI065出土遺物 (Fig.10-12、Pl.10-24・25・26)

(黒茶色土)

古式土師器

小型丸底壺 (9) 頸部の一部および体部の一部が残存する破片である。現存高3.5cm。破片のため断定できないが、頸部と胴部の境は、径12cm前後に復元されよう。内面において、頸部はヨコナデを施し、胴部はナデなどの器面調整を施しているようである。外面において、頸部は縦方向のミガキが施され、胴部は

ナデなどの器面調整を行った後、肩部に簾状文風の櫛描文が施される。胎土は精良、焼成はあまい。淡灰茶色を呈す。

高坏（10） 口縁部の一部が残存する破片である。現存高3.9cm。皿部中央付近で屈曲している。内面の屈曲部上方はヨコナデ調整後暗文を施し、屈曲部下方は八ケ目調整後ミガキを施す。外面の屈曲部上方はヨコナデ調整後暗文を施し、屈曲部下方は横方向のミガキを施す。胎土は精良で焼成は良好。色調は淡茶灰色を呈す。

弥生土器（後期）

短頸壺（11） 口縁部から胴部の一部が残存する破片である。現存高4.0cm。破片のため断定できないが、口径14～15cm前後に復元されよう。胴部において内面はナデを施し、外面は八ケ目調整後ナデを施す。頸部はヨコナデを施す。胎土は精良で焼成は良好。内面は淡黄茶色、外面は明るい淡橙色を呈す。

複合口縁壺（12） 口縁部の一部が残存する破片である。現存高3.8cm。内面において、屈曲部上方はヨコナデを施し、下方は八ケ目調整を施す。外面はヨコナデを施し、屈曲部には指頭痕がみられる。胎土は1mm程度の砂粒をわずかに含み、焼成は良好。内面は淡灰茶色、外面は淡灰茶～淡橙灰色を呈す。

甕（13・14・15） 13は、底部から胴部の一部が残存する破片である。現存高3.6cm。内面は八ケ目調整を施した後、ナデを施す。外面はナデとみられる平滑な器面調整を行う。胎土は1mm前後の砂粒を含み、3mm程度の小石も散見される。焼成は良好。内外面ともに淡灰茶色を呈す。

14は、口縁部から胴部の一部が残存する破片である。現存高7.1cm。破片のため断定できないが、口径約25cm程度に復元されよう。内面において、口縁部は横方向に八ケ目調整を施し、胴部は指押さえの後、軽くナデを施す。外面において、口縁部はヨコナデを施し、胴部は縦方向に八ケ目調整を施す。胎土は1mm以下の砂粒をわずかに含み、良好である。焼成は良好で、内外面ともに淡灰茶色を呈す。

15は、ほぼ完存する資料である。口径21.3cm、器高30.8cm、底径6.6cm、胴部最大径22.2cm。内外面ともに八ケ目調整を施した後、ナデを施す。内面胴部上方はナデにより八ケ目がかなり見えにくくなっているが、その他の部分では部分的にナデが施されている程度である。胎土は精良で砂粒はほとんど見あたらない。器壁も薄く、作りは丁寧という印象を受ける。焼成は良好で、淡茶灰色を呈し、部分的に暗茶褐色を呈す。

手づくね鉢（16） 口縁部の一部が残存する資料である。推定口径8.8cm、現

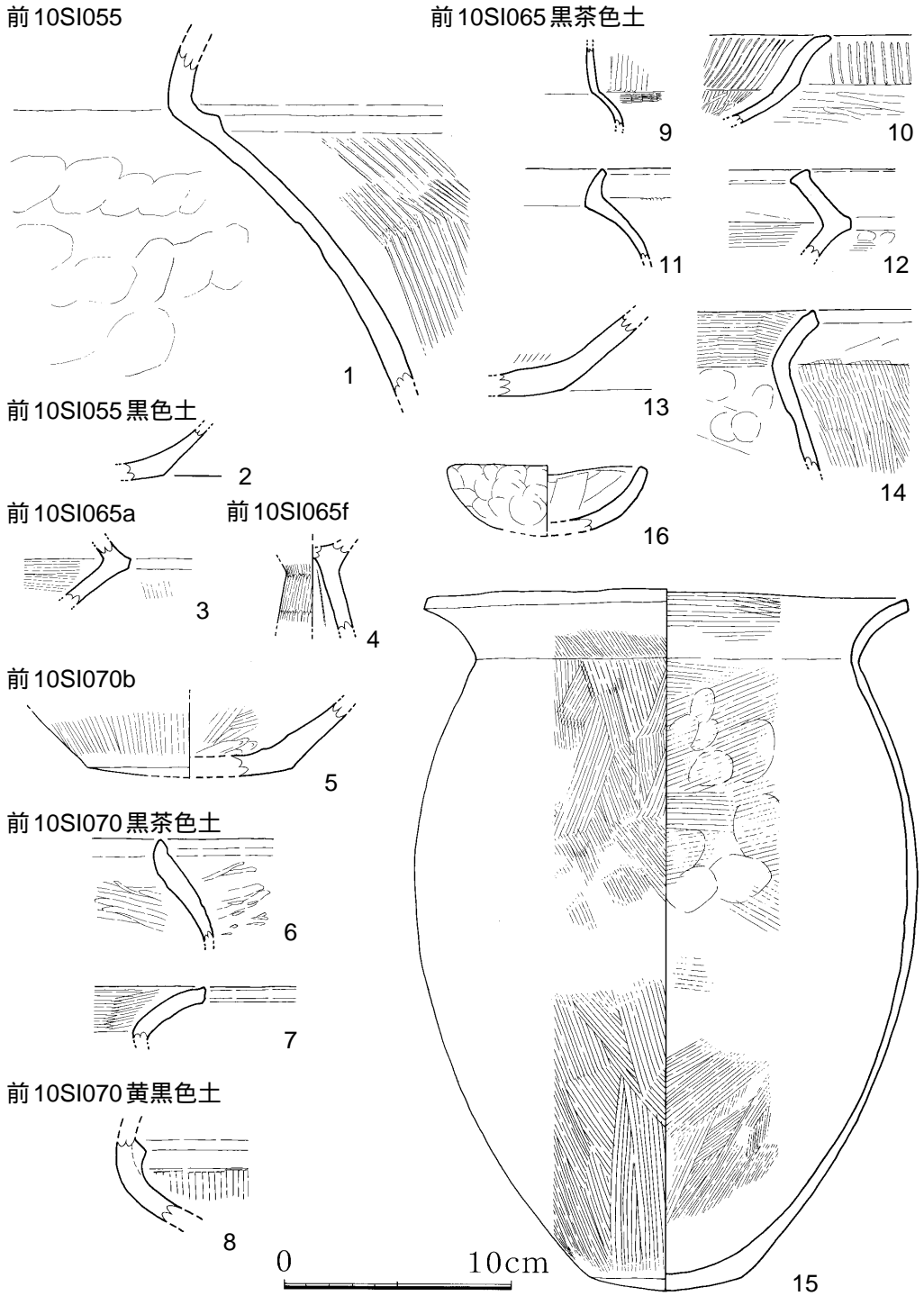


Fig.10-12 前田遺跡第10次調査SI055・SI065・SI070出土遺物実測図

存高2.85cm。内面はナデを施し、外面は指頭痕が残っているものの、比較的平滑な印象を受ける。胎土は1mm以下の砂粒をわずかに含み、焼成は良好。内外面ともに淡灰茶色を呈す。

(SI065a)

弥生土器(後期)

複合口縁壺(3) 口縁部の一部が残存する破片である。現存高2.75cm。内面は横方向の八ケ目調整を行い、外面は縦方向の八ケ目調整を施した後、丁寧にナデを施している。胎土は1mm前後の砂粒を含み、焼成は良好で、くすんだ淡灰茶色を呈す。

(SI065f)

古式土師器

高坏(4) 脚部上部の破片である。現存高3.7cm。皿部内面の調整は不明。脚部内面はしぼり痕の上にナデが施される。外面は縦方向のミガキが施される。胎土は良好でごくわずかに砂粒が含まれる程度である。焼成はややあまく、内外面ともに淡灰茶色を呈す。

前10SI070出土遺物 (Fig.10-12、Pl.10-26・27)

(黒茶色土)

弥生土器(後期)

短頸壺(6) 口縁部から胴部にかけて残存する破片である。現存高4.6cm。口縁部はナデを施し、胴部内面はヘラミガキ、胴部外面は粗いミガキを施す。胴部外面には砂粒が動いている状況が見受けられ、ミガキ以前の調整によるものと考えたい。胎土は1mm前後の砂粒を含み、焼成は良好。外面は暗茶褐色、内面は淡茶灰色を呈す。

甕(7) 口縁部の一部が残存する破片である。現存高2.4cm。口縁端部は沈線状の窪みが見受けられる。内面は横方向の八ケ目調整を施し、外面はナデを施す。胎土は1mm前後の砂粒を含み、焼成はややあまい。内外面ともに淡茶灰色を呈す。

(黄黒色土)

弥生土器(後期)

壺(8) 頸部から胴部にかけて残存する破片である。残存高3.75cm。頸部と胴部の境に断面三角形の突帯を貼り付ける。内面の調整は不明で、外面において、胴部は縦方向の八ケ目調整を施し、突帯部分はヨコナデを施す。胎土は1～

1.5mm程度の砂粒を若干含み、焼成はあまい。内外面ともにくすんだ黄灰色を呈す。

(SI070b)

弥生土器(後期)

甕(5) 胴部の一部から底部の一部にかけて残存する破片である。残存高3.2cm、底径9.0cmに復元される。底部は凸レンズ状を呈す。内外面および底部にハケ目調整を施し、内面底部には強いナデがみられる。胎土は1mm以下の砂粒を含み、焼成は良好。内面は暗茶色、外面は淡橙灰色を呈す。

土坑出土遺物

前10SK025出土遺物

(茶色土)(Fig.10-13、Pl.10-27・28)

須恵器

坏c(1) 底部の一部が残存する破片である。残存高1.4cm。底部と体部の境に断面四角形の高台を貼り付け、四角形の内側で接地する。底部はヘラ切り後ナデを施す。その他の部分は回転ナデを施し、内面底部は回転ナデの後さらにナデを施す。胎土はわずかに0.5mm以下の砂粒を含み、焼成は良好。内外面ともに灰白色を呈す。

弥生土器(前期)

壺(2) 底部の一部が残存する破片である。残存高4.6cm。内面はナデcを施し、外面はミガキを施す。底部付近は指押さえの痕跡がある。底部はナデaとみられる。胎土は1mm前後の砂粒を含み、焼成は良好。内外面ともに淡橙灰色を呈す。

甕(3・4) いずれも口縁部から胴部の一部が残存する破片である。3は、残存高5.5cm。内面はナデcを施し、内面口縁部はナデaを施した後ナデcを施す。外面はナデaを施し、外面口縁部はナデaを施す。刻目は口縁端部中央から下にかけて施される刻目2である。胎土は1mm以下の砂粒をわずかに含み、焼成は良好。内面はくすんだ淡橙灰色、外面は暗茶褐色を呈す。

4は、残存高4.7cm。内面は風化により調整不明。外面はナデaを施す。刻目は口縁端部中央から下にかけて施される刻目2で、刻目の間隔は広い。胎土は1mm～1.5mm前後の砂粒を含み、焼成は良好。内面は淡灰橙色、外面は褐色化しやや明るい暗茶灰色を呈す。

(茶色土下層)(Fig.10-13、Pl.10-28・29)

弥生土器(前期)

壺(5) 胴部下半から底部の一部にかけて残存する破片である。残存高4.9cm、底部7.4cm程度に復元される。内面はナデc、外面はミガキを施す。底部はナデcか。胎土は1mm前後の砂粒を含み、焼成は良好。淡灰茶色を呈す。

甕(6~8) 6・7は口縁部から胴部の一部が、8は底部が残存する破片である。6・7は、残存高5.7~6.6cm。内面はナデcとみられ、外面下半はナデcを施す。口縁部はナデaを施す。刻目は口縁端部中央から下にかけて施される刻目2である。胎土は1mm前後の砂粒を含み、焼成は良好。内面はくすんだ淡橙灰色、外面は褐色化し暗茶褐色を呈す。いずれも外面は褐色化し、6は口縁部内面にま

前10SK025茶色土

前10SK025茶色土下層

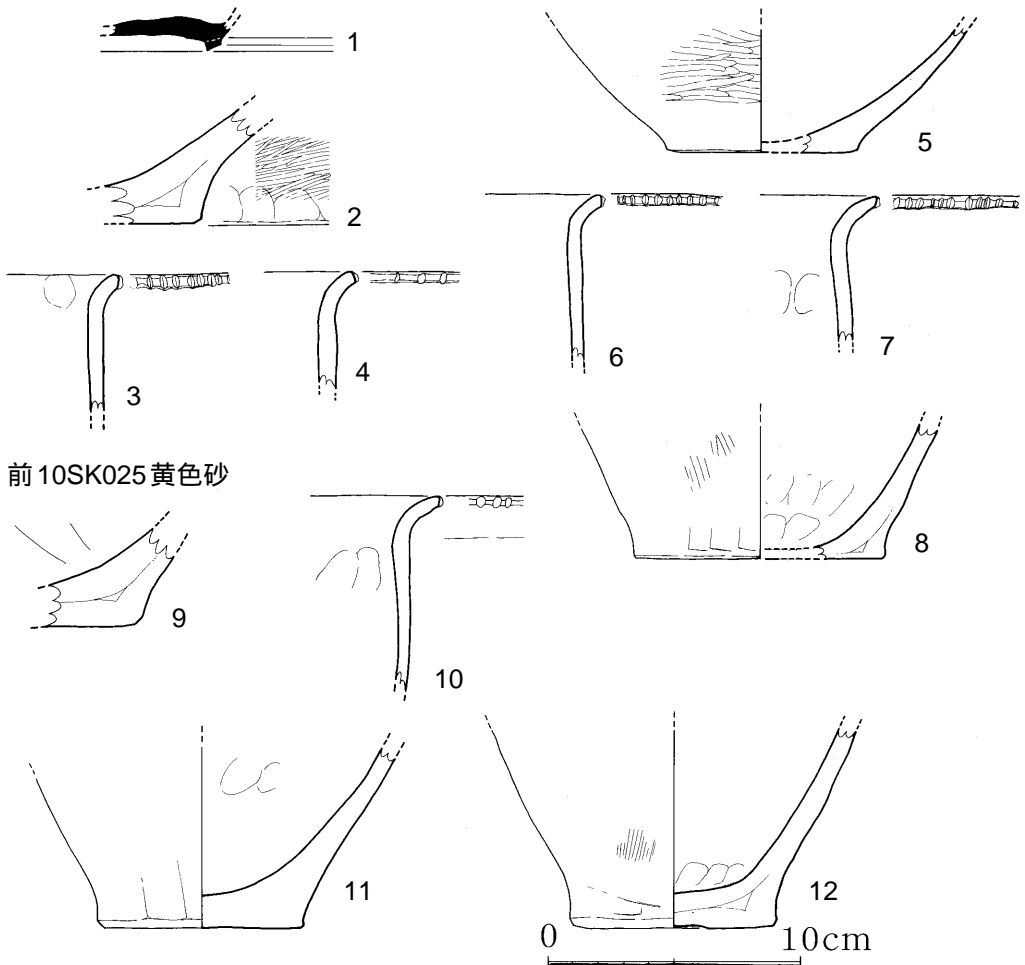


Fig.10-13 前田遺跡第10次調査SK025茶色土・茶色土下層・黄色砂

出土遺物実測図

で褐色化している。また6の外面には煤が付着している。

8は、残存高5.3cm。内面は底部に指押さえを施した後、全面ナデを施す。ナデの種類は不明。外面はナデbの後ナデcを施す。胎土は1mm強の砂粒を多く含み、焼成は良好。内面は褐色化し暗茶褐色、外面は淡橙灰色を呈す。

なお、Pl.10-29およびPl.10-30に掲載したc・d・eは、図化していないものの、いずれもこの層位から出土した弥生前期壺の破片で、肩部にヘラ描き文を施す資料である。

(黄色砂)(Fig.10-13、Pl.10-29・30・31・32)

弥生土器(前期)

壺(9) 底部が残存する破片である。残存高4.0cm。内面はナデaを施し、外面および底部は風化により調整不明。胎土は1mm大の砂粒を含み、焼成は良好。外面底部は淡灰黄色を呈し、その他の部分は暗茶灰色を呈す。

甕(10~12) 10は口縁部から胴部にかけて、11・12は胴部から底部にかけて残存する破片である。10は、残存高7.75cm。胴部内面は指押さえ後ナデcを施し、口縁部および胴部外面は横方向にナデaを施す。刻目は口縁部中央から下にかけて施される刻目2である。胎土は1mm前後の砂粒をわずかに含み、焼成は良好。内面はくすんだ淡橙灰色、外面は褐色化し、暗茶灰色を呈す。

11は、残存高7.2cm、底径8.2cm。内面は指押さえ後ナデcを、外面はナデdを、底部はナデ(ナデcか)を施す。胎土は1mm以下の砂粒をわずかに含み、焼成は良好。内面は褐色化しやや明るい暗茶灰色、外面はくすんだ淡橙灰色を呈す。

12は、残存高7.8cm、底径8.2cmに復元される。内面は風化により調整不明だが、底部には指押さえの痕跡が認められる。外面はナデbの後ナデcを行っており、底部はナデ(ナデcか)を施す。胎土は1mm以下の砂粒をわずかに含み、焼成は良好。内面は褐色化し暗茶灰色、外面はくすんだ淡橙灰色を呈す。

なお、Pl.10-31およびPl.10-32に掲載したf・gは、図化していないものの、いずれもこの層位から出土した焼土塊である。特にfについては、表面とした方に面取りが施されている。

(茶黒色土)(Fig.10-14・15、Pl.10-32・33・34・35・36・37)

弥生土器(前期)

壺(1~4) 1は、口縁部が残存する破片である。口径25.0cmに復元され、残存高は5.0cm。口縁部直下には一条の横方向の沈線が部分的に認められる。内面は横方向のミガキが施され、外面はナデaが施される。胎土は、1~1.5mm程度の砂粒を含み、焼成は良好。内面は淡橙灰色~淡黄灰色を呈し、部分的に淡黒灰

色を呈す。外面は淡赤灰色を呈す。なお、外面には一部に赤色顔料が認められる。風化により器面の磨耗が激しいため詳細は不明だが、赤色顔料は全面に塗布されていた可能性も窺える。

2は、底部が残存する資料である。残存高7.5cm、底径は10.9cm。内面の器面はほとんど剥離し調整不明だが、外面は器面剥離が著しいものの、ナデaとみられる痕跡と底部周辺に指押さえの痕跡が観察される。胎土は1mm前後の砂粒を多く含み、焼成はややあまい。内外面ともに明橙灰色を呈す。

3・4は、底部が残存する破片である。3は残存高5.4cm、4は残存高2.6cm。いずれも内面はナデaを施し、外面はミガキを施し、底部付近ではミガキの後ナデaを施す。底部はナデを施す。胎土は1mm前後の砂粒を含み、焼成は良好。3は内外面ともに明るい淡茶灰色を呈し、4は内面が褐色化し淡茶灰色、外面は明橙灰色および淡黒灰色を呈す。

甕（5～19） 5～14は、口縁部から胴部にかけて残存する破片、15～19は胴部から底部にかけて残存する破片である。5～14は、残存高3.1～17.2cm。口縁端部全体に施される刻目1は7・8・11・12・14に、口縁端部中央から下にかけて施される刻目2は5・10・13に、口縁端部の下角に小さく施される刻目3は6・9に施される。いずれも口縁部の内外にナデa2が施される。内面調整は、8・6については調整がはっきりしないが、9はナデaを、5・7・9・10・11・12・13・14はナデcを施す。外面調整は、6・9・10・11はナデaを、5・12・13はナデbを、7・8・10・14はナデcを施す。胎土はいずれも1mm前後の砂粒を含み、焼成は良好である。内面全体または一部が褐色化しているものは、5・7・8・9・10・14、外面全体または一部が褐色化しているものは5・8・9・10・11、中でも全面褐色化しているものは5・10である。褐色化しているものは淡茶灰色～暗茶褐色を呈し、その他、淡橙灰色～淡黄茶色を呈す。

15は、器底に厚みがあり窄まった形状をしている。残存高5.9cm。内面はナデcが施され、外面は器面剥離が著しいものの、底部付近はナデcを施す。胎土は1mm弱の砂粒をわずかに含み、焼成は良好。淡灰赤色を呈す。

16～19については、器底は15と比較すると薄い形状をしている。残存高3.2～11.2cm。内面調整は18はナデcとみられるが、その他は風化により不明。外面調整は16はナデb、17はナデcか、18・19はナデaとみられる。胎土は1～2mm程度の砂粒を含み、焼成は良好。16は内外面とも淡灰橙色を呈し、17～19については、内面は褐色化しているため淡茶灰色、外面はくすんだ灰橙色～橙灰色を呈す。

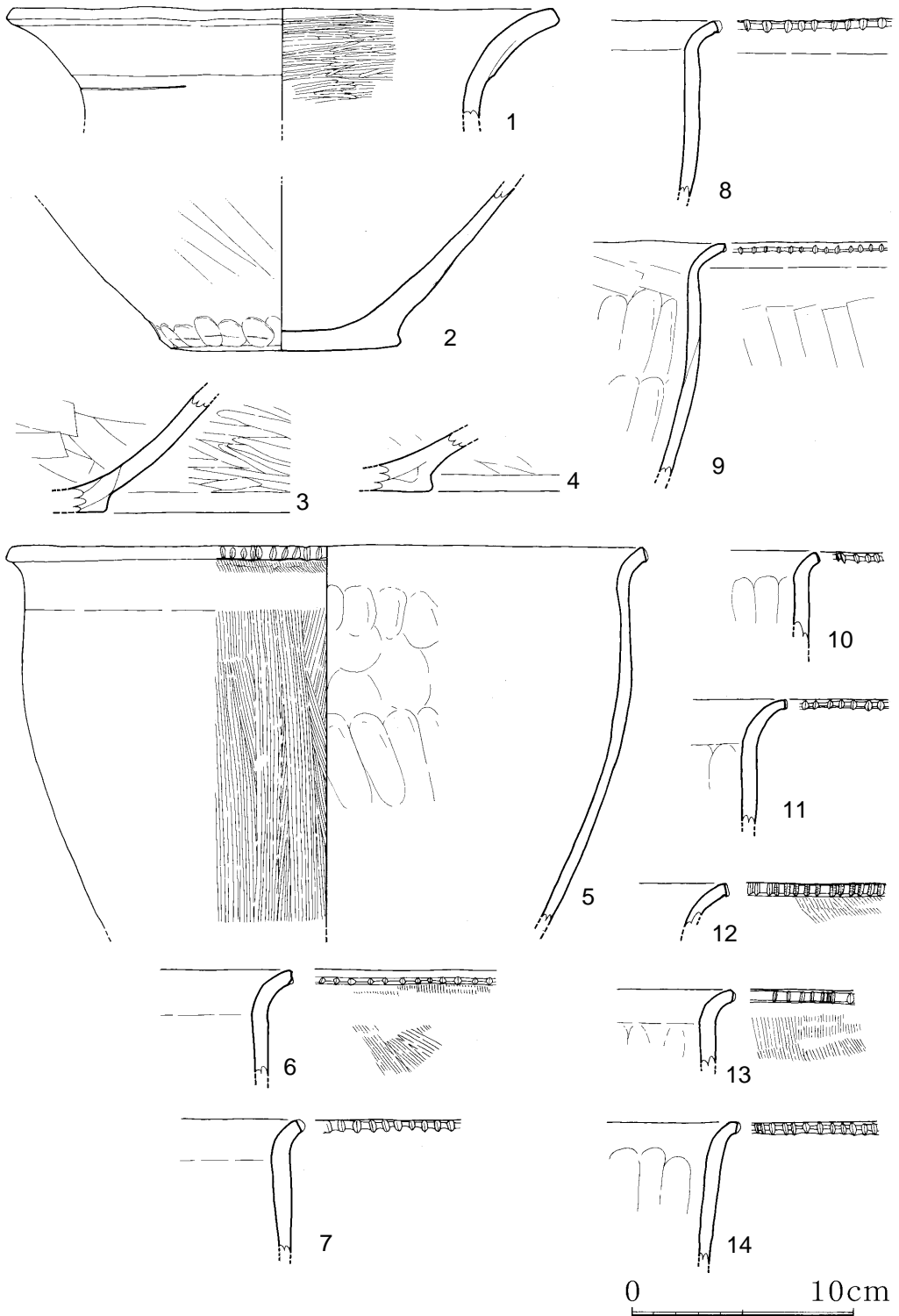


Fig.10-14 前田遺跡第10次調査SK025茶黑色土出土遺物実測図(1)

高坏（20） 脚部上部付近が残存する破片である。残存高6.3cm。脚部の最上部に断面三角形の突帯を一条貼り付ける。皿部内面は風化により調整不明。脚部内面は指によるとみられる器面調整を施し、脚部外面はナデaを施す。胎土は1～2mmの砂粒を多く含み、焼成はややあまい。皿部内面は淡茶灰色、脚部内面は淡赤灰色、外面は淡黄灰～淡橙灰～淡赤灰色を呈す。

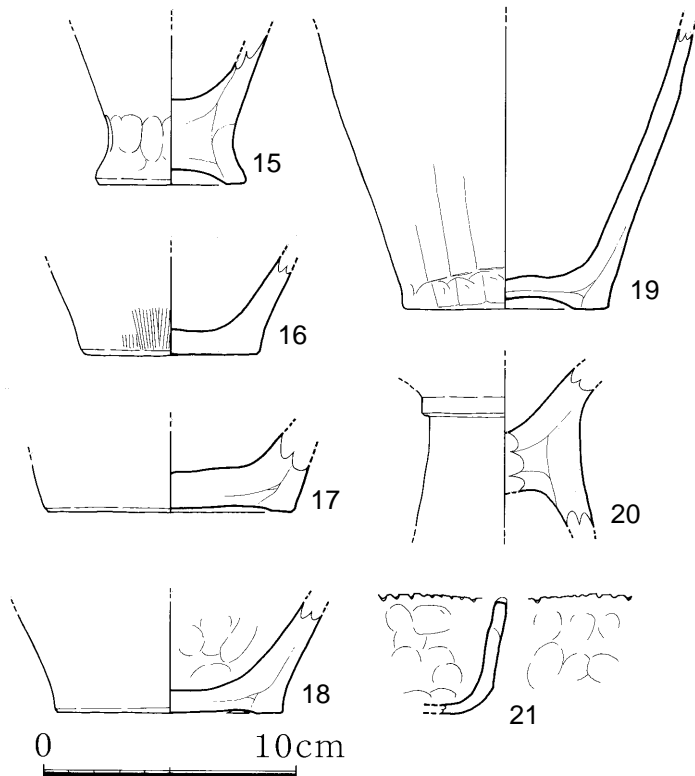


Fig.10-15 前田遺跡第10次調査SK025茶黒色土

出土遺物実測図（2）

手づくね鉢（21）
口縁部～底部にかけて残存する破片である。

高さ4.65cm。手づくねのため口径の復元は難しいが、およそ10cm前後に復元できよう。内外面ともに指押さえを施す。刻目は口縁端部全体に施される刻目1である。胎土は1mm以下の砂粒をわずかに含む程度で、焼成は良好。内外面ともに暗茶灰色で、外面の一部にくすんだ暗赤灰色を呈す部分がある。

なお、Pl.10-36およびPl.10-37に掲載したhは、この層位から出土した弥生前期高坏の口縁部の破片である。図化していないが、赤彩を施している状況も確認できる。また、Pl.10-37に掲載したiは、この層位から出土した焼土塊の一群である。

（暗灰色砂）（Fig.10-16、Pl.10-38・39）

弥生土器（前期）

小壺（1） 頸部から胴部にかけての破片である。残存高3.65cm。頸部と胴部の境には、一条の沈線をめぐらす。内面は風化により調整が不明な部分が多いが、丁寧な器面調整を施しているようである。外面も風化の度合いが著しいものの、胴部にミガキを施しているのが確認される。胎土に砂粒は含まれず、精良だが、

焼成はあまい。内外面ともに淡茶灰色を呈す。
 なお、沈線以下の胴部に赤色顔料にて綾杉文を施す。綾杉文を区切る横方向の罫線が沈線部分も含めて4段ほど確認され、さらに下に続いているようである。

壺(2) 底部の破片である。残存高2.4cm。
 内面はナデcを、外面はナデとみられる器面調整を施す。胎土は1mm前後の砂粒を含み、焼成は良好。内外面とも淡灰茶色を呈す。

甕(3~5) いずれも胴部から底部にかけて残存する破片である。残存高は3.9~5.85cm。3は、内面は風化により調整不明で、外面はナデbを施す。4は、内面はナデaまたはナデcを施し、外面はナデbを施す。5は、内面は風化により調整不明で、外面はナデcを施し、底部には指押さえを施す。いずれも、胎土は1mm程度の砂粒を含み、焼成は良好。3・4は内面が褐色化し淡茶褐色~暗茶褐色を呈し、外面はくすんだ淡橙灰色~淡橙灰色を呈す。5は内面は淡橙灰色、外面は淡黄灰色を呈す。

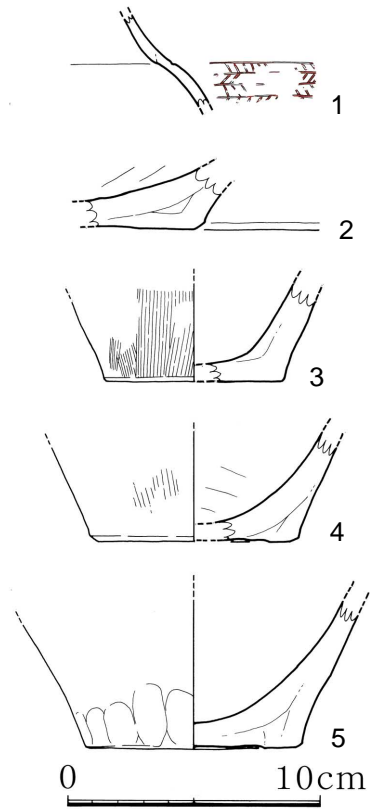


Fig.10-16 前田遺跡第10次調査SK025
 暗灰色砂出土遺物実測図

前10SK045出土遺物 (Fig.10-17、Pl.10-39・40)

(黒黄色土)

弥生土器 (後期)

手づくね鉢(1) 1/4程度残存する破片である。口径7.8cm、器高3.45cm程度に復元される。内面および外面上部はナデとみられる平滑な器面調整を施し、外面下部は指頭痕が残る。胎土は精良で、焼成は良好。内外面ともに淡茶色を呈す。

(黄色粘)

弥生土器 (前期)

甕(2) 口縁部が残存する破片である。現存高4.8cm。内面はナデcを施し、口縁部および外面はナデa2を施す。刻目は口縁端部全体に施される刻目1である。

胎土は1mm前後の砂粒をわずかに含み、焼成は良好。内外面ともに淡茶灰色を呈す。

前10SK056出土遺物 (Fig.10-17、Pl.10-40・41)

(黒灰色土)

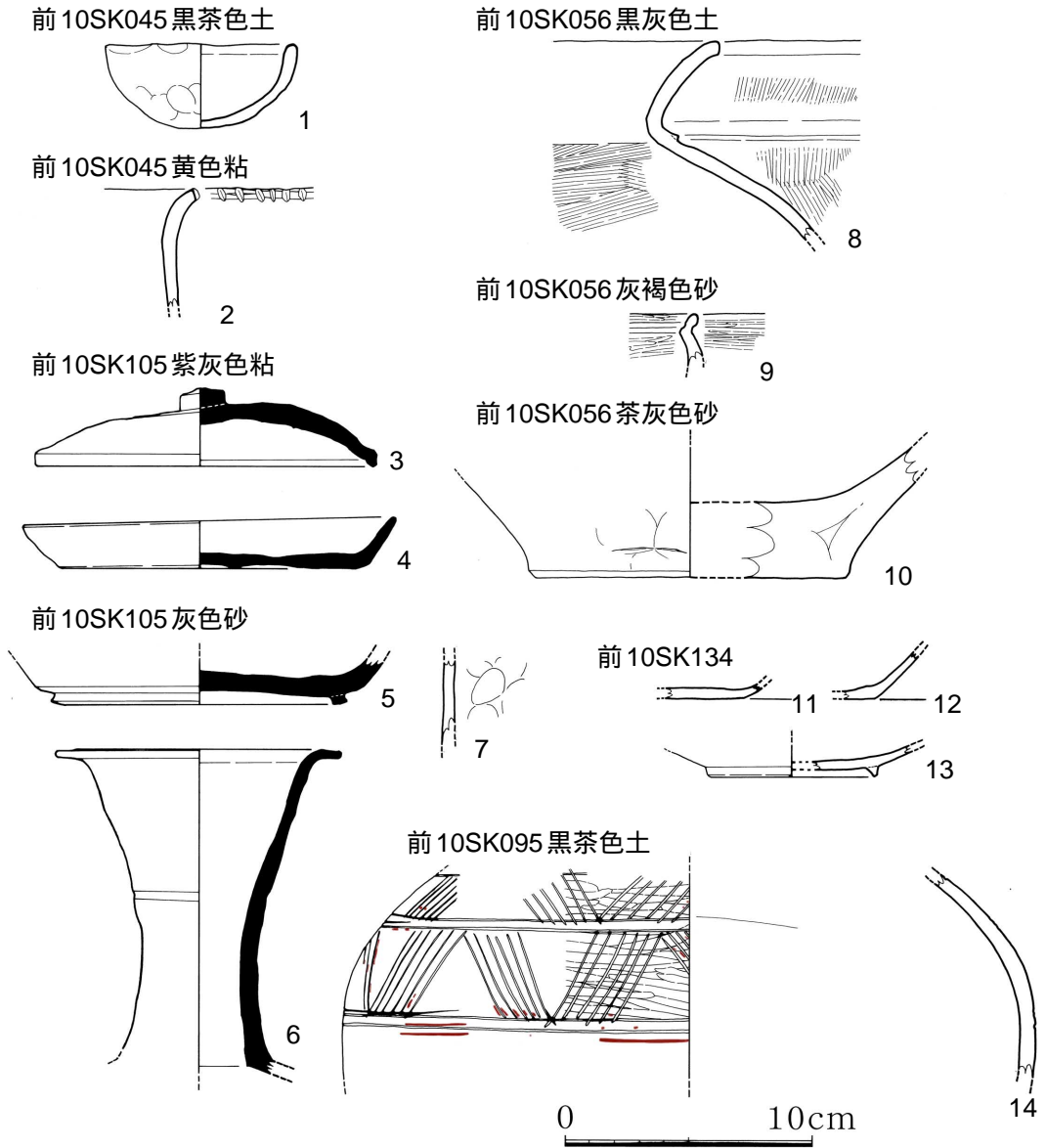


Fig.10-17 前田遺跡第10次調査 SK045・SK056・SK095・SK105・SK134

出土遺物実測図

弥生土器（後期）

壺（8） 口縁部が残存する破片である。現存高8.1cm。口縁部と胴部の境に断面三角形の突帯を一条貼り付ける。内面において、口縁部はナデを施し、胴部は横方向の八ケ目調整を施す。外面において、口縁部は縦方向の八ケ目調整後、口縁端部および突帯部分にナデを施す。胴部は縦方向の八ケ目調整を施す。胎土は1mm前後の砂粒を含み、焼成はややあまい。内外面ともに淡茶色を呈す。

（灰褐色砂）

縄文土器（晩期）

浅鉢（9） 口縁部が残存する破片である。現存高2.25cm。口縁端部が外方に向かってくの字に折れ曲がっており、口縁部内面屈曲部の上部に沈線がめぐるとみられる。内外面とも横方向にミガキを施す。胎土は精良で、焼成は良好。内面は暗茶褐色、外面は暗茶灰色を呈す。

（茶灰色砂）

弥生土器（前期）

壺（10） 底部が残存する破片である。現存高5.3cm、底径13.0cmに復元される。内面は風化により調整不明。外面は全体的にナデcを施し、外面下部にはナデaが確認される。底部はナデとみられる平滑な器面調整を施す。胎土は1mm前後の砂粒を含み、焼成は良好。内外面ともに淡黄灰色～淡灰色を呈す。

前10SK075出土遺物（[Fig.10-18](#)、[Pl.10-46](#)）

（黒色土）

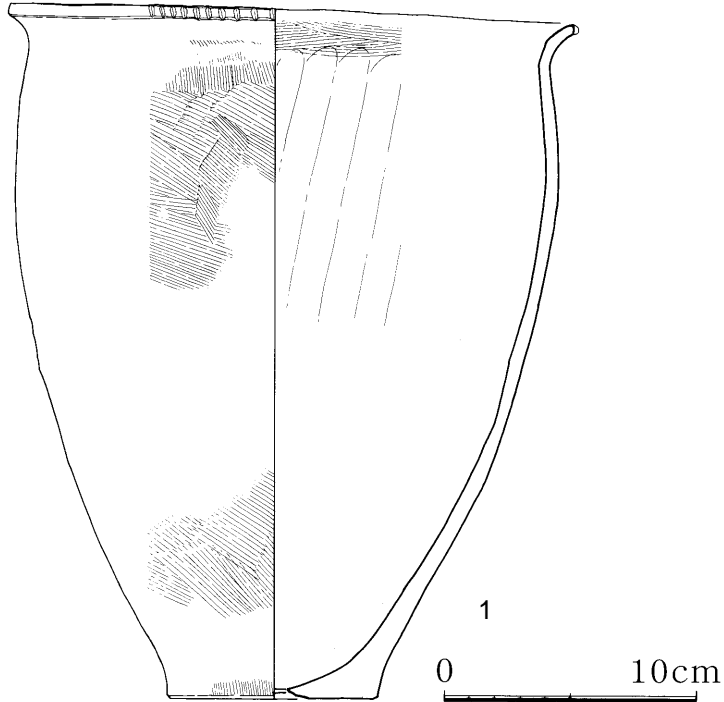
弥生土器（前期）

甕（1） ほぼ完存する。口径22.55cm、器高27.5cm、底径8.4cm。内面においては、胴部はナデcを施し、口縁部は横方向のナデb2を施す。外面においては、胴部はナデbを施し、口縁部はナデa2を施す。刻目は口縁端部全体に施される刻目1である。胎土は1mm前後の砂粒を含み、焼成は良好。内外面ともに基本的に淡茶灰色を呈すが、内面の下半および外面の上半は褐色化し、外面下半は赤色化している。特に外面中央部以下は器面剥離が著しい。なお、底部中央には内側から打ち貫いた穿孔がある。

（黒茶色土）

弥生土器（前期）

壺(2) 頸部から胴部上半が残存する。残存高19.6cm。胴部最大径は45.0cm
前10SK075黒色土



前10SK075黒茶色土

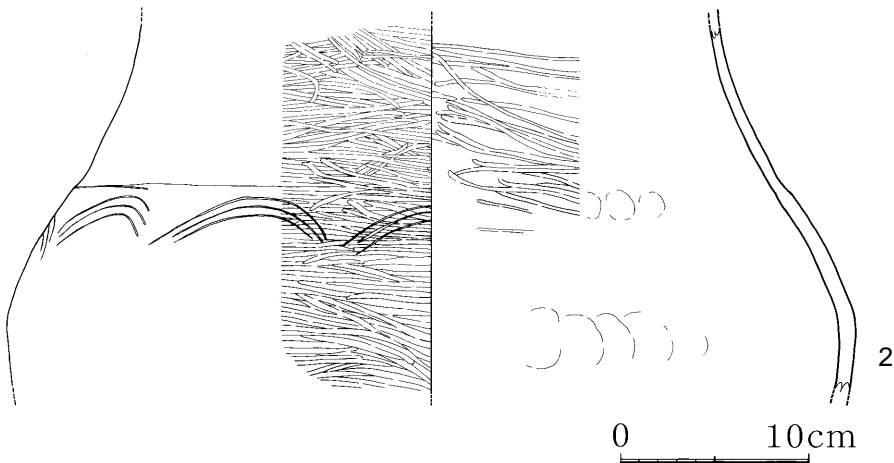


Fig.10-18 前田遺跡第10次調査SK075出土遺物実測図

程度に復元される。頸部と胴部の境は、段を有す部分と段と沈線とを有す部分が

あり、部位によってバリエーションがある。また、肩部に三重の円弧文を焼成前にヘラ描きしている。調整は内面において、頸部は指押さえの後、ナデcを施し、最後にミガキをまばらに施す。胴部はナデcのみ施す。外面は全面にミガキを施す。胎土は1～1.5mm程度の砂粒を含み、焼成は良好。内外面ともにくすんだ淡橙灰色～淡黄灰色を呈す。

前10SK095出土遺物 (Fig.10-17、Pl.10-45)

(黒茶色土)

弥生土器 (前期)

壺 (14) 胴部上半が残存する。残存高8.35cm。胴部最大径は28.0cm程度に還元される。肩部から胴部最大径付近にかけて焼成前のヘラ描きが施される。ヘラ描きは横方向の2条の平行な罫線で区切った中を、6条の平行線を一つの単位として八の字型に互い違いに配置することで、空白部分を三角形に表現している。さらにその後、ヘラ描きに沿って赤色顔料にて罫線を施す。調整については、内面はナデaを施した後、ナデcを施す。外面はミガキを施した後、上記のヘラ描きを施す。胎土は1mm以下の砂粒を含み、焼成は良好。内面は暗茶灰色、外面は暗茶色を呈す。なお、Pl.10-45掲載のjは当遺物と大変類似しており、同一個体と考えられるが、接合条件をみたしていないため、参考資料として提示している。

前10SK105出土遺物 (Fig.10-17、Pl.10-42・43)

(紫灰色粘)

須恵器

蓋 c3 (3) 完形である。口径13.8cm、器高3.15cm、天井径7.4cm。天井部をヘラ切り後、全面に回転ナデを施す。内面は回転ナデの後、ナデを施す。口縁部は断面三角形を呈すが、シャープではない。胎土は細かい砂粒を含む程度で精良で、還元状況も良好。内外面ともに灰色を呈す。なお、内面には重ね焼きの痕跡が認められる。

皿 a (4) 完形である。口径15.1cm、器高1.95cm、底径12.6cm。底部はヘラ切り後、手持ちで回転させながらナデを施す。その他の部分は回転ナデとみられる。胎土はわずかに砂粒を含む程度で良好。焼成はあまい。内外面ともに灰白色を呈す。

(灰色砂)

須恵器

坏c(5) 底部が残存する破片である。残存高1.9cm、底径12.0cmに復元される。断面四角形の高台を有し、やや踏ん張った印象を受ける。底部はヘラ切り後、軽く回転ナデを施し、その他の部分は回転ナデを施す。内面底部はナデを施す。胎土はわずかに砂粒を含み、焼成は良好である。表面のみ酸化したようで、断面は灰色を呈すが、表面は内外面ともに淡灰橙色を呈す。丁寧な作り方をしているという印象を受ける。

壺b(6) いわゆる長頸壺で、頸部のみ残存している。口径11.55cm、残存高13.1cm。頸部中央に一条の沈線を有す。沈線を中央に配するように粘土貼り付けの痕跡が認められる。調整は内外面とも回転ナデを施す。胎土はごくわずかに砂粒を含むが良好で、焼成・還元とも良好である。内外面ともに灰色を呈し、外面の半分が灰赤色を呈す。

製塩土器

片(7) ごく一部が残存する破片である。残存高3.6cm。内外面ともに風化が著しく調整は不明だが、外面に指頭痕が確認できる。胎土は砂粒を含み、焼成はあまい。内面は淡橙灰色、外面は淡茶白色を呈す。

前10SK134出土遺物 (Fig.10-17、Pl.10-44)

土師器

坏a(11・12) いずれも底部が残存する破片である。11は、残存高0.7cm。ヘラ切り後、全面に回転ナデを施すようである。12は、残存高1.95cm。底部切り離しは細片のため断定できないが、今のところ糸切りと考えている。いずれも胎土は良好で、焼成はあまい。淡灰橙色～淡橙灰色を呈す。

皿c(13) 底部が残存する破片である。残存高1.3cm、底径7.0cmに復元される。内外面とも風化が著しく、調整不明。胎土はわずかに砂粒を含むものの、概ね精良。焼成はあまく、内外面ともに白茶色を呈す。一見緑釉陶器などに考えられるが、表面に釉が残存していないなど断定できる材料にとぼしいため、土師器として報告した。

その他の遺構出土遺物

前10SX004出土遺物 (Fig.10-19、Pl.10-46)

弥生土器(前期)

鉢(1) 口縁部をのぞき、ほぼ完形である。残存高14.15cm、底径8.7cmに復元される。底部は平底で、外周のやや内側に強めのナデを施して、一見高台状に

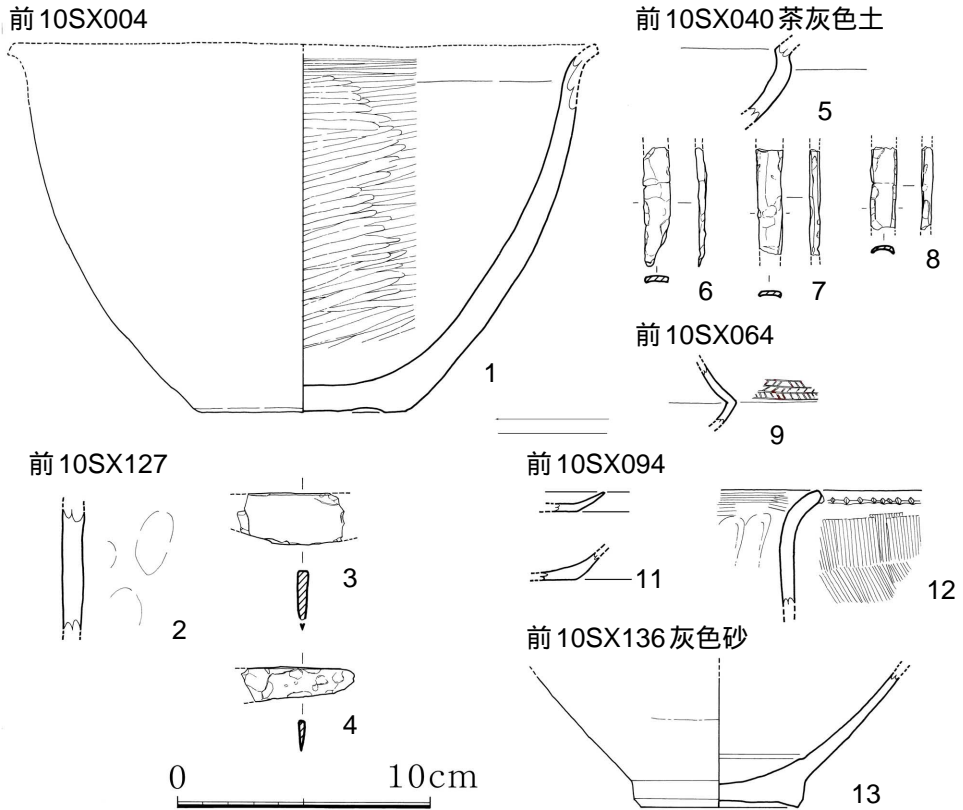


Fig.10-19 前田遺跡第10次調査SX004・SX040・SX064
・SX094・SX127・SX136出土遺物実測図

している。口縁はやや外反する口縁を有するとみられる。内面はナデaを施した後、ミガキを施す。外面は器面剥離が激しいもののナデaを施しているのが部分的に観察される。胎土は1mm程度の白砂を全体に多く含み、焼成は良好。内面は暗茶灰色、外面は暗橙灰色を呈す。

前10SX040出土遺物（Fig.10-19、PI.10-47・48）

縄文土器（晩期）

浅鉢（5） 体部が残存する破片である。残存高3.1cm。口縁部が外方に向かってくの字に折れ曲がっている。内外面ともにミガキを施しているとみられ、平滑な器面を呈す。外面の口縁部と体部の屈曲部には強い横方向のナデを施す。胎土は0.5mm以下の細砂粒を含んでいるが精良であり、焼成は良好である。内外面ともに黒褐色を呈し、灰茶色が部分的に散見される。

金属製品

ヤリガンナ(6~8) 鉄製。いずれもU字状の断面形を有す。6は、現存長4.6cm、幅1.0cm、厚さ0.3cm。7は、現存長4.2cm、幅1.1cm、厚さ0.3cm。8は、現存長3.3cm、幅1.0cm、厚さ0.4cm。6の下端は窄まっている。

前10SX064出土遺物 (Fig.10-19、Pl.10-49)

弥生土器(前期)

小壺(9) 胴部が残存する破片である。残存高2.45cm。胴部中央付近でくの字に屈曲しており、屈曲部のすぐ上に焼成前に施したヘラ描き綾杉文を有す。綾杉文を区切る横方向の罫線は3条ある。ヘラ描きの溝の中には赤色顔料が部分的に残存しており、外面全面に赤色顔料を塗布していた可能性がある。調整は、内面はナデを施し、外面は平滑な器面調整を施す。胎土は精良で、焼成はややあまいようである。内外面ともに明るい淡茶灰色を呈す。

前10SX094出土遺物 (Fig.10-19、Pl.10-50)

土師器

小皿a(10) 口縁部から底部にかけて残存する破片である。残存高0.8cm。口径は不明。底部糸切りとみられ、その後内外面ともに回転ナデを施す。胎土は良好で、焼成も良好。淡橙色を呈す。

坏a(11) 底部の一部が残存する破片である。残存高1.1cm。底部糸切り後、内外面ともに回転ナデを呈し、内面底部にはその後ナデを施す。胎土は良好で、焼成も良好。淡灰茶色を呈す。

弥生土器(前期)(Pl.10-50)

甕(12) 口縁部から胴部の一部が残存する破片である。残存高4.6cm。内面においては、胴部はナデcを施し、口縁部はナデb2を施す。外面においては、胴部はナデbを施し、口縁部はナデa2を施す。刻目は口縁端部の下角に小さく施される刻目3である。胎土は1mm以下の砂粒を含み、焼成は良好。内面は茶灰色を呈す。

前10SX127出土遺物 (Fig.10-19、Pl.10-51・52)

製塩土器

片(2) ごく一部が残存する破片である。残存高4.85cm。内外面ともに風化が著しく調整は不明だが、外面に指頭痕が確認できる。胎土は1mm以下の砂粒を含み、一部に3~5mm程度の小石も散見される。焼成はあまい。内面は橙灰色、

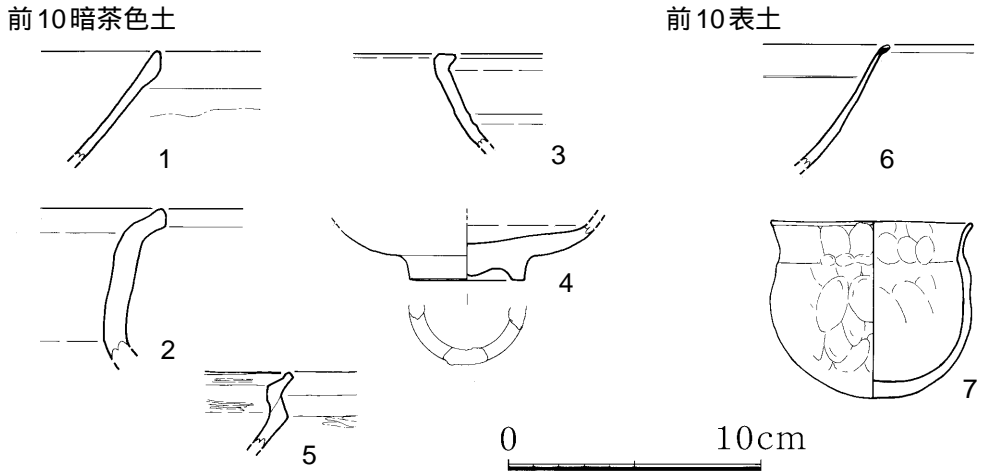


Fig.10-20 前田遺跡第10次調査暗茶色土・表土出土遺物実測図

外面は淡黄橙色を呈す。

金属製品

刀子(3・4) 鉄製。3は、刃部とみられる。現存長4.25cm、幅2.05cm、最大厚0.5cm。4は、柄部とみられる。現存長4.5cm、幅1.4cm、厚さ0.35cm。

前10SX136出土遺物 (Fig.10-19、Pl.10-52・53)

白磁

椀(13) IV-1a類。体部から底部が残存する破片である。残存高5.2cm。

前10暗茶色土出土遺物 (Fig.10-20、Pl.10-53・54)

白磁

椀(1) IV類。口縁部の一部が残存する破片である。釉調はくすんだ淡灰緑色に発色する。残存高4.35cm。

国産陶器

壺(2) 口縁部の一部が残存する破片である。残存高6.05cm。回転ナデ後、全面に薄く釉がかかっている。口縁部上部に灰黒色の釉がはねて1mm前後の粒状の塊となっており、その他の釉は淡茶灰色を呈す。胎土はごくわずかに砂粒状のものをふくみ、その他黒粒を含むものの灰白色を呈す。焼成は良好。口縁端部がわずかに跳ね上がっているなどを踏まえると灰釉陶器の可能性がないわけではないが、今のところ瀬戸産または常滑産と考える。。13世紀初頭頃のものか。

中国陶器

四耳壺Ⅴ×水注Ⅳ(3) 口縁部の一部が残存する破片である。残存高3.7cm。回転ナデ後、全面に薄く施釉する。釉調は内面は灰茶色、外面は暗緑灰色。釉の飛沫とみられる黒色の粒子状のものが特に内面においてみられる。胎土は暗灰白色を呈し、精良である。なお、器種については、四耳壺の可能性が高いと考えている。

雑釉陶器

椀(4) 底部の一部が残存する破片である。残存高2.15cm、高台径4.6cm。高台部内側はケズりくり込みして中心が隆起している。胎土は、精良で磁器化し灰白色を呈しているが、0.3mm以下の微細な孔が全面にわたって観察される。釉は、緑がかった透明な釉が全面に施されており、内面の方が若干厚くかかっている。内面底部には釉溜まりとみられる粒状の塊が多く散見される。高台部には目跡が3箇所確認され、目跡が均等に配置されたと仮定すると4箇所存在したことになる。

縄文土器(晩期)

浅鉢(5) 口縁部が残存する破片である。現存高2.25cm。口縁端部が外方に向かってくの字に折れ曲がっており、内面の口縁端部にわずかな段を有し、つまみ上げた印象を受ける。内外面とも横方向にミガキを施す。胎土は0.5mm以下の砂粒を含み、焼成は良好。内外面ともに暗茶黒色を呈す。

前10表土出土遺物 (Fig.10-20、Pl.10-53・54)

白磁

椀(6) 口縁から体部にかけて残存する破片である。Ⅴ-4×Ⅷ-3類。口縁が水平に整形されているのが特徴である。胎土は精良で白灰色を呈すが、微細な黒粒も含んでいる。釉調は透明。

弥生土器(後期)

手づくね鉢(7) ほぼ完存する。口径8.0cm、器高7.0cm。球形の胴部にほぼ垂直に立ち上がる口縁部がとりつく。胴部内面は指押さえの後ナデを施しており、その他の部分は指押さえによる整形を行っている。胎土は1mm前後の砂粒を多く含み、焼成はややあまい。内外面とも淡灰茶色を呈す。

石製品

竪穴住居出土石製品

前10SI055出土石製品 (Fig.10-21、PI.10-55)

鏃(1) 基部が抉入りの無茎鏃である。黒曜石製。長さ1.6cm、幅1.34cm、厚さ0.38cm。黒色土出土。

前10SI065出土石製品 (Fig.10-21、PI.10-55)

鏃(2) 基部が抉入りの無茎鏃である。黒曜石製。長さ1.85cm、幅1.35cm、厚さ0.4cm。本遺物はS-60黒茶色土出土であるが、S-60はSI065と同一遺構とみなしているため、ここで報告を行っている。

前10SI070出土石製品 (Fig.10-22、PI.10-57)

砥石(1~3) 粘板岩製。1は、現存12.6cm、幅4.85cm、最大厚2.25cm。2

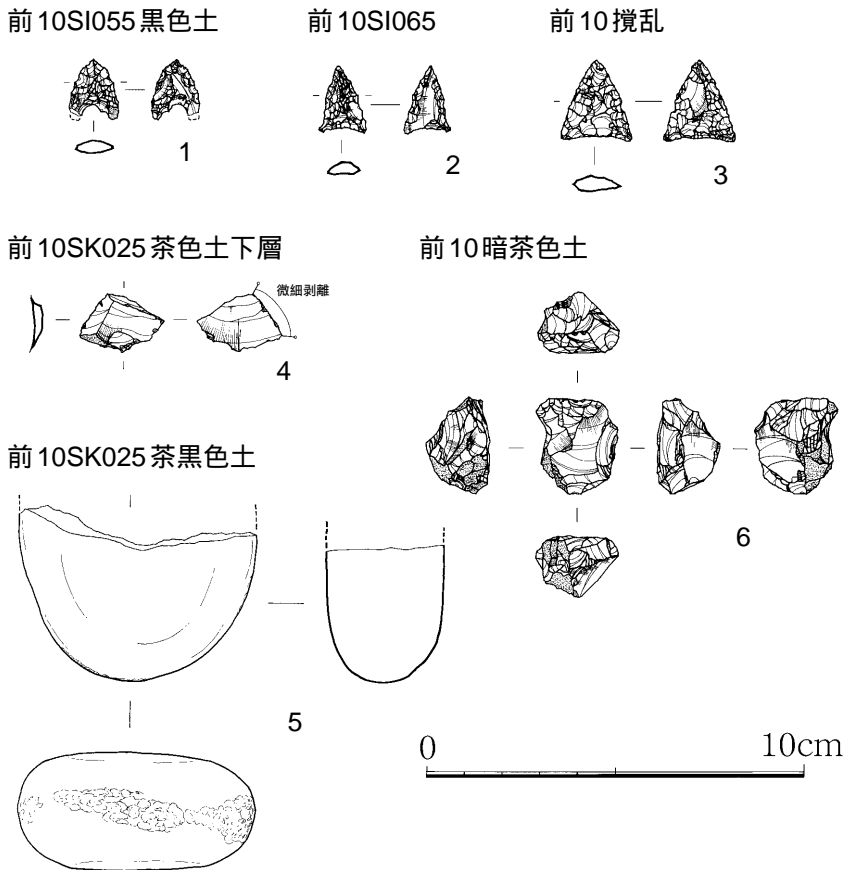


Fig.10-21 前田遺跡第10次調査出土石器実測図(1)

は、現存長8.0cm、現存幅3.9cm、最大厚4.0cm。3は現存長5.6cm、現存幅4.6cm、現存厚4.8cm。いずれも片理に沿って板状に割れている。一応砥石とはしているものの、研磨はさほど行われていないようである。いずれも黒茶色土層出土。

浮子(4) 軽石製。長さ5.85cm、幅4.1cm、厚さ3.3cm。茶色土出土。なお器種をここでは浮子としたものの、その他の用途があった可能性もある。

前10SI070h出土石製品 (Fig.10-22、PI.10-57)

砥石(5) 粘板岩製。現存長8.95cm、現存幅5.3cm、現存厚3.1cm。片理に沿って欠損している。平坦な面を研ぎ面としているのが2ヶ所、回転して研磨した痕跡が8ヶ所以上確認される。

土坑出土石製品

前10SK025出土石製品 (Fig.10-21、PI.10-55・56)

剥片 (used flake) (4) 微細剥離など使用痕のある剥片である。黒曜石製。長さ1.55cm、幅2.28cm、厚さ0.3cm。

磨石×叩石(5) 緑泥片岩製。現存長4.7cm、幅6.3cm、厚さ3.15cm。表面はよく研磨されているが、周囲に、表面が荒れた部分がめぐっており、ここで叩いたことがわかる。何に使用したかは不明だが、磨き具として利用された可能性も考えられる。茶黒色土層出土。

前10SK075出土石製品 (Fig.10-22、PI.10-57・58)

石匙(6) 安山岩製。現存長6.7cm、幅3.75cm、厚さ1.1cm。整形以前の段階に薄片をとった痕跡がよく残っている。

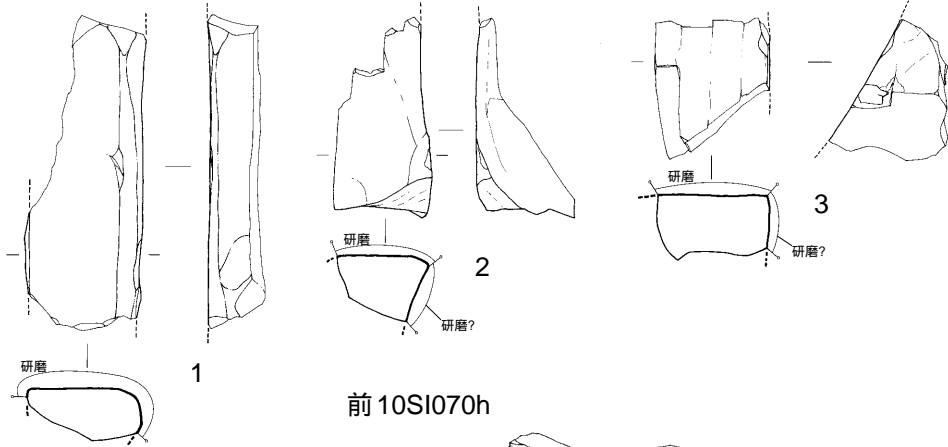
その他の遺構出土石製品

前10SX110出土遺物 (Fig.10-22、PI.10-57・58)

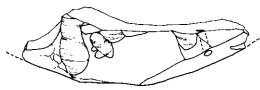
鍬(7) 結晶片岩製。現存長7.4cm、幅3.2cm、厚さ1.1cm。

前10暗茶色土出土石製品 (Fig.10-21、PI.10-57・58)

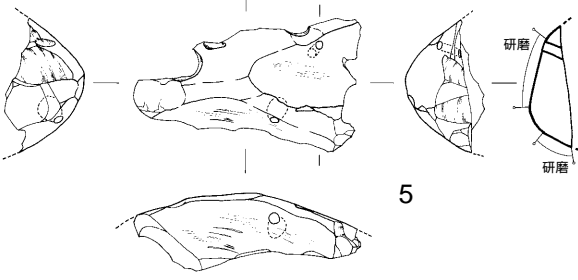
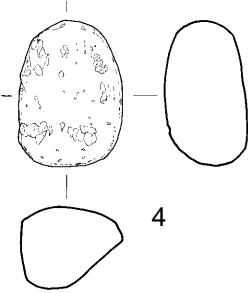
前10SI070 黒茶色土



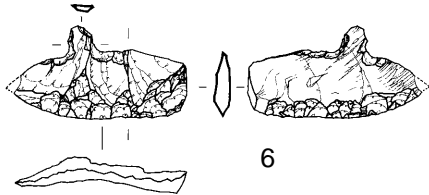
前10SI070h



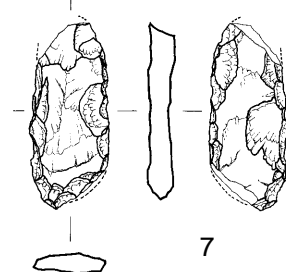
前10SI070 茶色土



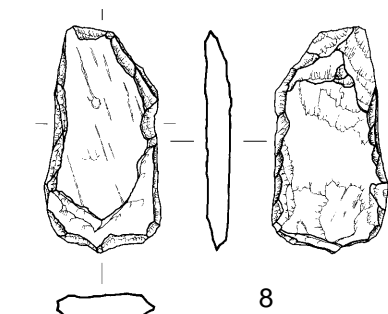
前10SK075 黒茶色土



前10SX110



前10表土



0 10cm

Fig.10-22 前田遺跡第10次調査出土石器実測図(2)

石核(6) 黒曜石。現存長2.55cm、現存幅2.2cm、現存厚1.7cm。

前10表土出土石製品 (Fig.10-22、Pl.10-57・58)

鍬(8) 頁岩製。長さ9.0cm、幅4.5cm、厚さ1.05cm。

前10攪乱出土石製品 (Fig.10-21、Pl.10-55)

鍬(3) 基部が平らな無茎鍬である。黒曜石製。長さ2.2cm、幅1.9cm、厚さ0.45cm。

5) まとめ

本調査は調査範囲が狭く出土遺物も破片資料が多いため、各遺構の性格づけを行うことは難しいこともあるが、一応、主要遺構の所見をまとめることとする。なお、本調査西隣の調査報告書『佐野地区遺跡群VIII～前田遺跡第7次調査～』(太宰府市教育委員会 1998)もあわせて参照していただきたい。

溝

前10SD001

これまでの前田遺跡の調査において、水城西門をとる官道の西側溝に比定される遺構である。出土遺物は破片資料が多いが奈良時代後半頃のものである。本稿においては図化可能な最上層の黒色土出土遺物のみ掲載しているが、出土傾向は基本的に大きな差はないようである。本調査区は狭範囲のため、状況報告を行うのみであり、詳細については周辺既調査区の整理報告に委ねる。

なお、完掘時に鋤痕跡が底面に多数残存している様子が確認できた。このため痕跡の土層観察を行い、また実際にスコップを使用して土を掘り土層観察を行った結果、いずれも同じような土層断面を呈していることが確認された。

また土層観察より溝の東側(官道の路面側)にテラス状の段を有することを確認された。鋤痕跡もテラス部分にて確認している。テラス状の段の存在は、今後本調査区周辺の官道の形態を考える上で参考となろう。

前10SD005および前10SD035

本遺構は前田遺跡第1次調査の成果から、前10SD035とを併せて方形にめぐっているようであり、方形周溝等に推測される。

本調査区内ではいずれの遺構も遺物出土量が少ないため、時期決定は難しいが、前10SD005下層出土遺物から推して弥生時代後期と考える。詳しくは前田遺跡第1次調査の整理報告によるところが多いが、今後本報告とあわせて検討する必要がある。

前10SD015

遺構の項でも述べたように、溝の本体は淡茶色土埋土の部分とみられるが、この層位からは弥生時代後期とみられる破片資料が出土しているのみであり、参考として黒色土出土の弥生土器甕を報告している。なお本遺構のつづきが東の前田遺跡第1次調査区でも検出されており、今後両者をあわせて検討する必要がある。

前10SD085

本遺構は本調査区の東西の前田遺跡4・7次調査区でもつづきが検出されている。前田遺跡第7次調査の調査報告によると、第7次調査区では奈良時代中頃から後半の遺物が出土していることが報告されているが、本調査区では検出範囲は狭いものの、奈良時代の遺物の他、白磁椀片（Ⅳ×Ⅴ類）が出土している。この周辺には12世紀前後の遺物を含む遺構が多いため、混入の可能性も比定できないが、時期が下る可能性もでてきた。この結論は第4次調査の整理報告に委ねたい。

前10SD100

これまでの前田遺跡の調査において、水城西門をとる官道の東側溝に比定される遺構である。今回は官道が機能したとされる奈良時代を中心とした時期の遺物は出土をみなかった。かわりに平安時代前期頃のものともみられる土師器坏片が出土していることは注目すべきである。これは、破片資料のため断定できないものの大宰府における坏aの編年に当てはめると、Ⅵb～ⅧⅢ期（9世紀頃）に比定されるものである。本調査区では見つからないが、この頃の墳墓も周辺調査区において検出されており、混入した可能性もないわけではないが、今のところこの時期まで溝が機能していたことを示すものとする。

竪穴住居

前10SI020

本遺構の東側は、前田遺跡第1次調査において調査されており、本遺構の全体面積からみると約1/8程度の報告となった。詳細は第1次調査の整理報告により明らかになるが、本調査区では埋土（黒茶色土）および貼床（茶褐色土）より弥生時代後期の遺物が出土している。

前10SI030

なお本遺構の東側は、前田遺跡第1次調査において調査されており、本遺構の全面積からみると、ごく一部の報告となった。詳細は第1次調査の整理報告により明らかになるが、本調査区では弥生時代後期のものとみられる遺物が出土している。

前10SI055

前田遺跡第7次調査にて本遺構の続きが検出されている（前7SI115、弥生後期前半～中頃）。第7次調査同様貼床は検出されていない。本調査区でも量は少ないものの弥生時代後期の遺物を検出している。なお床面下において複数の小穴・土坑を検出し、調査時には本遺構に伴うものと考えていたが、現在では別遺構と考えている。

前10SI065

本調査区内でほぼ完結する竪穴住居である。出土遺物は弥生時代後期の遺物が多いものの、埋土や貼床下の小穴（前10SI065f）から古墳時代前期の遺物が出土している。

前10SI070

前田遺跡第7次調査にて本遺構の続きが検出されている（前7SI160、弥生時代後期中頃以降）。第7次調査と異なる所見として貼床の検出がある。なお今回の調査でも細片が多いものの、弥生時代後期頃の土器片等を出土している。

土坑

前10SK025

出土遺物およびその形態から弥生時代前期の貯蔵穴と考える。遺物量も多いことが特筆される。この中に焼土塊や磨石とみられるものが検出されており注目される。ただし土器焼成に伴うものかどうか断定できない。なお、最上層の茶色土には須恵器坏cが含まれている。これは別遺構が存在したか、茶色土層自体が奈良時代の遺物を含む後世の堆積層で本遺構埋土とともに沈み込んだものかのいずれかと考える。

前10SK045

出土遺物およびその形態から弥生時代前期の貯蔵穴と考える。これに切り込む前10SX040から縄文時代晩期の浅鉢が出土しており、本遺構に関連する可能性もある。なお、最上層の黒茶色土から出土した手づくね鉢は弥生時代後期頃のものと考えられ、最上層は新しい遺物の混入が考えられる。

前10SK056

出土遺物およびその形態から弥生時代前期の貯蔵穴と考える。灰褐色砂には縄文時代晩期の浅鉢も検出されている。なお、最上層に弥生時代後期の遺物が混入するが、これは、本遺構の沈み込みにより、上面の竪穴住居（前10SI055・前10SI065）内の埋土が上層部にふくまれたことによると考える。いずれの遺構に帰属するかは現時点では不明である。

前10SK075

出土遺物およびその形態から弥生時代前期の貯蔵穴と考える。周辺の地盤は脆く開口している時に南側が地崩れをおこしたとみられる。黒茶色土から出土した壺（Fig.10-18-2）は床面より割れた状態で出土している。なお、これに切り込む前10SX094から弥生時代前期の甕片が出土しており、元来本遺構に伴う遺物と考える。

前10SK090

その形態から弥生時代前期の貯蔵穴と考える。南側は開口している時に地崩れをおこして崩壊した形跡があり、遺物も検出されていないことから、掘削した後はほとんど使用されずに廃絶したと考える。

前 10SK095

出土遺物およびその形態から弥生時代前期の貯蔵穴と考える。これに切り込む前 10SX064 から弥生時代前期の小壺片が出土しており、元来本遺構に伴う遺物と考えられる。

前 10SK105

官道の東に掘削された土坑である。ここから須恵器が完形品を伴って出土している。廃棄土坑とみられ、時期は奈良時代後半頃とみられる。

前 10SK134

本遺構から土師器の皿cが検出されている。この土器は緑釉陶器の可能性もあるが、断定できないため土師器として報告した。なお皿cと同時期のものかわからないが、図示したように12世紀頃とみられる土師器も出土している。

その他の遺構

前 10SX004

小穴群であるが、この中から弥生時代前期の鉢が検出されている。出土したのは前 10SK025（弥生時代前期の貯蔵穴）上であることから、この鉢はもともと前 10SK025 に伴うものである可能性がある。

前 10SX040

小穴にしては比較的大きな遺構であり、埋土も3層に分かれる。出土遺物から弥生時代後期の遺構と考えられるが、その中層から縄文時代晩期の浅鉢、鉄製ヤリガンナが検出されている。

前 10SX064

本遺構の出土遺物は、時期差があるが、ここから弥生時代前期の小壺片が検出された。この下層に前 10SK095（弥生土器前期の貯蔵穴）があることから、この小壺片はもともと前 10SK095 に伴うものである可能性がある。

前10SX094

本遺構には12世紀以降の遺物が含まれることから、平安時代末の堆積と考えるが、ここから弥生時代前期の甕片が検出された。この下層に前10SK075（弥生土器前期の貯蔵穴）があることから、この甕片はもともと前10SK075に伴うものである可能性がある。

前10SX110

出土遺物が少ないため、本遺構の時期等については不明な部分が多いが、弥生時代の中におさまるものと考えられる。また、出土遺物に石鍬が検出されているため、図示し報告している。

前10SX127

出土遺物に糸切り底の土師器坏が含まれているので、遺構の時期は12世紀以降となろうが、ここから製塩土器および鉄製の刀子が出土しているため、図示し報告している。

前10SX136

白磁椀が検出されており図示した。ただし本遺構に含まれる遺物は奈良時代のものが比較的多い。ここが官道路面部分にあたることにもよるか。

最後に、本調査は前田遺跡の中心部を細長くトレンチをあけたようなものであり、調査区の狭いことから、全体像を十分把握できないまま調査を終えた感がある。全体像については今後の周辺調査成果報告に委ねるところが大きい。

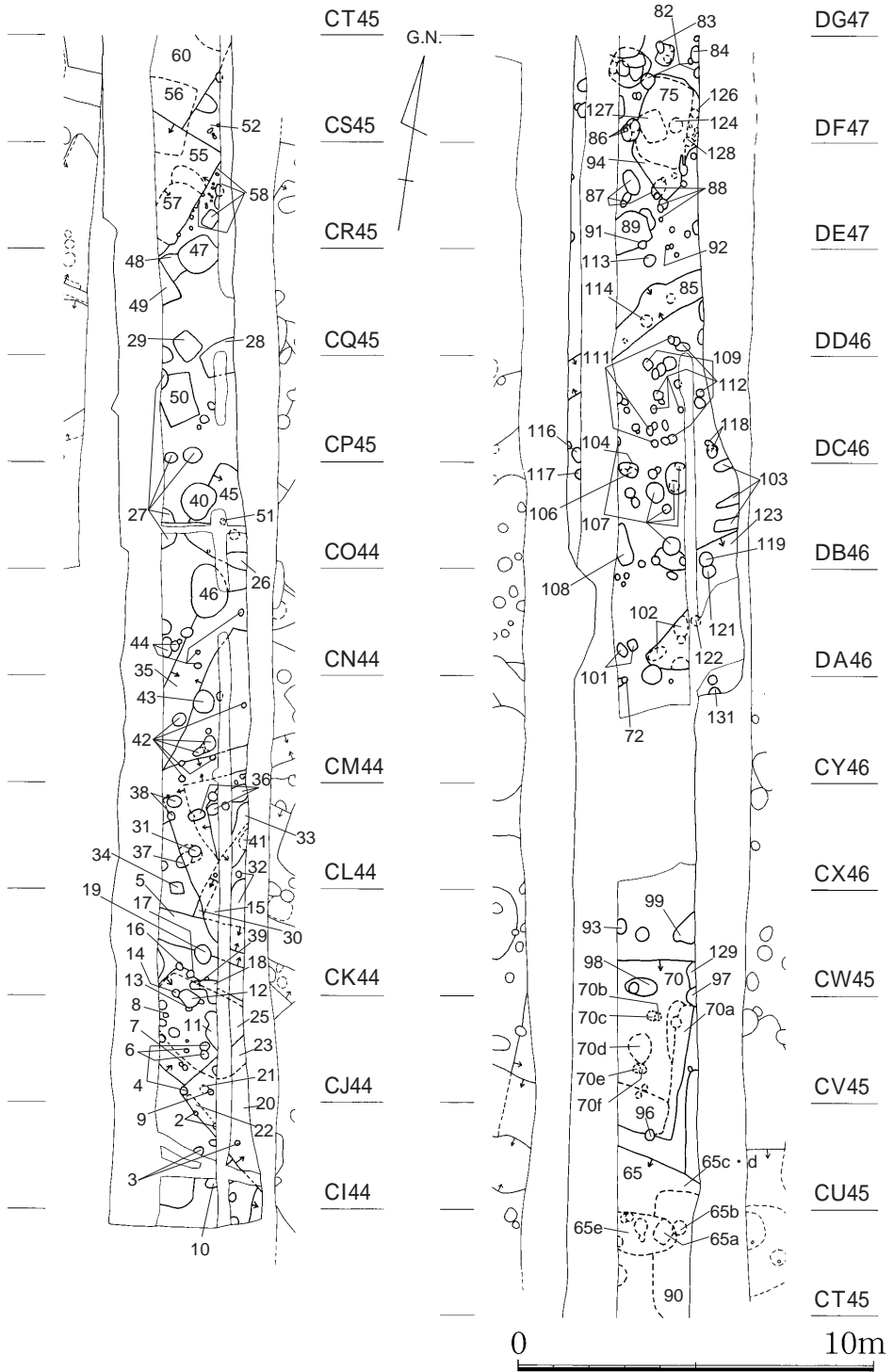


Fig.10-23 前田遺跡第10次調査遺構配置図(1)

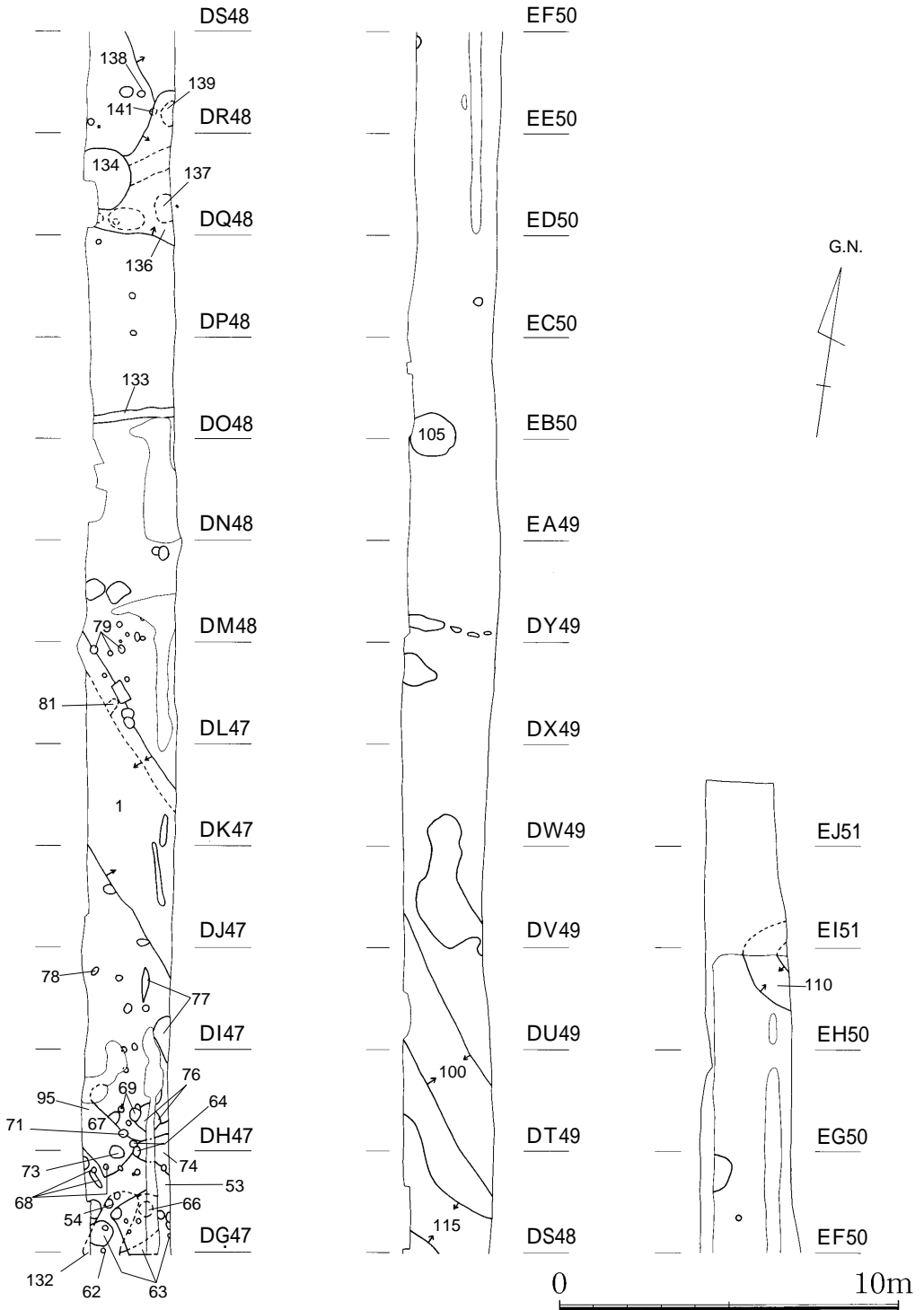


Fig.10-24 前田遺跡第10次調査遺構配置図(2)

前田遺跡第10次調査 主要遺構および層位相対関係表

註 本調査区は狭いため、国土座標にあわせて測量杭を配することができず、調査区に添って G.N.-8°7' 50-W を軸に測量を行っている。周辺既調査区では地区番号を国土座標にあわせて割り振られているため、本調査区の地区番号は周辺調査区の地区番号を参考にして、その近似値を使用している。

S-番号	遺構番号	種別	土層の新旧(古新)	地区番号
1	前10SD001	溝	茶黒色砂 黒茶色土 黒色土	DJ47 ~ DL47
4	前10SX004	Pit群		CJ44
5	前10SD005	溝	茶褐色土 下層 上層 S-15	CK44
10		Pit	掘方 柱痕	CI44
15	前10SD015	溝	淡茶色土 黒色土	CK44
20	前10SI020	竪穴住居	茶褐色土(貼床) 黒茶色土(埋土)	CJ44
25	前10SK025	貯蔵穴	暗灰色砂 茶黒色土 黄色砂 茶色土下層 茶色土	CJ44
30	前10SI030	竪穴住居	茶灰色土(溝埋土) 茶色土(埋土) S-30(暗茶色土が一部混じるか)	CL44
35	前10SD035	溝	黄褐色土 茶色土 S-35	CM44
40	前10SX040	Pit	黒黄色土混土(遺物なし) 茶灰色土 黒色土	CO44
45	前10SK045	貯蔵穴	黄色粘 灰色砂 黒黄色土 茶灰色土 黒茶色土	CO44
50		土坑	黒灰色土 黒茶色土	CP45
55	前10SI055	竪穴住居	黒色土 S-55	CR45
56	前10SK056	貯蔵穴	茶灰色砂 黄色砂 灰褐色砂 灰色砂 黒灰色土	CS45
60	(前10SI065)	竪穴住居	黄茶色土(下層の溝) 黒茶色土(貼床・埋土)	CS45
64	前10SX064	Pit群		DG47
65	前10SI065	竪穴住居	e・(g f) 茶黄色土(貼床) (d c)(ベッド) a・b 黒茶色土(埋土)	CT45 ・ CU45
70	前10SI070	竪穴住居	g・(i h) 茶色土(貼床) 黄黒色土(ベッド?) (a~f) 黒茶色土(埋土)。	CV45
75	前10SK075	貯蔵穴	黒褐色土 暗黄色土 黒茶色土 黒色土	DF47
85	前10SD085	溝		DD46
90	前10SK090	貯蔵穴	黄色砂 黒色土	CT45
94	前10SX094	たまり		DF47
95	前10SK095	貯蔵穴	黒茶色土 黒色土 茶色土	DH47
100	前10SD100	溝	灰茶色粘のみ	DT49 ・ DU49
105	前10SK105	土坑	灰色砂 紫灰色粘	EB50
110	前10SX110	溝か?	暗茶色粘埋土	EH50 ~ E151
127	前10SX127	Pit		DF47
134	前10SK134	土坑		DQ48
136	前10SX136	たまり	茶色土 灰色砂	DQ48

前田遺跡第10次調査遺構番号台帳(S-1～S-20)

註 地区番号は周辺既調査区で統一されているが、本調査区は狭いため、座標上に測量杭を配することができず、調査区に添ってG.N.-8°7'50-Wを軸に測量を行っている。

このため本調査の地区番号は周辺調査区の地区番号を参考にして、その近似値を使用している。

S-番号	遺構番号	種別	備考	遺構間の 新旧関係 (古新)	時期	地区番号
1	前10SD001	溝	水城西門をとおる官道西側溝。		奈良	DJ47 ～DL47
2		Pit群		2 20		CI44
3		Pit				CI44
4	前10SX004	Pit			弥生	CJ44
5	前10SD005	溝			弥生後期	CK44
6		Pit		6 25		CJ44
7		Pit		7 25		CJ44
8		Pit		8 25		CJ44
9		たまり	暗茶色土層のたまりと考える。	9 20		CJ44
10		Pit				CI44
11		たまり	暗茶色土層のたまりと考える。	11 25		CJ44
12		Pit		12 25		CK44
13		Pit群		13 25		CJ44
14		Pit		14 25		CK44
15	前10SD015	溝			弥生後期	CK44
16		Pit		16 25		CK44
17		Pit		17 25		CK44
18		たまり	S-39の上層部の遺物が混じる可能性あり。	18 25		CK44
19		Pit		5 19		CK44
20	前10SI020	竪穴住居			弥生後期	CJ44

前田遺跡第10次調査遺構番号台帳(S-21～S-40)

S-番号	遺構番号	種別	備考	遺構間の 新旧関係 (古新)	時期	地区番号
21	前10SI020	Pit	前10SI020床面のPit。		弥生～	CJ44
22	前10SI020	溝	前10SI020床面の溝。		弥生～	CJ44
23	前10SI020	たまり	前10SI020床面のたまり。 前10SI025の沈み込みによる。		弥生前期～	CJ44
24		Pit	所在不明。	24 60		CS45
25	前10SK025	貯蔵穴			弥生前期	CJ44
26		たまり		45 26		CO44
27		Pit群				CO44
28		土坑				CQ45
29		土坑				CQ45
30	前10SI030	竪穴住居		30 15 5	弥生後期	CL44
31		Pit		15 35		CL44
32		Pit群	一部は、SI030住居内Pit		弥生～	CL44
33		たまり	暗茶色土層の一部と考える。			CL44
34		Pit				CL44
35	前10SD035	溝			弥生後期	CM44
36		Pit群				CL44
37		Pit		37 15	弥生～	CL44
38		Pit群		15 38	弥生～	CL44
39		Pit		39 25	弥生～	CK44
40	前10SX040	Pit		45 40	弥生後期～	CO44

前田遺跡第10次調査遺構番号台帳(S-41～S-60)

S-番号	遺構番号	種別	備考	遺構間の 新旧関係 (古新)	時期	地区番号
41	前10SI030	Pit	SI030住居内Pit。		弥生後期～	CL44
42		Pit群				CM44
43		Pit		35 43	弥生後期～	CM44
44		Pit群				CN44
45	前10SK045	貯蔵穴		45 40	弥生前期	CO44
46		土坑		46 35	弥生後期～	CN44
47		土坑				CR45
48		土坑				CQ45
49		土坑				CQ45
50		土坑				CP45
51		Pit		45 51	弥生～	CO44
52		Pit				CS45
53		Pit				DG47
54		Pit	根石あり。			DG47
55	前10SI055	竪穴住居			弥生後期	CR45
56	前10SK056	貯蔵穴	黒灰色土には、前10SI055の遺物が一部混じっている。	56 55	弥生前期	CS45
57		土坑	灰色砂埋土。	57 55	弥生後期	CR45
58		Pit群				CR45
59		欠番				-
60	前10SI065	竪穴住居	S-60=前10SI065。黒茶色土層は埋土と貼床の両方を含む。			CS45

前田遺跡第10次調査遺構番号台帳(S-61 ~ S-80)

S-番号	遺構番号	種別	備考	遺構間の 新旧関係 (古新)	時期	地区番号
61		欠番				-
62		Pit				DG47
63		Pit等				DG47
64	前10SX064	Pit群	前10SK095に切り込むPitから 弥生前期小壺が出土。	95 64の一部	古代末 ~	DG47
65	前10SI065	竪穴住居	a・bは住居内Pit。c・dはベッ ド状遺構埋土。f・gは西側の下 層の溝埋土。eは下層の土坑埋土		弥生後期	CT45 ・CU45
66		Pit			奈良	DG47
67		たまり	前10SK095の沈み込みによる 後世の堆積。		古代末 ~	DG47
68		Pit群				DG47
69		Pit群			弥生後期	DH47
70	前10SI070	竪穴住居	a~fは住居内Pit。gはaの下層の 溝。hは貼床の一部か。iは下層 Pit。前7SI160と同一遺構か。		弥生後期	CV45
71		Pit				DH47
72		Pit				CY46
73		Pit		95 73 67	弥生後期	DH47
74		土坑				DH47
75	前10SK075	貯蔵穴		75 94	弥生前期	DF47
76		土坑				DH47
77		Pit群				D147
78		Pit				D147
79		Pit群	一部が前10SD001に切り込み、 須恵器坏が出土。			DL47
80		欠番				-

前田遺跡第10次調査遺構番号台帳(S-81～S-100)

S-番号	遺構番号	種別	備考	遺構間の 新旧関係 (古新)	時期	地区番号
81		Pit	前10SD001テラス部分下層のPit		弥生前期～	DL47
82		Pit群				DF47
83		Pit			12c～	DF47
84		Pit			古代末～	DF47
85	前10SD085	溝	前7SD001と同一遺構。 出土遺物は前7より新しい。		古代末～	DD46
86		Pit群		94 86	12c～	DF47
87		Pit群				DE47
88		Pit群	S-94下層のPitを一部含む。			DE47
89		土坑			12c～	DE47
90	前10SK090	貯蔵穴	袋状土坑の壁が早期に崩れ、その窪みを廃棄土坑として使用したと考える(黒色土部分)。		弥生前期か	CT45
91		Pit				DE47
92		Pit				DE47
93		Pit				CW45
94	前10SX094	たまり	S-75上層のたまり。	94 75	12c～	DF47
95	前10SK095	貯蔵穴		95 67	弥生前期	DH47
96		Pit		70 96	7c～	CU45
97		Pit		70 97		CW45
98		Pit		70 98		CW45
99		Pit				CW45
100	前10SD100	溝	水城西門をとおり官道東側溝。		～平安	DT49 ・DU49

前田遺跡第10次調査遺構番号台帳(S-101 ~ S-120)

S-番号	遺構番号	種 別	備 考	遺構間の 新旧関係 (古 新)	時 期	地区番号
101		Pit群				DA46
102		Pit				DA46
103		Pit群				DB46
104		Pit				DB46
105	前10SK105	土坑			奈良後半	EB50
106		Pit				DB46
107		Pit群				DB46
108		土坑				DB46
109		Pit群				DC46
110	前10SD110	溝			弥生	EH50 ~ EI51
111		Pit群				DC46
112		Pit群				DC46
113		Pit				DD46
114		Pit		114 85	奈良 ~	DD46
115		たまり			奈良? ~	DS48
116		Pit				DC46
117		Pit				DB46
118		Pit群				DC46
119		Pit				DB46
120		欠番				-

前田遺跡第10次調査遺構番号台帳(S-121～S-141)

S番号	遺構番号	種別	備考	遺構間の 新旧関係 (古新)	時期	地区番号
121		Pit				DB46
122		Pit				DA46
123		たまり				DA46
124		Pit		75 124 94		DF47
125		欠番				-
126		Pit		75 126 94	12c～	DF47
127	前10SX127	Pit		75 127 94	12c～	DF47
128		Pit		75 128 94	奈良～	DF47
129		Pit	前10SI070に伴う可能性もあるか			CW45
130		欠番				-
131		Pit				CY46
132		土坑	黄茶色土下にて検出。 埋土は黒灰色砂。		遺物なし	DG47
133		溝			奈良か	DO48
134	前10SK134	土坑		136 134	12c～	DQ48
135		欠番				-
136	前10SX136	たまり			C期～	DQ48
137		土坑		137 136		DQ48
138		Pit				DR48
139		Pit		136 139		DR48
140		欠番				-
141		Pit				DR48

前田遺跡第10次調査遺構番号台帳(その他)

S番号	遺構番号	種別	備考	遺構間の 新旧関係 (古 新)	時期	地区番号
黄茶色土		地山土	DF47からDH47にて30cmほど地山を掘り下げる。			DFDH 47付近
暗茶色土		包含層	遺構面を覆う層。遺構面検出時の人工層位を総称する。			調査区 全面
明茶色土		包含層	暗茶色土の上層の遺物包含層。			CT45 のみ
表土						調査区 全面
カクラン			調査区内の現代の攪乱。			調査区 全面
Z			所属が不明の遺物群。			調査区 全面

前田10次遺物観察表について

1. ここでは、遺構番号の数字の小さい方から順番に記している(いわゆる、S番号順)。
2. R番号とは遺物に付与された整理番号で、収蔵後の検索にはこの番号を用いる。
3. 土器以外の法量は口径・高さ・底径を、長さ・幅(高さ)・厚みに読み変える。
4. 数値後の+は欠損状況での数値、-は復元状況での数値、-は測定不能の状況を示している。
5. x はor(あるいは)の意を示す記号である。
6. 写真が複数ページにまたがる場合は、先頭の写真番号のみ記している。

調整項目について

1. 基本的に調整が明確に認められるものを記している。
2. ナデは、最終調整として施されているもののみを表示している。
3. 弥生前期土器については、調整を以下のように記号化して表記している。
これらの調整の記号化については、『太宰府・佐野地区遺跡群VIII』を参照のこと。

- 刻目 1 口縁端部全体に施される
- ” 2 口縁端部中央から下にかけて施される
- ” 3 口縁端部の下角に小さく施される
- ナデ a 細かい縦線状の条線を残し、工具の当たりや縁がある。
- ” b ナデaより条線は粗い。いわゆるハケ目。
- ” c 全体に平滑。条線は直線的でない。工具を使用せず、指によるものか。
- ” d ごく細かな直線的な条線を残す。ケズリにもみえる。

なおナデについて、口縁部で横方向に強く施されるものは、a2、b2のように数字の2を付ける。

石器観察について

1. 石器の設置方向は、剥片の場合は剥離面の打点部分を上とし、リングの広がりを中心部分を下としている。石核の場合は最終剥離面ないし最も明瞭な剥離面を正面としている。
2. 重量の測定には0.1桁表示の電子測りを使用した。
3. 観察表中の略号は次のとおり。
ob(黒曜石)、and(安山岩)
f(剥片)、rf(二次加工のある剥片)、
uf(微細剥離など使用痕のある剥片)、ap(石鏝)

前田遺跡第10次調査 遺物観察表(1)

遺構	器種	図版番号	写真番号	R番号	口径 cm	高さ cm	底径 cm	外面			内面			備考 (+は欠損、*は復原値)
								ナデ	ハケ	ミガキ	ナデ	ハケ	ミガキ	
前10SD001黒色土	須恵器 蓋3	Fig.10-10-1	Pl.10-17	004	-	1.3+	-							
”	須恵器 坏c(ヘラ)	Fig.10-10-2	Pl.10-17	001	-	2.6+	9.4				?			内面底部にナデ?。板状圧痕なし
”	須恵器 坏c(ヘラ)	Fig.10-10-3	Pl.10-17	003	-	2.75+	10.0*							内面底部にナデ。板状圧痕なし。
”	須恵器 坏	Fig.10-10-4	Pl.10-17	005	-	4.3+	-							外底にヘラけずりを施すか。
”	土師器 坏d	Fig.10-10-5	Pl.10-17	002	-	2.1+	-							
前10SX004	弥生前 鉢	Fig.10-19-1	Pl.10-46	001	-	14.15+	8.7*	a			a			内面はナデa ミガキ。
前10SD005下層	弥生後 椀x壺	Fig.10-10-7	Pl.10-19	001	-	2.9+	-							底部もハケあり。
”	弥生後 器台x高坏	Fig.10-10-8	-	002	-	7.9+	-							脚部内面にしぼり痕が見える。
前10SD015黒色土	弥生後 壺	Fig.10-10-9	Pl.10-19	001	-	2.5+	-							内外とも調整不明。
前10SI020黒茶色土	弥生後 壺	Fig.10-11-1	Pl.10-21	001	-	20.4+	8.8*							内面はハケ ナデ。ナデの時についたと見られる爪の痕跡複数あり
”	弥生後 椀	Fig.10-11-2	-	004	24*	15.25+	-							内面はハケ ナデ。外面ナデは口縁付近に施される。
”	弥生後 椀	Fig.10-11-3	Pl.10-22	002	-	12.5+	-							
”	弥生後 椀	Fig.10-11-4	Pl.10-22	003	-	5.85+	-							内面は調整不明。
前10SK025茶色土	須恵器 坏c(ヘラ)	Fig.10-13-1	-	004	-	1.4+	-							内面底部にナデ。板状圧痕なし。
”	弥生前 壺	Fig.10-13-2	Pl.10-27	002	-	4.6+	-				c			
”	弥生前 椀	Fig.10-13-3	Pl.10-27	001	-	5.5+	-	a2			a c			刻目2
”	弥生前 椀	Fig.10-13-4	Pl.10-27	003	-	4.7+	-	a						刻目2
前10SK025茶色土下層	弥生前 壺	Fig.10-13-5	Pl.10-28	004	-	4.9+	7.4*				c			
”	弥生前 椀	Fig.10-13-6	Pl.10-28	001	-	6.6+	-	a2			a2			刻目2
”	弥生前 椀	Fig.10-13-7	Pl.10-28	002	-	5.7+	-	a2			a2			刻目2
”	弥生前 椀	Fig.10-13-8	Pl.10-28	003	-	5.3+	10.0*	b c						
”	石製品 ob-uf	Fig.10-21-4	Pl.10-55	005	1.55	2.28	0.30							1.0g
前10SK025黄色砂	弥生前 壺	Fig.10-13-9	Pl.10-29	004	-	4.0+	-				a			外面は調整不明。
”	弥生前 椀	Fig.10-13-10	Pl.10-30	001	-	7.75+	-	a2			a2			刻目2
”	弥生前 椀	Fig.10-13-11	-	002	-	7.2+	8.2	d			c			
”	弥生前 椀	Fig.10-13-12	Pl.10-30	003	-	7.8+	8.2*	b c						内面は調整不明。
前10SK025茶黒色土	弥生前 壺	Fig.10-14-1	Pl.10-32	018	25.0*	5.0+	-	a2						外面に赤色顔料付着。
”	弥生前 壺	Fig.10-14-2	Pl.10-33	015	-	7.5+	10.9	a						
”	弥生前 壺	Fig.10-14-3	Pl.10-32	017	-	5.4+	-	a			a			
”	弥生前 壺	Fig.10-14-4	Pl.10-32	016	-	2.6+	-	a			a			外面底部付近にミガキ ナデa。
”	弥生前 椀	Fig.10-14-5	Pl.10-33	021	29.0*	17.2+	-	a2・b			a2・c			刻目2
”	弥生前 椀	Fig.10-14-6	Pl.10-34	009	-	4.85+	-	b a2			a2			刻目3、胴部内面は調整不明。
”	弥生前 椀	Fig.10-14-7	Pl.10-34	003	-	6.0+	-	a2・c			a2・c			刻目1
”	弥生前 椀	Fig.10-14-8	Pl.10-34	002	-	7.95+	-	a2・c			a2			刻目1、胴部内面は調整不明。
”	弥生前 椀	Fig.10-14-9	Pl.10-34	007	-	10.7+	-	a2・a			a2・a・c			刻目3

前田遺跡第10次調査 遺物観察表(2)

遺構	器種	図版番号	写真番号	R番号	口径 cm	高さ cm	底径 cm	外面			内面			備考 (+は欠損、*は復原値)
								ナデ	ハケ	ミガキ	ナデ	ハケ	ミガキ	
前10SK025茶黒色土	弥生前 甕	Fig.10-14-10	Pl.10-35	008	-	4.4+	-	a2・a・c?				a2・c		刻目2
"	弥生前 甕	Fig.10-14-11	Pl.10-35	006	-	5.7+	-	a2・a				a2		刻目1
"	弥生前 甕	Fig.10-14-12	Pl.10-35	005	-	3.1+	-	a2・b				a2・c?		刻目1
"	弥生前 甕	Fig.10-14-13	Pl.10-35	010	-	3.4+	-	a2・b				a2・c?		刻目2
"	弥生前 甕	Fig.10-14-14	Pl.10-35	004	-	6.5+	-	a2・c?				a2・c		刻目1
"	弥生前 甕	Fig.10-15-15	Pl.10-36	019	-	5.9+	-	c				c		
"	弥生前 甕	Fig.10-15-16	Pl.10-36	014	-	3.9+	7.2'	b						内面は調整不明。
"	弥生前 甕	Fig.10-15-17	Pl.10-36	012	-	3.2+	10.0'	c?						内面は調整不明。
"	弥生前 甕	Fig.10-15-18	Pl.10-36	013	-	4.4+	9.05'	a?				c		
"	弥生前 甕	Fig.10-15-19	Pl.10-36	011	-	11.2+	8.2'	a						外面底部に指押さえ痕あり。
"	弥生前 高坏	Fig.10-15-20	Pl.10-37	020	-	6.3+	-	a						
"	弥生前 手づくね鉢	Fig.10-15-21	Pl.10-36	001	-	4.65	-							口縁上部に刻目1
"	石製品 磨石×叩石	Fig.10-21-5	Pl.10-56	022	4.7	6.3	3.15							138.0g
前10SK025暗灰色砂	弥生前 小壺	Fig.10-16-1	Pl.10-38	001	-	3.65+	-							外面に赤色顔料による彩文あり。
"	弥生前 壺	Fig.10-16-2	Pl.10-39	002	-	2.4+	-					c		
"	弥生前 甕	Fig.10-16-3	Pl.10-39	006	-	3.9+	7.2'	b						内面は調整不明。
"	弥生前 甕	Fig.10-16-4	Pl.10-39	005	-	4.4+	8.3'	b				a×c		
"	弥生前 甕	Fig.10-16-5	Pl.10-39	004	-	5.85+	8.6	c						内面は調整不明。外底に指押さえ。
前10SX040茶灰色土	縄文晩 浅鉢	Fig.10-19-5	Pl.10-47	001	-	3.1+	-				?			?
"	鉄製品 ヤリガンナ	Fig.10-19-6	Pl.10-48	004	4.6+	1.0	0.3							
"	鉄製品 ヤリガンナ	Fig.10-19-7	Pl.10-48	003	4.2+	1.1	0.3							
"	鉄製品 ヤリガンナ	Fig.10-19-8	Pl.10-48	002	3.3+	1.0	0.4							
前10SK045黒黄色土	弥生後 手づくね鉢	Fig.10-17-1	Pl.10-39	001	7.8'	3.45	(1.6')							
前10SK045黄色粘	弥生前 甕	Fig.10-17-2	Pl.10-39	001	-	4.8+	-	a2				a2・c		刻目1
前10SI055	弥生後 壺	Fig.10-12-1	Pl.10-23	001	-	15.4+	-							内面には、指押さえ痕跡がみえる
前10SI055黒色土	弥生後 甕	Fig.10-12-2	Pl.10-23	001	-	2.25+	-							内外とも調整不明。
"	石製品 ob-ap	Fig.10-21-1	Pl.10-55	002	1.6	1.34	0.38							0.6g
前10SK056黒灰色土	弥生後 壺	Fig.10-17-8	-	001	-	8.1+	-							内外とも、ハケ ナデ。
前10SK056灰褐色砂	縄文晩 浅鉢	Fig.10-17-9	Pl.10-40	001	-	2.25+	-							
前10SK056茶灰色砂	弥生前 壺	Fig.10-17-10	Pl.10-41	001	-	5.3+	13'	a c?						内面調整は不明。
前10SX064	弥生前 小壺	Fig.10-19-9	Pl.10-49	001	-	2.45+	-							外面にヘラ描き綾杉文、赤彩あり
前10S-60黒茶色土	石製品 ob-ap	Fig.10-21-2	Pl.10-55	001	1.85	1.35	0.4							S-60は前10SI065として報告。0.7g
前10SI065黒茶色土	土師器 小型丸底壺	Fig.10-12-9	Pl.10-24	003	-	3.5+	-							外側に簾状文風の櫛指文あり。
"	土師器 高坏	Fig.10-12-10	Pl.10-24	004	-	3.9+	-							内外面とも暗文あり。
"	弥生後 短頸壺	Fig.10-12-11	Pl.10-24	002	-	4.0+	-							外面は、ハケ ナデ。
"	弥生後 複合口縁壺	Fig.10-12-12	Pl.10-24	005	-	3.8+	-							
"	弥生後 甕	Fig.10-12-13	Pl.10-24	007	-	3.6+	-							外面ナデは、ナデdに類似。
"	弥生後 甕	Fig.10-12-14	Pl.10-24	001	-	7.1+	-							
"	弥生後 甕	Fig.10-12-15	Pl.10-25	008	21.3'	30.8	6.6'							内外とも、ハケ ナデ(部分的)
"	弥生後 手づくね鉢	Fig.10-12-16	Pl.10-24	006	8.8'	2.85	-							外面指押さえ。内面のナデは丁寧
前10SI065a	弥生後 複合口縁壺	Fig.10-12-3	Pl.10-25	001	-	2.75+	-							
前10SI065f	土師器 高坏	Fig.10-12-4	Pl.10-25	001	-	3.7+	-							内面は、しぼり痕がナデ消される。
前10SI070黒茶色土	弥生後 短頸壺	Fig.10-12-6	Pl.10-26	002	-	4.6+	-							外面ミガキは、かなり粗い。
"	弥生後 甕	Fig.10-12-7	Pl.10-26	001	-	2.4+	-							口縁が沈線状に窪む。
"	石製品 磁石	Fig.10-22-1	Pl.10-57	004	12.6+	4.85	2.25+							粘板岩。143.6g
"	石製品 磁石	Fig.10-22-2	Pl.10-57	005	8.0+	3.9+	4.0+							粘板岩。58.8g
"	石製品 磁石	Fig.10-22-3	Pl.10-57	006	5.6+	4.6+	4.8+							粘板岩。86.7g
前10SI070黄黒色土	弥生後 壺	Fig.10-12-8	Pl.10-26	001	-	3.75+	-							内面は調整不明。
前10SI070茶色土	石製品 浮子?	Fig.10-22-4	Pl.10-57	001	5.85	4.10	3.30							軽石。18.3g
前10SI070b	弥生後 壺	Fig.10-12-5	Pl.10-26	001	-	3.2+	9.0'							
前10SI070h	石製品 磁石	Fig.10-22-5	Pl.10-57	001	8.95+	5.3+	3.1+							粘板岩。92.1g
前10SK075黒色土	弥生前 甕	Fig.10-18-1	Pl.10-46	001	22.55	27.5	8.4	a2・b				b2・c		刻目1。底部穿孔あり。
前10SK075黒茶色土	弥生前 壺	Fig.10-18-2	Pl.10-46	001	-	19.6+	-					c		外面にヘラ描き内弧文あり。
"	石製品 石匙	Fig.10-22-6	Pl.10-57	002	6.7+	3.75	1.1+							20.9g
前10SD085	須恵器 蓋3	Fig.10-10-10	Pl.10-20	004	-	0.8+	-							
"	須恵器 蓋3(ヘラ)	Fig.10-10-11	Pl.10-20	002	-	1.05+	-							
"	須恵器 蓋3	Fig.10-10-12	Pl.10-20	003	-	1.35+	-							
"	須恵器 坏c(ヘラ?)	Fig.10-10-13	Pl.10-20	005	-	1.45+	-							
"	土師器 坏a	Fig.10-10-14	Pl.10-20	001	-	3.0	-							内面底部にナデあり。

前田遺跡第10次調査 遺物観察表 (3)

遺構	器種	図版番号	写真番号	R番号	口 径 cm	高 さ cm	底 径 cm	外 面			内 面			備 考 (+は欠損、*は復原値)
								ナデ	ハケ	ミガキ	ナデ	ハケ	ミガキ	
前10SX094	土師器 小皿a(糸)	Fig.10-19-10	-	001	-	0.8	-							板状圧痕なし。
"	土師器 坏a(糸)	Fig.10-19-11	-	002	-	1.1+	-							内面底部にナデ。板状圧痕なし。
"	弥生前 甕	Fig.10-19-12	Pl.10-50	003	-	4.6+	-	a2・b			b2・c			刻目3
前10SK095黒茶色土	弥生前 壺	Fig.10-17-14	Pl.10-45	001	-	8.35+	-				a c			外面にへら描きハの字文と赤彩文
前10SD100灰茶色粘	土師器 坏	Fig.10-10-6	Pl.10-18	001	-	1.8+	-							
前10SK105紫灰色粘	須恵器 蓋c3(へら)	Fig.10-17-3	Pl.10-42	001	13.8	3.15	-							内面底部にナデあり。
"	須恵器 皿a(へら)	Fig.10-17-4	Pl.10-42	002	15.1	1.95	12.6							外面底部にナデ。板状圧痕なし。
前10SK105灰色砂	須恵器 坏c(へら)	Fig.10-17-5	Pl.10-43	003	-	1.9+	12.0*							外底はへら切り後、軽く回転ナデ 板状圧痕なし
"	須恵器 壺b	Fig.10-17-6	Pl.10-42	001	11.55	13.1+	-							
"	製塩土器	Fig.10-17-7	Pl.10-43	002	-	3.6+	-							
前10SX110	石製品 鍬	Fig.10-22-7	Pl.10-57	001	7.4	3.2	1.1							片岩。37.9g
前10SX127	製塩土器	Fig.10-19-2	Pl.10-51	001	-	4.85+	-							
"	鉄製品 刀子(刃)	Fig.10-19-3	Pl.10-52	002	4.25+	2.05	0.5							
"	鉄製品 刀子(柄)	Fig.10-19-4	Pl.10-52	003	4.5+	1.4	0.35							
前10SK134	土師器 坏a(へら)	Fig.10-17-11	Pl.10-44	003	-	0.7+	-							板状圧痕なし。
"	土師器 坏a(糸?)	Fig.10-17-12	Pl.10-44	002	-	1.95+	-							板状圧痕なし。
"	土師器 皿c	Fig.10-17-13	Pl.10-44	001	-	1.3+	7.0*							風化により調整不明。
前10SX136灰色砂	白磁 椀IV-1a	Fig.10-19-13	Pl.10-52	001	-	5.2+	7.0*							
前10暗茶色土	白磁 椀IV	Fig.10-20-1	Pl.10-53	001	-	4.35+	-							
"	国産 陶器	Fig.10-20-2	Pl.10-53	003	-	6.05+	-							
"	中国 陶器	四耳壺V x水注IV	Fig.10-20-3	Pl.10-53	002	-	3.7+	-						四耳壺Vの可能性が高い。
"	雑釉 陶器	椀	Fig.10-20-4	Pl.10-53	004	-	2.15+	4.6*						底部に目あとあり。
"	縄文晩	浅鉢	Fig.10-20-5	Pl.10-53	005	-	3.05+	-						
"	石製品	ob-core	Fig.10-21-6	Pl.10-57	006	2.55	2.2	1.7						8.2g
前10表土	白磁	椀V-4 xVIII-3	Fig.10-20-6	Pl.10-53	001	-	4.9+	-						
"	弥生後	手づくね鉢	Fig.10-20-7	Pl.10-54	002	8.0	7.0	-						
"	石製品	鍬	Fig.10-22-8	Pl.10-57	003	9.0	4.5	1.05						粘板岩。69.9g
前10攪乱	石製品	ob-ap	Fig.10-21-3	Pl.10-55	001	2.2	1.9	0.45						1.3g

前田遺跡第10次調査出土遺物一覧表 (S-1 ~ S-10柱痕)

S-1黒色土

須恵器	甕、坏×蓋片、坏片、坏c、 壺d×壺f、蓋3
土師器	皿×高坏（みがきaあり）、片、 取手、坏d
弥生土器	壺（後期）、甕
石製品	蛇紋岩-f、ob-f

S-1黒茶色土

弥生土器	壺（前期）、甕（後期）
石製品	ob-f

S-1茶黒色砂

土師器	坏片
弥生土器	片
石製品	ob-f

S-2

須恵器	片
土師器	小皿？片

S-3

土師器	片
弥生土器	片

S-4

弥生土器	鉢（前期）、壺？（後期）
------	--------------

S-5

弥生土器	甕（後期）
------	-------

S-5上層

弥生土器	器台、甕（後期）、 器台×高坏（後期）、片
石製品	ob-f

S-5下層

弥生土器	甕×壺（後期）、 器台×高坏（後期）、片
石製品	ob-f

S-5茶褐色土

弥生土器	甕（後期）
------	-------

S-6

弥生土器	片
石製品	ob-uf

S-7

石製品	ob-rf
-----	-------

S-8

石製品	ob-f
-----	------

S-9

須恵器	坏
弥生土器	甕（後期）、片

S-10柱痕

弥生土器	甕（後期）
石製品	ob-chip

前田遺跡第10次調査出土遺物一覧表 (S-10掘方～S-25茶色土)

S-10掘方

弥生土器	片
------	---

S-11

須恵器	片
弥生土器	片(後期)
石製品	ob-f

S-13

須恵器	坏片
弥生土器	片

S-14

弥生土器	片(後期)
------	-------

S-15

弥生土器	片
------	---

S-15黒色土

弥生土器	甕、壺
石製品	ob-f

S-15淡茶色土

弥生土器	片
------	---

S-16

須恵器	坏c
弥生土器	片

S-17

弥生土器	片
------	---

S-18

須恵器	蓋3
弥生土器	片

S-19

弥生土器	片(後期)
------	-------

S-20黒茶色土

弥生土器	甕(後期)、壺(後期)
石製品	ob-f、ob-core、ob-rf

S-20茶褐色土

弥生土器	壺(後期)、甕(後期)
石製品	ob-f

S-21

弥生土器	片
石製品	ob-f

S-22

弥生土器	片
------	---

S-23

弥生土器	甕(前期)
------	-------

S-24

弥生土器	片
------	---

S-25茶色土

須恵器	坏c
弥生土器	甕、壺(前期)、壺(後期)
石製品	ob-f

前田遺跡第10次調査出土遺物一覧表 (S-25茶色土下層 ~ S-34)

S-25茶色土下層

弥生土器	甕(前期)、壺(前期)
土製品	焼土塊
石製品	ob-f、ob-uf、and-f

S-25黄色砂

弥生土器	甕(前期)、壺(前期)
------	-------------

S-25茶黒色土

弥生土器	甕、壺、手づくね鉢、高坏 (以上、前期)
土製品	焼土塊
石製品	ob-f、ob-rf、and-f、砂岩-f、 片岩-f、石包丁?、磨石×叩石

S-25暗灰色砂

弥生土器	小壺(彩文)、壺、甕、高坏、 (以上、前期)
石製品	ob-f、and-f

S-26

弥生土器	甕(前期)
石製品	ob-f

S-27

国産陶器	土管?
弥生土器	壺(後期)

S-28

須恵器	甕、坏a
弥生土器	甕

S-29

弥生土器	甕(後期)
------	-------

S-30

須恵器	甕
瓦類	片

S-30茶色土

弥生土器	片
石製品	ob-f

S-30茶灰色土

石製品	ob-uf
-----	-------

S-31

弥生土器	片
------	---

S-32

弥生土器	片
------	---

S-33

須恵器	甕×壺
弥生土器	甕(後期)
瓦類	片

S-34

弥生土器	片
石製品	ob-f

前田遺跡第10次調査出土遺物一覧表 (S-35 ~ S-46)

S-35

弥生土器	片 (後期)
石製品	and、ob-uf

S-35茶色土

弥生土器	片
------	---

S-35黄褐色土

弥生土器	甕 (後期)、片 (後期)
石製品	ob-f

S-36

弥生土器	片 (後期)
------	--------

S-37

弥生土器	片
------	---

S-38

弥生土器	片
------	---

S-39

弥生土器	片
------	---

S-40黒色土

弥生土器	支脚、片 (後期)
石製品	ob-f

S-40茶灰色土

弥生土器	片
縄文土器	浅鉢
金属製品	ヤリガンナ

S-41

弥生土器	片 (後期)
------	--------

S-42

弥生土器	甕 × 壺 (前期 < 後期)
------	-----------------

S-43

土師器	甕 (布留式の系譜をひくか)
-----	----------------

S-44

弥生土器	甕 (後期)、片
------	----------

S-45黒茶色土

弥生土器	甕 (後期)
------	--------

S-45茶灰色土

弥生土器	片
------	---

S-45黒黄色土

土師器	鉢?
弥生土器	手づくね土器 (後期)、片
土製品	メンコ?

S-45灰色砂

弥生土器	片
------	---

S-45黄色粘

弥生土器	甕、片 (以上、前期)
------	-------------

S-46

弥生土器	甕 (後期)
石製品	ob-f

前田遺跡第10次調査出土遺物一覧表 (S-47 ~ S-60黒茶色土)

S-47

須恵器	壺、甕
土師器	甕
弥生土器	片(後期)

S-55黒色土

弥生土器	壺(後期)、甕(後期)
石製品	ob-ap、ob-f

S-48

弥生土器	甕(後期)、片(後期)
------	-------------

S-56黒灰色土

弥生土器	甕(後期)、壺(後期)、 壺(前期?)
------	------------------------

S-49

弥生土器	甕(後期)、片(後期)
------	-------------

S-56灰色砂

弥生土器	壺(前期)
------	-------

S-50黒茶色土

弥生土器	甕(後期)
------	-------

S-56灰褐色砂

弥生土器	壺(前期)
縄文土器	浅鉢(晩期)

S-50黒灰色土

弥生土器	片(後期)
------	-------

S-56茶灰色砂

弥生土器	壺(前期)
------	-------

S-51

弥生土器	片
------	---

S-57

弥生土器	甕(後期)
------	-------

S-52

弥生土器	片(後期)
------	-------

S-57灰色砂

弥生土器	甕(後期)
------	-------

S-53

弥生土器	片(後期)
------	-------

S-58

弥生土器	片
石製品	ob-f

S-54

土師器	片(古代)
-----	-------

S-60黒茶色土 (S-65に変更)

S-55

弥生土器	壺
石製品	ob-f

須恵器	坏
弥生土器	高坏、壺、支脚、甕(後期)
石製品	砥石?

前田遺跡第10次調査出土遺物一覧表 (S-60黄茶色土 ~ S-67)

S-60黄茶色土 (S-65に変更)

弥生土器	壺、甕 (以上、後期)
石製品	ob-ap、ob-uf、ob-f、砥石

S-62

弥生土器	片
------	---

S-63

土師器	小皿a (ヘラ切り)、坏
弥生土器	甕
石製品	ob-f

S-64

須恵器	坏、片
土師器	小皿
弥生土器	小壺 (前期)
石製品	滑石製品

S-65黒茶色土

須恵器	坏 (古代 ~)、甕
土師器	小型丸底壺、高坏
弥生土器	甕、壺、手づくね鉢、器台、高坏 短頸壺 (以上、後期) 甕、壺 (以上、前期)
石製品	ob-f、ob-core、ob-uf、and-f 砥石

S-65茶黄色土

石製品	and-f
-----	-------

S-65a

弥生土器	壺 (後期)、甕 (後期)
------	---------------

S-65b

弥生土器	片 (後期)
------	--------

S-65c

弥生土器	甕 (後期)、片 (後期)
石製品	and-f

S-65d

弥生土器	壺 (前期)、甕 (後期)
------	---------------

S-65e

弥生土器	片
------	---

S-65f

土師器	高坏 (古墳前期)
弥生土器	片
石製品	ob-f

S-65g

弥生土器	甕
石製品	ob-f、and-f

S-65h

弥生土器	甕 (前期)、片
------	----------

S-66

須恵器	蓋3
弥生土器	甕 × 壺 (前期)、高坏

S-67

須恵器	蓋
土師器	小皿a、坏
弥生土器	甕 (後期)、壺 (前期)
金属製品	不明 (1)

前田遺跡第10次調査出土遺物一覧表 (S-68 ~ S-75黒茶色土)

S-68

弥生土器	片(後期)
石製品	ob-f

S-69

弥生土器	甕×壺(後期)
------	---------

S-70黒茶色土

弥生土器	片(後期)、高坏、鉢、壺、甕
石製品	and-f、砥石
金属製品	不明(1)

S-70黄黒色土

弥生土器	壺、片
------	-----

S-70茶色土

弥生土器	片、甕(以上後期)、片(前期)
石製品	砥石?、浮子?

S-70a

弥生土器	片(後期)
------	-------

S-70b

弥生土器	壺(後期)、片
------	---------

S-70c

弥生土器	片
------	---

S-70d

弥生土器	片
------	---

S-70e

弥生土器	片
------	---

S-70f

弥生土器	片
------	---

S-70h

石製品	砥石
-----	----

S-70i

弥生土器	片
------	---

S-71

須恵器	坏
土師器	片
弥生土器	片

S-72

弥生土器	壺×甕(後期)
------	---------

S-73

弥生土器	壺、甕(後期)、片
------	-----------

S-74

須恵器	蓋c、蓋
土師器	片
弥生土器	壺(前期)、片

S-75黒色土

弥生土器	甕(前期)
------	-------

S-75黒茶色土

石製品	石匙、ob-f
-----	---------

前田遺跡第10次調査出土遺物一覧表 (S-75暗黄色土～S-89)

S-75暗黄色土

弥生土器	壺(前期)
------	-------

S-76

土師器	片
弥生土器	片(前期)

S-77

須恵器	片、蓋3
土師器	小皿a(糸切りか)、片

S-78

土師質土器	すり鉢
-------	-----

S-79

須恵器	坏
土師器	片
石製品	ob-f

S-81

弥生土器	甕(前期)
------	-------

S-82

須恵器	蓋3、坏
土師器	片
弥生土器	甕(前期)、片

S-83

土師器	坏(糸切り)
-----	--------

S-84

須恵器	皿
土師器	坏(糸切り?)
白磁	皿片
弥生土器	片

S-85

須恵器	甕、蓋3、坏c、壺、蓋1、短頸壺 高坏
土師器	高坏、坏c、坏a(ヘラ切りか)
白磁	椀IV×V
弥生土器	片、支脚、高坏(前期)

S-86

須恵器	片
土師器	小皿a(ヘラ切り、糸切り)
弥生土器	壺(前期)、片
石製品	片岩f

S-87

須恵器	坏c
弥生土器	壺(前期)
石製品	and-f

S-88

須恵器	坏
土師器	坏c、小皿a(糸切り)、坏

S-89

須恵器	坏c、蓋、甕
土師器	小皿a(糸切り)
弥生土器	片

前田遺跡第10次調査出土遺物一覧表 (S-91 ~ S-105紫灰色粘)

S-91		S-98	
弥生土器	片	弥生土器	片
S-92		S-100灰茶色粘	
石製品	and-f	土師器	坏片
S-93		弥生土器	甕×壺片(後期)、高坏、片
弥生土器	壺(後期)	石製品	ob-f
S-94		S-101	
須恵器	片	須恵器	蓋3、高坏、坏c
土師器	小皿a(糸切り)、坏a(糸切り)	土師器	坏c
白磁	皿VI-1a	弥生土器	片
弥生土器	甕(前期)、壺(後期)	S-102	
石製品	ob-f、ob-rf、and-f、 ホルンフェルス-f	弥生土器	片(後期)、支脚×器台
S-95茶色土		S-103	
弥生土器	片(前期)	弥生土器	甕(後期)、片(後期)
石製品	ob-f	石製品	ob-f
S-95黒色土		S-104	
弥生土器	壺(前期)	須恵器	坏c、小壺
S-95黒茶色土床面直上		土師器	坏d、坏c
弥生土器	壺(前期)	S-105紫灰色粘	
S-96		須恵器	蓋c3、皿a
須恵器	蓋1	土師器	甕
S-97		弥生土器	片
弥生土器	片	石製品	and-rf

前田遺跡第10次調査出土遺物一覧表 (S-105灰色砂～S-121)

S-105灰色砂

須恵器	壺b、坏c
製塩土器	片
弥生土器	片

S-106

須恵器	蓋1
弥生土器	片

S-107

須恵器	坏
弥生土器	壺(後期)

S-108

須恵器	蓋c
土師器	片

S-109

須恵器	坏c
弥生土器	片
石製品	砥石

S-110

弥生土器	片
石製品	石鍬

S-111

須恵器	甕、蓋
土師器	坏d
弥生土器	片

S-112

弥生土器	片(後期)
------	-------

S-113

須恵器	坏
-----	---

S-114

須恵器	坏c
弥生土器	片

S-115

須恵器	坏
弥生土器	片

S-116

須恵器	甕
弥生土器	片

S-117

土師器	片?
弥生土器	片(後期)

S-118

弥生土器	片(後期)
------	-------

S-119

弥生土器	片
------	---

S-121

弥生土器	片
石製品	ob-uf

前田遺跡第10次調査出土遺物一覧表 (S-122 ~ S-141)

S-122

須恵器	蓋3
弥生土器	片(後期)

S-123

須恵器	坏c
弥生土器	片(後期)

S-124

弥生土器	片
石製品	ob-f

S-126

土師器	小皿(糸切り)
-----	---------

S-127

土師器	坏(糸切り)
製塩土器	片
弥生土器	片、鉢
石製品	ob-f
金属製品	刀子

S-128

須恵器	蓋3
-----	----

S-129

弥生土器	片(後期)
------	-------

S-131

弥生土器	片(後期)
------	-------

S-133

須恵器	蓋
-----	---

S-134

須恵器	坏c、甕
土師器	坏a(糸切りか)、 坏a(ヘラ切り)、皿c

S-136灰色砂

須恵器	蓋3、坏c、坏a、甕
土師器	坏、片
白磁	椀IV-1a

S-136茶色土

須恵器	蓋3、坏c
土師器	片

S-137

須恵器	甕、片
土師器	片

S-138

土師器	片
-----	---

S-139

須恵器	蓋3
土師器	片

S-141

須恵器	蓋3
土師器	片

前田遺跡第10次調査出土遺物一覧表（暗茶色土ほか）

暗茶色土

須恵器	壺b、甗、坏c、坏身（小田IV） 高坏、壺蓋、蓋1、鉢a
土師器	高坏、蓋c
瓦器	椀
製塩土器	片
国産陶器	甗、坏×皿、すり鉢、 壺（瀬戸×常滑×）
白磁	椀IV、椀V-1×VIII-2
李朝	雑釉陶器椀（1）
弥生土器	甗（前期）、壺（前期）、 高坏（中期）、壺、甗（後期） 複合口縁壺（後期後半）
縄文土器	浅鉢（晩期）
石製品	ob-f、and-f、chert-f、 ob-core、basalt-f
金属製品	釘（1）不明（6以上）
中国陶器	四耳壺V×水注IV

明茶色土

須恵器	片
土師器	片
弥生土器	甗（後期後半）、高坏、 器台×支脚

表土

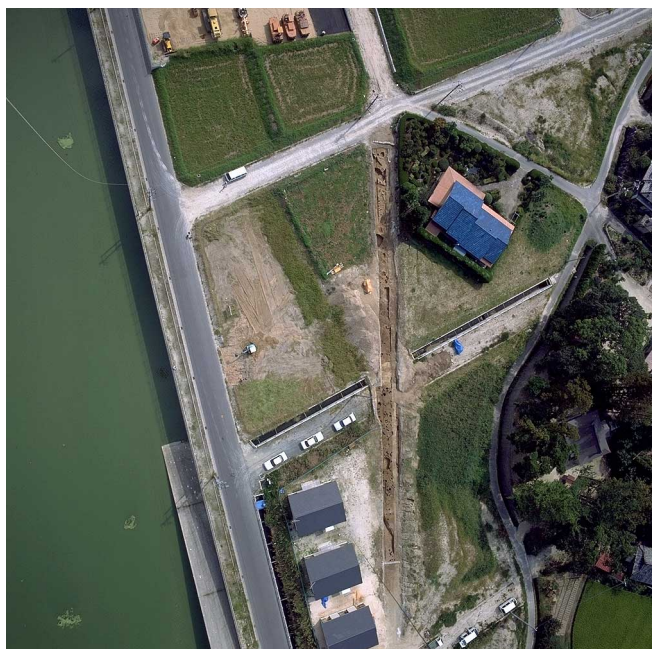
須恵器	坏c、壺、蓋3、甗、皿、蓋1
土師器	高坏
国産陶器	甗
白磁	片（化粧土なし）、 椀V-4×VIII-3
肥前系陶器	皿
国産磁器	鉢
弥生土器	片（後期）、高坏（中期）、 甗（後期）、壺（後期）、 手づくね鉢（後期）
瓦類	平瓦（縄目）
石製品	石鍬、ob-f、and-f
その他	石炭

攪乱

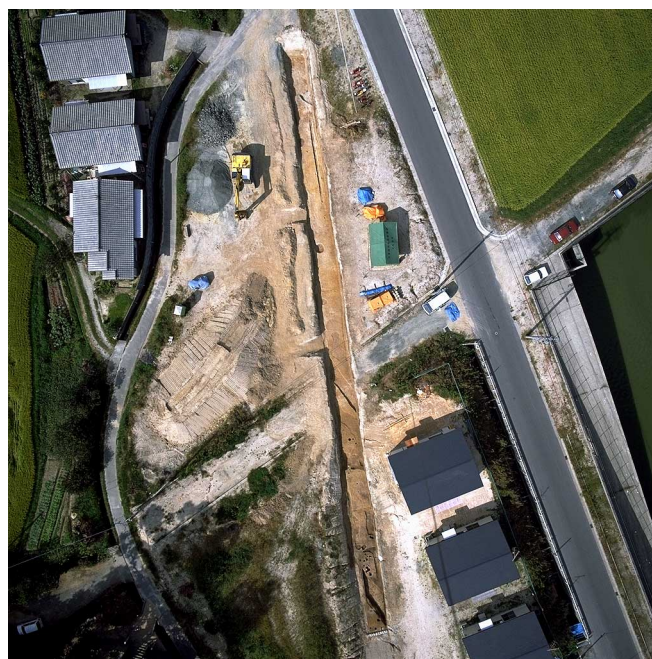
須恵器	片、甗
土師器	皿c、片、甗（布留式）
白磁	椀IV
弥生土器	甗、高坏、片
石製品	ob-ap、ob-rf
金属製品	不明（1）

Z（所属不明の遺物群）

須恵器	坏a、皿、蓋3
土師器	高坏
弥生土器	片（前期）



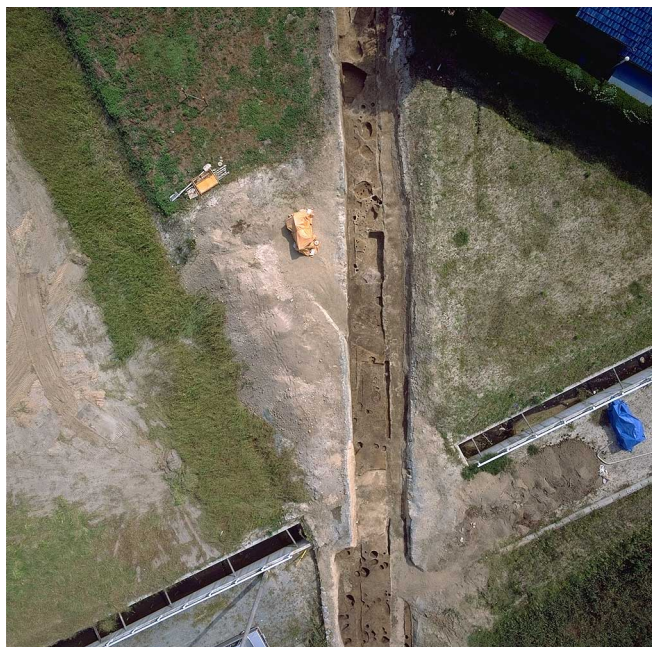
前田遺跡第10次調査南区全景（下が北）



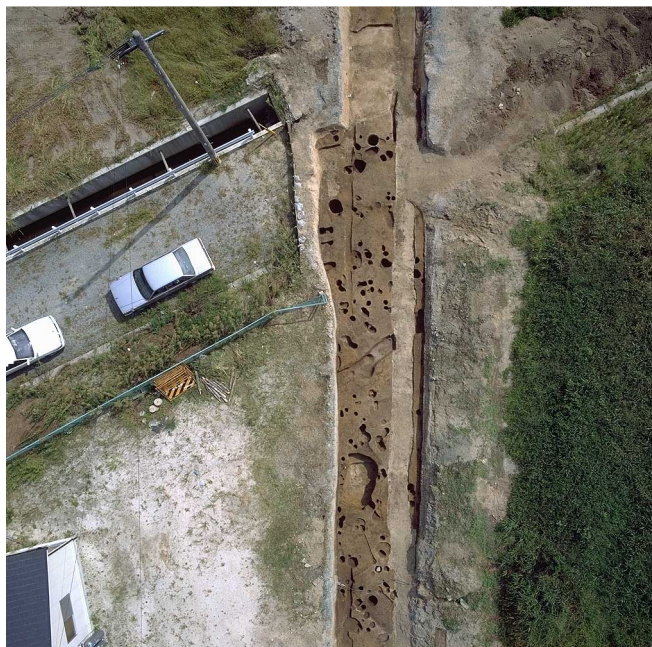
前田遺跡第10次調査北区全景（上が北）



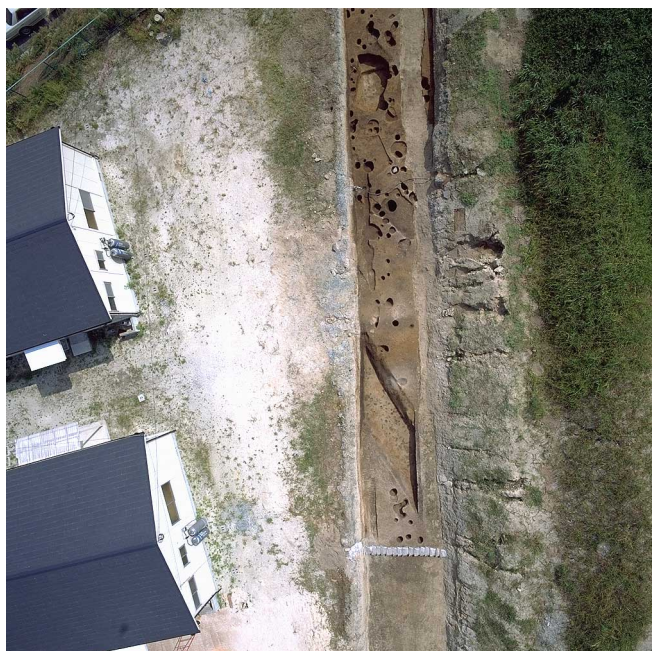
前田遺跡第10次調査南区南側（下が北）



前田遺跡第10次調査南区中央南寄り（下が北）



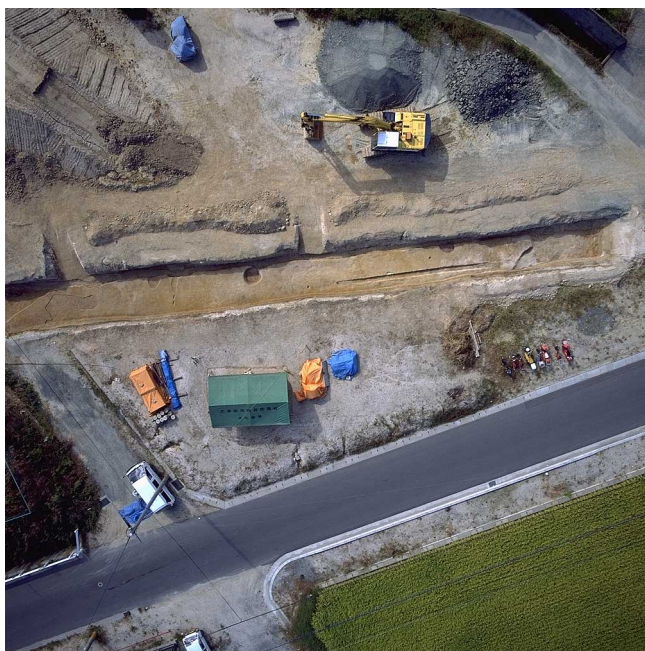
前田遺跡第10次調査南区中央北寄り（下が北）



前田遺跡第10次調査南区北側（下が北）



前田遺跡第10次調査北区全景（南から撮影）



前田遺跡第10次調査北区北側（右が北）



前田遺跡第10次調査北区南側（右が北）



前田遺跡第10次調査SD001完掘状況（左上が北）



前田遺跡第10次調査SD001土層観察（西から撮影）



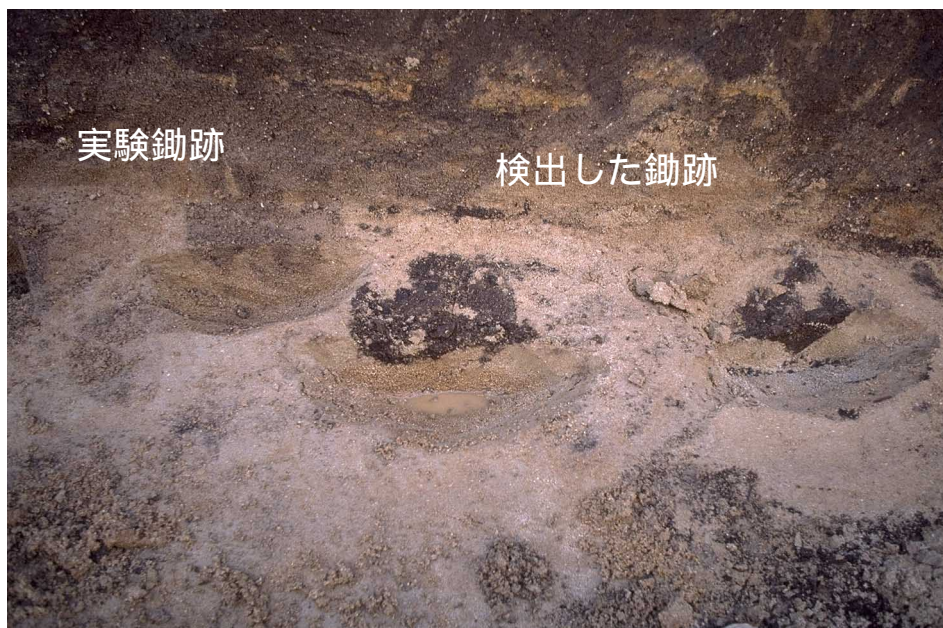
前田遺跡第10次調査SD001鋤痕跡検出状況（西から撮影）



前田遺跡第10次調査SD001鋤跡より作業単位を推定（北西から撮影）



前田遺跡第10次調査SD001鋤痕跡と実験鋤跡（1）（西から撮影）



前田遺跡第10次調査SD001 鋤痕跡と実験鋤跡(2)(西から撮影)



前田遺跡第10次調査SD001 鋤痕跡と実験鋤跡(3)(西から撮影)



前田遺跡第10次調査SD100検出状況（北西から撮影）



前田遺跡第10次調査SD100完掘状況（北西から撮影）



前田遺跡第10次調査SD100土層観察（西から撮影）



前田遺跡第10次調査SI065床面検出状況（西から撮影）



前田遺跡第10次調査SI070床面検出状況（西から撮影）



前田遺跡第10次調査SI070完掘状況（西から撮影）



前田遺跡第10次調査SK025完掘状況（南西から撮影）



前田遺跡第10次調査SK025土層観察（北西から撮影）



前田遺跡第10次調査SK045完掘状況（北西から撮影）



前田遺跡第10次調査SK045完掘状況（南西から撮影）



前田遺跡第10次調査SK045土層観察（西から撮影）



前田遺跡第10次調査SK056完掘状況（東から撮影）



前田遺跡第10次調査SK075完掘状況（東から撮影）



前田遺跡第10次調査SK075黒茶色土除去時遺物出土状況（西から撮影）



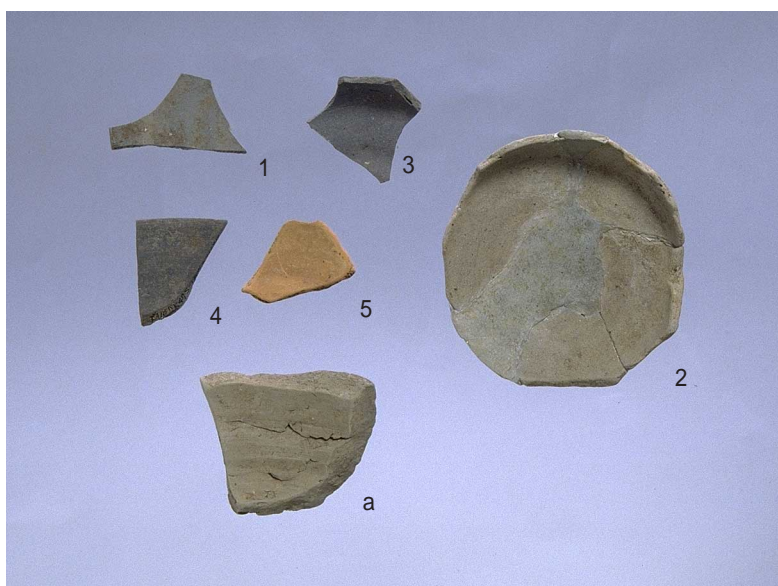
前田遺跡第10次調査SK090完掘状況（西から撮影）



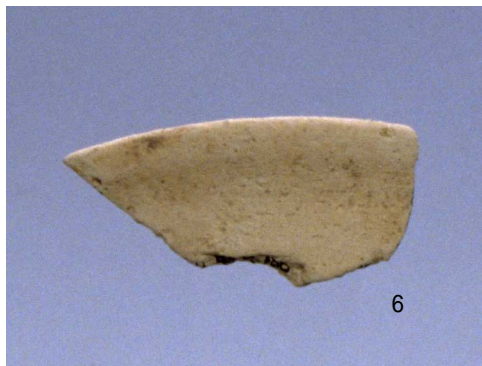
前田遺跡第10次調査SK105土層観察（東から撮影）



前10SD001 黒色土出土遺物 < 外面 > (Fig.10-10)



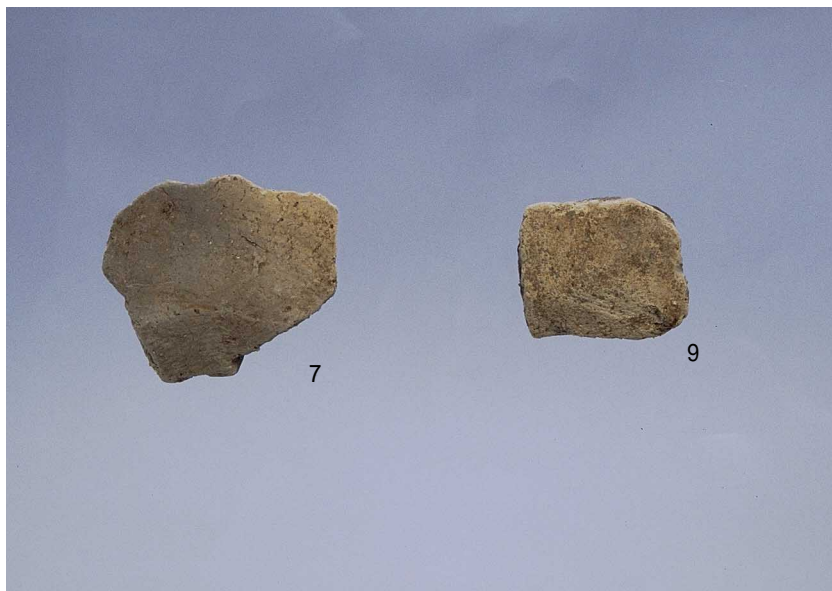
前10SD001 黒色土出土遺物 < 内面 > (Fig.10-10)



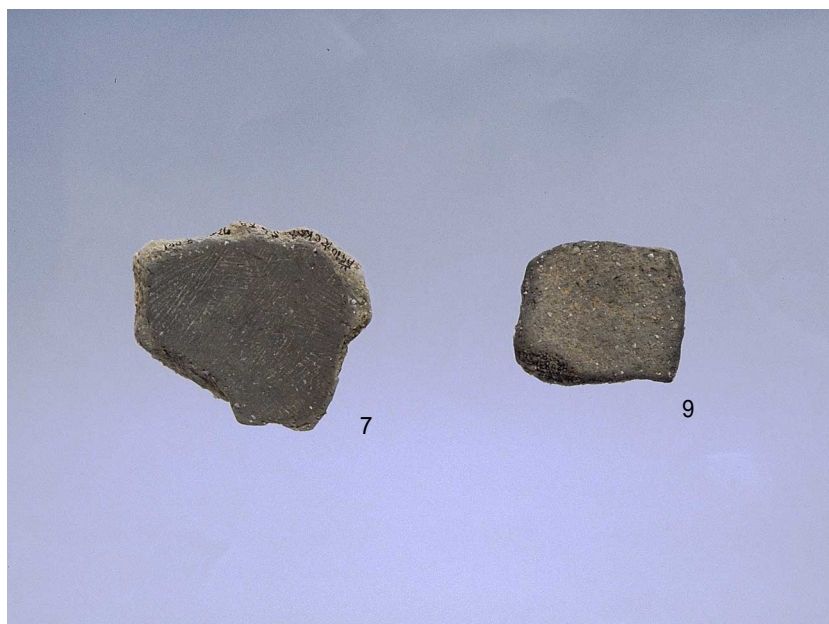
前10SD100灰茶色粘出土遺物<外面> (Fig.10-10)



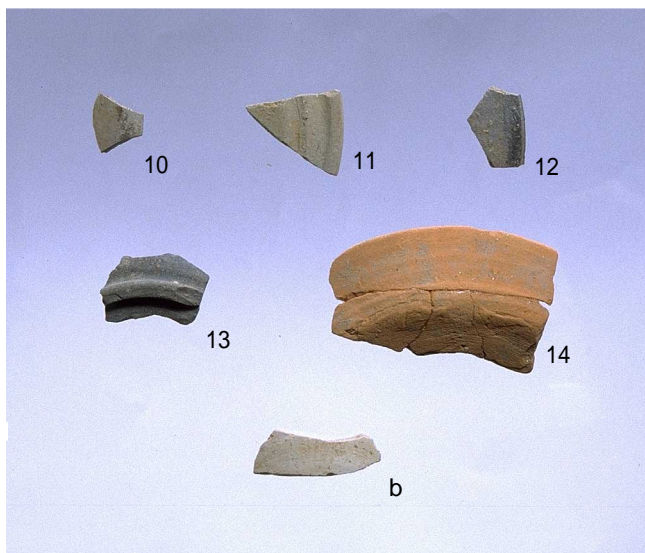
前10SD100灰茶色粘出土遺物<内面> (Fig.10-10)



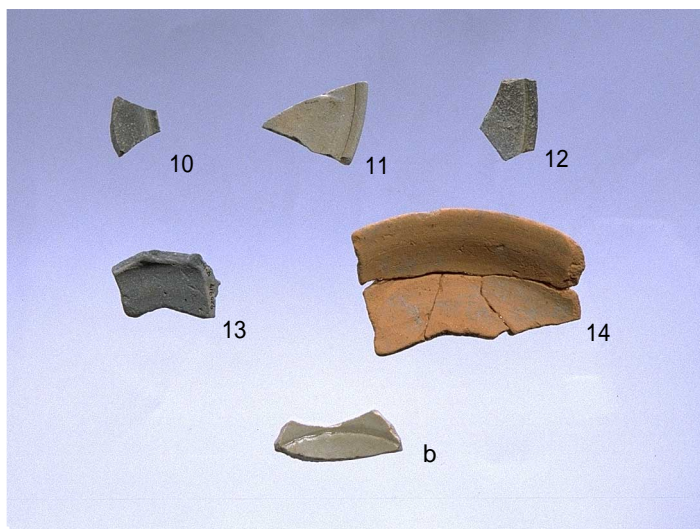
前10SD005下層(左)・前10SD015黑色土(右)出土遺物<外面>(Fig.10-10)



前10SD005下層(左)・前10SD015黑色土(右)出土遺物<内面>(Fig.10-10)



前10SD085出土遺物<外面> (Fig.10-10)



前10SD085出土遺物<内面> (Fig.10-10)



前10SI020 黒茶色土出土遺物 (Fig.10-11)



同 上 内面調整 (Fig.10-11)



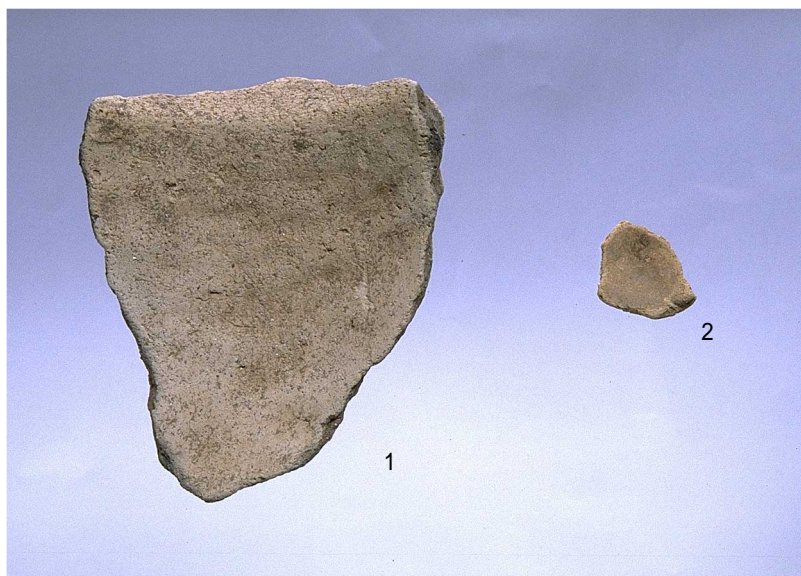
前10SI020 黒茶色土出土遺物 <外面> (Fig.10-11)



前10SI020 黒茶色土出土遺物 <内面> (Fig.10-11)



前10S1055 (左)・055 黒色土 (右) 出土遺物<外面> (Fig.10-12)



前10S1055 (左)・055 黒色土 (右) 出土遺物<内面> (Fig.10-12)



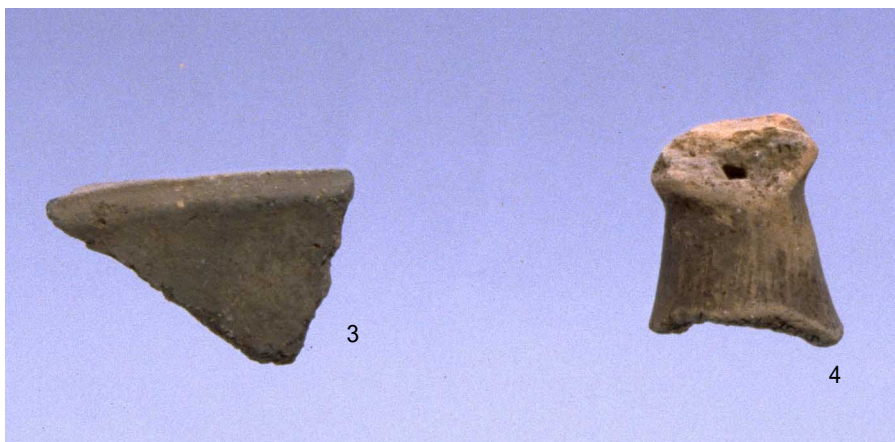
前10SI065黒茶色土出土遺物<外面>(Fig.10-12)



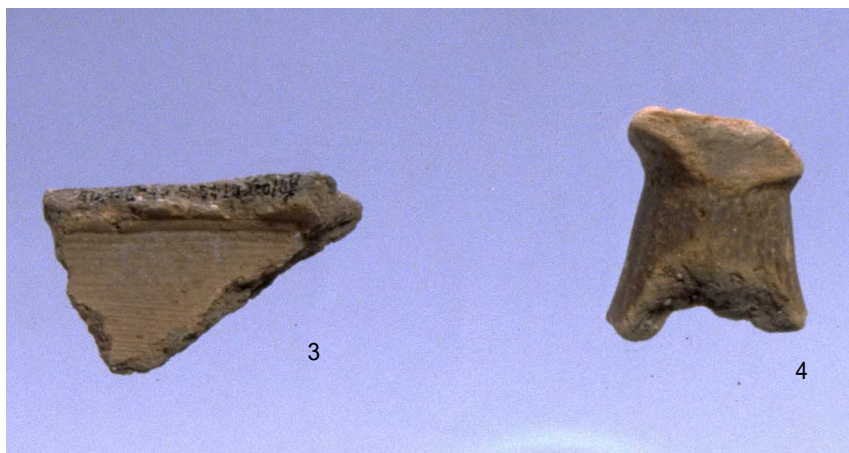
前10SI065黒茶色土出土遺物<内面>(Fig.10-12)



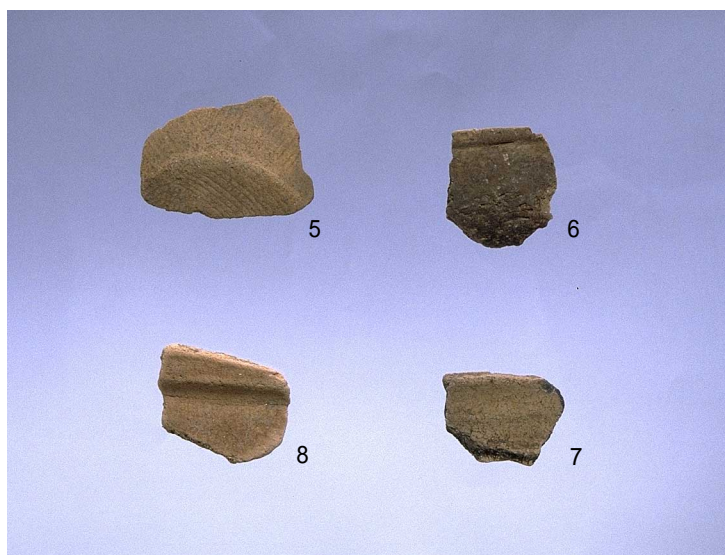
前10SI065黒茶色土出土遺物 (Fig.10-12)



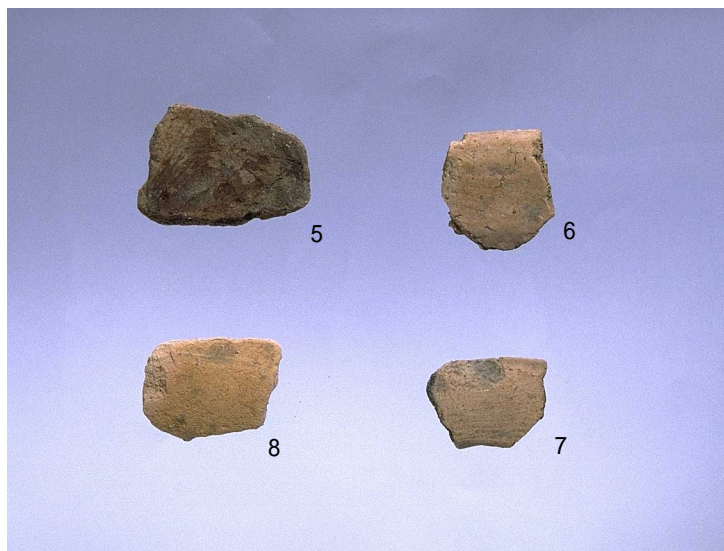
前10SI065a (左) ・ 065f (右) 出土遺物 < 外面 > (Fig.10-12)



前10SI065a (左)・065f (右) 出土遺物<内面> (Fig.10-12)



前10SI070・070黒茶色土・070黄黒色土出土遺物<外面> (Fig.10-12)



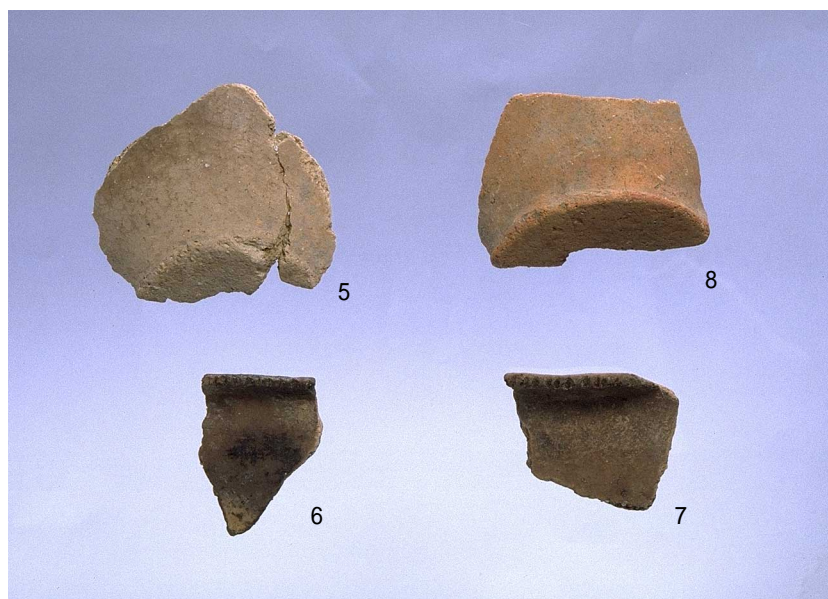
前10SI070・070黒茶色土・070黄黒色土出土遺物<内面> (Fig.10-12)



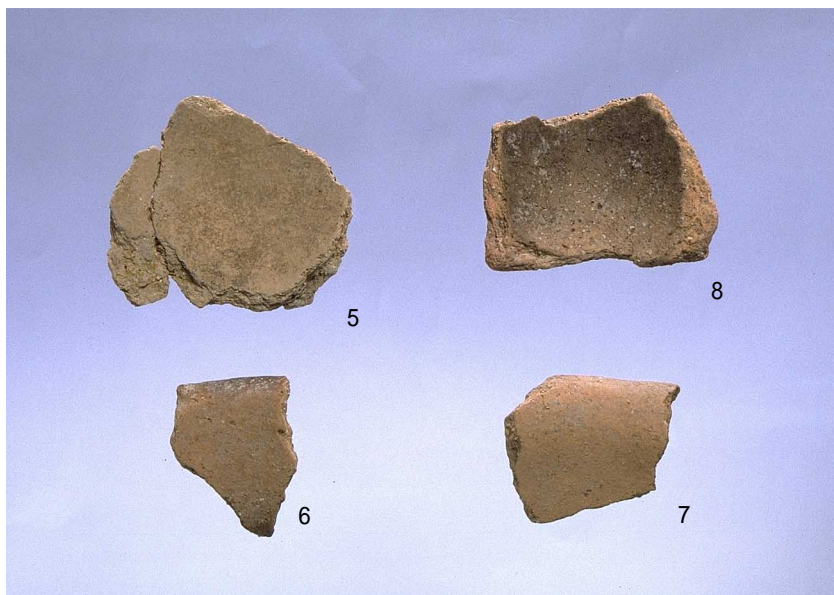
前10SK025茶色土出土遺物<外面> (Fig.10-13)



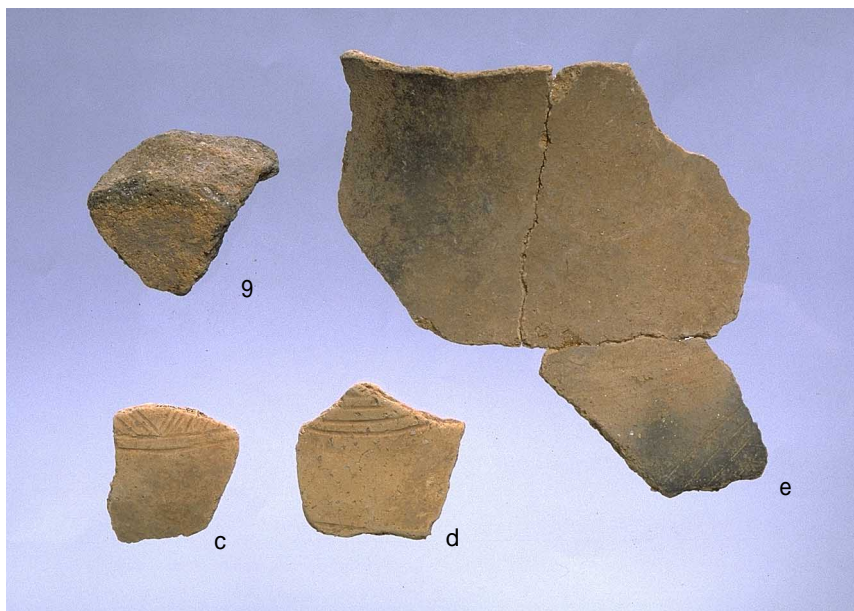
前10SK025茶色土出土遺物<内面> (Fig.10-13)



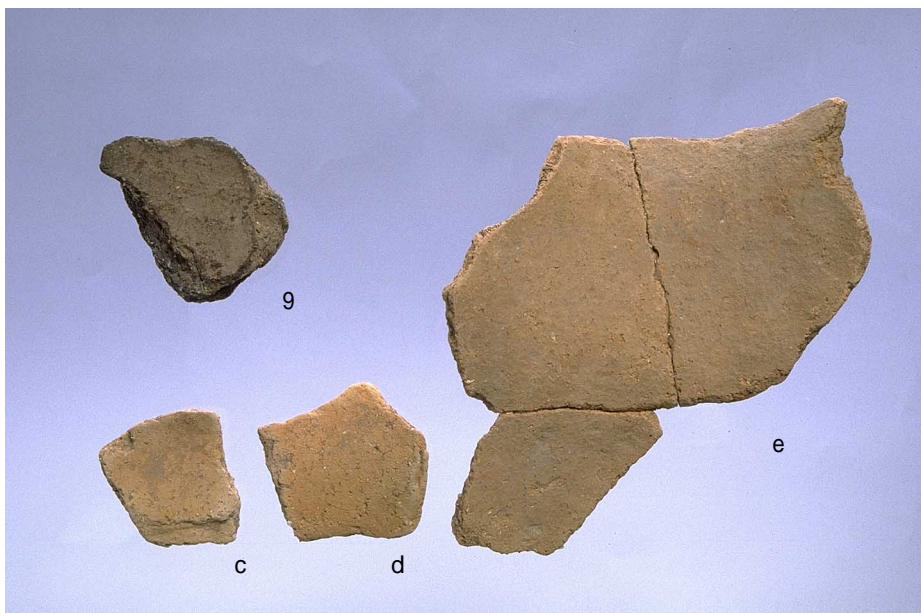
前10SK025茶色土下層出土遺物<外面> (Fig.10-13)



前10SK025 茶色土下層出土遺物<内面> (Fig.10-13)



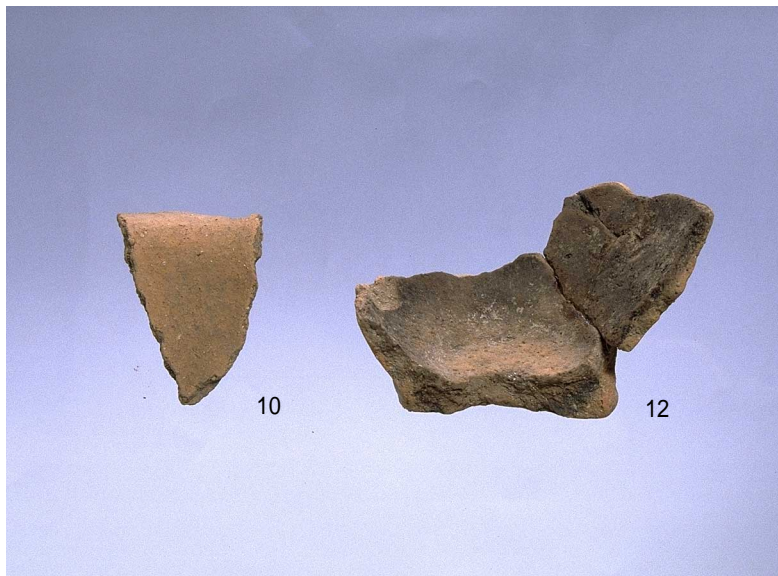
前10SK025 黄色砂出土遺物<外面> (Fig.10-13)



前10SK025黄色砂出土遺物<内面> (Fig.10-13)



前10SK025黄色砂出土遺物<外面> (Fig.10-13)



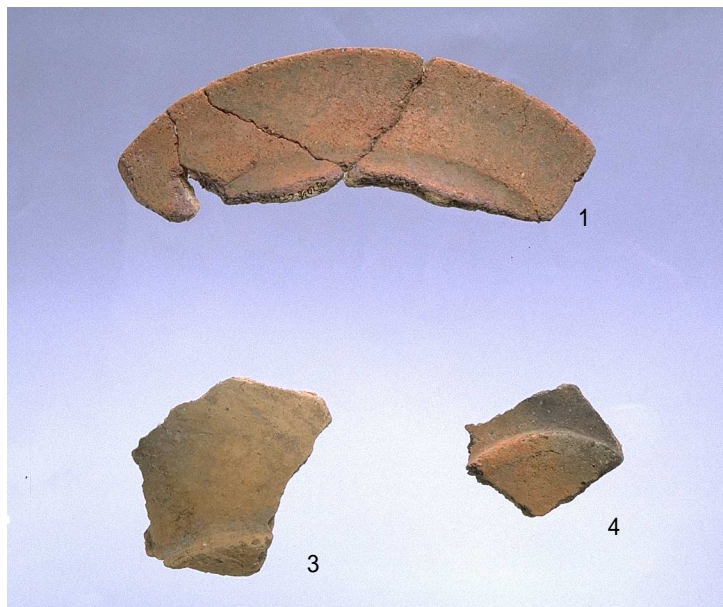
前10SK025黄色砂出土遺物<内面> (Fig.10-13)



前10SK025黄色砂出土遺物<表面>



前10SK025黄色砂出土遺物<裏面>



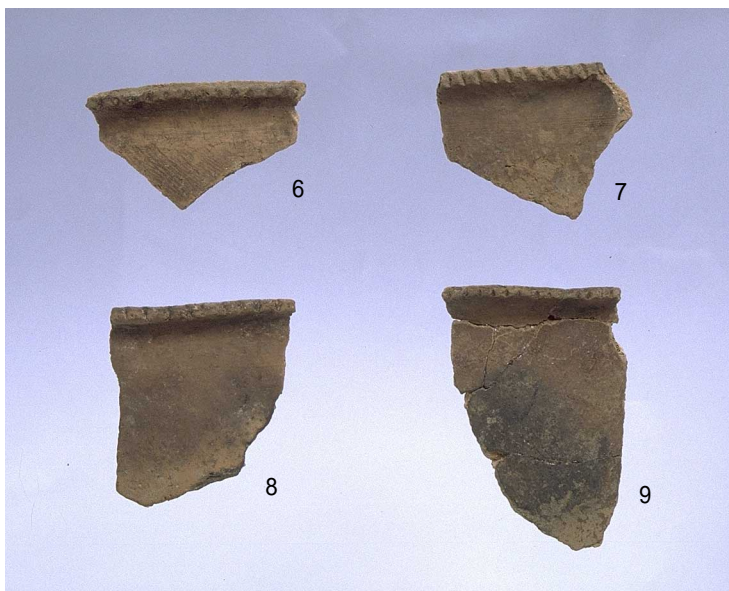
前10SK025茶黒色土出土遺物<外面> (Fig.10-14)



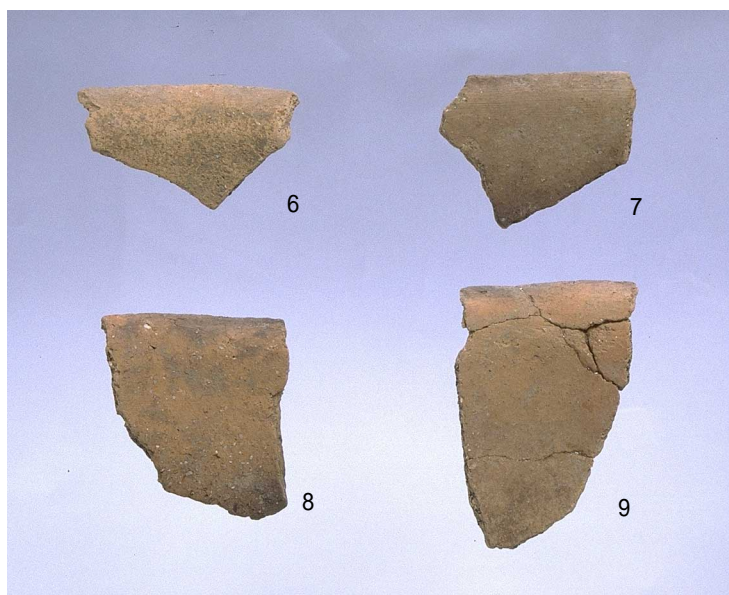
前10SK025 茶黑色土出土遺物<内面> (Fig.10-14)



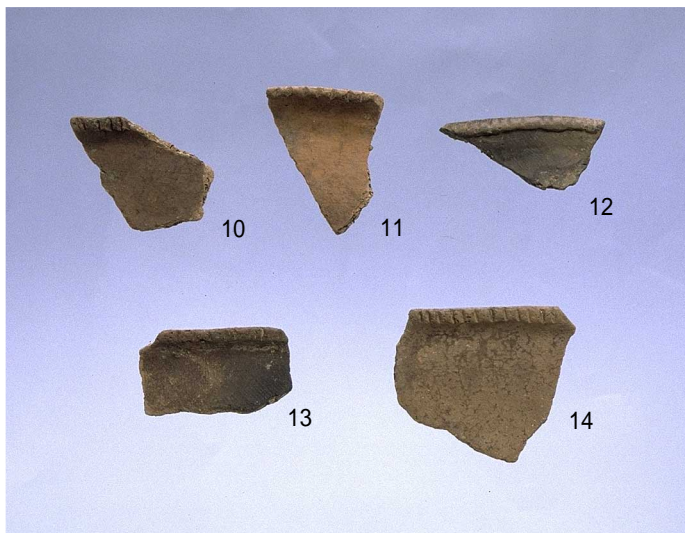
前10SK025 茶黑色土出土遺物 (Fig.10-14)



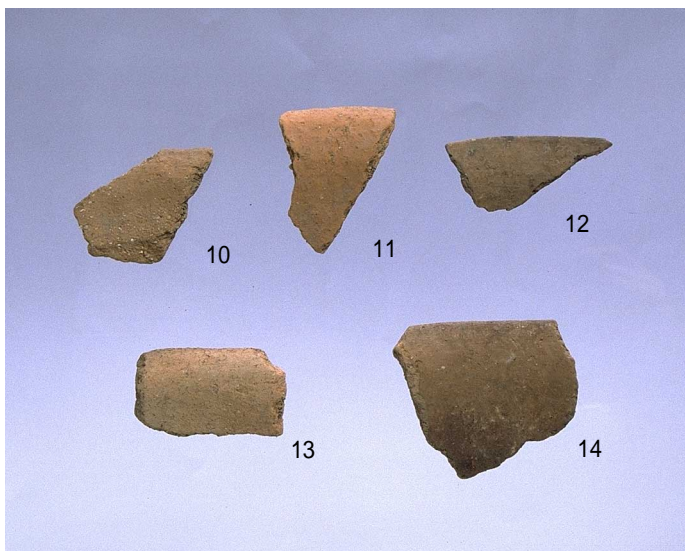
前10SK025茶黒色土出土遺物<外面> (Fig.10-14)



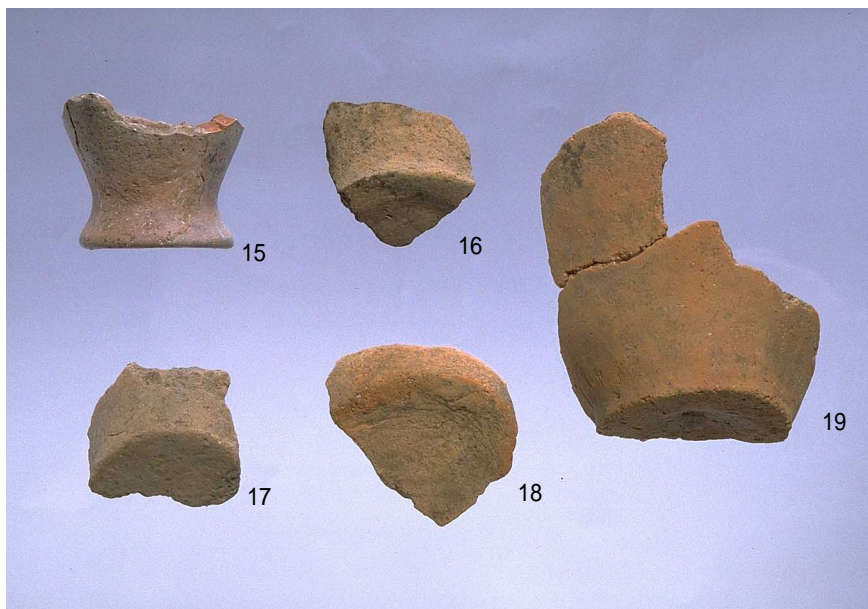
前10SK025茶黒色土出土遺物<内面> (Fig.10-14)



前10SK025茶黒色土出土遺物<外面> (Fig.10-14)



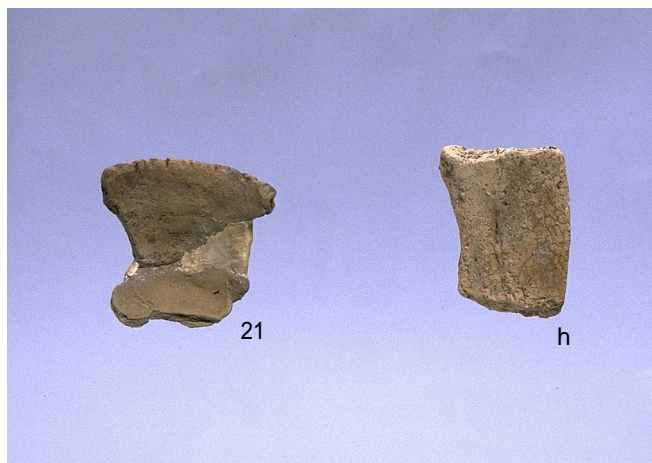
前10SK025茶黒色土出土遺物<内面> (Fig.10-14)



前10SK025茶黒色土出土遺物<外面> (Fig.10-15)



前10SK025茶黒色土出土遺物<外面> (Fig.10-15)



前10SK025 茶黒色土出土遺物<内面> (Fig.10-15)



前10SK025 茶黒色土出土遺物 (Fig.10-15)



前10SK025暗灰色砂出土遺物<外面> (Fig.10-16)



前10SK025暗灰色砂出土遺物<内面> (Fig.10-16)



前10SK025暗灰色砂出土遺物<外面> (Fig.10-16)



前10SK045黒黄色土出土遺物<外面> (Fig.10-17)



前10SK045黒黄色土出土遺物<内面> (Fig.10-17)



前10SK056灰褐色砂出土遺物<外面> (Fig.10-17)



前10SK056灰褐色砂出土遺物<内面> (Fig.10-17)



前10SK056茶灰色砂出土遺物<外面> (Fig.10-17)



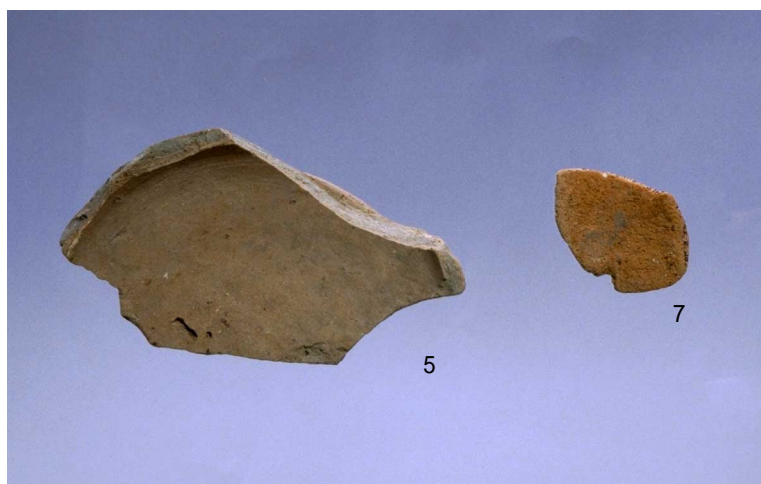
前10SK056 茶灰色砂出土遺物 <内面> (Fig.10-17)



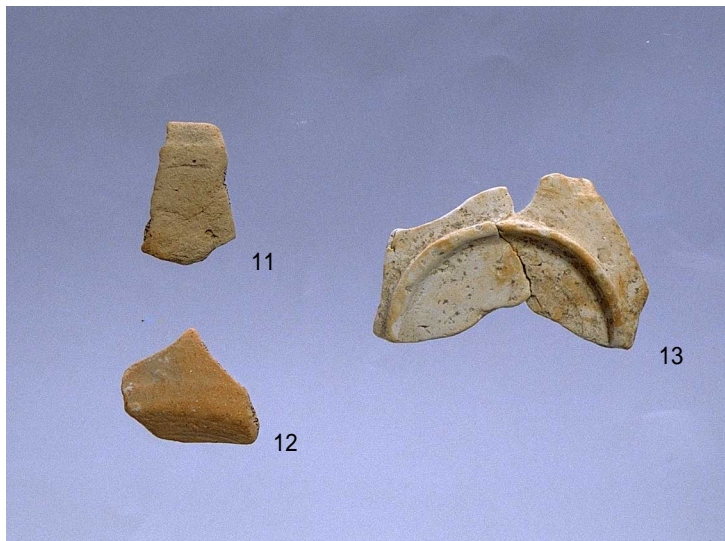
前10SK105 灰色砂・105紫灰色粘出土遺物 (Fig.10-17)



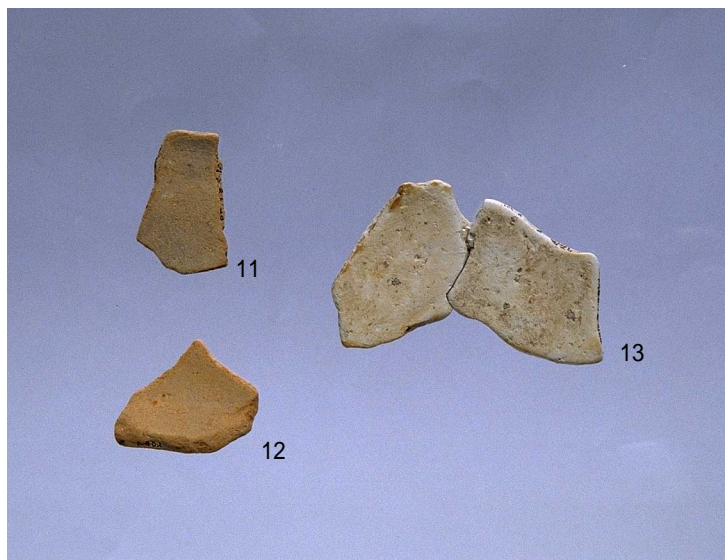
前10SK105灰色砂出土遺物<外面> (Fig.10-17)



前10SK105灰色砂出土遺物<内面> (Fig.10-17)



前10SK134出土遺物<外面> (Fig.10-17)



前10SK134出土遺物<内面> (Fig.10-17)



前10SK095黒茶色土出土遺物<外面>(Fig.10-17)



前10SK095黒茶色土出土遺物<内面>(Fig.10-17)



前10SK075 黒色土・075 黒茶色土出土遺物 (Fig.10-18)



前10SX004 出土遺物 (Fig.10-19)



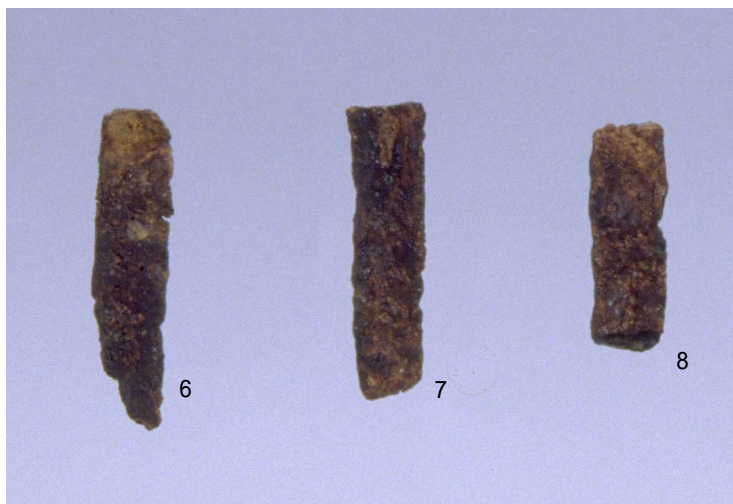
前10SX040 茶灰色土出土遺物<外面> (Fig.10-19)



前10SX040 茶灰色土出土遺物<内面> (Fig.10-19)



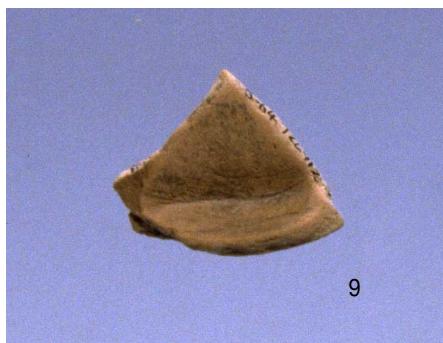
前10SX040 茶灰色土出土遺物 < 外面 > (Fig.10-19)



前10SX040 茶灰色土出土遺物 < 内面 > (Fig.10-19)



前10SX064出土遺物<外面> (Fig.10-19)



前10SX064出土遺物<内面> (Fig.10-19)



前10SX094 出土遺物 < 外面 > (Fig.10-19)



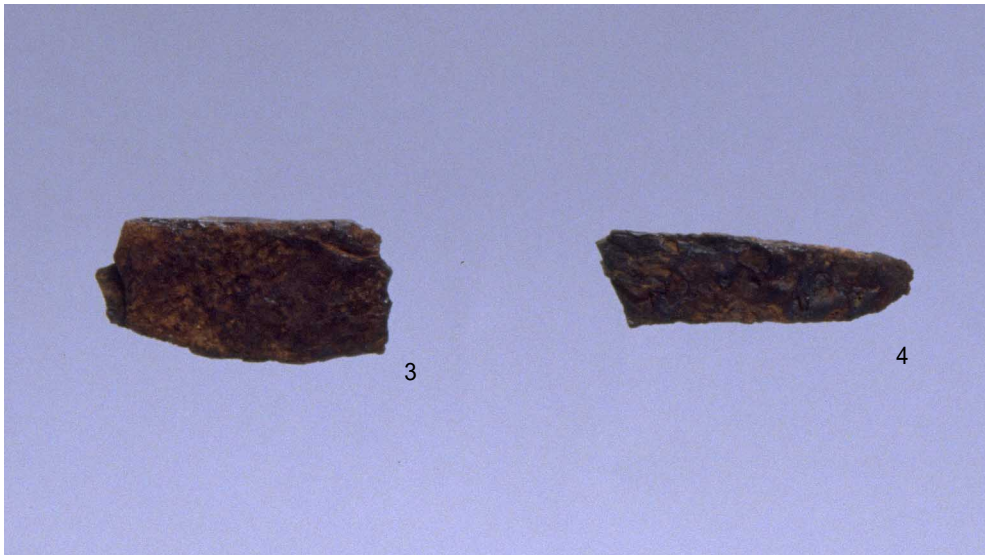
前10SX094 出土遺物 < 内面 > (Fig.10-19)



前10SX127出土遺物<外面> (Fig.10-19)



前10SX127出土遺物<内面> (Fig.10-19)



前10SX127出土遺物 (Fig.10-19)



前10SX136灰色砂出土遺物 <外面> (Fig.10-19)



前10SX136灰色砂出土遺物<内面> (Fig.10-19)



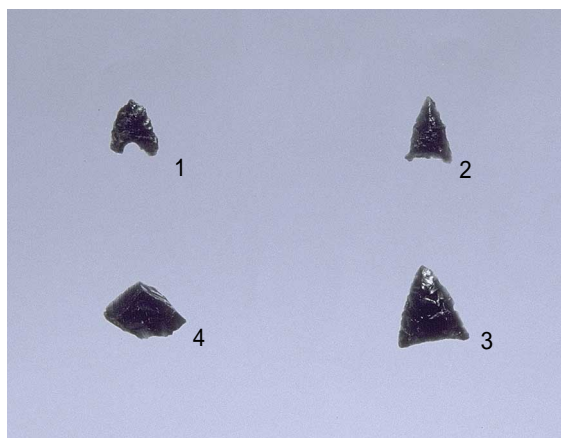
前10暗茶色土・前10表土出土遺物<外面> (Fig.10-20)



前10暗茶色土・前10表土出土遺物<内面> (Fig.10-20)

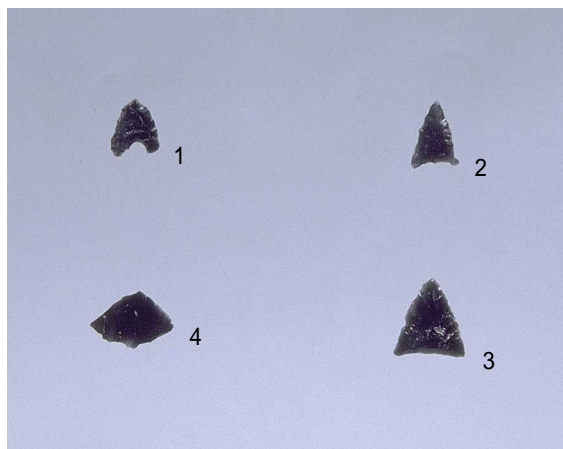


前10表土出土遺物 (Fig.10-20)



前10SI055黒色土・前10SI065

・前10SK025茶色土下層・攪乱出土遺物<表面> (Fig.10-21)



前10SI055黒色土・前10SI065

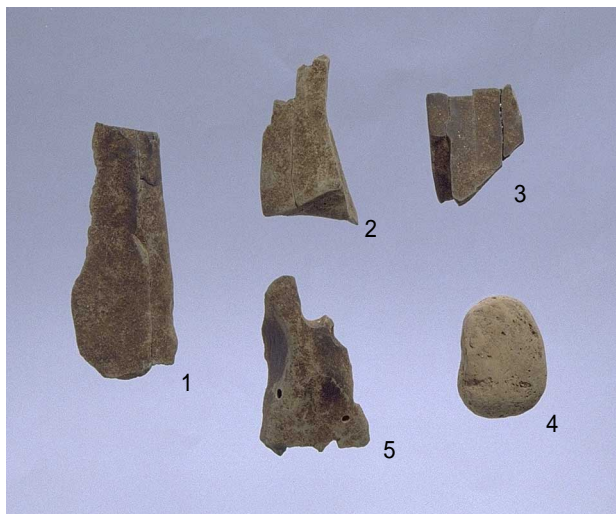
・前10SK025茶色土下層・攪乱出土遺物<裏面> (Fig.10-21)



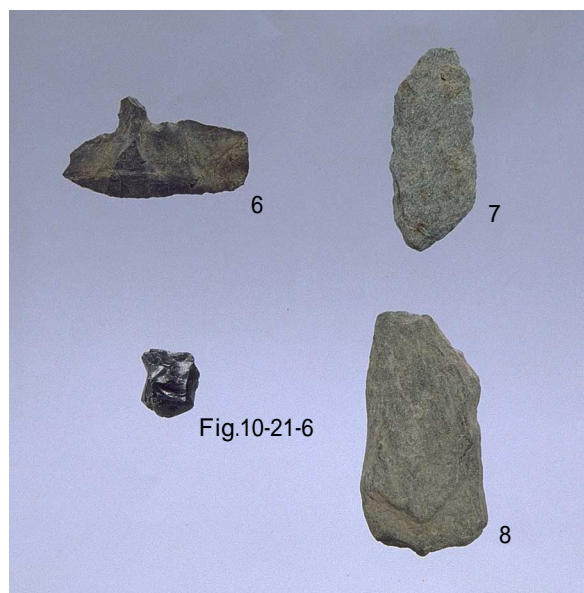
前10SK025 茶黑色土出土遺物 < 上面 > (Fig.10-21)



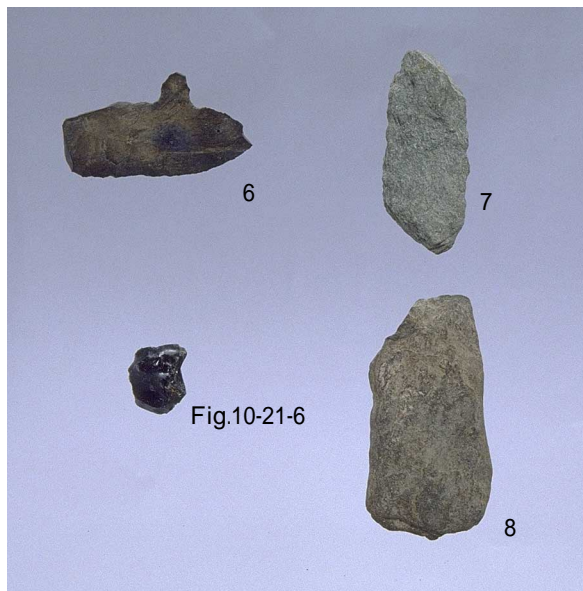
前10SK025 茶黑色土出土遺物 < 横面 > (Fig.10-21)



前10SI070出土石製品 (Fig.10-22)



前10SK075黒茶色土・前10SX110・前10暗茶色土
 ・前10表土出土石製品<表面> (Fig.10-22)



前10SK075 黒茶色土・前10SX110・前10暗茶色土
・前10表土出土石製品<裏面> (Fig.10-22)

Pl.26/27



PL08-26 8SD001出土遺物1



PL08-27 8SD001出土遺物2

総説

8次

9次

10次

第11次調査

調査に至る経緯

地形、層位

遺 構

遺 物

小 結

写真図版

III 調査の記録

4. 前田遺跡第11次調査

1) 調査に至る経緯

調査地は太宰府市大字向佐野字前田443-2,444-2番地に所在する。この前田遺跡第11次調査は佐野地区区画整理事業に伴う事前発掘調査である。調査は平成7(1995)年12月1日から平成8年(1996)年3月31日まで実施した。開発対象面積は730m²、その内の調査対象面積は500m²である。調査は高橋学が担当した。

調査・整理に至る経緯及びその方法については、『太宰府・佐野地区遺跡群I』1989 太宰府市教育委員会をご参照していただきたい。本調査は前述の報告書p.9～p.13(III.調査方法)に従って調査・整理とも進めている。また本文中で、前11SB200と記述の場合は、前田遺跡第11次調査、遺構の性格(この場合は掘立柱建物)、遺構番号200番であることを表している。

2) 地形・層位 (Fig.11-3、11-4、Pl.11-1、11-2、11-4)

調査区の位置は、前田遺跡第6・7・10次調査地点に囲まれた土地である。大佐野川の北岸にあたり、宮ノ本丘陵の東裾に位置する。地形は宮ノ本丘陵から東の平野に向かって延びている傾斜地の中位にあたる。調査前の対象地の現況地形は上下二段の畑作利用地になっていた。基盤層は宮ノ本丘陵から供給された花崗岩風化土の流出した土砂により形成されており、調査区内では粘質が強い黄灰色粘質土の下に淡緑灰色砂が堆積していることが確認できた。遺構は主に黄灰色粘質土を掘削して構築されている。遺構の検出環境は、表土である明黄灰色土(真砂土)、暗青灰色土(旧耕作土)、明黄灰砂質土(床土)、茶褐色土(包含層)の順に除去すると、大部分の遺構プランが認識された。しかし北側中央部の茶褐色土層は他の場所と比較してかなり厚く堆積しており、遺構の検出に時間がかかった。

3) 遺構 (Fig11-1、11-2、Pl.11-3、11-4、11-5)

遺構は調査区の北東部を中心に密度が高く、西部及び南部にいくに従って希薄になる傾向が認められる。遺構の形成時期とその概要は、弥生時代前期前半から中頃の竪穴住居と貯蔵穴、弥生時代後期前半から古墳時代前半の竪穴住居、奈良時代中期の掘立柱建物、竪穴住居、土壇、平安時代の墳墓、鎌倉時代の不明遺構(墳墓の可能性)などが主なものである。以下、遺構の性格別に報告する。

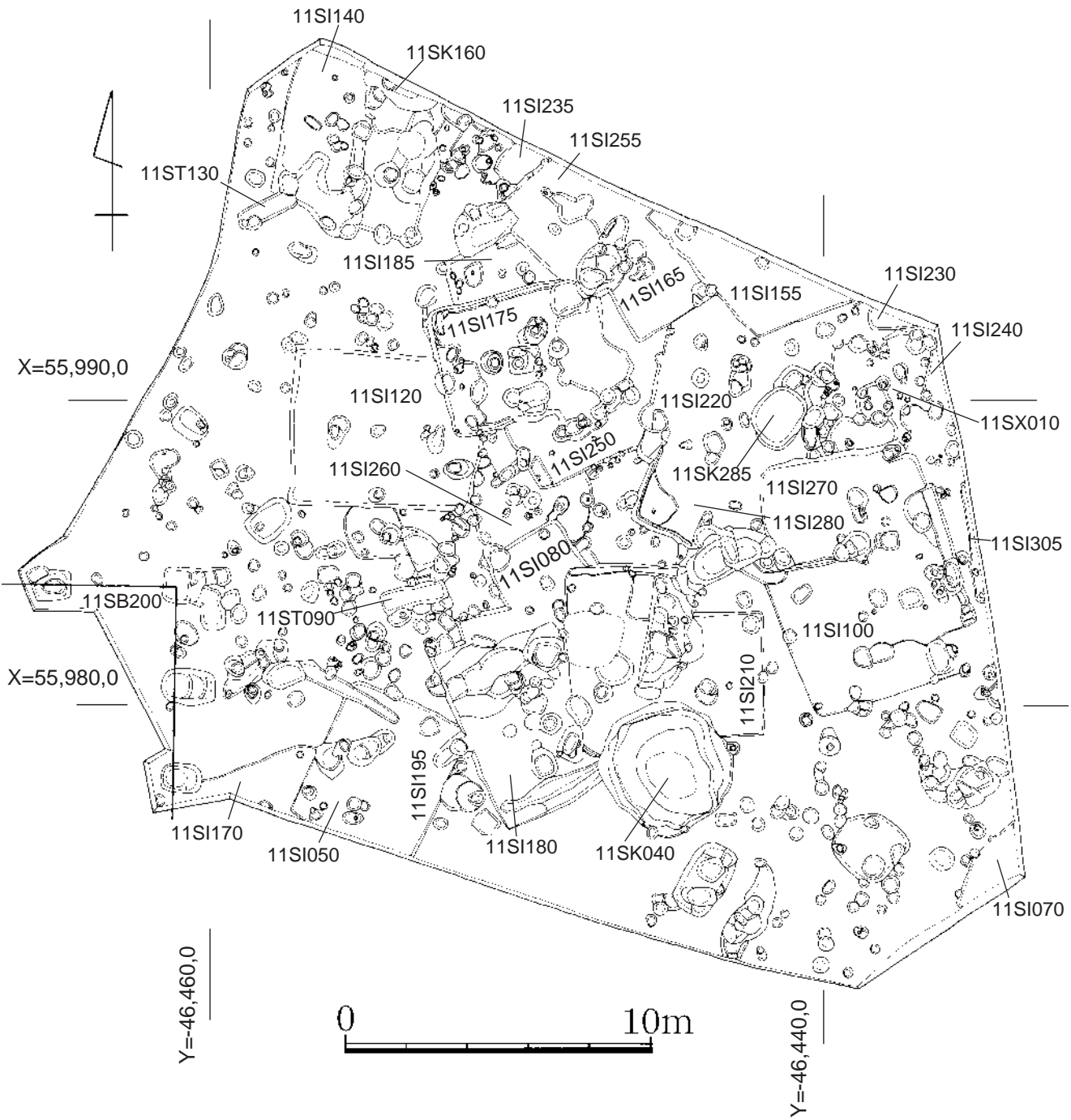
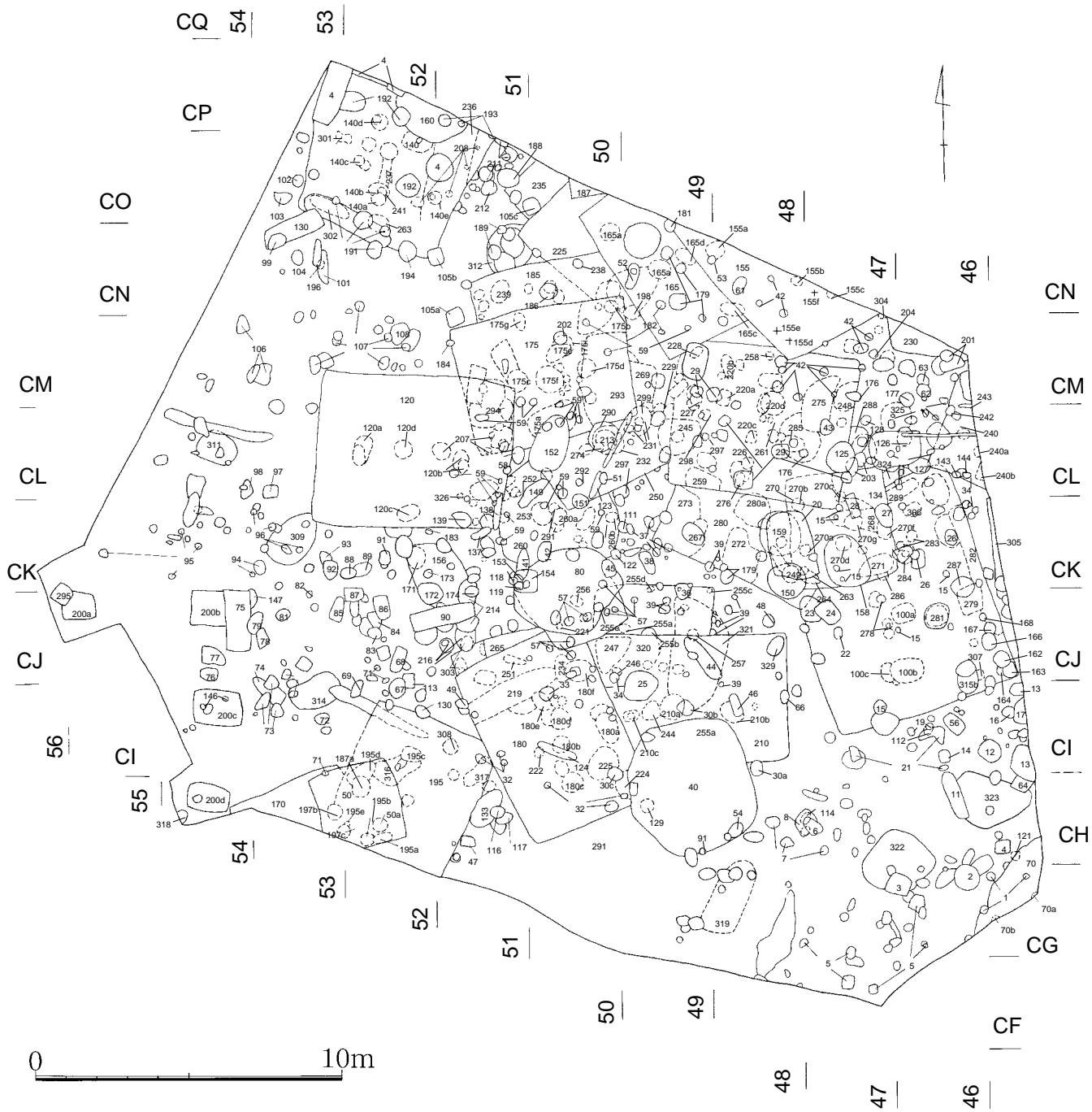


Fig.11-1 前田遺跡第11次調査 遺構配置図

前田遺跡第11次 遺構早見表

番号	遺構種別	切り合い	時期	地区
010	土墳墓?	126 010 034	12C	CL40
040	土墳	210 180 040	8C ~	CI49
050	竪穴住居	170 195 050	8C ~	CH52
070	竪穴住居	121 070	弥生後期前半 ~ 中頃	CG45
075	土墳墓	200 075 079	10C	CJ54
080	竪穴住居	255 080 260 080 180 080	8C ~	CK50
090	木棺墓	156 090 214 090	8C ~	CJ51
100	竪穴住居	100 280 270 220	弥生後期中頃 ~ 後半	CJ40
120	竪穴住居	175 120 58	~ 古墳時代前期初頭	CL52
130	木棺墓?	140 130 099	9C ~	CN53
140	竪穴住居	140 160 140 130	弥生後期後半 ~ 末期	CN52
150	土墳	280 270 150 020	弥生後期	CR48
155	竪穴住居	220 165 155	~ 古墳時代前期初頭	CN48
160	土墳	140 160 192	8C ~	CP52
165	竪穴住居	185 165 155	~ 古墳時代前期初頭	CN49
170	竪穴住居	170 195 050	弥生後期 ~	CH53
175	竪穴住居	185 250 175 120	弥生後期後半 ~ 末期	CM50
180	竪穴住居	210 180 040	~ 古墳時代前期初頭	CI50
185	竪穴住居	225 185 165	弥生後期後半 ~ 末期	CN50
195	竪穴住居	170 195 180	弥生後期中頃 ~ 後半	CH52
200	掘立柱建物	200 295	8C ~	CG54
210	竪穴住居	255 210 180 040	弥生後期中頃 ~ 後半	CJ49
220	竪穴住居	165 220 250,280,270	弥生後期後半 ~ 末期	CL47
225	竪穴住居	235 225 187	弥生後期後半 ~ 末期	CN50
230	竪穴住居	230 201	弥生後期中頃 ~ 後半	CM40
235	竪穴住居	235 225 187	弥生後期 ~	CO50
240	竪穴住居	100 240 127 010	弥生後期 ~	CL46
250	竪穴住居	250 220	弥生後期 ~	CL50
255	竪穴住居	255 210 190	弥生前期中 ~	CJ49
260	竪穴住居	260 250 152	弥生前期?	CK50
265	竪穴住居	265 180 080	~ 古墳時代前期初頭	CJ51
270	竪穴住居	270 220	弥生後期後半 ~ 末期	CK47
275	土墳	285 220 275	弥生後期後 ~	CM47
280	竪穴住居	100 280 270 220	弥生後期 ~	CK48
285	土墳	285 220 275	弥生前期中 ~	CL48
305	竪穴住居		弥生前期?	CK45

Tab.11-1 遺構番号早見表



注この遺構略測図は、佐野地区遺跡群の地区割りには従っていない任意の地区割りにより作成されている。

Fig.11-2 前田遺跡第11次調査 遺構略測図

前田11次調査 遺構番号台帳 (1)

S-番号	遺構番号		種 別		地区	
1			ピット	70 1	8C ~	CG45・46
2			土壌		弥生後期 ~	CG46
3			ピット	322 3	8C ~	CG46
4			ピット		弥生後期	CG46
5			ピット群		奈良	CH45
6			ピット	114・8 6	8C ~	CF47
7			ピット群		弥生後期	CH47
8			ピット	114・8 6	弥生 ~	CH48
9			ピット	40 9		CH47
10	11SX010		土壌×墓	126 10 34	12C ~	CH49
11			土壌	323 11	奈良	CL46
12			ピット		弥生後期 ~	CH46
13			土壌	323 64 13	12C ~	CI45
14			ピット			CI45
15			ピット群		奈良 ~	CI46
16			ピット	16 17	8c 後 ~	CI45
17			ピット群	16 17	12C ~	CI45
18			ピット			CI45
19			ピット群			CI46
20			溜まり			CK48
21			ピット群			CI46
22			ピット			CJ47
23			土壌		弥生後期 ~	CJ47
24			土壌		奈良 ~	CJ47
25			土壌		奈良 ~	CI49
26			ピット群	26 27		CK46
27			ピット		弥生後期 ~	CK47
28			土壌		奈良 ~	CK47
29			ピット群		8c ~	CL48
30			ピット群			CI48
31			ピット群	10・100・289・240	平安 ~	CL46
32			ピット群	180・195・317・224 32		CH50
33			ピット群	180 33	中世	CI50
34			ピット群			CJ50
35	(11SI080)		土層	S-80検出時の茶褐色土	8c 後半 ~ 9C	CK50
36			ピット	255 36		CJ49
37			ピット群	111・180 37		CK49
38			土壌		弥生後期	CK49
39			ピット群	255・280 39	中世	CJ49
40	11SK040		土壌	210 180 040	8C中頃 ~ 後半	CI49
41			ピット	284 41		CK46
42			ピット群	220 155 42	7c ~	CM47
43			ピット	220 43	8c ~	CL47

・・・xは原位置不明

Tab.11-2 前田11次調査 遺構番号台帳

前田11次調査 遺構番号台帳 (2)

S番号	遺構番号	種別	種別	地区
44		土壌	210 44	CJ49
45		ピット	190 80 45	CK50
46		溜まり	210b 46	CI48
47		ピット		CH51
48		ピット		CJ48
49		ピット群	180 49	CI51
50	11SI050	竪穴住居	170 195 050	CH52
51		ピット		CL50
52		ピット		CN49
53		ピット		CN49
54		ピット		CH48
55	11SB200c	掘立柱建物	55 146	CI54
56		ピット群		CI46
57		ピット群	180・190・255・80 57	CJ50
58		ピット	120 58	CL51
59		ピット群	120・152・175・260 59	CL50
60	欠番			
61		ピット	155 61	CN48
62		ピット	63 62	CM46
63		ピット	63 62	CM46
64		土壌	323 64 13	CH45
65	11SB200b	掘立柱建物	65 75	CJ54
66		ピット	210 66	CI48
67		ピット	113 67	CJ52
68		土壌		CJ52
69		土壌		CI52
70	11SI070	竪穴住居	121 70 1	CG45
71		ピット	50 71	CJ52
72		ピット		CI53
73		ピット群	74・314 73	CI53
74		土壌	74 73	CI53
75	11ST075	土壌墓	200 075 079	CJ54
76		ピット		CJ54
77		ピット		CJ54
78		土壌	79 78	CJ53
79		土壌	75 79 178	CJ53
80	11SI080	竪穴住居	180・255・260 080	CK50
81		ピット		CJ53
82		ピット群		CJ53
83		ピット	84 83	CJ52
84		ピット	84 86・83	CJ52
85		ピット		CJ53
86		土壌		CJ52

・・・×は原位置不明

Tab.11-3 前田11次調査 遺構番号台帳

前田11次調査 遺構番号台帳 (3)

S番号	遺構番号		種 別		地区
87		ピット		弥生後期	CJ52
88		ピット	89 88	8C中～	CK52
89		ピット	89 88	8C～	CK52
90	11ST090	木棺墓	156 090 214 090	9C～	CJ51
91		ピット			CK52
92		ピット	93 92		CK53
93		ピット	93 92	弥生中～	CK53
94		ピット群			CK53
95		ピット群		8C～	CK54・CM53
96		ピット群		弥生後期～	CK53
97		ピット			CL53
98		ピット		弥生後期～	CL53
99		ピット	130 99		CN53
100	11SI100	竪穴住居	100 280 270 220	弥生末～古墳前期前半	CJ46～CK47
101		土壇	196 101	弥生～	CN53
102		ピット			CO53
103		土壇			CO53
104		ピット			CN53
105		ピット群			CN51
106		ピット群			CM53
107		ピット群	108 107		CM53
108		ピット群	108 107	弥生後期～	CM52
109		ピット			CL50
110		土層	11SI080の暗茶褐色土	奈良～	CK50
111		ピット	260 111 37		CK49
112		ピット	112 19・21		CI46
113		ピット	113 67		CI52
114		土壇	114 6・8	8c～	CH47
115		土壇		8C～	CL50
116		ピット	117・133 116		CH51
117		ピット	117 116		CH51
118		ピット	119 118		CK51
119		ピット	153 119 118		CK51
120	11SI120	竪穴住居	175 120 58	弥生後期後半～古墳前期前半	CL52
121		ピット	70 121		CH45
122		ピット	260 122		CK50
123		溝	250 123		CL50
124		土壇	180 124		CI50
125		土壇	220 125 29	8C～	CL47
126		ピット	126 10		CL46
127		ピット	100 127 10		CL46
128		ピット群	288 128		CL47
129		ピット	40 129	奈良～	CH49

・・・xは原位置不明

Tab.11-4 前田11次調査 遺構番号台帳

前田11次調査 遺構番号台帳 (4)

S-番号	遺構番号		種 別			地区
130	11ST130	木棺墓?	140 130 99	7C中頃～		CO46
131		土壇			×	CJ51
132		ピット群			×	CK51
133		土壇	195 133 116			CH51
134		ピット群	134 10			CL47
135		土壇	135 120	弥生後期～	×	CI46
136		ピット	195 136			CI52
137		ピット	120 138 137			CK51
138		土壇	120 138	奈良～		CK51
139		ピット	120 139	奈良～		CK51
140	11SI140	竪穴住居	140 160 140 130	弥生後期後半～		CO52
141		土壇	60 141			CK51
142		土壇		8C中頃～		CK50
143		ピット				CL46
144		ピット				XL46
145			欠番			
146		ピット	55 146 134			CI54
147		ピット	65 146			CG54
148		ピット			×	CG46
149		土壇	260 149			CL51
150	11SX150	土壇	280 270 150 020	弥生後期～		CK48
151		ピット		弥生後期～		CK50
152		土壇	70 152	8C～		CL50
153		ピット				CK51
154		ピット	153 154 105 154	8C～		CK51
155	11SI155	竪穴住居		古墳前期～		CN48
156		溜まり	171 156 172・173 90	奈良～		CK52
157			欠番			
158		土壇	157 158 85 158	12C～		CK47
159		土壇	125 159 56			CK48
160	11SK160	土壇	140 160 192	8C～		CP52
161		土壇	125 161			CJ45
162		ピット	100 164 163 162			CJ45
163		ピット	100 164 163 162			CJ45
164		ピット	100 164 163 162			CJ45
165	11SI165	竪穴住居	185 165 155	古墳前期		CN49
166		土壇	100 167 166	弥生後期～	×	CJ45
167		ピット	100 167 166	古墳前期		CJ45
168		ピット	100 168	弥生		CJ46
169		ピット		弥生～		CJ46
170	11SI170	竪穴住居	170 195 050	弥生後期～		CH53
171		土壇	171 156			CK51
172		土壇	172 156			CK51

・・・×は原位置不明

Tab.11-5 前田11次調査 遺構番号台帳

前田11次調査 遺構番号台帳 (5)

S番号	遺構番号		種 別		地区
173		ピット	173	156	CK51
174		ピット	214	174	CK51
175	11SI175	竪穴住居	185	250 175 120	弥生後期～
176		ピット	220	176	CL48
177		ピット	325	177	CM46
178		ピット	280	178	CK48
179		ピット群	165	179	CN49
180	11SI180	竪穴住居	225	185 165	弥生
181		ピット	165	155 181	弥生後期
182		ピット群	165	182	CM・CN49
183		ピット			CK52
184		ピット	175	184	CM51
185	11SI185	竪穴住居	225	185 165・175	弥生後期～
186		ピット	185	186	CN50
187		土壇	225	187	CO50
188		たまり	235	188	8C～
189		ピット群	312	189	CN51
190	(11SI080)	住居			奈良
191		ピット群	140	191	弥生後期～
192		ピット群	140	192	CO52
193		ピット群	140	193	8C～
194		ピット	140	194	弥生後期～
195	11SI195	竪穴住居	170	195 180	弥生後期～
196		ピット群			CN53
197		ピット群			近代～
198		土器溜まり			弥生後期～末
199		土器溜まり			弥生後期～
200	11SB200a	掘立柱建物	200	295	弥生後期～
201		ピット群			CM46
202		ピット	175f	202	CM50
203		ピット	288	203 125	奈良～
204		ピット			CM47
205	11SB200 d	掘立柱建物	200	295	弥生後期～
206		ピット群			12C～
207		ピット群	120	207	奈良～
208		ピット群	208	140	CO51
209					CO51
210	11SI210	竪穴住居	255	210 180 040	弥生後期～
211		ピット群			8C～
212		ピット	140	212	CO51
213		土壇	250	290 213 274	CL50
214		ピット群	214	090	弥生後期～
215	(11SI210)				弥生後期～

・・・xは原位置不明

Tab.11-6 前田11次調査 遺構番号台帳

前田11次調査 遺構番号台帳 (6)

S-番号	遺構番号		種 別		地区
216		ピット群	303 216	8C~	CJ51
217		ピット群	180 217	弥生後期	CI50
218		ピット			CJ50
219		土壇	219 180	弥生後期~	CI51
220	11SI220	竪穴住居	250・280 270 220 125	弥生後期後葉~	CL47・48
221		ピット	80 221 57		CJ50
222		ピット	224 124		CI50
223		土壇	223 030c	奈良~	CH50
224		土壇	223 030c		CH50
225	11SI225	竪穴住居	235 225 187	弥生後期~	CN50
226		ピット			CL48
227		ピット群	227 029		CM49
228		ピット群	228 029		CM49
229		ピット	229 245		CL49
230	11SI230	竪穴住居	230 201	弥生後期後葉	CM46
231		ピット群	298 231		CL49
232		土壇	213 232	弥生後期~	VL50
233		ピット		弥生後期~	x CJ50
234		ピット	219 234 180f		CJ50
235	11SI235	竪穴住居	235 225 187	弥生後期~	CO50
236		ピット	236 140 160	弥生後期~	CO52
237		溝状	237 140b	弥生後期~	CO52
238		ピット	225 238		CN50
239		土壇	185 239	弥生後期~	CN51
240	11SI240	竪穴住居	100 240 127 010	弥生後期~	CL46
241		ピット	241 140b		CO52
242		ピット	240 242	奈良~	CL46
243		溝	240 243	奈良~	CL46
244		溜まり	244 210a	弥生後期	CI49
245		ピット	220 245	弥生後期	CL49
246		ピット	210 246 034	弥生後期中葉~	CI50
247		溜まり	320 247		CI50
248		土壇	220 248		CM47
249		ピット	150 249	奈良~	CK48
250	11SI250	竪穴住居	250 220	弥生後期~	CL50
251		ピット	251 080		CI51
252		ピット	260 252		CL51
253		土壇	303 216		CL51
254		ピット	180 217		CK50
255	11SI255	竪穴住居	255 210 190	弥生前期中葉~	CJ49
256		ピット	256 80	弥生後期~	CJ50
257		ピット		弥生前期	CJ49

・・・xは原位置不明

Tab.11-7 前田11次調査 遺構番号台帳

前田11次調査 遺構番号台帳 (7)

S番号	遺構番号		種 別		地区
258		ピット	220 258		CCM48
259		土壌	220 259	弥生後期～	CL49
260	11SI260	竪穴住居	260 250 152	弥生前期～	CK50
261		ピット	285 261		CL48
262		ピット	140 262 191	弥生後期	CO52
263		ピット	264 263		CK47
264		土壌	264 263		CK47
265	11SI265	竪穴住居	265 180 080	古墳前期	CJ51
266		土層	*11SI270に伴う	弥生後期～	CK47
267		土壌	280 267	弥生後期～	CK49
268		溜まり	268 270g・f		CK47
269		土壌	269 293	弥生後期～	CM49
270	11SI270	竪穴住居	270 220・010・158・020	弥生後期～	CK47
271		溜まり		弥生後期～	CK47
272		土壌	280 272	弥生後期～	CK49
273		溜まり	280 273 267		CK48
274		ピット	290 232 274 013	弥生後期	CL50
275	11SK275	土壌	285 220 275	弥生後期～	CL46
276		ピット	276 029		CL48
277		土壌	220 277		CL49
278		ピット群	220 027		CJ47
279		土壌	220 279 287	弥生後期～	CK48
280	11SI280	竪穴住居	100 280 270 220	弥生後期～	CJ46
281		ピット		弥生後期～	CJ46～CK46
282		溝	100 282	弥生後期～	CK46
283		ピット群	283 041	奈良	CK46
284		ピット	284 041	弥生後期～未	CJ46
285	11SK285	貯蔵穴	285 275	弥生前期中頃～	CL46
286		ピット	100 286 271 270	弥生後期前葉～	CK47
287		ピット	279 287	弥生後期～	CK46
288		土壌	288 220 125	弥生後期～	CL47
289		溝	100 289	弥生後期～	CL47
290		土壌	213・232と同一遺構		CL50
291		ピット	291 260a		CK50
292		土壌	250 292		CL50
293		土壌	175 293		CL50
294		溜まり	175 294		CJ55
295		ピット	200 295	弥生後期～	CK56
296		ピット			x CL50
297		ピット	297 220・250	弥生後期～	CL47
298		ピット	220 298		CL48

・・・xは原位置不明

Tab.11-8 前田11次調査 遺構番号台帳

前田11次調査 遺構番号台帳 (8)

S-番号	遺構番号	種 別	地区
299		ピット 299 175	CL49
300		欠番	
301		ピット 301 140	CO52
302		ピット 140 302	CO53
303		ピット 303 216	奈良 CJ51
304		ピット	CM47
305	11SI305	竪穴住居 305 026	弥生前期 ~ CK45
306		ピット 306 100	CK46
307		ピット 100 307	CJ46
308		ピット 308 195	CI51
309		土壌 309 096	CK53
310		欠番	
311		溜まり	CL54
312		溜まり 312 189	CN51
313		溜まり 313 325 185 165 052	CN53
314		溜まり 314 073	CI53
315		ピット	CI46
316		溜まり	CI52
317		溜まり 317 195	CI51
318		土壌	CH54
319		土壌	CG48
320		トレンチ	CI49・50
321		溜まり 321 255	CI49
322		土壌 322 003	CH47
323		土壌 323 011	CH46
324		土壌 324 100 270	CL46
325		土壌 325 126 010	CL46
326		ピット 326 120	CL51
327		ピット 210 327	CJ48

・・・xは原位置不明

Tab.11-9 前田11次調査 遺構番号台帳

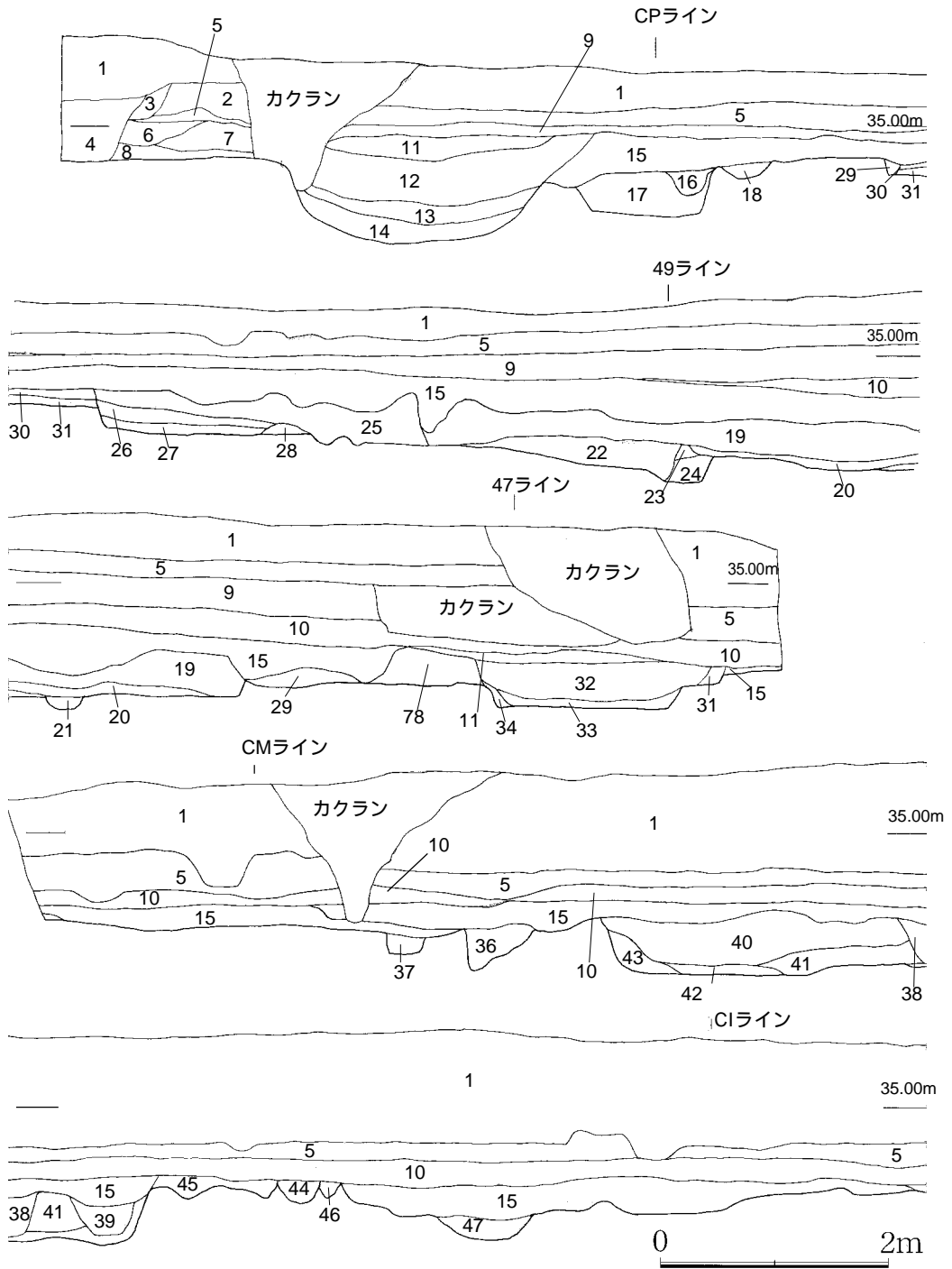


Fig.11-3 前田遺跡第11次調査調査区北壁・東壁（その1）土層観察図

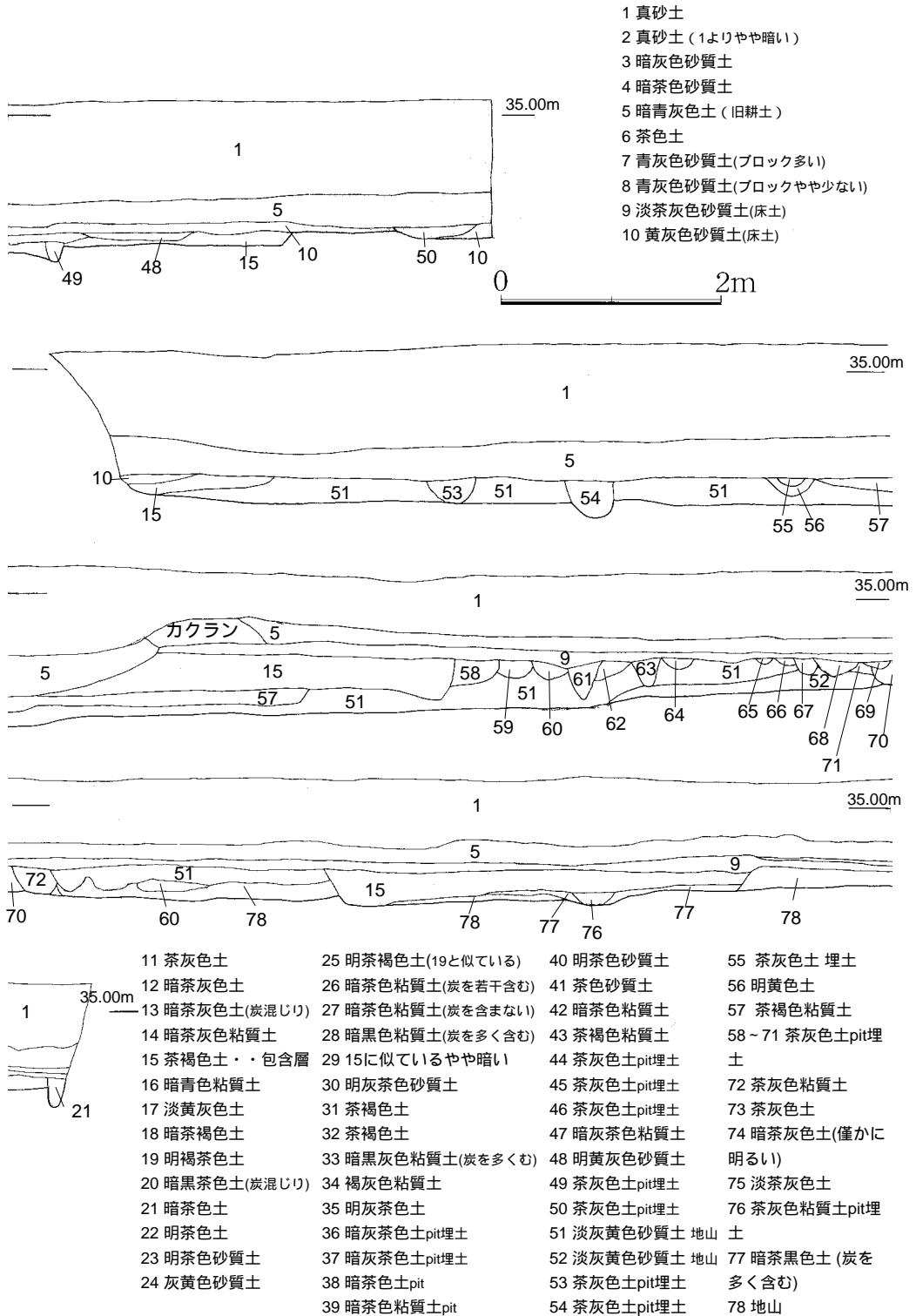
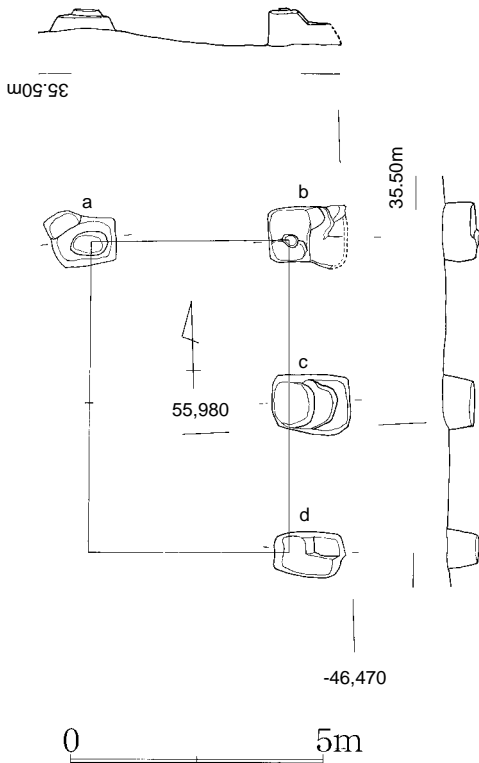
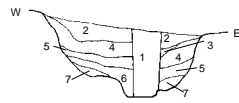


Fig.11-4 前田遺跡第11次調査調査区東壁 (その2)・南壁土層観察図

前11SB200

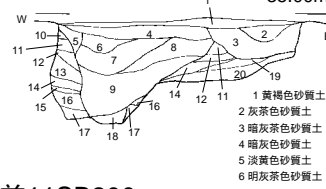


前11SB200a 35.00m



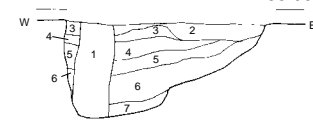
- 1 茶色粘質土
- 2 茶黄色粘質土
- 3 茶褐色粘質土
- 4 暗茶色粘質土
- 5 淡黄褐色粘質土
- 6 暗茶色粘質土
- 7 淡黄色砂質土 地山か

前11SB200b 35.00m



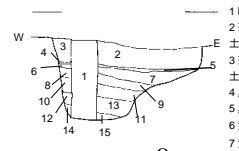
- 7 暗灰茶色土(黄ブロック含)
- 8 茶褐色砂質土
- 9 褐茶色粘質土
- 10 明灰色砂質土
- 11 暗茶褐色砂質土
- 12 淡黄色砂質土
- 13 淡黄色砂質土+淡茶褐色土
- 14 暗茶色粘質土
- 15 明黄色砂質土
- 16 暗茶褐色粘質土
- 17 淡灰色粘質土
- 18 淡灰褐色粘質土・・・柱痕
- 19 明黄褐色砂質土
- 20 暗黄褐色砂質土

前11SB200c 35.00m



- 1 暗茶色砂質土
- 2 やや明るい暗茶褐色砂質土
- 3 淡黄色砂質土
- 4 暗灰褐色砂質土+淡黄色砂質土ブロック
- 5 淡黄色砂質土+淡茶褐色土
- 6 茶褐色土
- 7 暗灰茶色土

前11SB200d 35.00m



- 1 暗灰茶色土
- 2 茶色土+明橙色真砂土
- 3 茶色土+明橙色真砂土
- 4 黒茶色土
- 5 黒茶色土
- 6 黄白色真砂土
- 7 黄白色真砂土
- 8 黒茶色土
- 9 黒茶色土
- 10 茶色土+明橙色真砂土
- 11 茶色土+明橙色真砂土
- 12 黒茶色土
- 13 黒茶色土
- 14 茶色土+明橙色真砂土
- 15 茶色土+明橙色真砂土

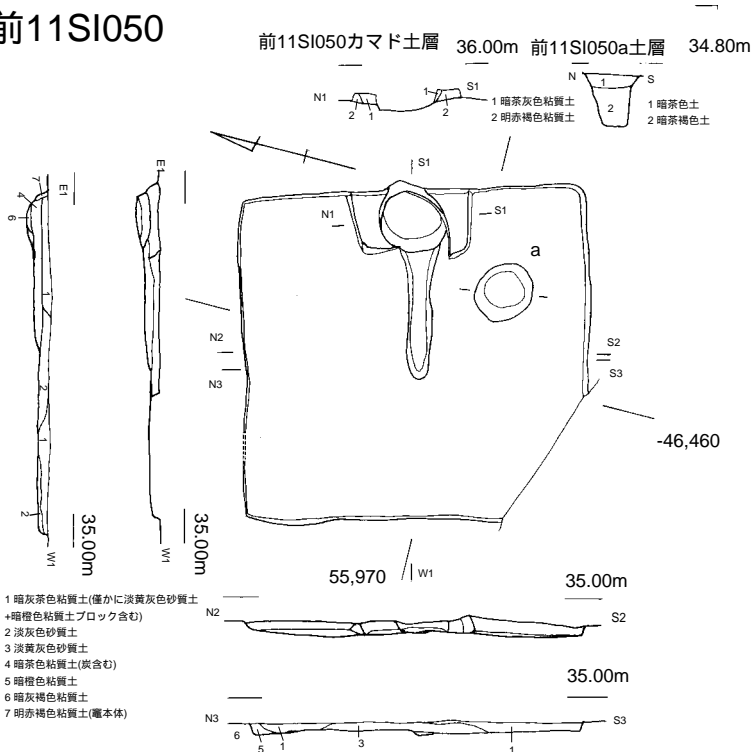
Fig.11-5 前田遺跡第11次調査 SB200実測図・土層観察図

掘立柱建物

前11SB200 (Fig.11-5、PI.11-6、11-7、11-8)

調査区西部CH54地区周辺で検出した。全体の規模は調査区外に伸びるため不明であるが、検出した範囲内では東西1間以上、南北2間以上の掘立柱建物と考えられる。柱間は東西列が4.0mで、南北列は北から3.2m・3.0mである。掘り方の土層観察では柱穴a、c、dには柱痕跡が残されていた。柱掘り方は略方形で東西1.3～1.6m、南北0.9～1.1m、深さは0.60～0.80m程度である。柱掘り方の断面形状は階段状になっており、東側のものは東方向に段が付く、西側のものは西方向に段が付く。柱痕跡から柱の直径は20～30cmと推定できる。柱掘り方bは、11ST075による掘削を受けており本来の規模は不明である。また土層観察によると柱は抜き取られている。建物の主軸方向の振れはN-2°13'-Eである。

前11SI050



出土した須恵器の年代観から、上限は8世紀中頃～後半であり、また鎌倉時代の11ST075に切られていることから、掘立柱建物は奈良時代に帰属する遺構と判断できる。

竪穴住居

前11SI050 (Fig.11-6、Pl.11-9)

調査区南西部CH52地区で検出した。南西部が調査区外にあるため全体形は不明だが、検出部から判断すると正方形を呈すと考えられる。南北2.70m、東西2.70m、深さ0.10～0.17mを測る。貼床はない。南東部に穴aを検出した。穴aのプランは略円形で直径0.44～0.50m、深さ0.40mを測る。埋土は暗茶色土、暗茶褐色土の2層で柱痕は確認できな

前11SI070

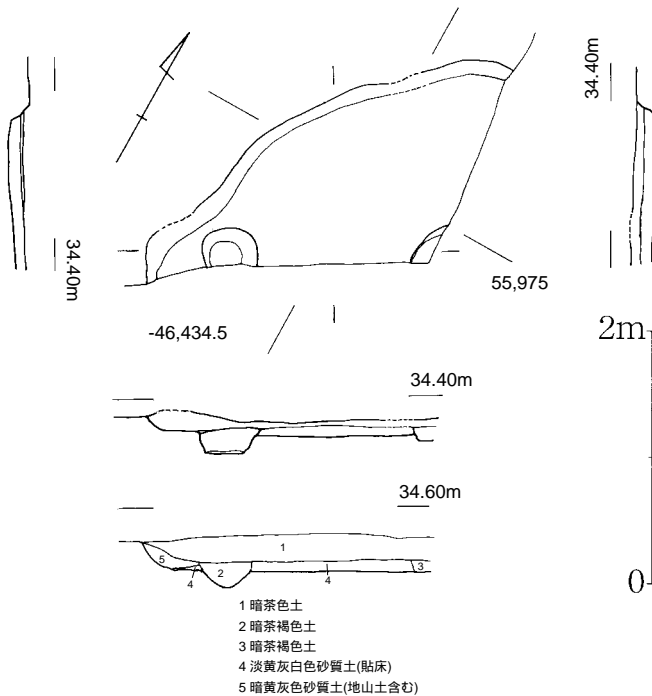


Fig.11-6 前田遺跡第11次調査 SI050、070
実測図・土層観察図

前11SI080

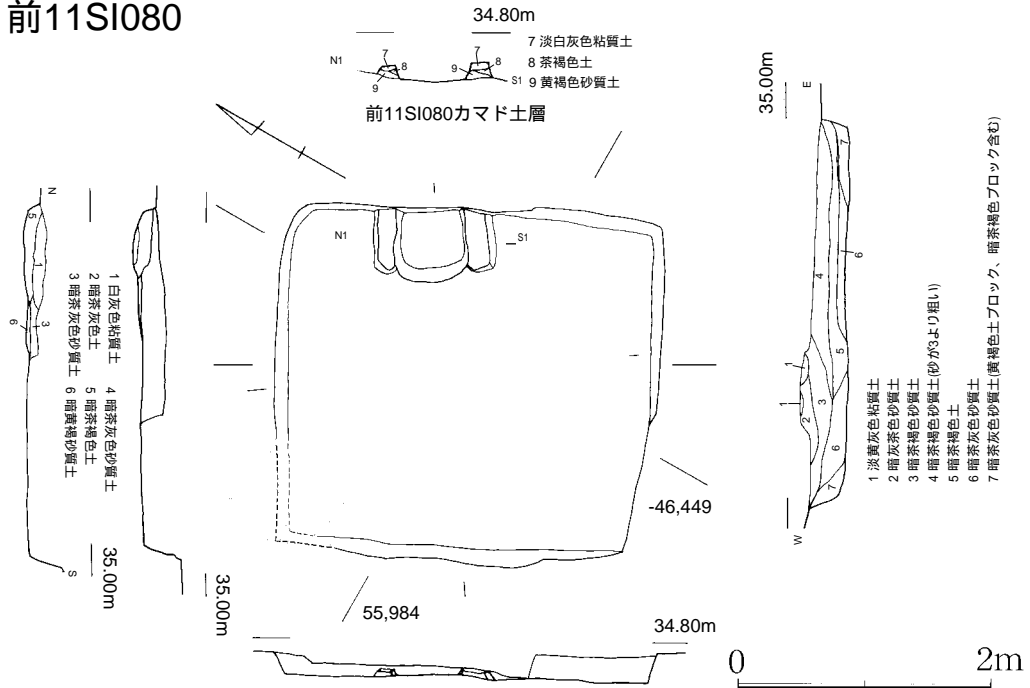


Fig.11-7 前田遺跡第11次調査 SI080実測図・土層観察図

かった。東辺中央付近にカマドを据えた跡があり、外側に8cm、幅0.30m程度、円弧状に張り出している。カマドの平面形は「コ」の字状を呈し、炊き口を住居中央に向けている。残存しているカマドの規模は南北0.98m、東西0.52m、高さ0.10mで、中央に直径0.50m、深さ7cmの窪みがある。窪み部分には暗灰茶色土（炭まじり）が2cm程度堆積しており、その上にカマドを支持していた炉壁が崩落して5cm程度堆積している。カマドから住居中央に向かって幅0.20m、長さ1.5m、深さ3～5cmの溝状窪みがあり、暗灰茶色土（炭まじり）が内部に堆積していたことからカマドの灰をかき出した跡と考えられる。

出土遺物には8世紀中頃以降の土器群が出土しており、遺構はその時期に属するものと思われる。

前11SI070 (Fig.11-6、 PI.11-10)

調査区南東部CG45調査区で検出した。南東部隅で検出されているため、全体形は不明だが、検出された部分から隅丸方形を呈すと推定される。南北2.88m、東西1.80m、深さ0.30mである。貼り床は7cm程度、施されていた。柱穴は2個検出した。

柱穴aはプランが調査区外に伸びるため全体形は不明である。深さは10cm。柱穴bは検出部から判断すると直径0.44m程度の略円形で、深さ0.2mを測る。柱穴は貼床上面から掘り込まれるため、貼床が施された後に、柱が建てられたと考えられる。

弥生時代後期前半から中頃の土器が出土しているため、遺構はその時期に属すものと思われる。

前11SI080 (Fig.11-7、Pl.11-10)

調査区中央部CJ50区を中心に検出した。東西2.7m、南北3.0m、深さ0.2mを測り、平面形は略方形を呈する。床面は地山削りだしで貼床は無い。東辺の北寄りに「コ」の字状を呈す粘土の塊がある。これは残存している壁土の量は少ないが土器カマドを据えた跡と見られる。炊き口を住居中央に向けている。残存しているカマドの規模は長さ0.50m、幅0.20m、高さ0.10mの高まりが左右にあり、中央に方形の東西0.60m、南北0.60m、深さ0.10m程度の窪みがある。

出土遺物は8世紀中頃～後半の遺物が出土しているため、遺構はその時期に属すものと思われる。

前11SI100 (Fig.11-8、Pl.11-11)

調査区の中央部東側CJ48区を中心に検出した。全体の平面形は南北に長い長方形を呈する。11SI270に切られており、北側のプランは部分的にしかわからない。南北7.2m、東西6.3m、残りの良いところで深さ7cmを測る。床面は地山を削り出しで、貼床はない。東側を除く3方向の壁に接して、幅0.8～1.3m、高さ0.1mの造り付けのベット状遺構がある。西側のベット状遺構と壁との間には長さ4.2m、幅5cm、深さ7cmの壁溝が巡る。柱穴は南側のbと北側のdの2つによる二本柱構造と思われる。柱穴dは前11SI270により削平されており当初のプランは明確ではない。二本の柱芯距離はおおよそ3.6m前後で主軸の振れは、N-24°48'5"-Wをとる。柱の間に2段掘り状の窪みaがあり、炭が多量に残存していることから炉跡と推定できる。中央東に位置する柱穴eは溝11SD282に切られており、南北1.1m、東西0.6m以上を測り、平面形は方形プランである。底面に直径約0.2m、深さ0.24～0.3mの穴が穿たれている。これは竪穴住居に出入りする際の梯子等の昇降具の設置痕跡と考えられ、この2つの穴に梯子の脚を入れて固定するものと推定している。

出土遺物には弥生後期中頃～後半の土器群が出土している。破片資料で古墳時代前期前半に下る土師器の小型丸底壺が出土しているが、周辺の住居との切り合い関係から、この住居は弥生時代後期以前と判断されるため、この土器片は他の遺構からの混入と考えている。

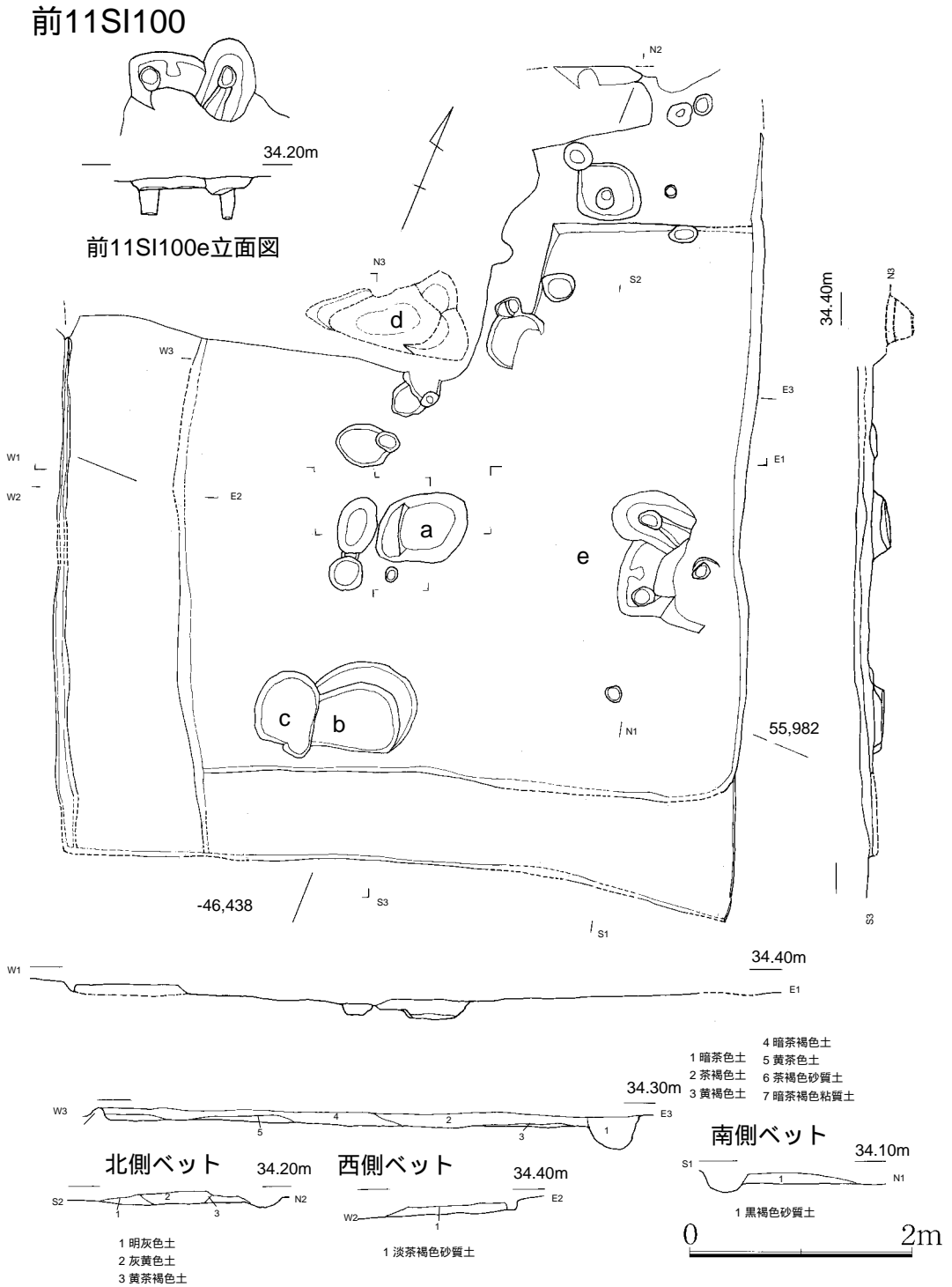


Fig.11-8 前田遺跡第11次調査 SI100実測図・土層観察図

前11SI120

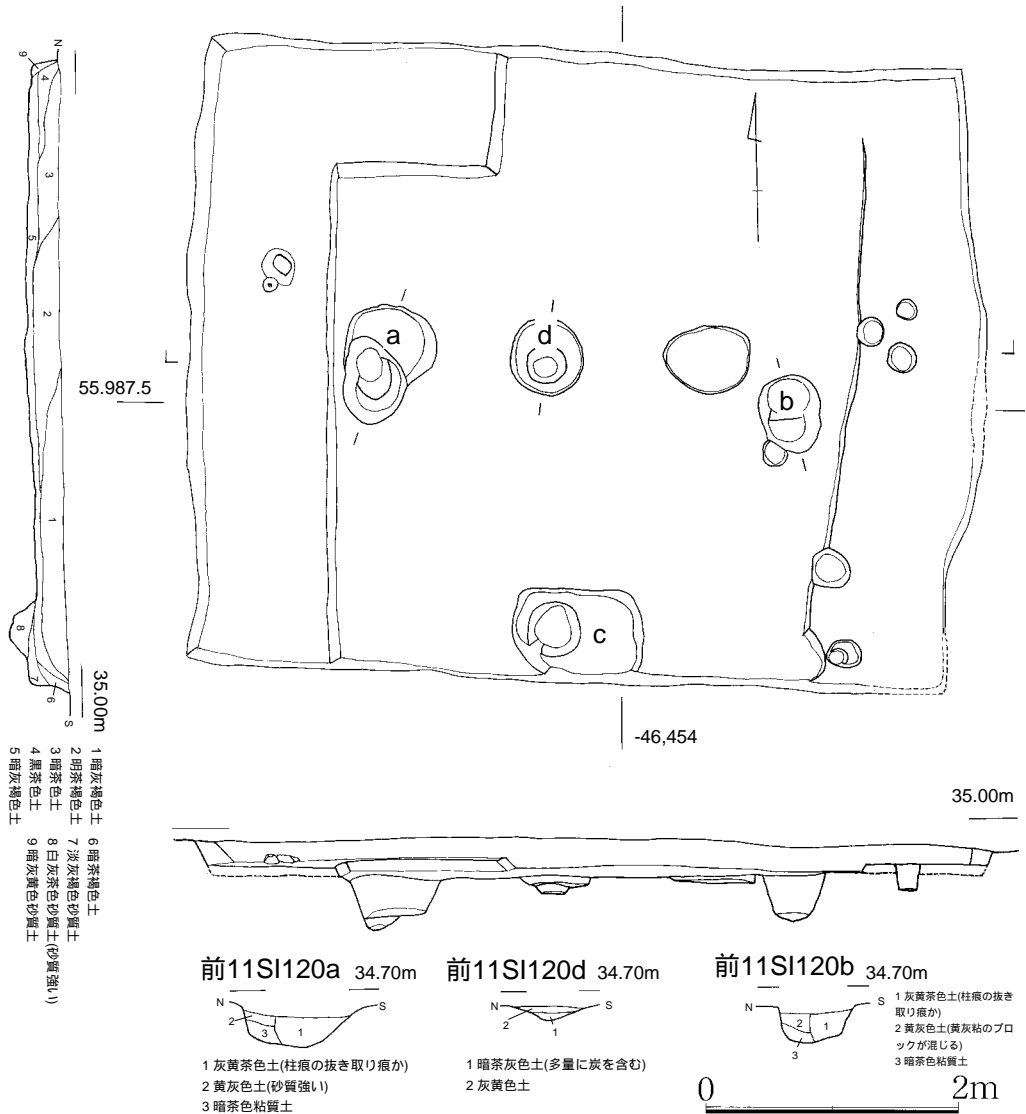


Fig.11-9 前田遺跡第11次調査 SI120実測図・土層観察図

前11SI120 (Fig.11-9、PI.11-11)

調査区の北部西側CL52区付近で検出した。全体の平面形は東西に長い長方形になる。南北5.2m、東西6.4m、深さは残りが良い部分で約0.32mを測る。床面は地山を削り出して使用している。東西の両袖には幅1m、高さ0.1mの造り付けによる高まり、ベット状遺構がある。ベット状遺構のプランは東側は直線的で西側はL字形を呈する。柱穴は東西のベットの間に、床面から深さ約0.4m掘られており

前11SI140

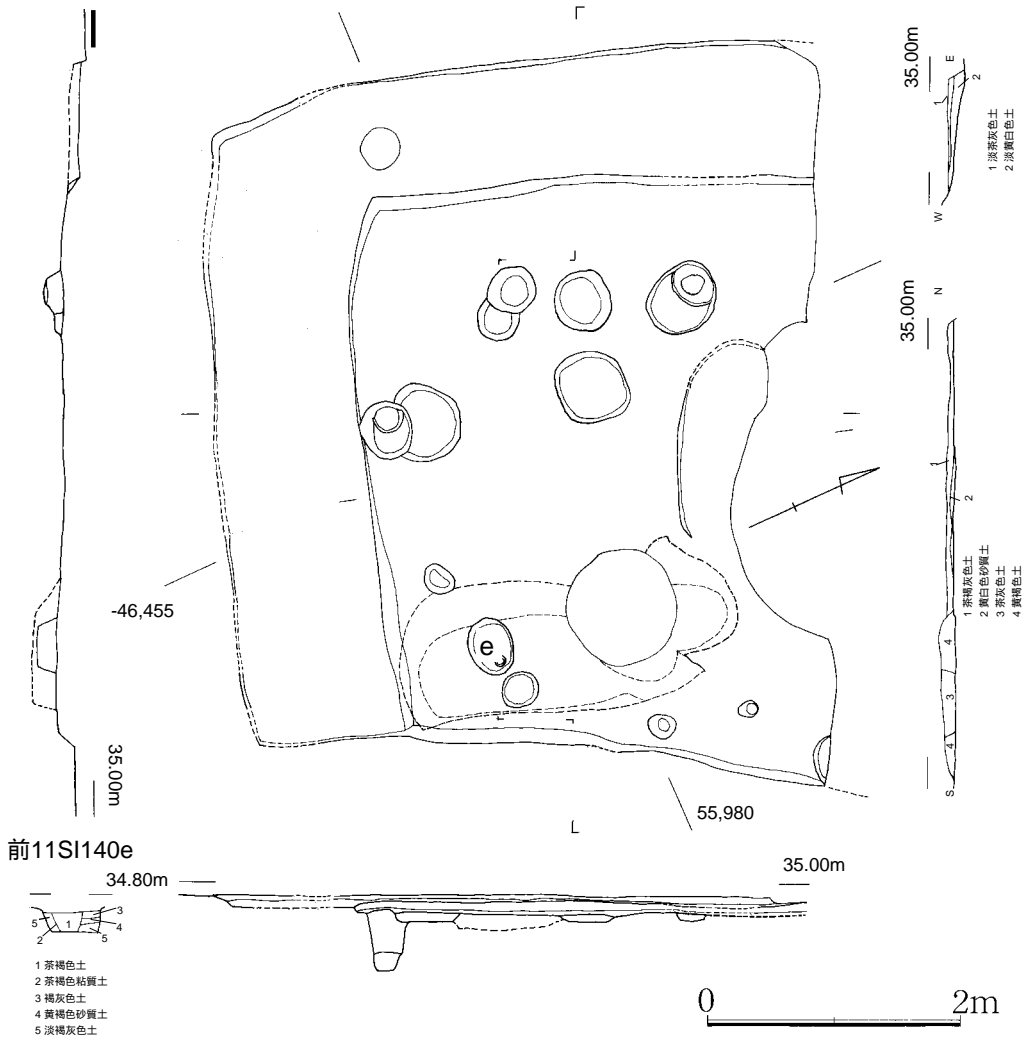


Fig.11-10 前田遺跡第11次調査 SI140実測図・土層観察図

二本柱構造であったと考えられる。二本の柱芯距離は3.2mで、主軸方向の振れはN-92°51'45"-Eをとる。柱の間に2段掘り状の窪みdがあり、炭が多量に残存していることから炉跡と推定できる。南側中央部に、東西1.06m、南北0.7m、床面からの深さ0.16m、底面西側に不整円形状に0.13m程度窪む長方形の掘り方cがある。これは堆積している土層を観察すると北側からの土の流入により徐々に埋没にしていたことがわかる。性格は屋内貯蔵穴の可能性が高いと思われる。土師器の椀形高坏が、西側のベット状遺構の中央部やや北よりの直上に、口縁部

前11SI155

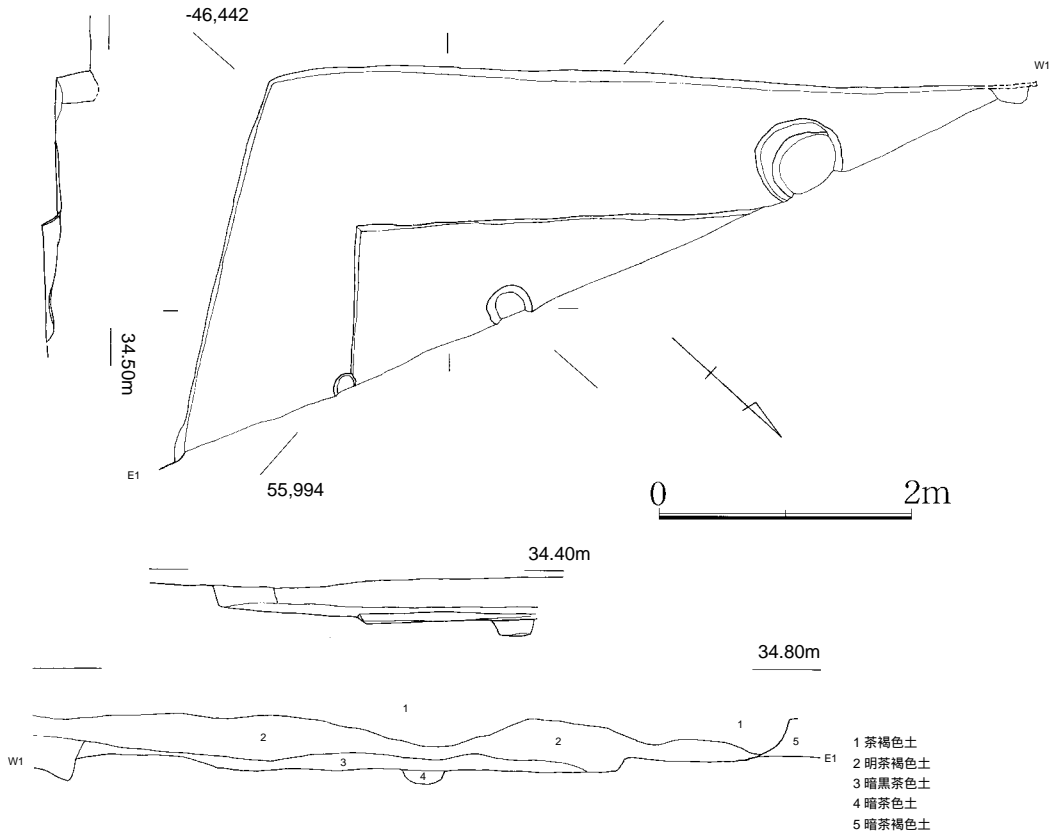


Fig.11-11 前田遺跡第11次調査 SI155実測図・土層観察図

を下にむけて置かれた状況で出土した。出土状況から何らかの祭祀が行われたと考えられる。また埋土から青銅製鋤先が出土しているのも注目できる。

弥生時代後期後半から古墳時代前期前半の土器群が堆積土中から出土しており、先述した土師器の年代観から、遺構は古墳時代前期前半の時期に属するものと思われる。

前11SI140 (Fig.11-10、Pl.11-12)

調査区の北部西側C052区で検出した。奈良時代の土坑11SK160に切られている。北側が調査区外に展開しているため全体の平面形は不明だが、検出範囲では南北に長い長方形を呈すと思われる。南北4.8m、東西5.8m、残りが良い部分で深さ約0.16mを測る。床面は地山を削り出しで貼床はない。西・南側には幅約1.2m、高さ約0.13mの造り付けによる高まり、ベット状遺構がある。柱穴aは南部中央に位置し、床面からの深さ0.50m、直径0.15cmを測る。南東部には柱穴eがあり東西

前11SI165

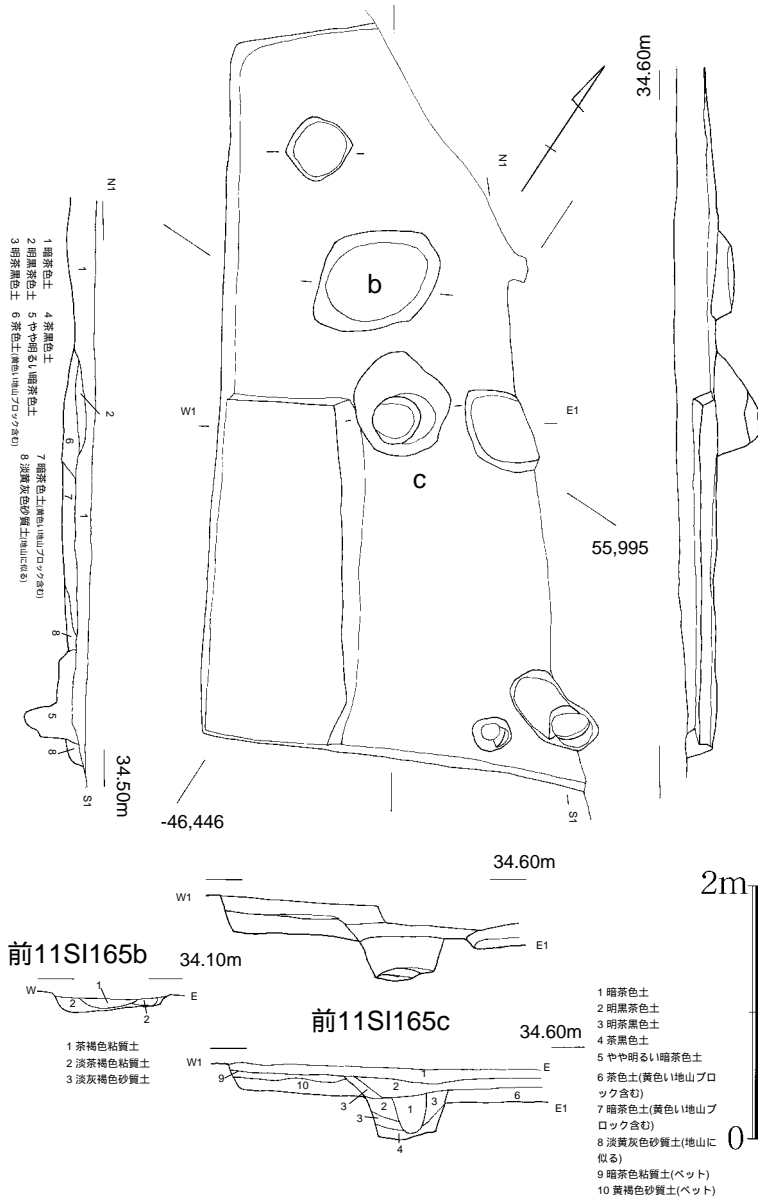


Fig.11-12 前田遺跡第11次調査 SI165実測図・土層観察図

はその時期に属すものと思われる。なお、奈良時代の遺物も出土しているが、前11SK160からの混入と判断した。

前11SI155 (Fig.11-11、Pl.11-12)

調査区の北東側CN48区付近で検出した。プランの大部分が調査区外にのびるた

0.4m、南北0.3m、深さ0.2mを測る。推定中央部寄りに、前11SK160に切られているため全形は不明だが、東西1.5m、南北0.5m、床面からの深さ9cmの炭が堆積した溜まりfがある。炭が堆積していることから炉跡と推定できる。床面を検出した段階で東側に、前11SX236を検出した。埋土は上から暗茶色土、淡茶褐色土の順で堆積していた。住居内の埋土は削平のため茶褐灰色土のみが薄く残存していた。

出土遺物は弥生時代後期後半の土器群が出土しており、遺構

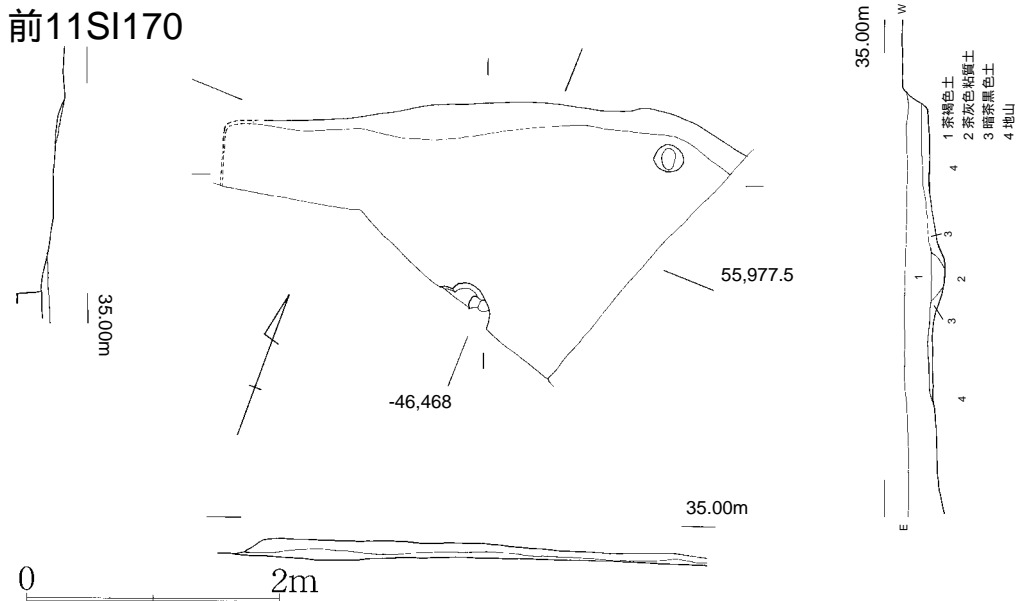


Fig.11-13 前田遺跡第11次調査 SI170実測図・土層観察図

め全体形は不明だが、検出した部分からは方形を呈すと考えられる。11SI165を切っている。検出している部分で南北4.2m、東西2.2m、深さ0.2mを測る。床面は地山削りだしで貼床はない。西・南壁に沿ってL字状に幅1m、高さ10cmの地山削りだしのベット状遺構を検出した。調査区北壁に沿って柱穴bがあり、直径0.28m、深さ0.1mを測る。土器群はベット状遺構の上面、特に南西部に集中して検出された。

出土遺物は古墳時代前期前半の土器群が出土しており、遺構はその時期に属するものと思われる。

前11SI165 (Fig.11-12、Pl.11-12)

調査区の北側CN49区付近で検出した。調査区外に延びているため全形は不明である。検出部で東西5.6m、南北3.0m、深さ0.2mを測る。南壁に沿って幅1.2m、長さ2.7m、高さ0.15mの造り付けのベット状遺構がある。ベット状遺構に接して柱穴cを検出した。柱穴cは平面プランが0.7×0.8mの不整形円形、床面からの深さは0.35mで、土層観察により直径0.2m、長さ0.27mの柱痕跡が確認できる。柱穴cの西側の窪みbは東西0.8m、南北1.0m、深さ0.1mを測り、若干だが炭の堆積層を確認した。土層観察によると、南東側から淡黄灰色砂質土の堆積が始まり、最終的には暗茶色土により埋没している。

出土遺物は弥生時代後期後半から古墳時代前期前半にかけての土器群が出土し

前11SI175

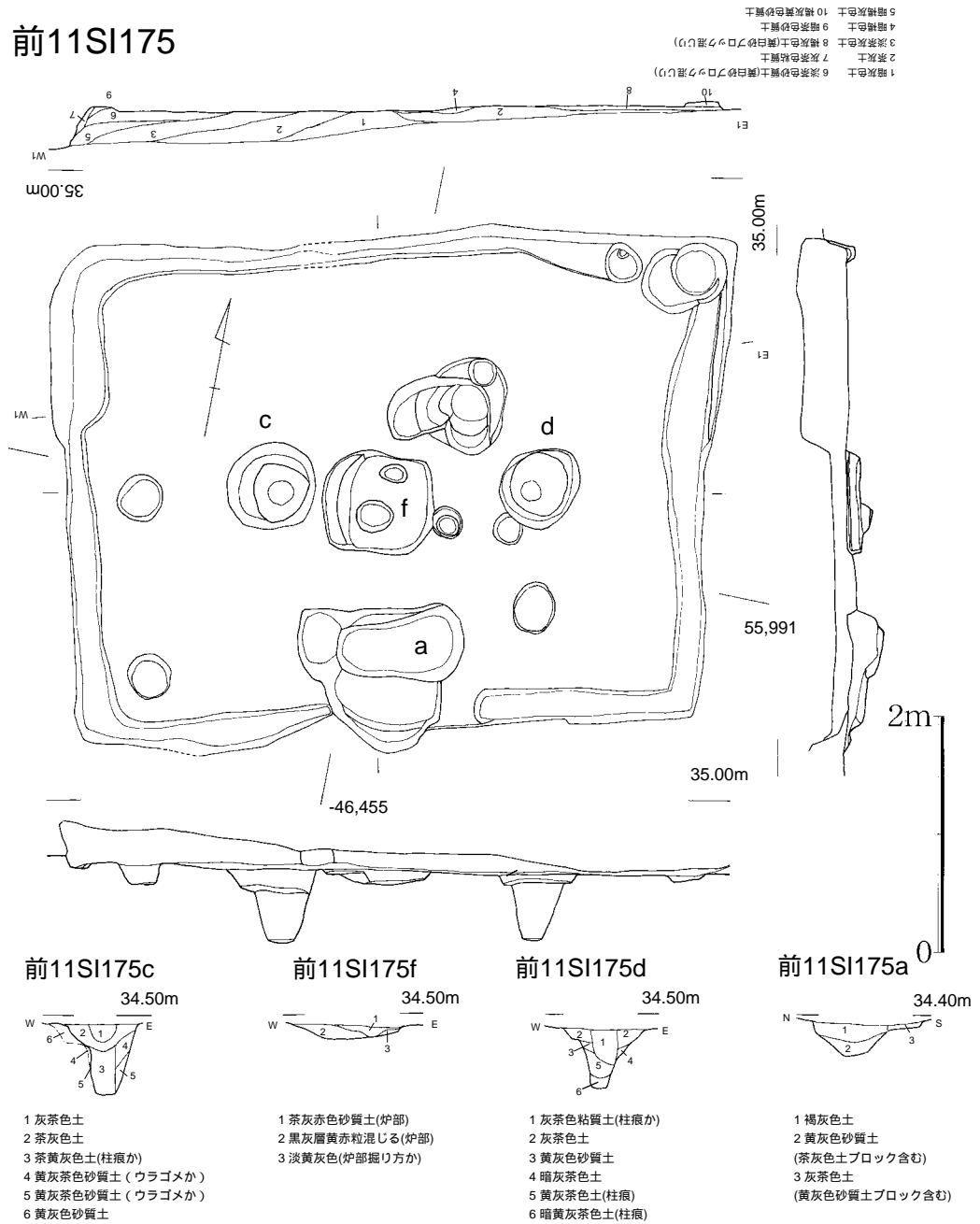


Fig.11-14 前田遺跡第11次調査 SI175実測図・土層観察図

ているため、遺構はその時期に属するものと思われる。

前11SI170 (Fig.11-13、PI.11-13)

調査区の北東側CH53区付近で検出した。前述の前11SB200d、前11SI050、前

前11SI180・265

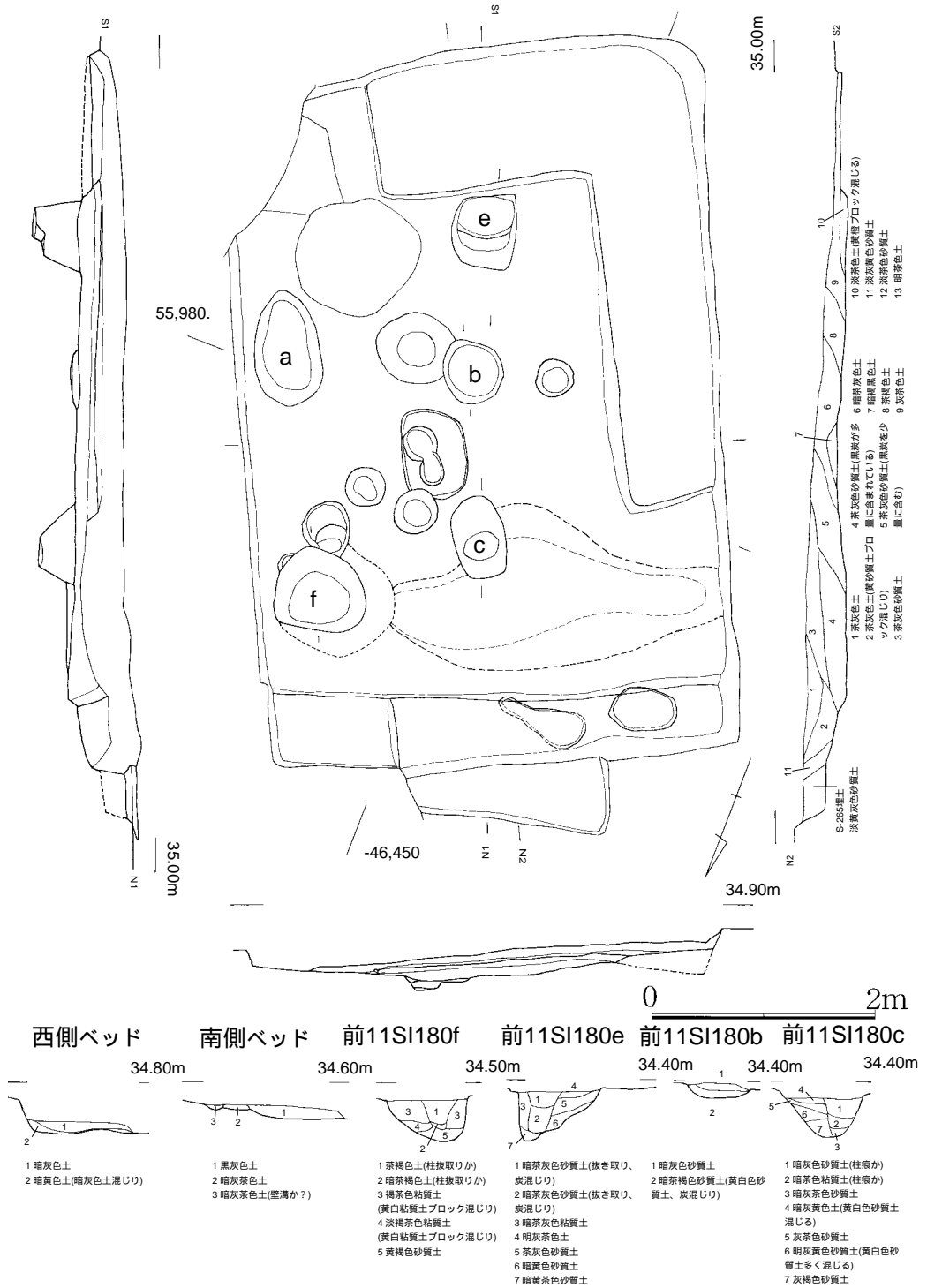


Fig.11-15 前田遺跡第11次調査 SI180、265実測図・土層観察図

11SI195に切られていることと調査区外にのびるため全体形は不明であるが、方形の平面プランが推定できる。検出された部位では東西2.5m、南北1.0m、深さ6cmを測る。床面は削りだして、ベット状遺構は確認されていない。南側中央の柱穴は調査区外にのびるため全形は不明であるが直径0.4m程度と考えられる。埋没過程は暗茶黒色土、暗茶黒色砂質土が堆積している。出土遺物は、弥生時代後期の土器や石製品などが出土しているが、すべて細片のために図化はできなかった。

前11SI175 (Fig.11-14、Pl.11-13)

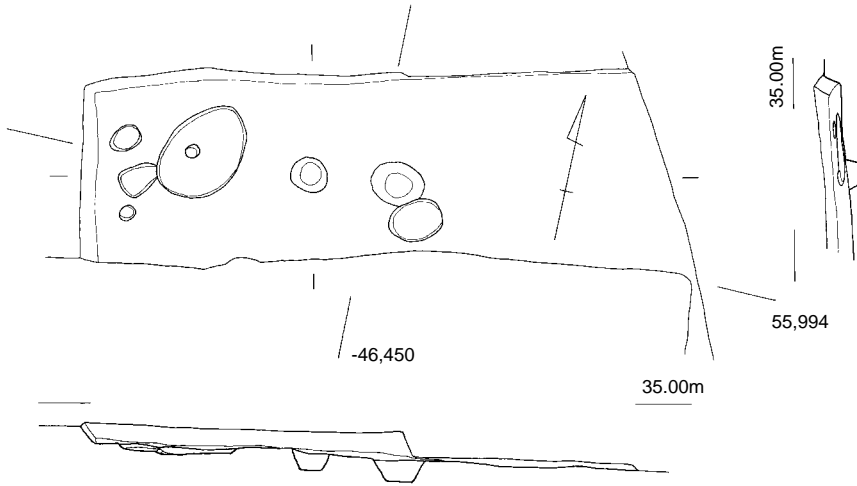
調査区の北側CM50区付近で検出した。全体の平面形は東西に長い長方形になる。南北4.2m、東西5.8m、残りが良い部分で深さ約0.38mを測る。床面は削り出で貼床はない。ベット状遺構は確認できなかった。住居の中心部に東西1.0m、南北0.85m、深さ0.15mの窪みfがある。炭の堆積から炉部と推定される。炉部fの東西に対になる柱穴が検出されており、西を柱穴c、東を柱穴dとする。これらは土層観察で直径0.17～0.22m、長さ0.3～0.4m以上の柱痕が確認できることから、2本柱構造であったと思われる。柱心距離は3.2m、主軸方向はN-79°32'24"-Eをとる。南側中央の壁際の土壌aは南北1.8m、東西2.1m、深さ0.35mを測る。この土坑の性格としては、壁際にあること、壁溝がこの部分を巡っていないこと、などから住居入口に関係する施設と考えている。壁溝は土壌aの除いて全周を巡っており、幅0.3～0.4m、深さ7cmを測る。土層の観察によると住居の埋没は西方向から東方向へ順次埋没していったことがわかる。

出土遺物には弥生時代後期後半～末と思われる土器群が堆積土中から多数出土しており、遺構はその時期に属すものと思われる。

前11SI180 (Fig.11-15、Pl.11-14)

調査区中央のCI51区付近で検出した。奈良時代の土壌11SK040に切られる。平面形は南北方向に長い長方形を呈す。南北6.5m、東西4.3m、深さは残りが良い部分で0.55mを測る。床面は削り出し。西・南壁に沿ってL字状に幅1m、高さ10cmの造り付けのベット状遺構を検出した。ベットは黒灰色土と暗灰色土に黄色土粒が混じった土により形成されている。北壁に接して長さ4.0m、幅0.6m、高さ5cmの高まりを検出した。これはベット状遺構の可能性が高い。中央部やや南よりに不整形のたまりdがある。ここからは炭の堆積が確認されたため、炉部と推定できる。この炉部dを中心に南北に対になるように柱穴c、eがある。両方とも柱は抜き取られているが、このことから、この住居は2本柱構造であったと思われる。検出段階の痕跡では柱心距離は2.9m、主軸方向の振れはN-79°32'24"-Eをとる。埋土は暗茶灰色土。柱穴cに切られている土坑は東西3m、南北1.5m、深さ0.1mを

前11SI185



前11SI195

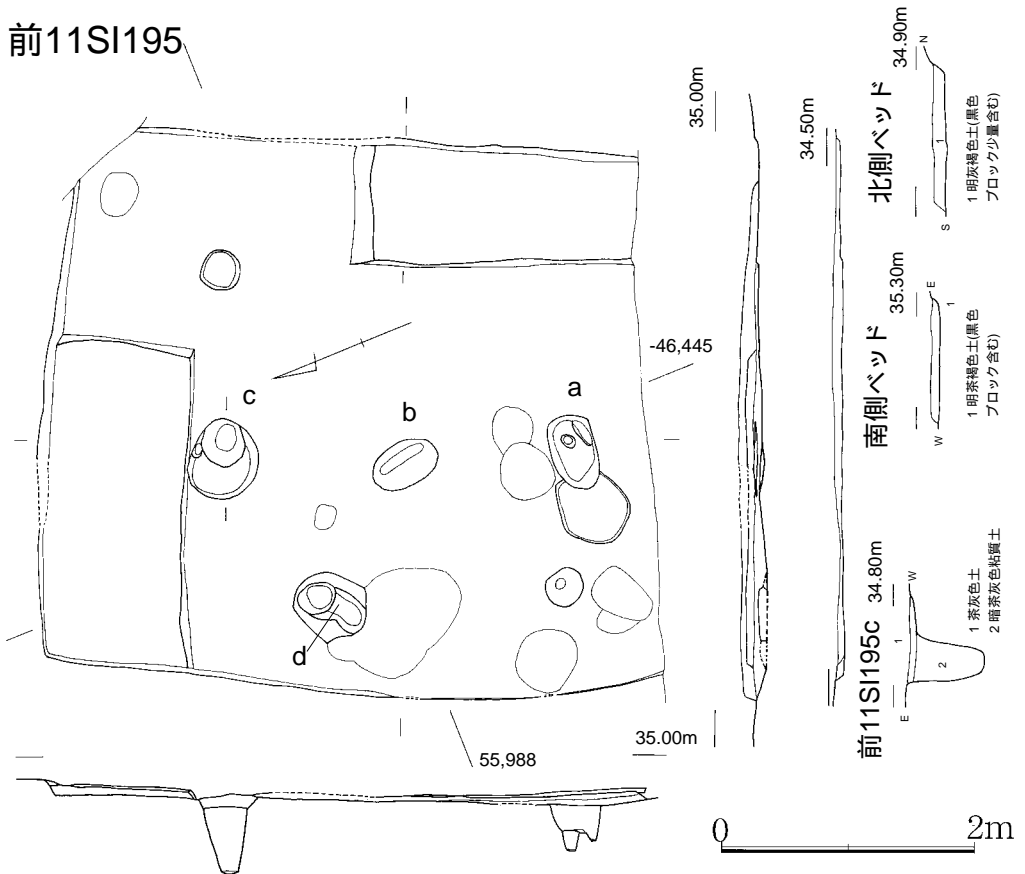


Fig.11-16 前田遺跡第11次調査 SI185、195実測図・土層観察図

前11SI210

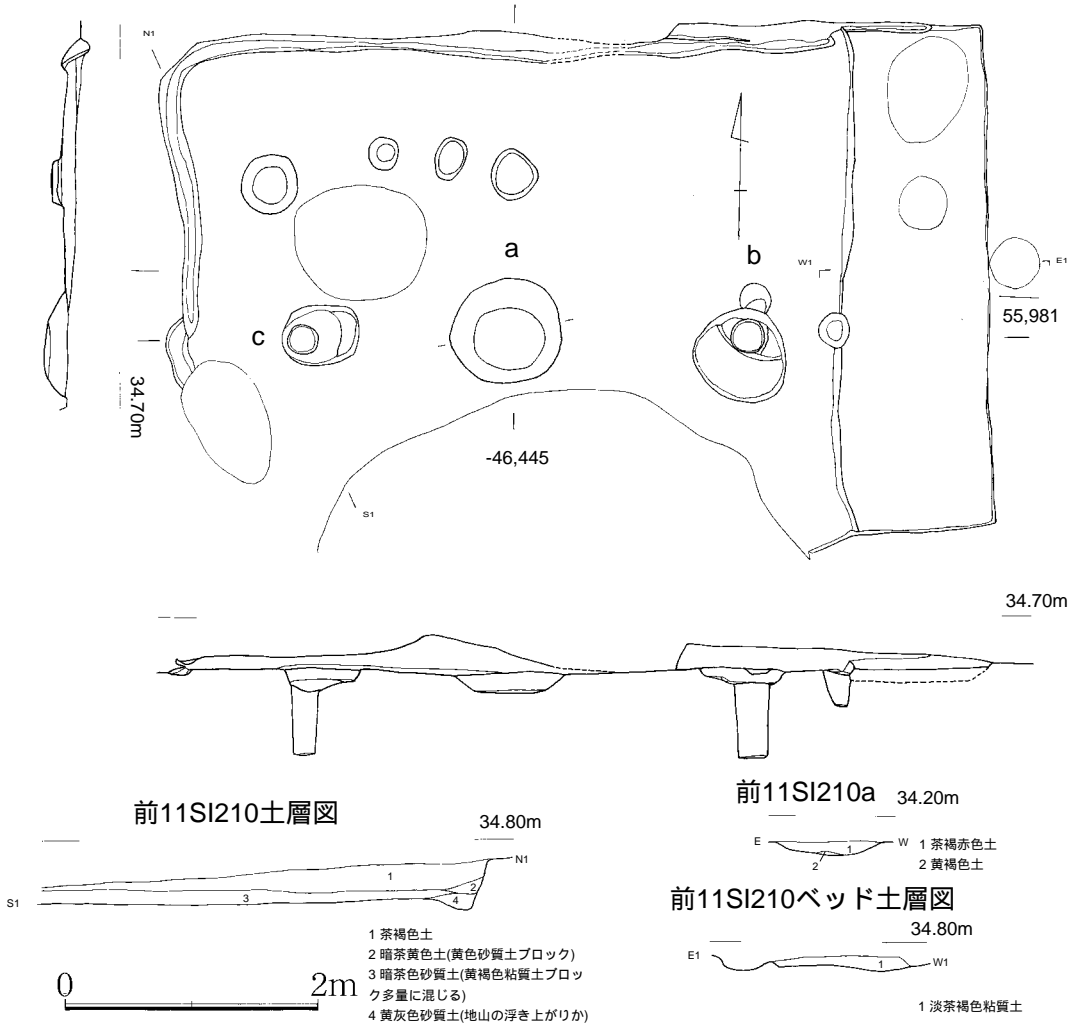


Fig.11-17 前田遺跡第11次調査 SI210実測図・土層観察図

測る。

出土遺物には弥生時代後期後半～末の土器片が出土しており、遺構はこの時期に帰属すると思われる。

前11SI185 (Fig.11-16、PI.11-14)

調査区の北部中央のCN50区付近で検出した。11SI225を切っている。平面プランは切り合いが複雑なため全体形は不明だが、北西部に隅が検出されていることから方形を呈すと思われる。東西4.6m、南北1.5m、深さは残りがよい部分で0.2m

を測る。床面は地山削り出しで、貼床・ベット状遺構は確認できなかった。ピットはすべて浅く溜まり状を呈し、柱穴は確認できなかった。埋土は茶褐色土で若干砂質土が混じる。

弥生時代後期中頃の土器が出土しており、遺構はこの時期に帰属すると思われる。

前11SI195 (Fig.11-16、Pl.11-15)

調査区の南部のCH52区付近で検出した。前11SI170を切っている。南側部分が調査区外にのびているため、全体のプランは不明だが南北方向に長い方形と思われる。南北4.85m、東西4.3mを測る。床面は削り出しで北・東側に幅1.1m、長さ2.5m、高さ0.1mで明茶褐色土の盛り土が施されたベット状遺構がある。中央に幅0.5mの楕円形の窪みがあり、それを中心に北と南に柱穴a、cがある。両方とも柱は抜き取られており規模は明確ではない。芯心距離は2.7mで、主軸方向の振れはN-21° 28 36 -Eである。全体が削平されており、埋土は暗灰赤色土が5cm程度しか残存していない。

弥生時代後期中頃の土器群が出土しているため、遺構はこの時期に帰属すると思われる。

前11SI210 (Fig.11-17、Pl.11-15)

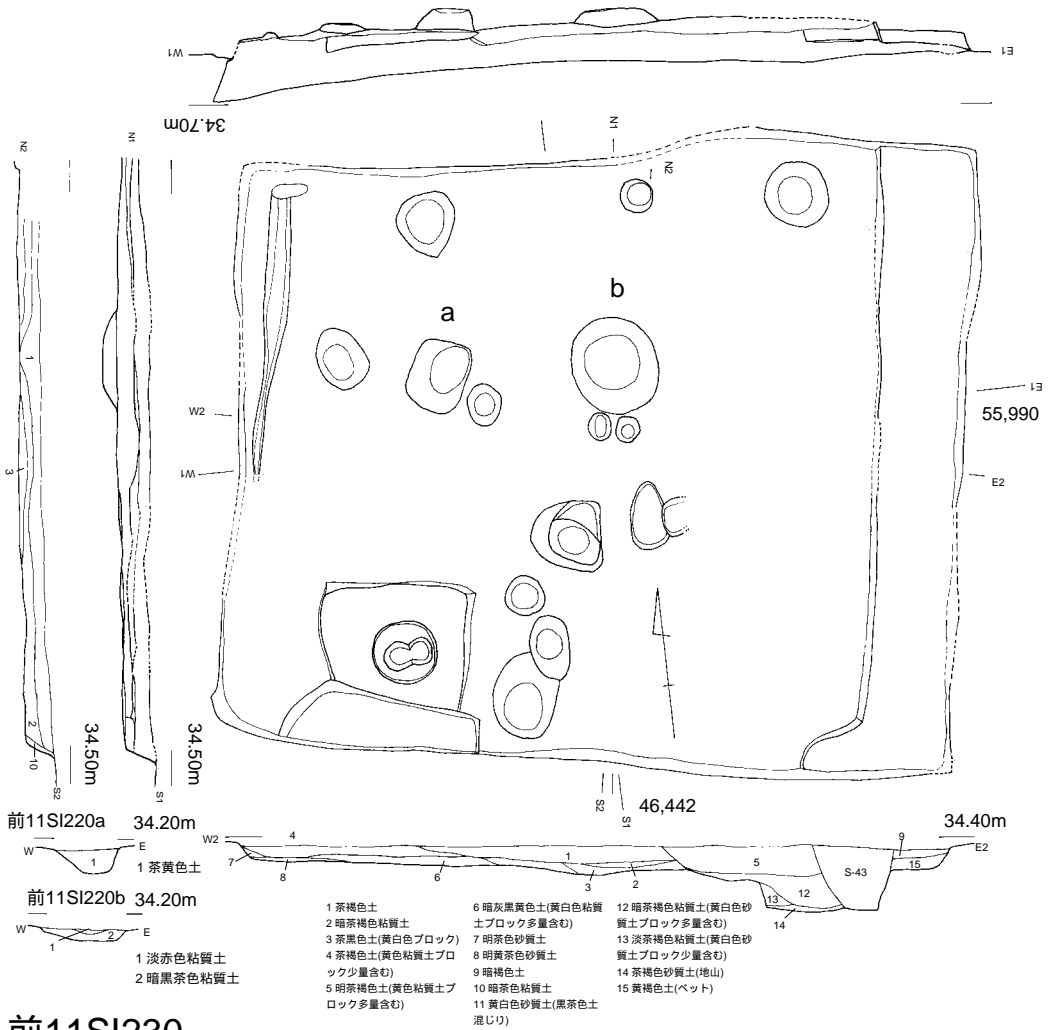
調査区中央南よりのCI48区付近で検出した。前11SI255を切っており、前11SI180・前11SK040に切られている。それらの切り合いにより全体形は不明だが、残存部から東西に長い長方形を呈すと思われる。東西6.6m、南北4.0m、深さは残りが良い所で0.3mを測る。床面は地山削り出しで貼床はない。東側に長さ3.8m、幅1.1m、高さ0.14mの淡茶褐色土で盛り土された造り付けのベット状遺構がある。中央やや西寄りに直径0.9mの楕円形で茶褐赤色土（炭混じり）が堆積した窪みaがあり、これは炉部と考える。炉aを中心として東と西に柱穴b、cがある。柱穴は直径0.2m、深さ0.6mでしっかりとしている。幅0.15m、深さ6cmの壁溝が北・西部に巡る。埋土は暗灰色砂質土、茶褐色土で北西部より流れ込み、堆積している。

弥生時代後期中頃～後半の土器群が出土しているため、遺構はこの時期に帰属すると思われる。

前11SI220 (Fig.11-18、Pl.11-16)

調査区の北東部CL48区付近で検出した。全体の平面形は東西に長い長方形である。前11SK285を切り、前11SI275に切られている。東西5.8m、南北4.9m、深さは残りの良い所で0.45mを測る。床面は地山削り出しで貼床は無い。東側に長さ4.8m、幅1.1～0.7m、高さ0.1mのベット状遺構がある。中央やや北側に直径0.7mの楕円形

前11SI220



前11SI230

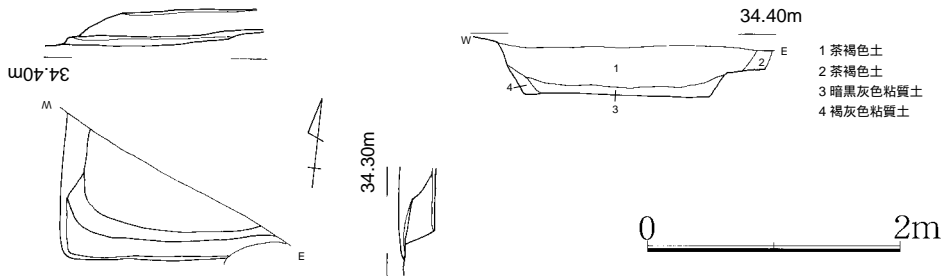
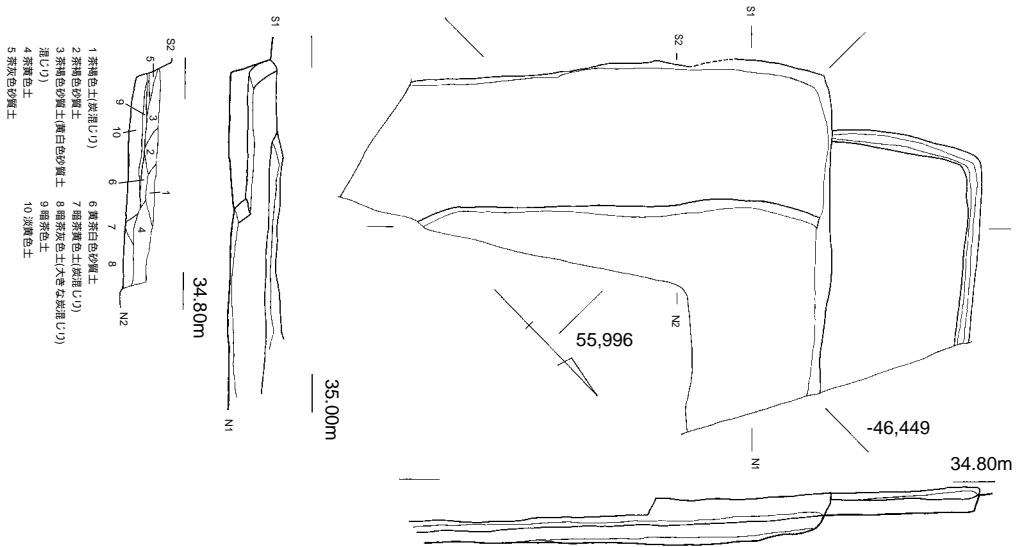


Fig.11-18 前田遺跡第11次調査 SI220、230実測図・土層観察図

前11SI225・235



前11SI240

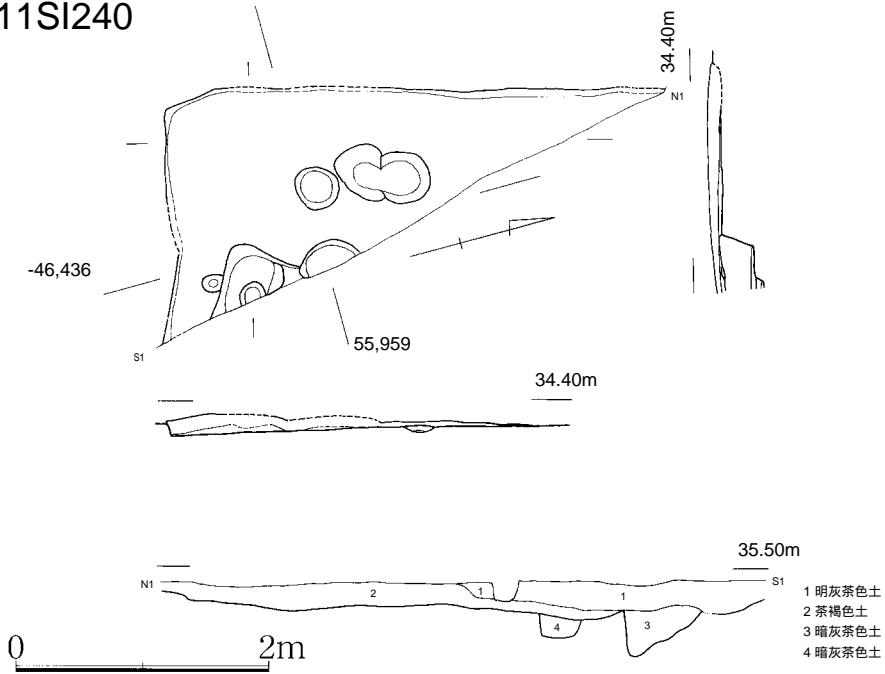


Fig.11-19 前田遺跡第11次調査 SI225、235、240実測図・土層観察図

で炭の堆積した窪みdがある。このdは炉部と思われる。炉部dの西側に東西0.4m、南北0.5m、深さ0.2mを測る柱穴aがある。柱穴aと対になるとと思われる東側部分は、前11SK275により削平されているため、柱穴の存在は不明である。埋土の堆積は順次西より埋土が流入して堆積している。

埋土中より弥生時代後期後半から末期の土器群が出土しているため、遺構はこの時期に帰属すると思われる。

前11SI225 (Fig.11-19、Pl.11-17)

調査区の北部中央CN50区付近で検出した。前11SI235を切り、前11SI185に切られる。遺構が調査区外に展開しているために平面プランは不明だが、西隅が検出されているため方形を呈すと思われる。南北2.6m、東西3.3m、深さは残りが良いところで0.4mを測る。床面は地山削り出しで貼床は無い。北西部に長さ3.9m、幅1m、高さ0.15mを測る造り付けのベッド状遺構がある。柱穴、炉部は検出できなかった。

埋土中から弥生時代後期中頃の土器群が出土しているため、遺構はこの時期に帰属すると思われる。

前11SI230 (Fig.11-18、Pl.11-16)

調査区北東部隅CM46区付近で検出した。調査区外に大部分が存在し、全体形は不明である。東西1.8m、南北1.1m、深さ0.24mを測る。床面は地山削り出しで貼床は無い。ベット状遺構も確認されていない。

埋土から弥生時代後期の土器群が出土しているため、遺構はこの時期に帰属すると思われる。

前11SI235 (Fig.11-19、Pl.11-17)

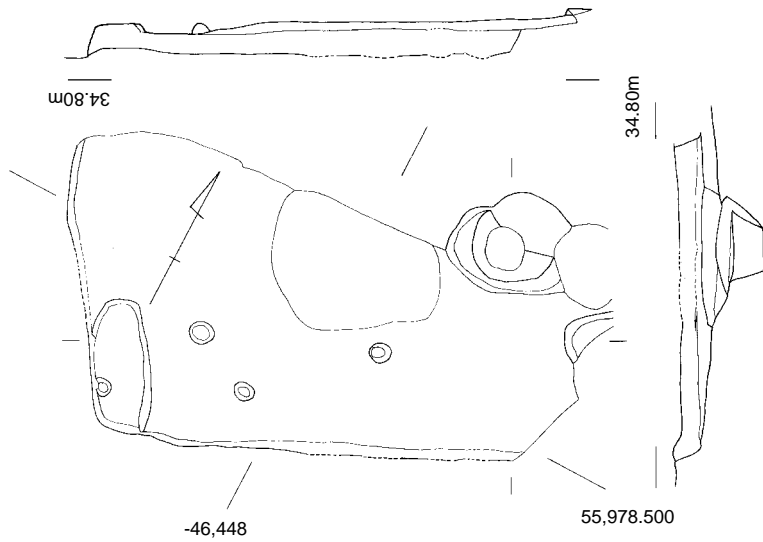
調査区の北部中央CN50区付近で検出した。11SI225をに切られる。遺構が調査区外に展開しているために平面形は不明だが、西側で方形隅が検出されているため方形を呈すと思われる。南北2.2m、東西1.2m、深さは残りが良いところで0.2mを測る。床面は地山削り出しで貼床は無い。柱穴、炉部は見つかっていない。北・西壁面に沿って幅0.1m、深さ0.17mの壁溝がめぐっている。

埋土中から弥生時代後期の土器群が出土しているため、遺構はこの時期に帰属すると思われる。

前11SI240 (Fig.11-19、Pl.11-17)

調査区の北東CL46区付近で検出した。全体形は調査区外にのびるため不明だが、南西部に隅を検出したため平面形は方形を呈すと思われる。南北3.5m、東西2.1m、深さは残りの良いところで0.1mを測る。床面は地山削りだして貼床は無い。東側

前11SI250



前11SI255

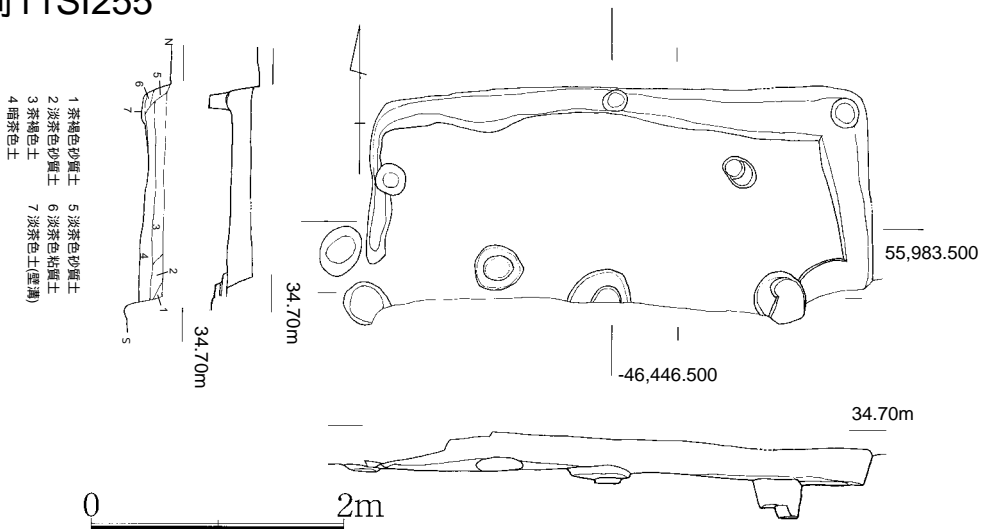


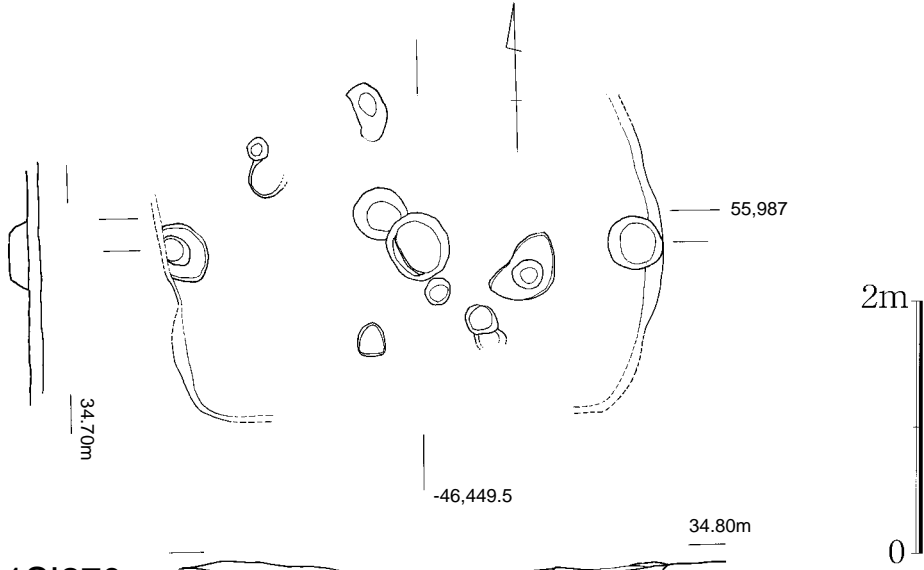
Fig.11-20 前田遺跡第11次調査 SI250、255実測図・土層観察図

調査区壁面にかかる形で柱穴bが検出されている。柱穴bの埋土は暗灰茶色土の単一層で柱痕は不明である。

埋土中から弥生時代後期の土器群が出土しているため、遺構はこの時期に帰属すると思われる。

前11SI250 (Fig.11-20、PI.11-17)

前11SI260



前11SI270

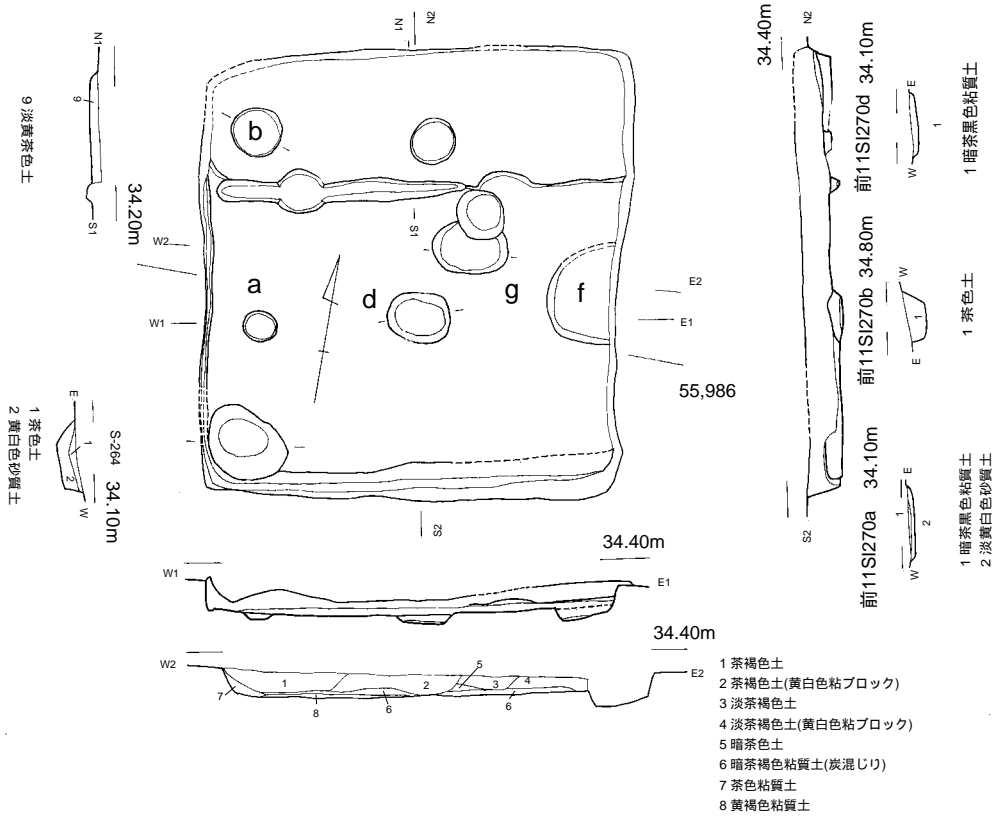


Fig.11-21 前田遺跡第11次調査 SI260、270実測図・土層観察図

調査区の中央北側CL50区付近で検出した。前11SI260を切り、前11SI175、前11SK213に切られる。平面形は他の遺構と切り合いが複雑なため、平面形は明らかではないが、南西部隅を検出しているため方形を呈するものと思われる。南北2.5m、東西4.0m、深さは残りが良いところで0.2mを測る。床面は地山削りだしで、貼床は無い。

埋土中から弥生時代後期の土器群が出土しているため、遺構はこの時期に帰属すると思われる。

前11SI255 (Fig.11-20、Pl.11-15、11-18)

調査区の中央CJ49区で検出した。前11SI210に切られているため、平面形は方形と思われる。東西4.0m、南北1.8m、残りが良いところで深さ0.3mを測る。床面は削りだしで貼床は無い。中央近くに位置する直径0.5mの穴は主柱穴の可能性がある。壁際には幅0.2～0.3m、深さ0.1mの溝が巡り、溝内で直径0.2m、深さ0.2mの柱穴と考えられるピットが3つ掘り込まれている。この形態の住居の類似例は前田遺跡第7次調査SI065等があげられるが、住居の出入り口と考えられている張り出し部は、他遺構との切り合いのために確認ができなかった。

埋土から弥生時代前期前半の土器群が出土しているため、遺構はこの時期に帰属すると思われる。

前11SI260 (Fig.11-21、Pl.11-18)

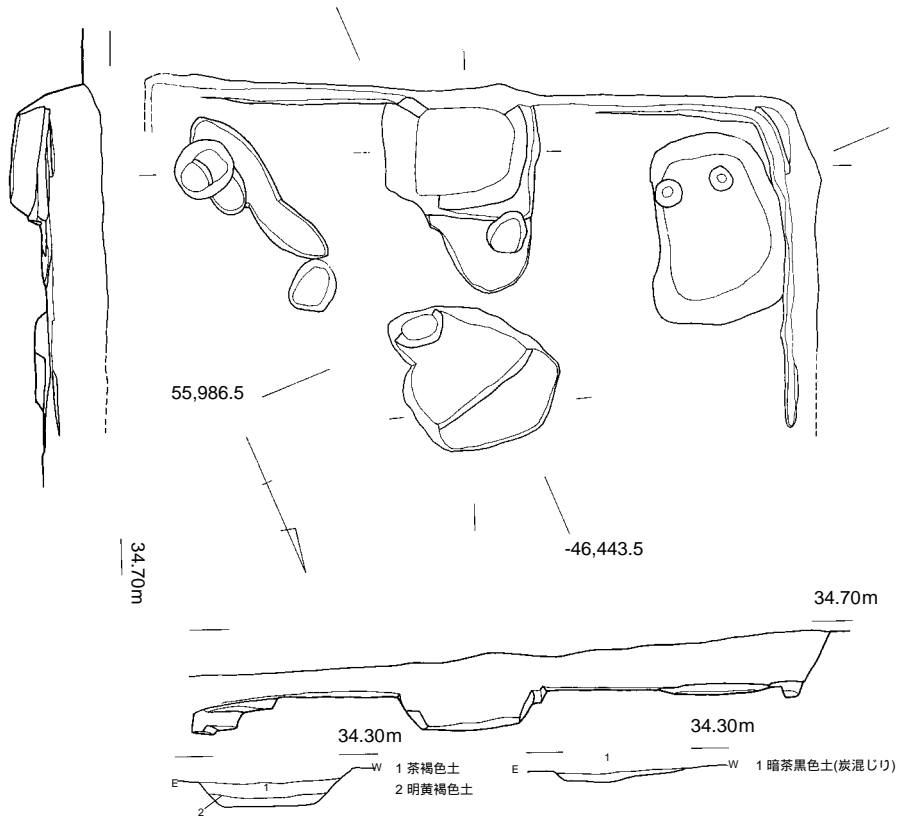
調査区の中央CK50区付近で検出した。奈良時代の竪穴住居前11SI0080に切られる。全体の平面形は切り合いのため不明だが、略方形を呈すと思われる。東西3.8m、南北3.8m、深さ0.15mを測る。床面は地山を削り出してあり貼床、ベット状遺構は無い。中央部に直径0.5m、深さ0.2mのピットがある。炭の堆積はなく、壁が熱を受けて変化していないことから積極的に炉部とはいえないが、可能性の1つとしてあげられる。東と西の壁際に直径0.4m、深さ0.1mのピットがあるが、これを柱穴と考えると2本柱による構造となる。

埋土は茶褐色土の単一土層で、埋土中から弥生時代前期のものと考えられる土器片が少量出土しているが、細片のため図化は出来なかった。また黒曜石の石核、剥片が集中して出土している。遺物より弥生時代前期前半の時期に帰属する遺構と思われる。

前11SI270 (Fig.11-21、Pl.11-19)

調査区の中央東側CK46区付近で検出した。前11SI100を切り、前11SI220に切られる。平面形は略方形で、東西3.3m、南北3.5m、深さ0.3mを測る。床面は地山削り出しで貼床は無い。北側に幅1m、長さ3.3m、高さ0.1mの造り付けのベット状遺

前11SI280



前11SI305

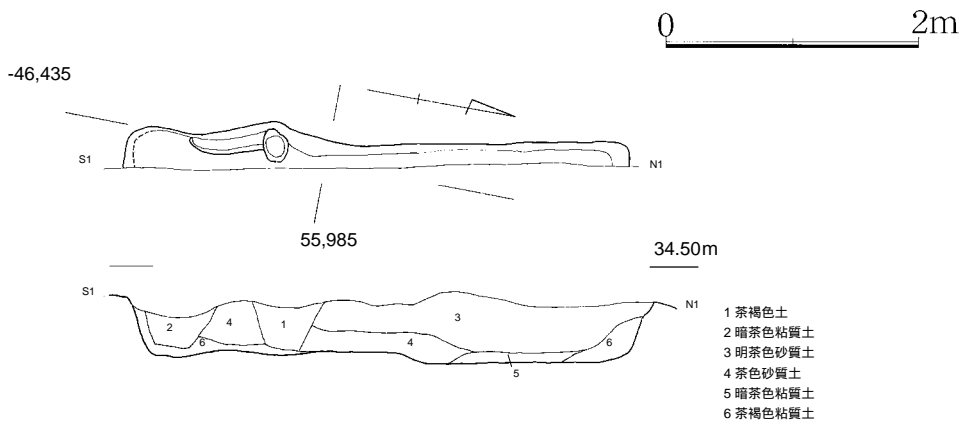


Fig.11-22 前田遺跡第11次調査 SI280、305実測図・土層観察図

構がある。中央部に0.5×0.4m、深さ0.1mを測る楕円形のピットを2個検出した。北側をg、南側をdとする。両方とも炭が大量に含まれた暗茶黒色粘質土が堆積していることから炉部と考えている。柱穴と考えられるピットは検出できなかった。南東部のピットS-271は前11SI100に伴うものと考えている。住居内の床面とベット状遺構との境に長さ2m、幅0.2m、深さ5cmの溝が巡っている。

埋土中から弥生時代後期末から古墳時代前期前半の土器群が出土している。

前11SI280 (Fig.11-22、Pl.11-19)

調査区の中央東側CK48区付近で検出した。前11SI270に切られて、平面形は東西に長い長方形を呈する。東西5.3m、南北3.0m、深さ0.4mを測る。床面は地山削りだしで、貼床はない。中央に一辺1.4mの不整形形状の土壇aがある。炭層が堆積しており、炉部と考えられる。南側中央部に位置する1.2×0.9m、深さ0.3mの方形土坑S-272は入口施設に関連するものか、屋内土坑と考えられる。壁溝は幅・深さ0.1m程度で西側と南側を巡る。

埋土からは弥生時代前期と考えられる土器の小破片が出土しているが、時期の比定は難しく、遺構の切り合い関係からは弥生時代後期中頃から古墳時代前期前半の間の時期に帰属すると思われる。

前11SI305 (Fig.11-22)

調査区東側中央CK46区付近で検出した。遺構の大部分が調査区外の東側にのびているため全体形は不明であるが、北・南部で方形の隅を検出しているため方形を呈すると思われる。東西0.4m、南北4.1m、深さ0.3mを測る。ピットが2つ検出されている。

埋土から弥生時代前期の土器が出土しているため、遺構はその時期に帰属すると思われる。なお隣接する前田遺跡第10次調査では延長部にあたるべき遺構は攪乱のため検出されていない。

土坑

前11SK040 (Fig.11-23、Pl.11-20)

調査区中央南側CI49区付近で検出した。平面形は円形で直径4.4m、深さ2.4mを測る。検出面から0.8m程度下げた段階で東西2.0m、南北2.5mを測る略方形のプランを検出した。このプランは淡灰茶色土層として掘り下げた。これを井戸枠内の埋土ではないかと考えたが、井戸枠は検出できなかったことと、埋土の土層も単一で、水が堆積したと思われる層が全く検出できなかったため、ここでは一応土坑内の掘り返しによる土坑として認識しておく。

前11SK040

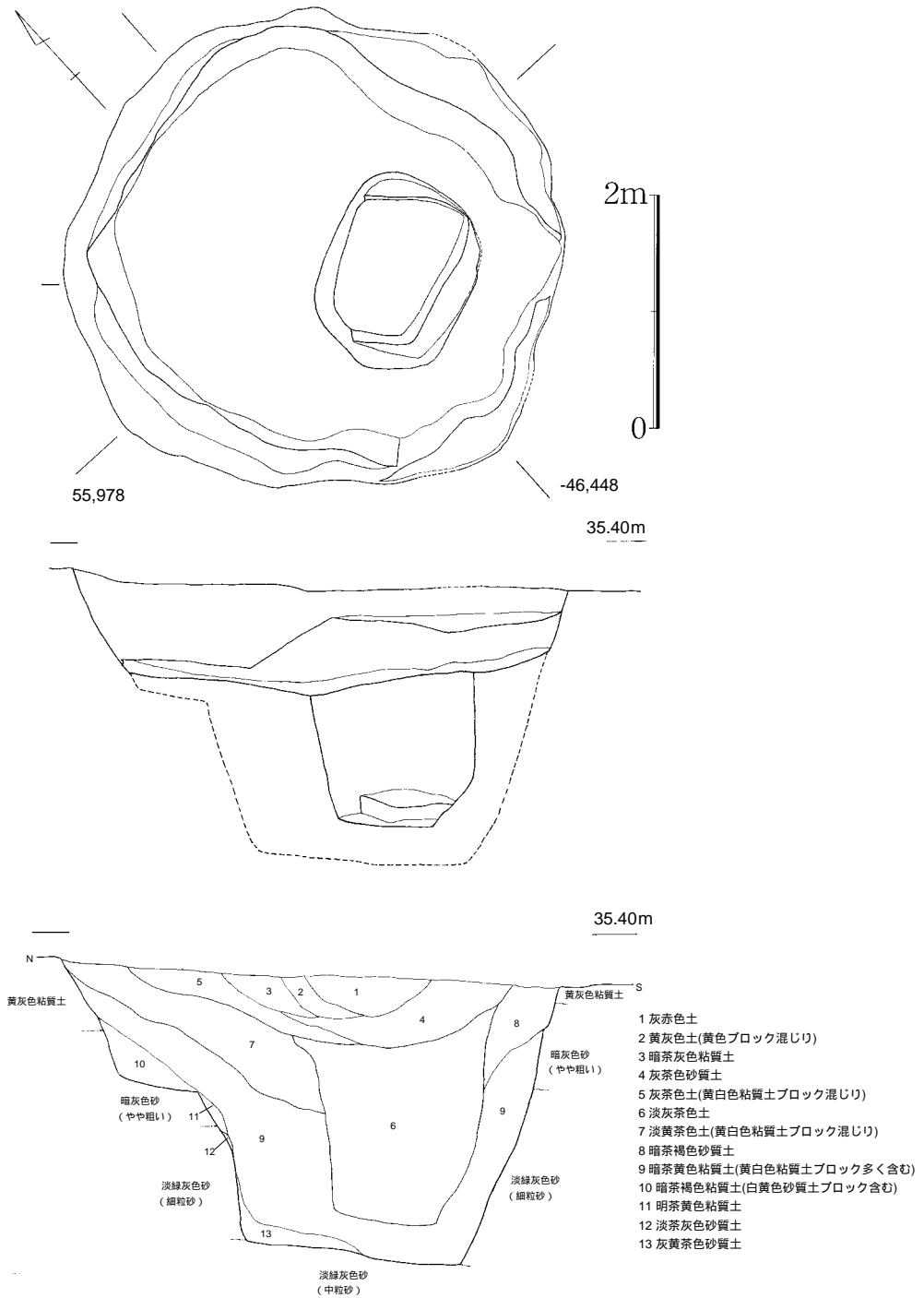


Fig.11-23 前田遺跡第11次調査 SK040 (1) 実測図・土層観察図

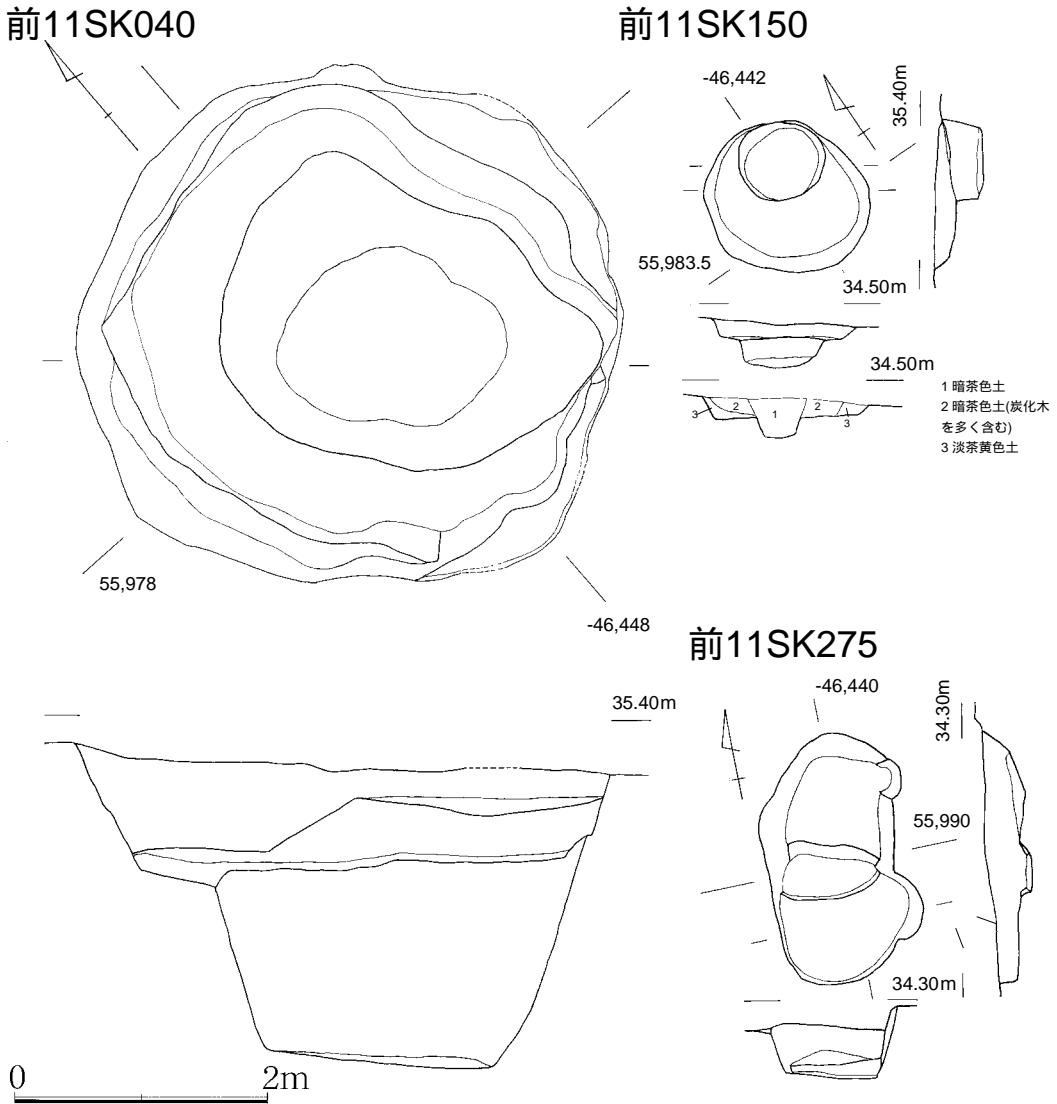


Fig.11-24 前田遺跡第11次調査 SK040 (2)、150、275実測図・土層観察図

埋土から多量の須恵器・土師器が出土している。層を観察すると大別3層の群に分けられる。土器群の分析からは、最初に埋没したのは8世紀前半から中頃で、中頃から後半にかけて掘り返しをしており、その後は自然堆積で8世紀後半から末期にかけて埋没していると考えられる。

前11SK150 (Fig.11-24、 [Pl.11-21](#)、 [Tab.11-10](#)、 [11-11](#)、 [11-12](#))

調査区中央東側CK48区で検出した。前11SK249に切られており、平面形は楕円形を呈する。南北1.3m、東西1.2m、深さ0.2mを測る。

前11SK150 出土炭化米計測表 (単位mm)

個体	長さ	幅	厚さ	長さ/幅	長さ×幅×厚さ
1	4.80	2.75	1.85	1.75	24.42
2	4.70	2.95	2.00	1.59	27.73
3	4.40	2.55	1.50	1.73	16.83
4	4.50	2.65	1.85	1.70	22.06
5	4.45	2.85	1.90	1.56	24.10
6	4.40	2.80	1.95	1.57	24.02
7	4.50	2.70	1.85	1.67	22.48
8	4.95	2.00	2.05	2.48	20.30
9	4.60	2.95	1.90	1.56	25.78
10	4.65	2.70	1.95	1.72	24.48
11	4.80	2.70	1.85	1.78	23.98
12	4.70	2.40	1.80	1.96	20.30
13	4.30	2.30	1.75	1.87	17.31
14	4.70	2.45	1.75	1.92	20.15
15	4.40	2.40	1.65	1.83	17.42
16	4.60	2.15	1.90	2.14	18.79
17	4.80	2.75	1.80	1.75	23.76
18	4.80	2.70	1.95	1.78	25.27
19	4.85	2.55	1.90	1.90	23.50
20	4.25	2.60	1.65	1.63	18.23
21	4.40	2.85	2.05	1.54	25.71
22	4.90	2.60	1.95	1.88	24.84
23	4.25	2.70	1.90	1.57	21.80
24	4.60	2.75	1.80	1.67	22.77
25	4.45	2.90	2.45	1.53	31.62
26	4.45	2.50	1.80	1.78	20.03
27	4.50	2.95	1.90	1.53	25.22
28	4.25	3.00	2.00	1.42	25.50
29	4.90	2.60	1.65	1.88	21.02
30	4.85	2.60	1.80	1.87	22.70
31	4.40	2.40	1.95	1.83	20.59

Tab.11-10 前田遺跡第11次調査 SK150出土炭化米計測表1

個体	長さ	幅	厚さ	長さ/幅	長さ×幅×厚さ
32	4.55	2.80	1.95	1.63	24.84
33	4.65	2.90	1.90	1.60	25.62
34	4.45	2.30	1.70	1.93	17.40
35	4.25	2.65	1.90	1.60	21.40
36	4.55	2.45	1.85	1.86	20.62
37	4.70	2.90	2.10	1.62	28.62
38	4.30	2.55	1.90	1.69	20.83
39	4.75	2.80	1.85	1.70	24.61
40	4.10	2.50	1.95	1.64	19.99
41	4.55	2.85	2.10	1.60	27.23
42	4.15	2.95	2.35	1.41	28.77
43	4.20	2.70	2.05	1.56	23.25
44	4.45	2.65	1.95	1.68	23.00
45	4.40	2.50	2.05	1.76	22.55
46	4.75	2.80	2.00	1.70	26.60
47	4.70	2.70	1.85	1.74	23.48
48	4.55	2.90	1.95	1.57	25.73
49	4.70	2.80	1.90	1.68	25.00
50	4.25	2.50	1.90	1.70	20.19
51	4.85	2.90	1.95	1.67	27.43
52	4.75	2.65	1.85	1.79	23.29
53	4.50	2.65	1.85	1.70	22.06
54	4.75	2.80	1.95	1.70	25.94
55	4.25	2.65	1.95	1.60	21.96
56	4.80	2.90	1.95	1.66	27.14
57	4.75	2.60	1.85	1.83	22.85
58	4.35	2.65	2.10	1.64	24.21
59	4.70	2.55	1.75	1.84	20.97
60	4.60	2.55	1.95	1.80	22.87
61	4.25	2.70	2.15	1.57	24.67
62	4.20	2.95	1.90	1.42	23.54
63	4.60	2.80	1.85	1.64	23.83
64	4.90	2.80	1.90	1.75	26.07
65	4.75	2.90	1.85	1.64	25.48
66	4.45	2.85	1.95	1.56	24.73
67	4.70	2.60	1.90	1.81	23.22

Tab.11-11 前田遺跡第11次調査 SK150出土炭化米計測表2

個体	長さ	幅	厚さ	長さ/幅	長さ×幅×厚さ
68	4.45	2.80	2.00	1.59	24.92
69	4.20	2.65	1.85	1.58	20.59
70	4.45	2.65	2.00	1.68	23.59
71	4.55	2.85	2.10	1.60	27.23
72	4.40	2.75	2.10	1.60	25.41
73	4.55	2.75	2.10	1.65	26.28
74	4.55	2.55	1.70	1.78	19.72
75	4.45	2.70	1.95	1.65	23.43
76	4.55	2.30	1.70	1.98	17.79
77	4.50	2.40	2.00	1.88	21.60
78	4.35	2.70	1.80	1.61	21.14
79	4.40	2.65	1.90	1.66	22.15
80	4.25	2.50	1.85	1.70	19.66
81	4.25	2.95	1.90	1.44	23.82
82	4.25	2.85	1.90	1.49	23.01
83	4.65	2.70	2.15	1.72	26.99
84	4.55	2.60	2.00	1.75	23.66
85	4.90	2.90	1.90	1.69	27.00
86	4.50	2.80	1.95	1.61	24.57
87	4.60	2.65	1.95	1.74	23.77
88	4.95	2.95	1.95	1.68	28.47
89	4.10	2.40	1.60	1.71	15.74
90	4.20	2.65	2.20	1.58	24.49
91	4.95	2.90	1.90	1.71	27.27
92	4.80	2.70	1.90	1.78	24.62
93	4.60	2.70	2.05	1.70	25.46
94	4.05	2.70	1.95	1.50	21.32
95	4.35	2.45	1.80	1.78	19.18
96	4.75	2.65	1.90	1.79	23.92
97	4.70	3.10	1.90	1.52	27.68
98	4.75	2.80	1.85	1.70	24.61
99	4.60	2.75	1.95	1.67	24.67
100	4.45	2.65	1.85	1.68	21.82

この計測表は、『津古牟田遺跡』小郡市文化財調査報告書 第35集 1985 p.60を参考に作成した。ただし、測定資料はすべて洗浄しており、測定可能なものみの数値である。また測定値の標準偏差は出していない。出土炭化米の総量は933.8g。

Tab.11-12 前田遺跡第11次調査 SK150出土炭化米計測表3

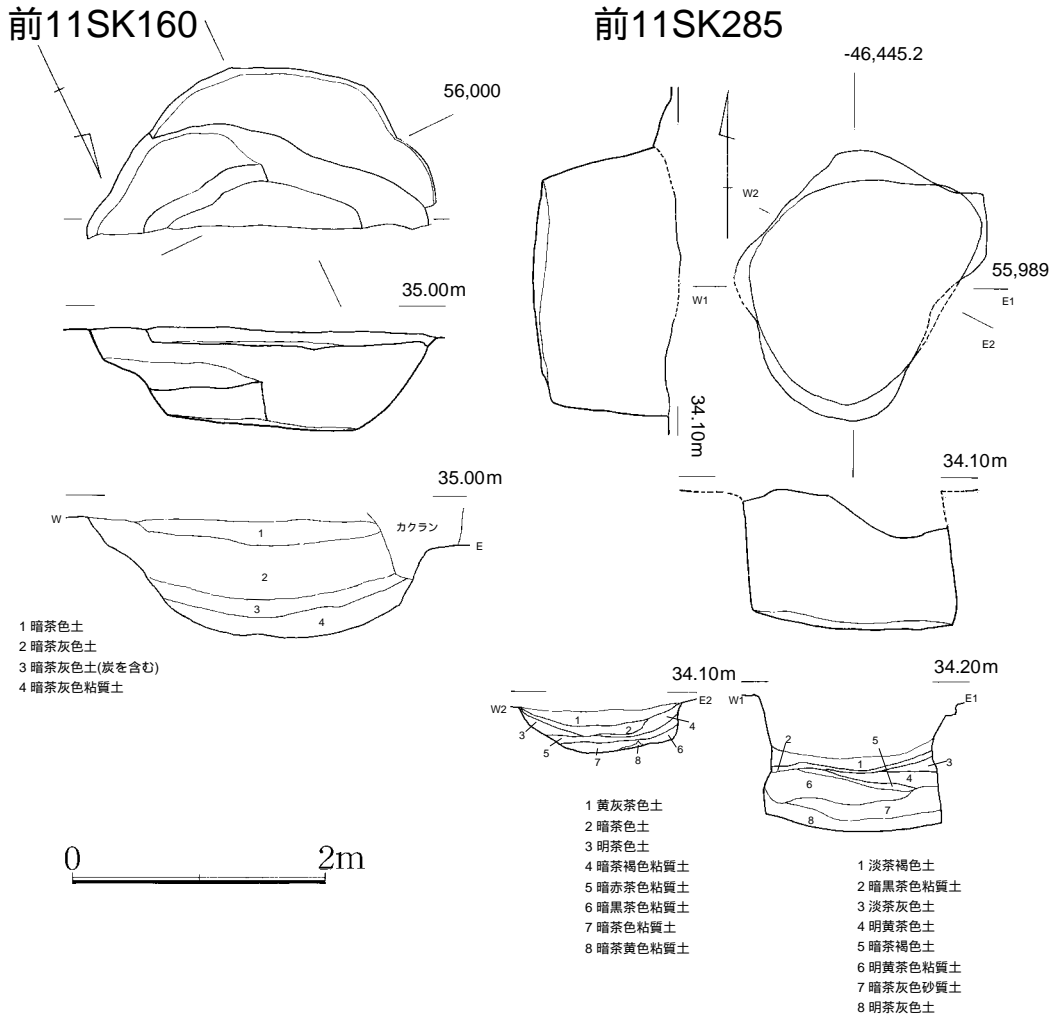


Fig.11-25 前田遺跡第11次調査 SK160、285実測図・土層観察図

埋土中から弥生時代後期の土器と共に多量の炭化米が出土した。(炭化米については計測表を参照のこと)

前11SK160 (Fig.11-25、PI.11-22)

調査区北部西側CP52区で検出した。調査区外に遺構が続いているため、全体形は不明だが円形を呈す土坑と思われる。東西2.7m、南北1.2m、深さ0.8mを測る。

埋土から奈良時代の須恵器が出土しているため、遺構はその時期に帰属すると思われる。

前11SK275 (Fig.11-24、PI.11-21)

調査区北部東側CL47区で検出した。前11SI220を切る。長さ2.0m、幅1.3m、深

さ0.35mを測る。中央部は段状になって一段深くなっている。

埋土から弥生時代後期中頃～後半の土器群が出土しているため、遺構はその時期に帰属すると思われる。

前11SK285 (Fig.11-25、Pl.11-22)

調査区北部東側CL48区付近で検出した。平面形は不整形で長さ2.0m、幅1.5mで、深さは1.0mを測り、北部に浅く1.0×1.0m程度広がっている土壌の断面形は、底面に比べて穴の上部が狭まるフラスコ型と思われるが壁面の崩落により明確にはわからない。

埋土から弥生時代前期前半の土器群が出土しているため、遺構はその時期に帰属すると思われる。

墳墓

前11ST075 (Fig.11-26、Pl.11-23)

調査区中央西側CJ54区付近で検出した。主軸をG.N -0° 35 5 - Eにとる。墓坑は南北4.0m、東西1.6m、深さ0.5mを測る長方形プランを呈する。平面プラン検出時には木棺痕跡などは確認できなかったため土壌墓と考えている。土層観察によると暗灰茶色砂質土の中央部が窪み、そこに灰茶色砂質土が堆積している。これは本来、遺体が存在していた空間が遺体が腐敗することで空き、そこに上部の土が入り込んだと考えられる。また、土層観察では木蓋の存在に関しても積極的に認められない。

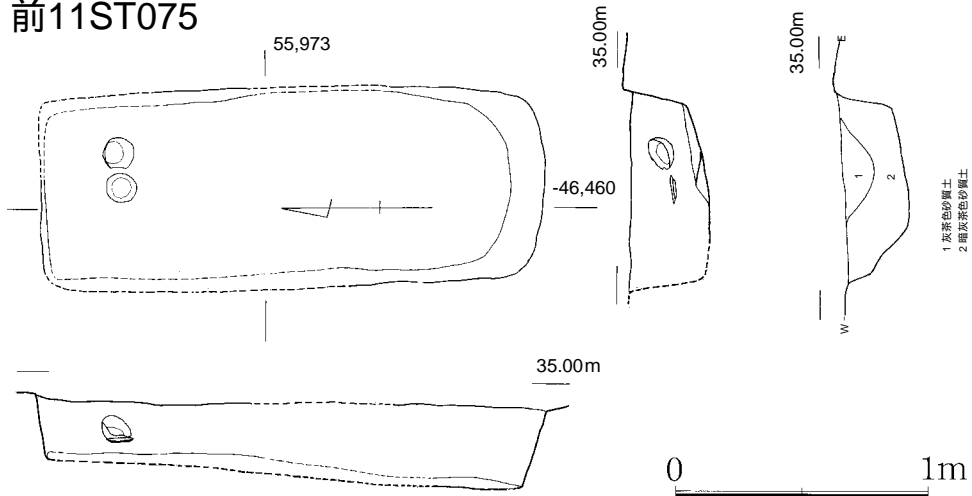
遺物は土師器の坏a、黒色土器B類椀が出土している。両方とも土壌内の北側に位置し、口縁部を墓坑内に向けて出土した。釘は出土していない。土器の帰属する年代観が10世紀後半から11世紀前半のため、その時期に帰属する遺構と思われる。

前11ST090 (Fig.11-26、Pl.11-23)

調査区中央CJ51・52地区で検出した。主軸をG.N -78° 41 24 - Eにとり、墓坑は東西4.25m、南北1.5m、深さ0.87mを測る。長方形プランを呈した鉄釘を使用する木棺墓である。鉄釘は51本検出された。墓坑内に棺材は残存していなかったが、鉄釘の出土状況と土層観察からは、推定長3.4m、推定幅0.8m、推定深さ0.5m以上の木棺を想定できる。木棺の部材の厚みは鉄釘に残存していた木質から、推定2cm程度と考えている。

遺物は、土師器坏a、鉄製毛抜きが出土している。土師器坏aは土壌の西側北寄り、鉄釘が出土している位置より内側で、口縁部を下に向けて伏せた状態で出土

前11ST075



前11ST090

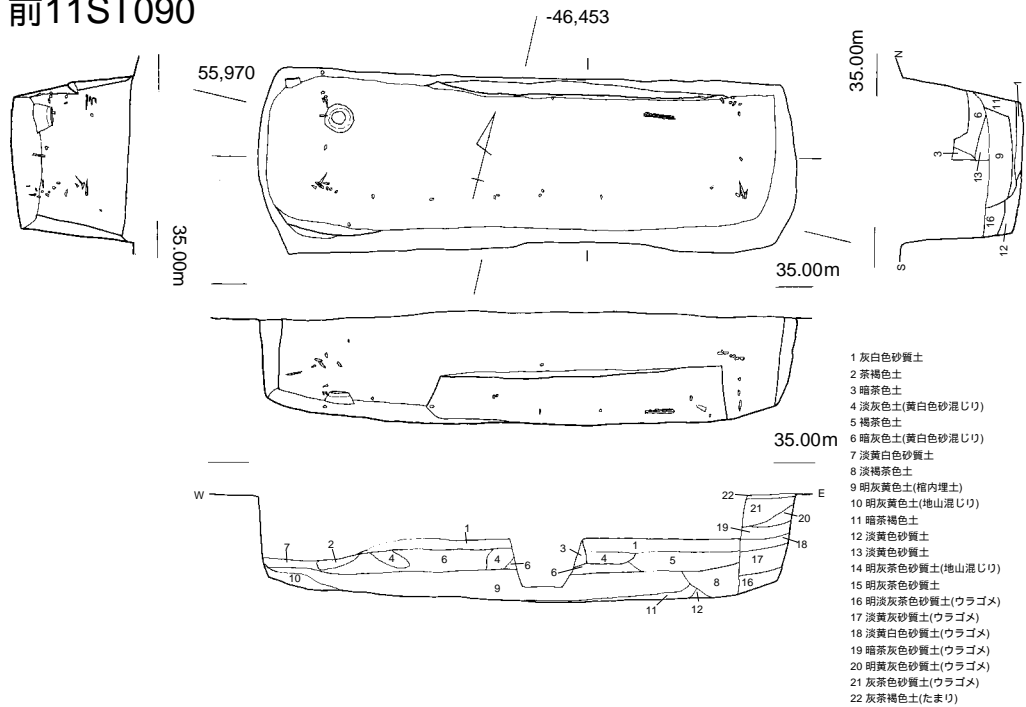
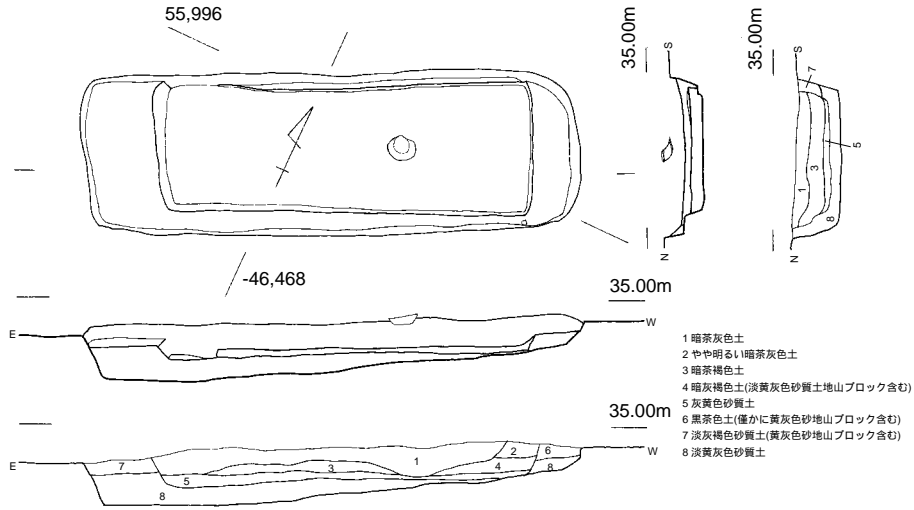


Fig.11-26 前田遺跡第11次調査 ST075、090実測図・土層観察図

した。鉄製毛抜きは東側北寄りに、先を東に向けて出土した。両方とも棺内に置かれていたと推定でき、副葬品と考えられる。9世紀前半から中頃の遺物が出土しているため、その時期に帰属する遺構と思われる。

前11ST130 (Fig. 11-27、Pl.11-24)

前11ST130



前11SX010

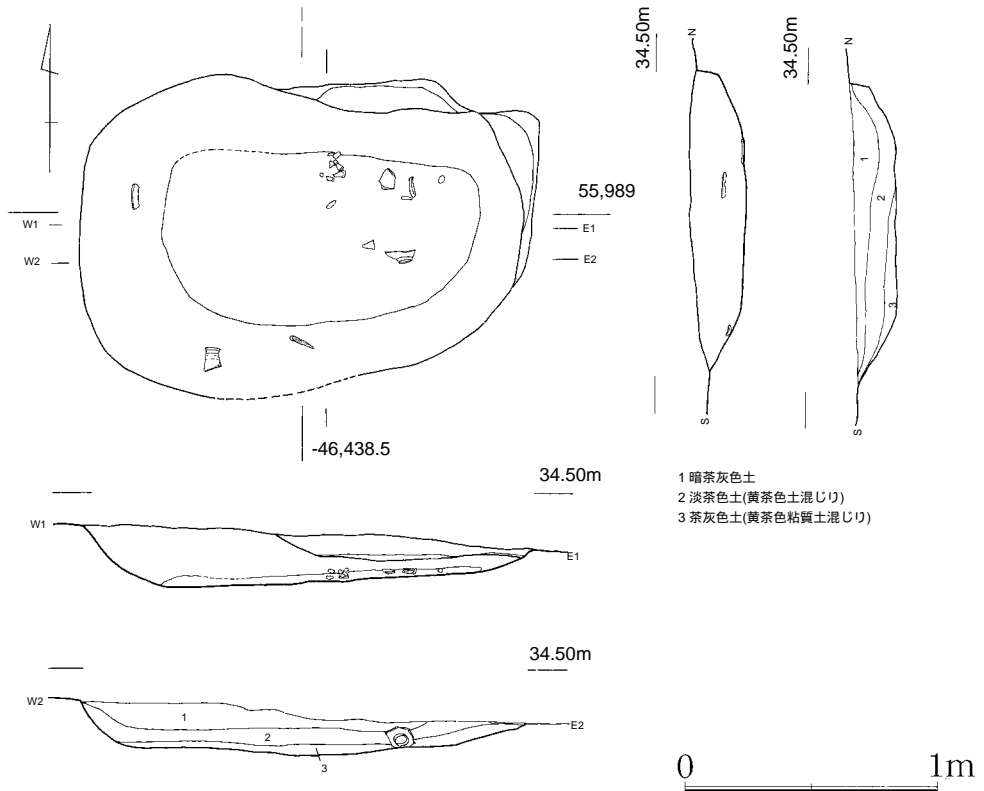


Fig.11-27 前田遺跡第11次調査 ST130、SX010実測図・土層観察図

調査区北部CN53区で検出した。主軸をG.N -64° 45 34 - Eにとる。墓壇は東西3.9m、南北1.25m、深さ0.45mを測る二段形成の長方形プランを呈する。下段は検出面から0.25m下がり、長さ3.0m、幅1.0mの長方形プランを呈している。土層観察によると、この下段のプランが棺の痕跡と考えられる。棺を取り囲むように淡黄灰砂質土が存在しているのは、棺の安定のための裏込めと思われる。大規模な削平のため本来のプランが分かりにくい、木棺墓と推定しておきたい。

遺物は7世紀代の須恵器蓋が出土しているが前11SX099による混入の可能性が考えられ、墓の形態からも平安期に下る可能性が高い。

その他の遺構

前11SX010 (Fig.11-27、Pl.11-24)

調査区北東CL46区で検出した。平面形は不整長方形で東西3.5m、南北2.5m、深さ0.5mを測る。

遺物は土師器、青磁碗、白磁碗、鉄製品が出土している。12世紀前半の遺物が出土しているため、その時期に帰属する遺構と思われる。

前11SX002 (Fig.11-2)

調査区南東CG46区で検出した。平面形は円形で東西0.85m、南北0.8m、深さ0.3mを測る。遺物は石器の剥片が出土している。

前11SX038 (Fig.11-2)

調査区中央CK49区で検出した。平面形は隅丸方形で東西0.3m、南北0.4m、深さ0.57mを測る。遺物は不明金属器が出土している。

前11SX039 (Fig.11-2)

調査区南東CJ49区で検出した。小規模なPit群である。直径が0.2～0.3mで深さは0.3m前後である。遺物は石鏃が出土している。

前11SX058 (Fig.11-2)

調査区中央CL51区で検出した。小規模なPit群である。直径が0.2～0.4mで深さは0.3m前後である。遺物は石包丁が出土している。

前11SX059 (Fig.11-2)

調査区中央CL50区で検出した。小規模なPit群である。直径が0.2～0.4mで深さは0.2～0.3m前後である。遺物は鉄釘が出土している。

前11SX076 (Fig.11-2)

調査区西部CJ54区で検出した。平面形は楕円形で東西0.9m、南北0.9mで深さは0.44mである。遺物は石鏃が出土している。

前11SX113 (Fig.11-2)

調査区西部CI・CJ52区で検出した。平面形は方形で東西0.5m、南北0.5mで深さは0.21mである。遺物は石器の剥片が出土している。

前11SX125 (Fig.11-2)

調査区東部CL47区で検出した。平面形は円形で東西0.8m、南北1.0mで深さは0.2mである。遺物は鉄釘が出土している。

前11SX176 (Fig.11-2)

調査区東部CL48区で検出した。小規模なPit群である。直径が0.2で深さは0.3m前後である。遺物は不明鉄製品が出土している。

前11SX236 (Fig.11-2、Pl.11-25)

調査区北西部CO51区で検出した。平面形は長方形で東西0.8m、南北0.9mで深さは0.2mである。遺物は砥石が出土している。

前11SX248 (Fig.11-2)

調査区東部CM47区で検出した。近現代の井戸に切られている。前11SI140の床面検出段階で検出した。平面形は円形で東西1.5m、南北2.35mで深さは0.18mである。遺物は弥生時代前期の壺、後期の甕などの細片が出土している。

前11SX321 (Fig.11-2、Pl.11-25)

調査区東部CM47区で検出した。平面形は不整形で、東西2.0m、南北3.1m、深さ0.93mを測る。上層より、明黄褐色粘質土、明黄橙色粘質土、暗黄褐色粘質土、明黄灰色粘質土が堆積している。遺物は全く検出できなかった。調査区内にこの遺構と同じく黄色土の堆積層が数ヶ所確認できたが、いずれも自然堆積の可能性が高い。

4) 遺物

個々の出土遺物の詳細については本文末に観察表を提示しているのので、そちらを参照していただきたい。ここでは各遺構出土遺物の特徴的なものの所見や遺物群全体の相対的様相、推定可能な場合は年代を述べる。

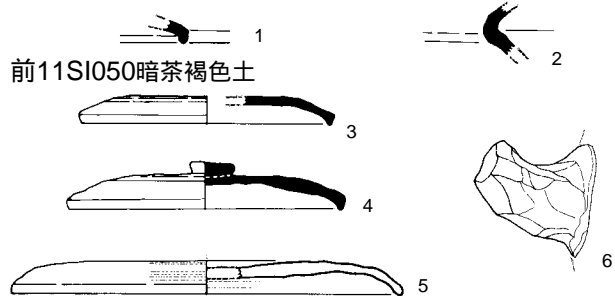
出土土器・土製品

掘立柱建物

前11SB200出土土器 (Fig.11-28、Pl.11-27)

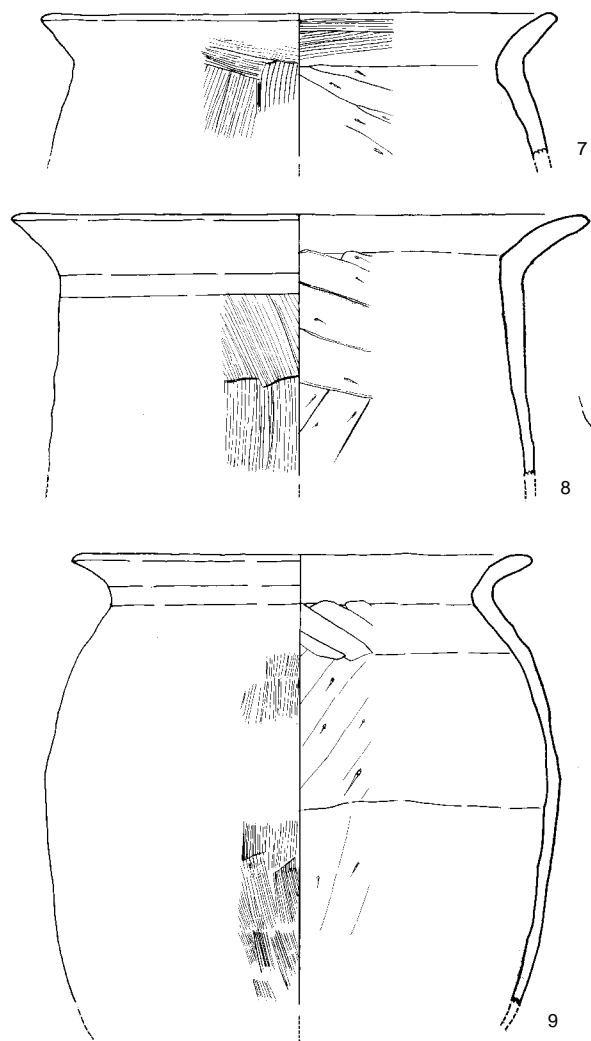
遺物の出土量は極少量だがそれぞれの柱掘り方から須恵器が出土している。図化した破片は蓋3と甕の頸部である。ともに8世紀代のものと考えられる。他には

前11SB200

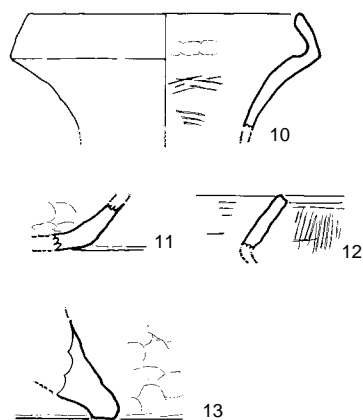


前11SI050暗茶褐色土

前11SI050淡茶褐色土



前11SI070茶灰色土



前11SI080淡茶灰色土

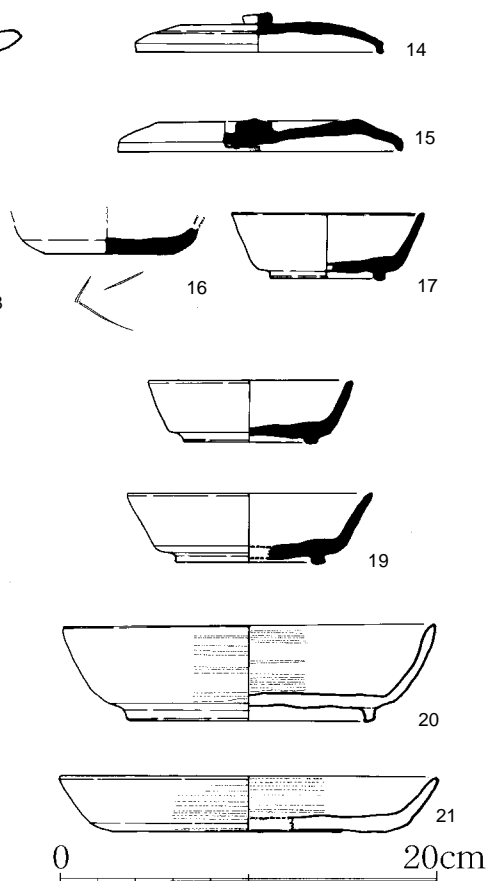


Fig.11-28 前田遺跡第11次調査 SB200、SI050、070、080 (1)
出土遺物実測図

前11SI080茶灰色土

前11SI140茶褐色土

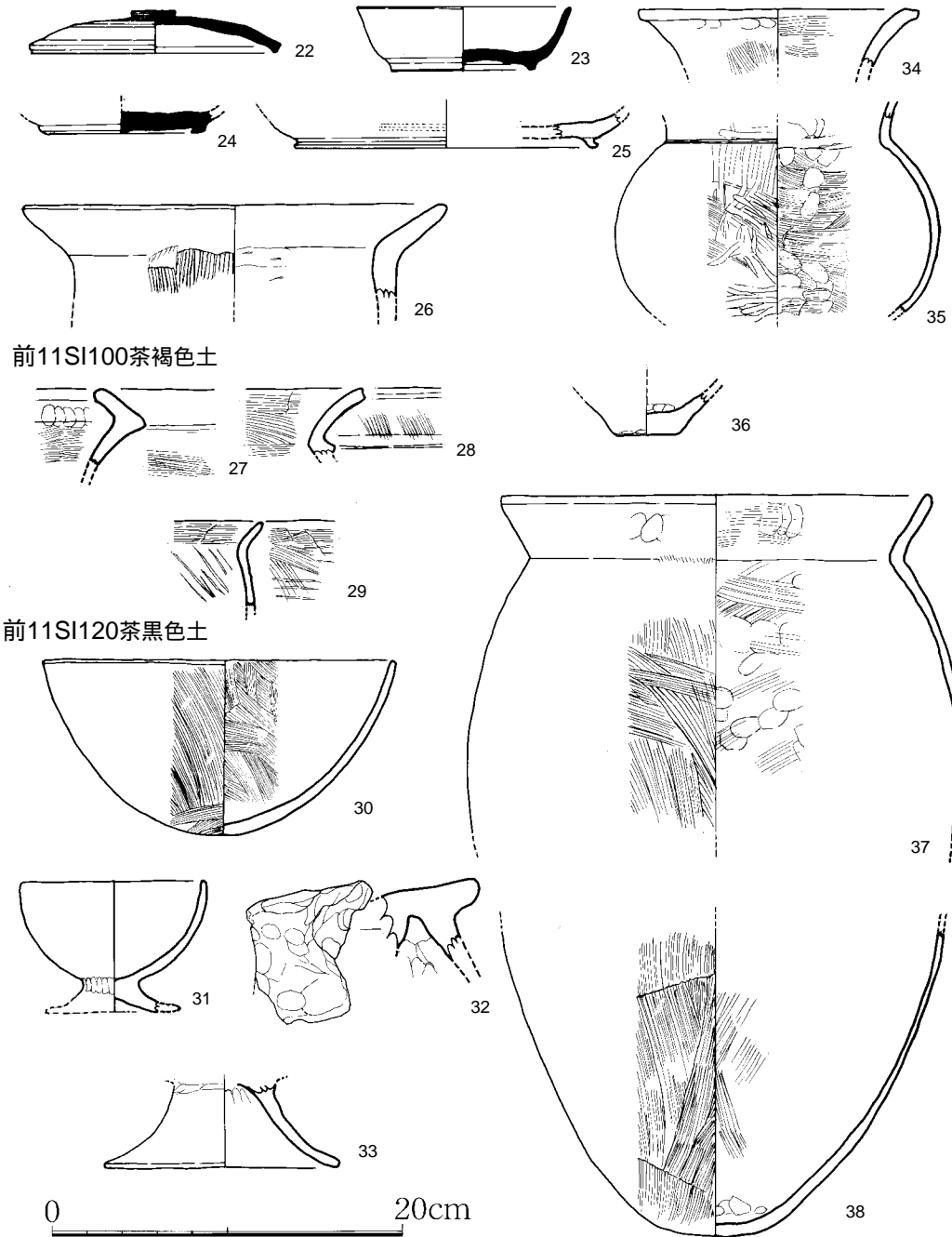


Fig.11-29 前田遺跡第11次調査 SI080 (2)、100、120、140出土遺物実測図

弥生時代後期末から古墳時代前期前半までの土器が出土しているが、他遺構からの混入品と判断している。

竪穴住居

前11SI050出土土器 (Fig.11-28、Pl.11-27)

須恵器と土師器が出土している。暗茶灰色土層出土の須恵器蓋3～5の端部形状はやや丸みをもつ三角形状を呈している。6の土師器の把手部は、甕もしくは甑のものだが、内面の傾斜から甕の可能性が高いと考えている。淡灰褐色土層と穴aからは「く」の字形の口縁をもつ土師器の甕が出土している。この内の9は、体部が丸みを帯びており、頸部内側のケズリの稜が緩やか、色調が明黄色である等の古い要素を持っている。これに対して7・8は体部が直線的で、頸部内側のケズリの稜がきつい、色調が淡灰色であるなど新しい要素が見られる。遺物の下限は大宰府編年ではIII・IV期にあたる8世紀中～後半の土器群と考えられる。

前11SI070出土土器 (Fig.11-28)

この遺構からの出土量は少ない。18は後期の複合口縁壺の中では古い様相を呈している。弥生時代後期前半～中頃の土器群と考えられる。

前11SI080出土土器 (Fig.11-28、11-29、Pl.11-27、11-28)

この遺構からは多くの遺物が出土している。暗茶灰色土層出土の須恵器蓋14,15はともに外面天井部をヘラケズリで調整している。17～19は坏cで、体部が直線的に立ち上がり高台を屈曲部よりやや内側に付けている。土師器椀20、大皿21は内外面にミガキaが施されている。茶褐色土層からも須恵器・土師器が出土しているが、暗茶灰色土層より若干古い要素が見られる。遺物群の下限は大宰府編年ではIII期にあたる8世紀中頃と考えられる。

前11SI100出土土器 (Fig.11-29、Pl.11-29)

この遺構からは遺物の出土量は少ない。27は複合口縁壺で、屈曲の稜が外側に向かって張り出していることから新しい様相が認められる。28の甕は、体部と口縁部の接合部に突帯が付く。弥生時代後期中頃～後半の土器群と考えられる。

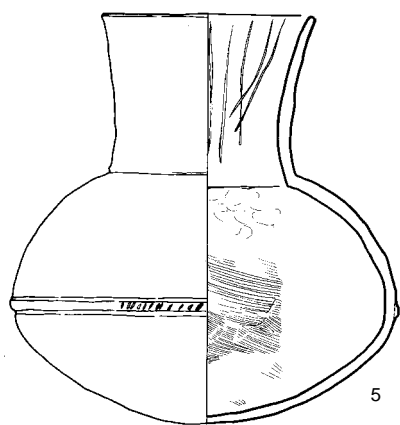
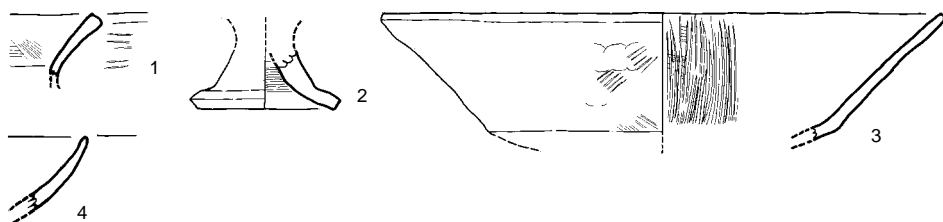
前11SI120出土土器 (Fig.11-29、Pl.11-29)

30は素口縁の鉢である。31は、胎土が精良で丁寧なミガキ調整が施される小型脚付き鉢である。32は支脚で上部の一部が角状に張り出している。弥生時代後期末～古墳時代前期前半の土器群である。

前11SI140出土土器 (Fig.11-29、Pl.11-30)

34・35は壺で長頸形である。34の色調は灰白色で35は明赤褐色である。36は平底の壺の底部である。37は、く字形口縁甕。38は甕で底部がレンズ状底を呈して

前11SI155茶褐色土



前11SI165茶褐色土

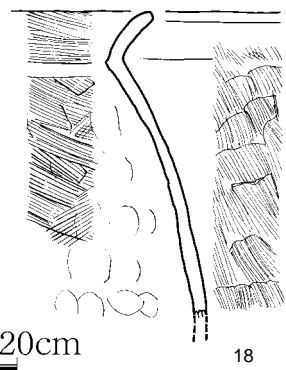
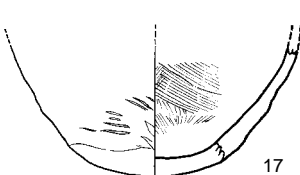
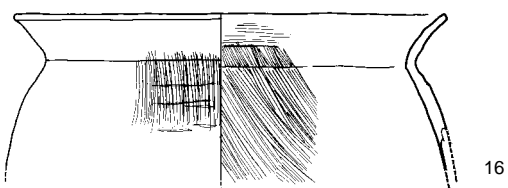
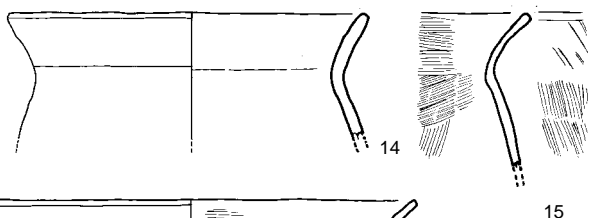
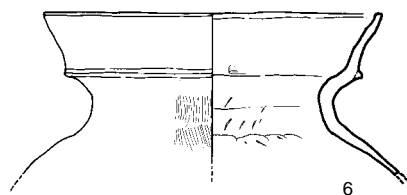
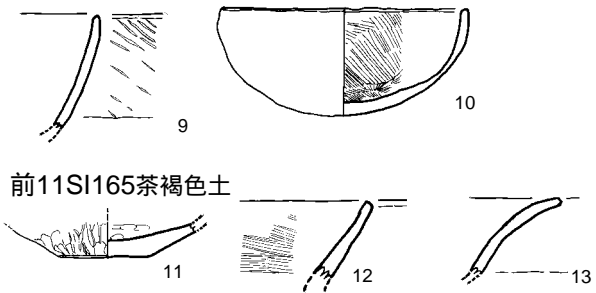


Fig.11-30 前田遺跡第11次調査 SI155、165 (1) 出土遺物実測図

前11SI165茶褐色土

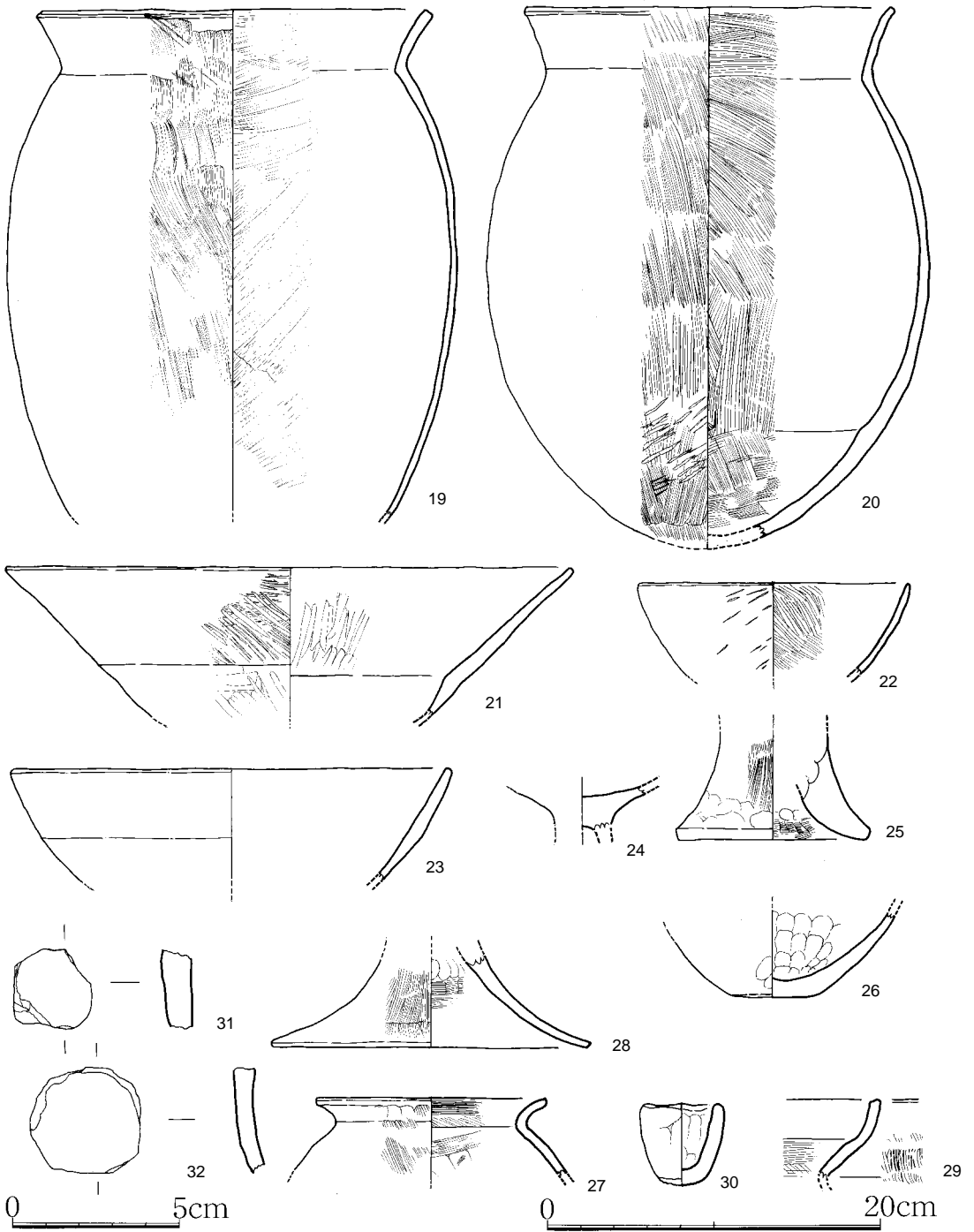
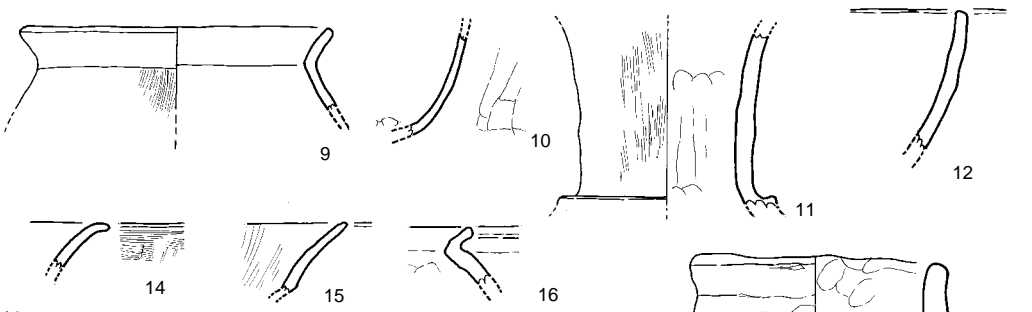
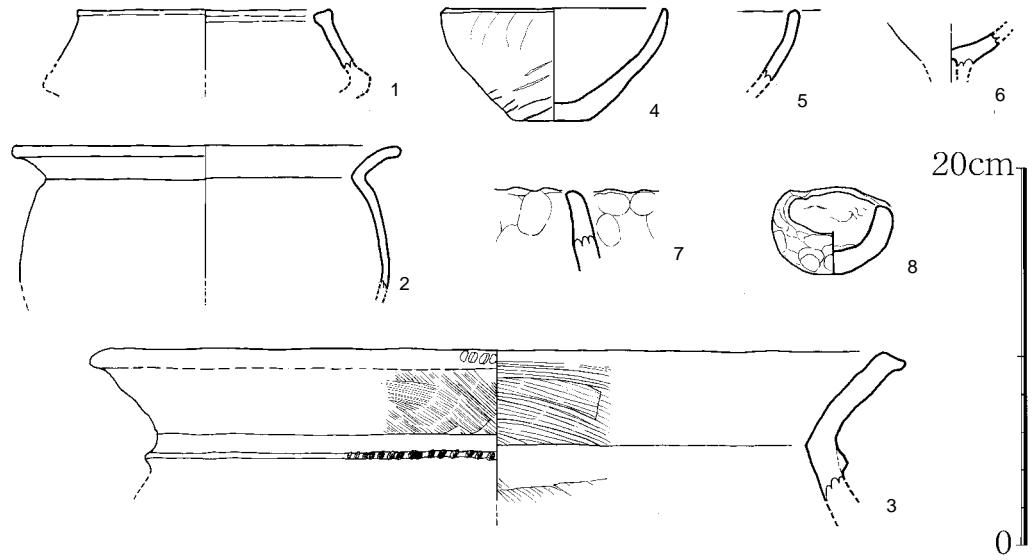


Fig.11-31 前田遺跡第11次調査 SI165 (2) 出土遺物実測図

前11SI175茶褐色土



前11SI180茶褐色土

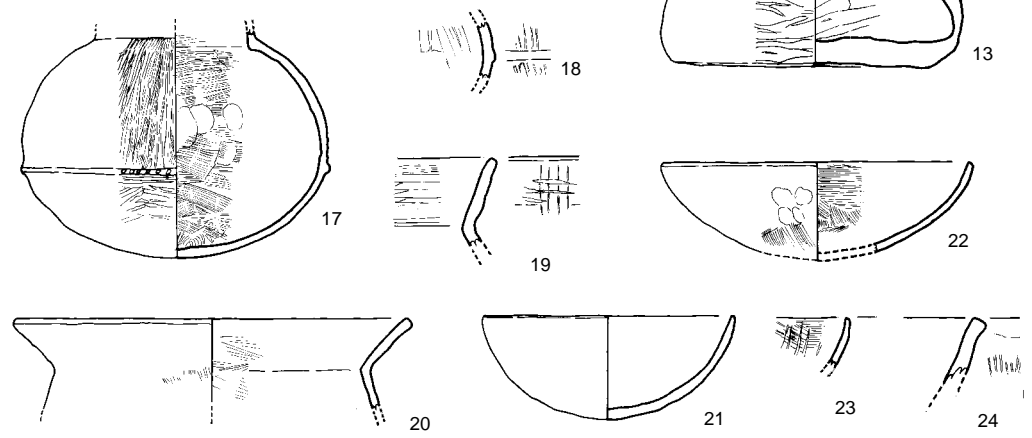
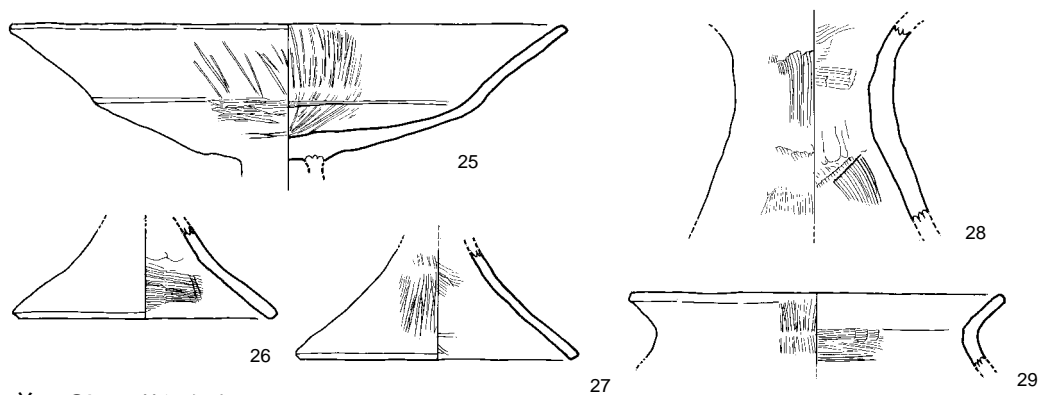
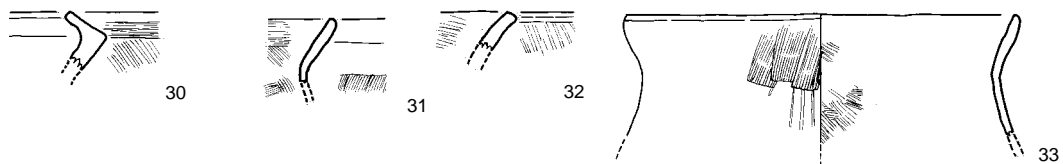


Fig.11-32 前田遺跡第11次調査 SI175、180(1) 出土遺物実測図

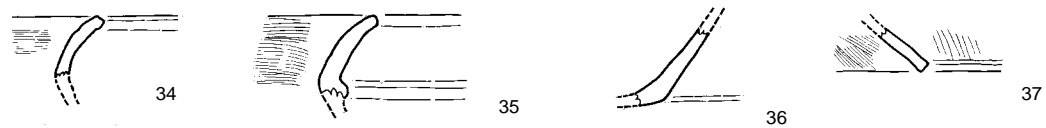
前11SI180茶褐色土



前11SI185茶褐色土



前11SI195茶褐色土



前11SI210茶褐色土

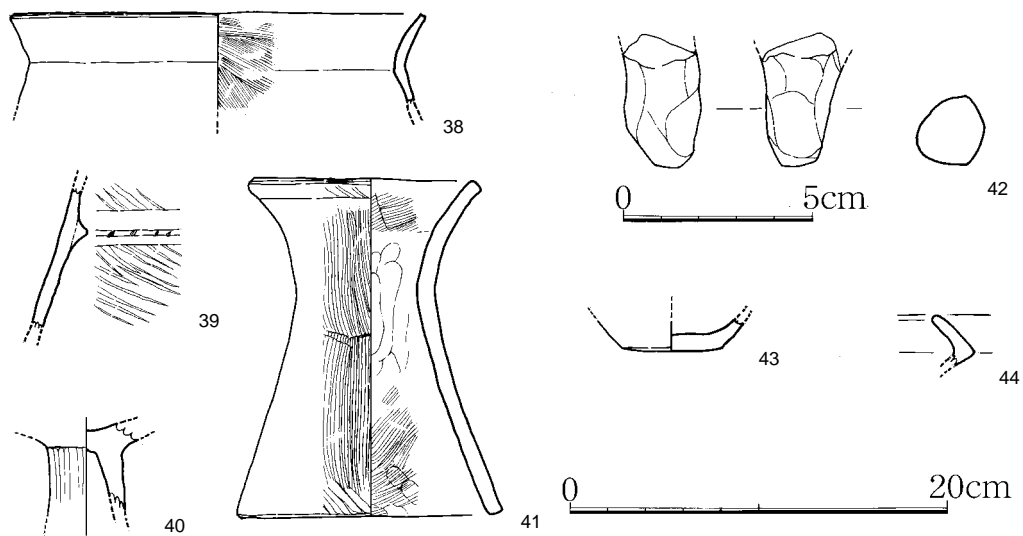


Fig.11-33 前田遺跡第11次調査
SI180 (2)、185、195、210出土遺物実測図

いる。37,38は同一個体の可能性がある。弥生時代後期後半の土器群と考えられる。

前11SI155出土土器 (Fig.11-30、Pl.11-30)

3は高坏で体部と口縁との屈曲がやや不明瞭である。茶褐色土d地点出土の壺5は広口形の口縁で完形に近い残存している。6は口縁が大きく外反してひらき、頸部との接合部には突帯が巡る二重口縁の壺である。7は底部で平底である。共に器壁は内面にヘラケズリが施されているためとても薄く2mm～5mm程度である。6,7は同一個体の可能性が高い。これらは布留式段階のもので器形から山陰系と考える。茶褐色土e地点出土の壺8は頸部に突帯が巡る。茶褐色土f地点出土の9,10は坏形の鉢である。弥生時代後期末から古墳時代前期前半の土器群と考えられる。

前11SI165出土土器・土製品 (Fig.11-30、11-31、Pl.11-31、11-32)

この遺構からは遺物が多く出土している。茶褐色土層出土の甕14,15は、く字形の口縁、体部が砲弾形、底部が尖り気味の丸底等の特徴を有している。これらの属性は西新町式と共通しており、西新町II式併行期と思われる(『高速鉄道関係埋蔵文化財調査報告書II』-福岡市埋蔵文化財調査報告書第79集—福岡市教育委員会 1982)。茶褐色土12と淡黄色土29は、布留系甕である。茶褐色土31,32は土器加工片である。弥生時代後期末～古墳時代前期前半の土器群と考えられる。

前11SI175出土土器・土製品 (Fig.11-32、Pl.11-32、11-33)

茶褐色土と灰黄色土から多くの土器が出土している。1は壺で複合状口縁を呈する。甕2は丸みを持つ体部と強く外反する、く字形口縁を呈す。甕3は頸部に突帯を持つ大型の甕である。胎土は白色鉱物を少量含み、色調は暗淡灰色を呈す。4は素口縁の鉢で外面にタタキ痕が残る。8はミニチュア土製品。11は丹塗りの壺である。13は鉢で平底で内湾する体部に直線的に延びる口縁部を有する。内外面に指頭圧痕が残存し、ケズリが施される。15は高坏の口縁部で、体部との屈曲部が明瞭である。弥生後期中頃～後半の土器群である。

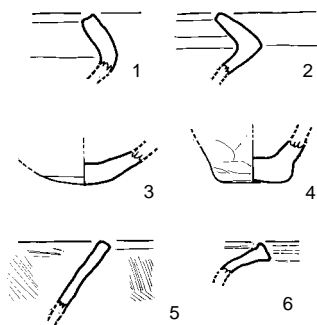
前11SI180出土土器 (Fig.11-32、11-33、Pl.11-33)

17は頸部より上部が欠損した壺である。20は口縁部が、く字形に外反する甕である。21,22は弥生時代後期の小型鉢だが、古墳時代以降に隆盛する「椀」の器形の祖形と考えられている。25の高坏は体部と口縁部との接合部での屈曲が明瞭できる。弥生時代後期後半の土器も出土しているが、下限は古墳時代前期前半の土器群と考えられる。

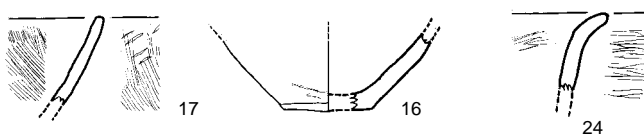
前11SI185出土土器 (Fig.11-33、Pl.11-33)

30は複合口縁壺の口縁である。33は甕で、外反が弱いく字形の口縁を呈する。弥生時代後期後半の土器群である。

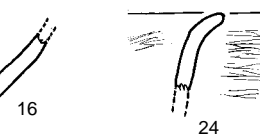
前11SI220茶褐色土



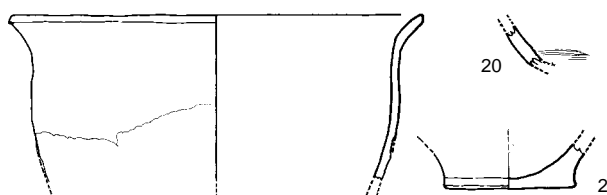
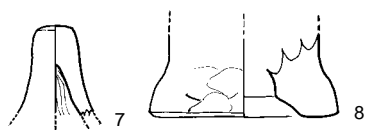
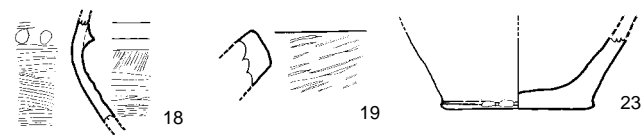
前11SI240茶褐色土



前11SI225淡茶褐色土



前11SI250茶褐色土



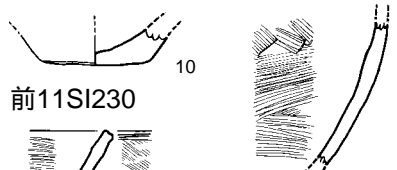
前11SI270茶褐色土



前11SI305茶褐色土



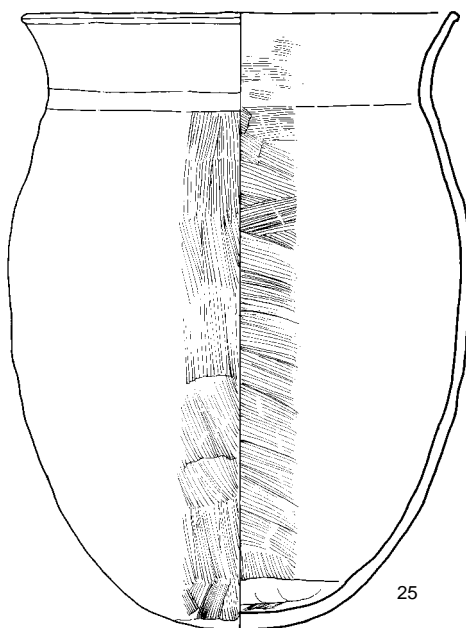
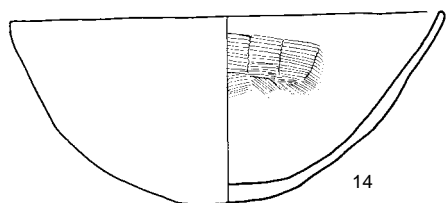
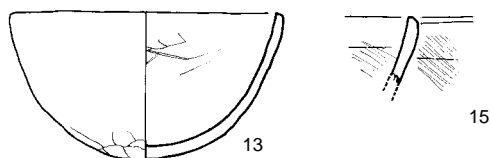
前11SI225茶褐色土



前11SI230



前11SI235茶褐色土



0 20cm

Fig.11-34 前田遺跡第11次調査 SI220、225、230、235、240、250、255、270、305 出土遺物実測図

前11SI195出土遺物 (Fig.11-33、PI.11-33)

34,35は甕の口縁部で、くの字に外反している。35には頸部との屈曲部に突帯が巡る。36は甕の底部で、丸底気味である。弥生時代後期中頃の土器群と考えている。

前11SI210出土土器・土製品 (Fig.11-33、PI.11-34)

38は、くの字形を呈し、緩く外反する口縁部をもつ甕である。39は突帯が施される甕。外面はタタキ調整でその後に軽くナデ調整を施す。突帯の先端部に刻み目が施されている。41は完形に近い器台。42は不明土製品。小型の脚の可能性を考えている。43はやや丸底気味の壺の底部。44は複合口縁壺の口縁部。これらは弥生時代後期中頃～後半の土器群と考えられる。

前11SI220出土土器 (Fig.11-34、PI.11-34)

1,2は複合口縁壺の口縁部である。1は口縁部が丸みを帯びており、2は直線的で稜が明瞭である。はV様式系壺の底部である。6は器台の口縁部で2重の沈線が巡る。これらの土器群の帰属年代は弥生時代後期後半から末と考えられる。

前11SI225出土土器 (Fig.11-34、PI.11-34)

10は壺の底部の破片で平底に近い。11は鉢の体部の破片である。弥生時代後期中頃の土器群である。

前11SI230出土土器 (Fig.11-34、PI.11-34)

13,14は素口縁の鉢である。14はほぼ完形で出土している。14の外面の底部に近い部位には焼成後と見られる黒斑があり、内面にも外面と対応する部位は器壁が淡灰褐色に変色している。このことはこの鉢が煮沸具としても使用されていた可能性を示唆する。弥生時代後期中頃の土器群である。

前11SI235出土土器 (Fig.11-34、PI.11-34)

15は素口縁の鉢である。

前11SI240出土土器 (Fig.11-34、PI.11-35)

16は平底の壺である。17は素口縁形の鉢である。弥生時代後期後半の土器群である。

前11SI250出土土器 (Fig.11-34、PI.11-35)

18は壺の頸部である。屈曲部に断面三角形を呈する突帯が付いており、体部に近い部位に凹線が数条施されている。19は大型の甕の口縁部である。外面にはタタキ調整が施されている。弥生時代後期後半の土器群である。

前11SI255出土土器 (Fig.11-34、PI.11-35)

20は壺の頸部である。外面に3条の凹線が巡っているが、これは板付式I古段階か

らII新段階の壺によく見られる属性である。21は壺の底部。22, 23は甕で板付式に相当すると考えられる。しかし22は口縁端部の刻み目が焼成不良のために確認できない。24は鉢で、口縁部は外反している。弥生時代前期前半～中頃の甕である。

前11SI270出土土器 (Fig.11-34、Pl.11-35)

25は、く字形の口縁部、やや長胴形の体部、丸底の底部等の特徴から西新町II～III式の甕と考えられる。26,27は高坏である。27は口縁部の立ち上がりの屈曲部に明瞭な稜が見られる。古墳時代前期前半の土器群と考えられる。

前11SI305出土土器 (Fig.11-34、Pl.11-35)

遺物の出土量は極端に少なかった。28は甕で底部の破片である。平底。板付式か。

土坑

前11SK040出土土器 (Fig.11-35、11-36、11-37、Pl.11-35、11-36、11-37、11-38、11-39)

大型の土坑から出土した土器群で層位的に取り上げている。その層位から見ると大きく3つの段階に分けられる。最終埋没、掘り返し、初期埋没である。以下各層群ごとの土器の大まかな様相をみていきたい。

最終埋没群出土 (灰赤色土、黄灰色土、茶灰色砂粘質土、灰茶色砂質土) の土器

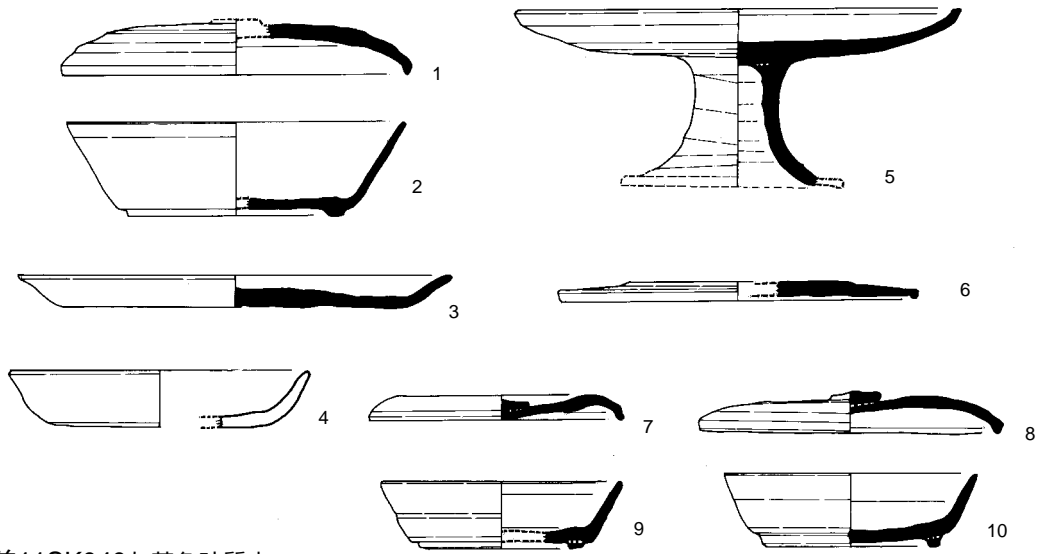
これらの土器群の中で一番新しい要素を持つものは灰赤色土層から出土している。2の須恵器坏cは、器壁が薄く焼成不良で色調は淡灰色を呈している。高台は低くつぶれた台形で、底部外側に近くに貼り付けられる。3の須恵器大皿aも同様に焼成不良で色調は淡灰色を呈している。4の土師器坏aは他の遺構からの混入である可能性が高い。大宰府編年V・VI期にあたる。灰茶色砂質土層からは土師器甕aが多く出土している。24～27はいずれも小破片ながら、内面のケズリがきついため、内面に明瞭な稜が見られ、口縁部は「く」の字形に大きく外反しているのが特徴である。高坏は須恵器 (黄灰色土5) と土師器 (灰茶色砂質土23) が出土しており両方ともb2型式である。これらの土器群は大宰府IV・V期の様相に近いと推定年代としては8世紀後半から末期に比定できる。

掘り返し (淡灰茶色土) の土器相

この層出土の須恵器坏cは、上層出土のものに比べて、高台を底部のやや内側よりに貼り付ける。35,36は須恵器高坏である。35は脚部が欠損しており、黄灰色土5に比べると口径が小さく、器壁も薄く、胎土が精良ではない。36はb1型式である。最終埋没群と比較すると若干古い型式が確認できる。これらの土器群は大宰府編年のIV期に相当すると思われる。

前11SK040灰赤色土

前11SK040黄灰色土



前11SK040灰茶色砂質土

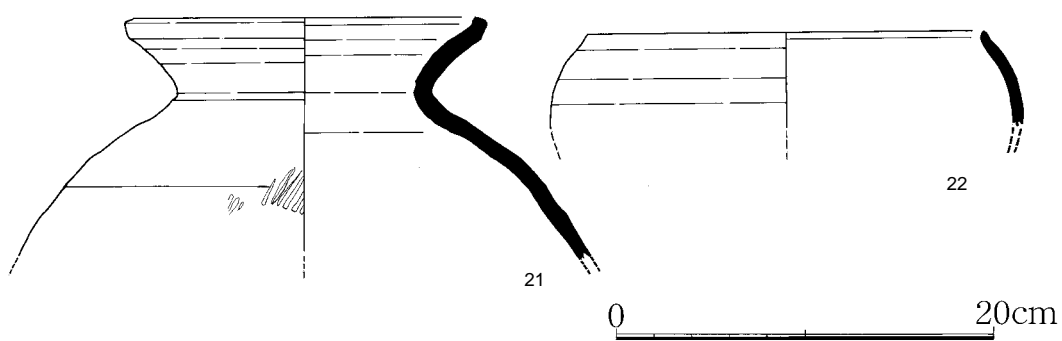
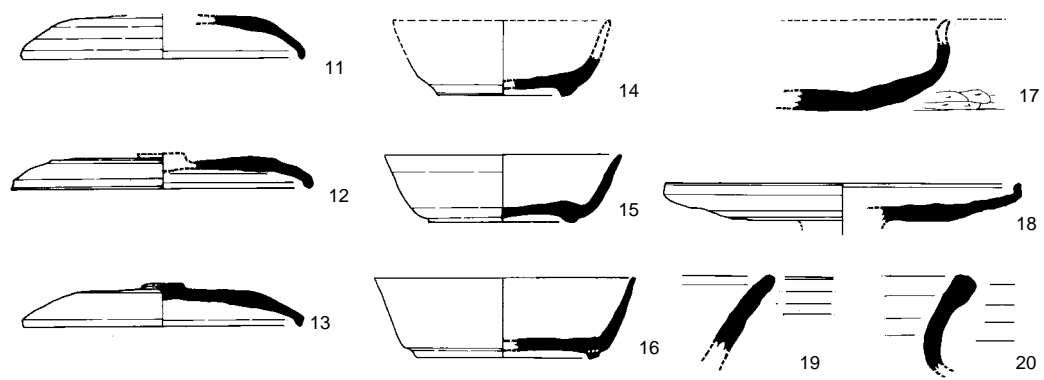
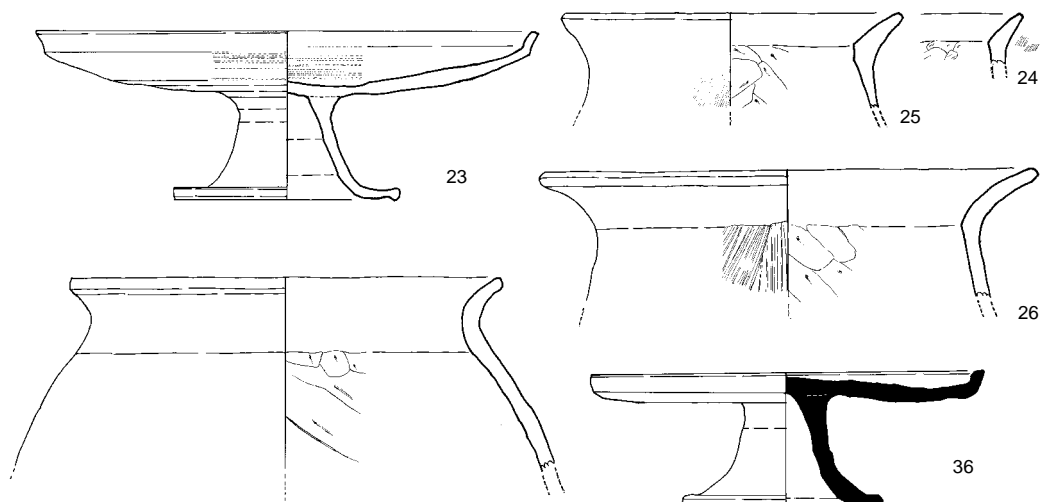
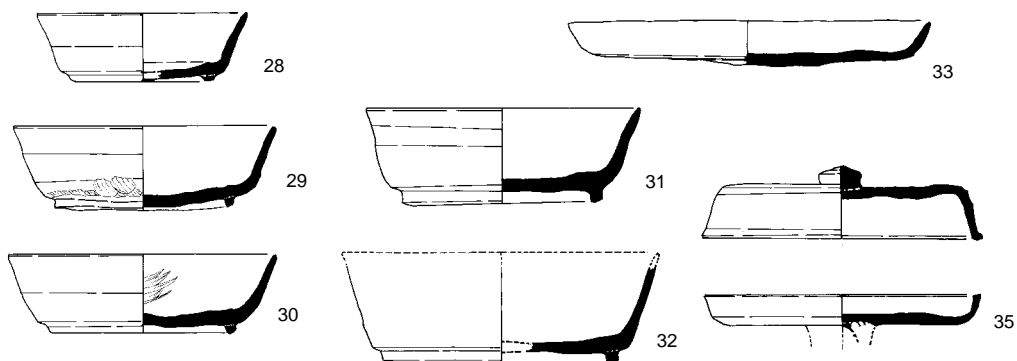


Fig.11-35 前田遺跡第11次調査 SK040灰赤色土、黄灰色土、灰茶色砂質土 (1)
出土遺物実測図

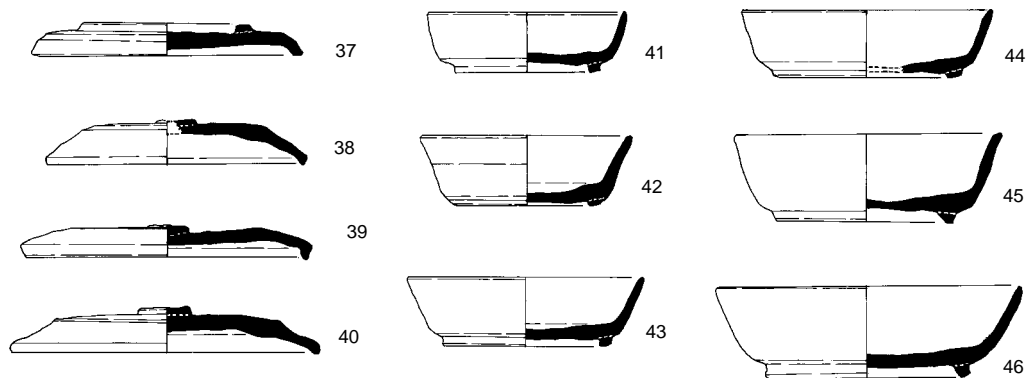
前11SK040灰茶色砂質土



前11SK040淡灰茶色土



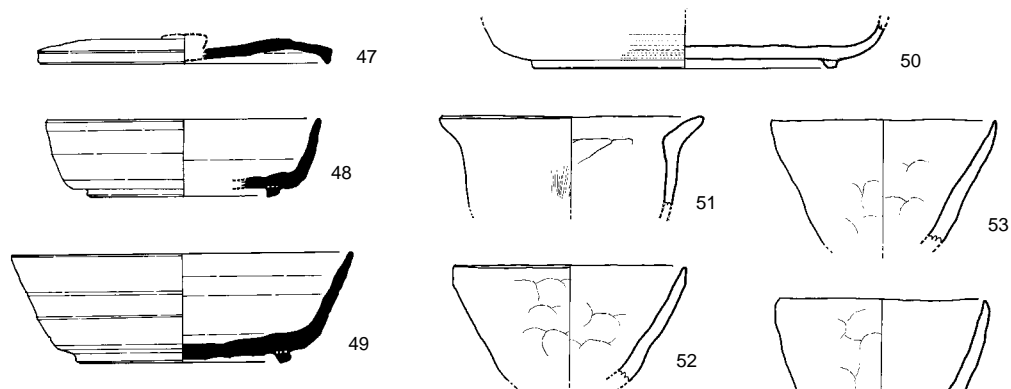
前11SK040淡黄茶色土



0 20cm

Fig.11-36 前田遺跡第11次調査 SK040灰茶色砂質土(2)、淡灰茶色土、淡黄茶色土
出土遺物実測図

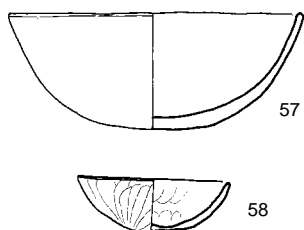
前11SK040暗茶灰色土



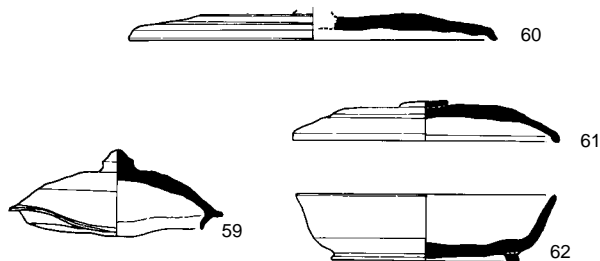
前11SK040暗茶色粘質土



前11SK150



前11SK160



前11SK275

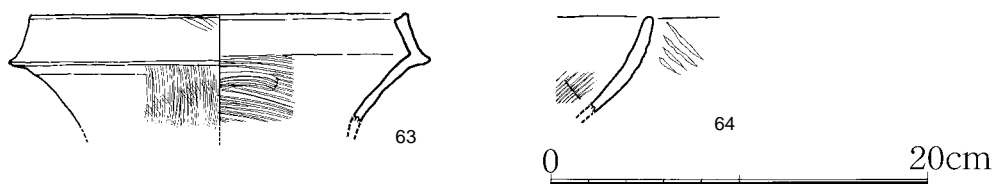
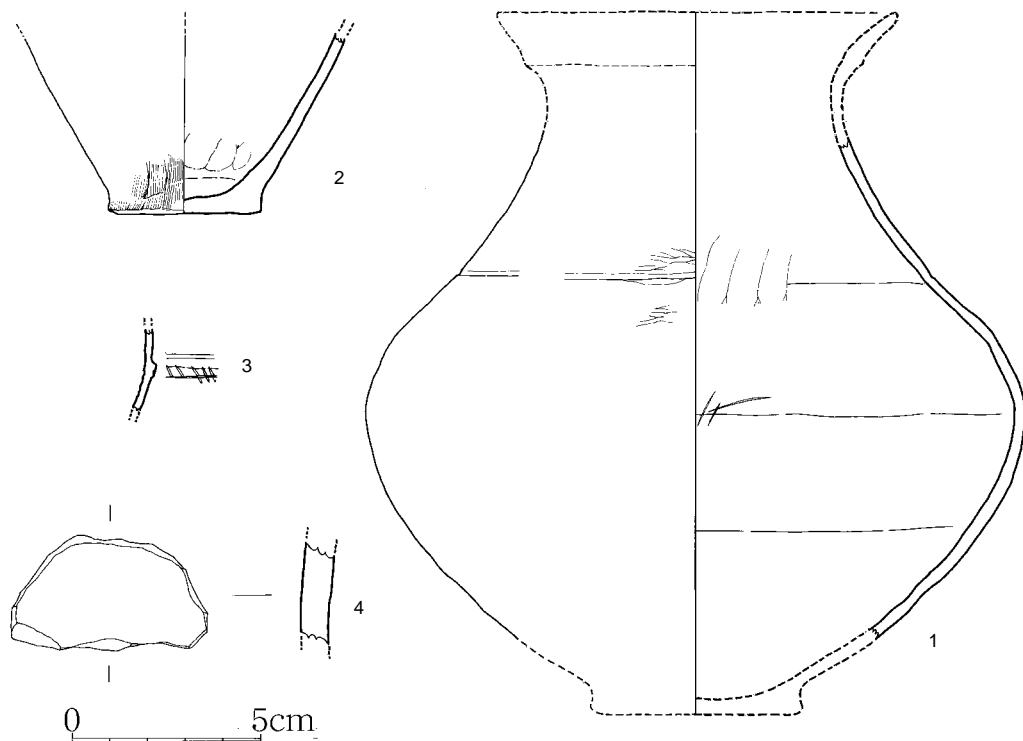


Fig.11-37 前田遺跡第11次調査 SK040暗茶灰色土、暗茶色粘質土、SK150、160、275出土遺物実測図

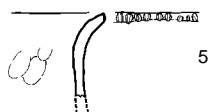
初期埋没（淡黄茶色土、暗茶色土、暗茶黄色粘質土）の土器相

須恵器坏cには、高台の断面形が逆台形を呈すもの（41～45,48,56）と、高台が外側に向かって張るもの（46,49）がある。高台が張るものの体部は丸みを帯びている。37は須恵器蓋bである。出土例は少なく本遺跡からは1個体しか確認できて

前11SK285暗赤茶色粘質土



前11SK285暗茶灰色砂質土



前11SK285明茶灰色土

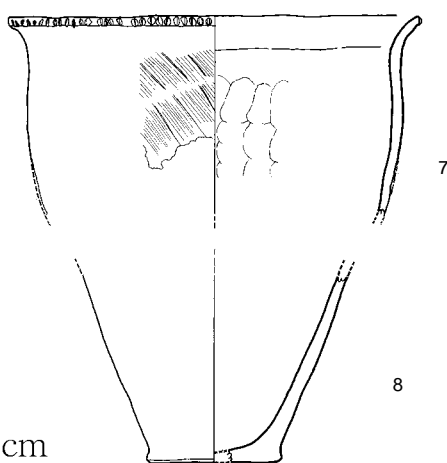
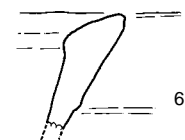


Fig.11-38 前田遺跡第11次調査 SK285暗赤茶色粘質土、暗茶灰色砂質土、明茶灰色土
出土遺物実測図

いない。口縁端部が平坦で断面四角形を呈する。蓋a、cは、口縁端部が断面三角形を呈し、天井部が回転ヘラケズリ（38,40,55）と回転ナデ（39,47）を施されるものとに分かれる。この層出土の蓋の外表面調整を破片資料も含めて見てみると、回転ナデで調整するものの比率が高い傾向にある。50は土師器坏cで、色調は明黄赤色で胎土は精良、内外面にミガキaが施される。51は土師器甕aだが頸部内面のケズリによる稜は明瞭ではない。52～53は焼塩壺で森田編年II-bに相当すると考えている。この層群の出土遺物は太宰府編年II・III期の様相に当てはまるため、8世紀前半から中頃の年代と推定できる。

前11SK150出土土器（Fig.11-37、Pl.11-39）

57は弥生土器の鉢で口縁形状は素口縁形である。58は小型の鉢である。内面に指圧痕跡が残り、外面はケズリの後にナデを施している。内面の色調が黒褐色を呈す。弥生時代後期中頃の土器群と考えられる。

前11SK160出土土器（Fig.11-37、Pl.11-33）

60は須恵器蓋IV。全体的に歪みが大きく、外面天井部にヘラ記号が施されている。60,61は須恵器蓋c3。天井部外面は回転ヘラケズリを施す。62は須恵器坏c。高台は低く外側に張り、底部の中よりに貼り付けられ断面台形を呈す。これらの土器群の下限は太宰府編年II・III期にあたる8世紀前半から中頃の年代と推定できる。

前11SK275出土土器（Fig.11-37、Pl.11-33）

63は複合口縁壺の口縁部である。64は素口縁の鉢。弥生後期中頃から後半の土器群。

前11SK285出土土器・土製品（Fig.11-38、Pl.11-40）

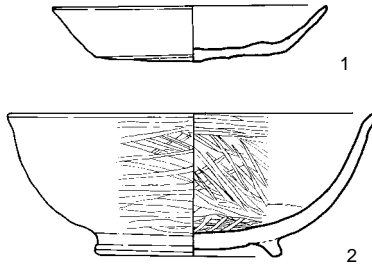
1は壺で口縁部と底部を欠く。板付式。2は甕の底部で平底である。板付式。3は突帯文系土器甕の体部中位にあたる破片である。突帯の頂部には刻み目が施される。4は土器加工片。5は甕の口縁部。口縁部に刻み目が施される。板付式。6は大型の壺の口縁部。甕棺に利用されることが多い。7,8は甕。板付式。これらは弥生時代前期前半の土器群である。

墳墓

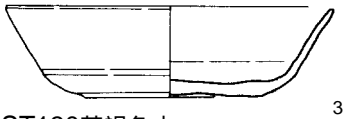
前11ST075出土土器（Fig.11-39、Pl.11-41）

1は土師器坏a。底部はヘラ切りのち板状圧痕。太宰府編年X期。2は黒色土器B類椀。内外面にミガキCが丁寧に施される。高台は低く若干外側に張っている。III-3類（中島恒次郎「太宰府における椀形態の変遷」『中近世土器の基礎研究VIII』1992 日本中世土器研究会）と思われる。これらは太宰府編年X期（10世紀後半～11世紀前半）の土器群である。

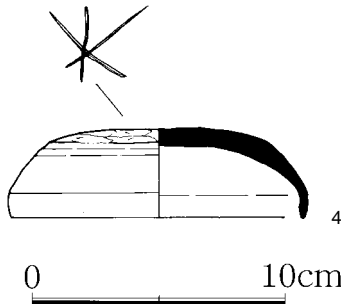
前11ST075



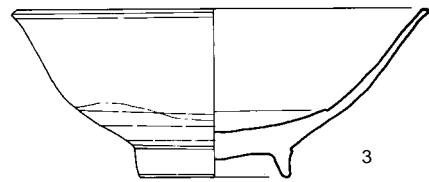
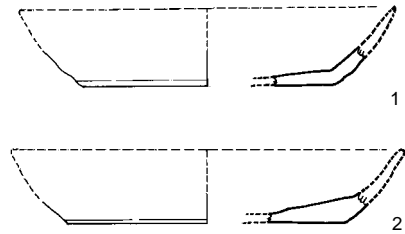
前11ST090暗灰色土



前11ST130茶褐色土



前11SX010茶灰色土



前11SX010淡茶色土

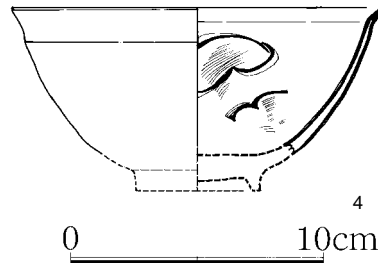


Fig.11-39 前田遺跡第11次調査 ST075、090、130出土遺物実測図

前11ST090出土土器 (Fig.11-39、[Pl.11-41](#))

3は土師器坏a。底部ヘラ切り。口縁部外面に重ね焼き時に生じる色調の変化がみられる。土師器か須恵器か非常に判別が難しい個体である。底部から体部への立ち上がりが若干丸味を帯びるのが特徴的である。現時点では大宰府編年VIB期(9世紀前半)と考えておく。

前11ST130出土土器 (Fig.11-39、[Pl.11-41](#))

4は須恵器蓋IV。外面天井部は手持ちヘラズリで、ヘラ記号が施される。焼成不良のため色調は淡赤褐色を呈す。7世紀か。

前11SX010出土土器 (Fig.11-40、[Pl.11-41](#))

Fig.11-40前田遺跡第11次調査 SX010出土遺物実測図

前11SI120茶褐色土

前11SI175茶褐色土

前11S180茶褐色土

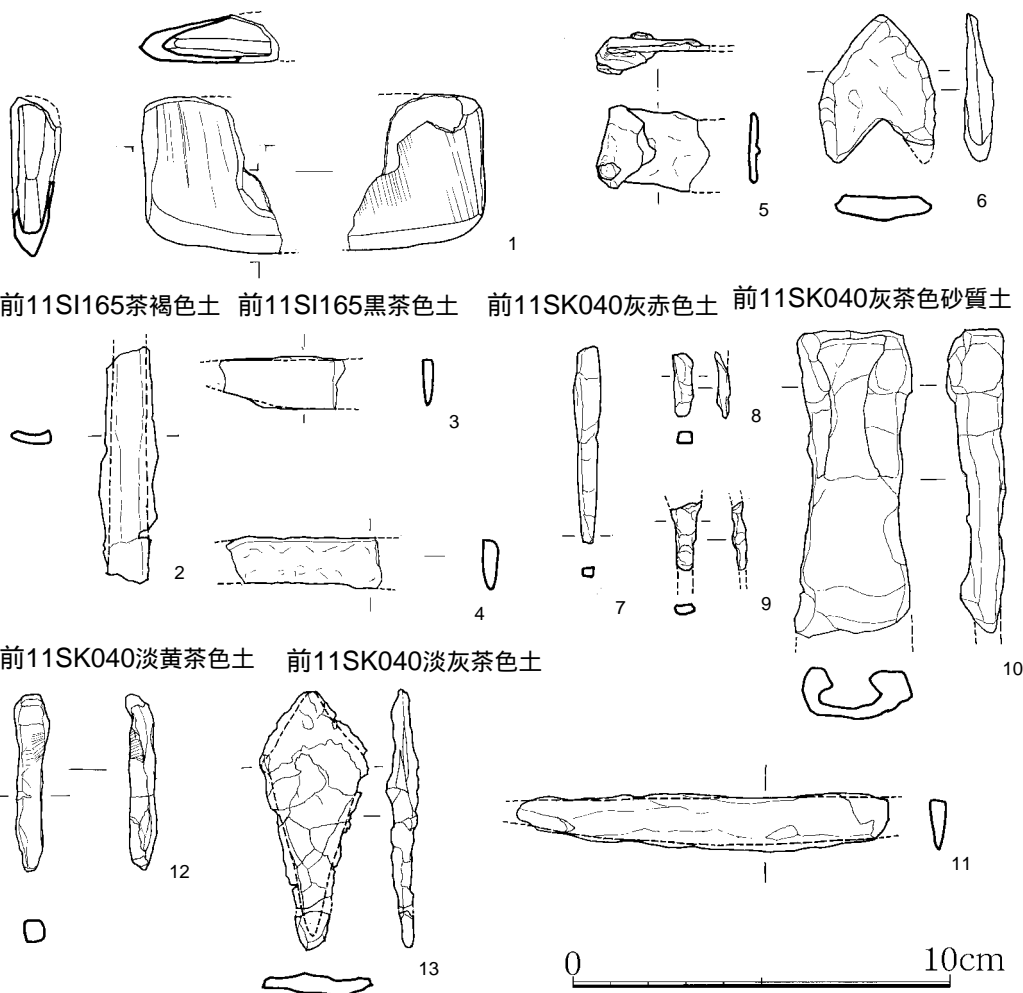


Fig.11-41 前田遺跡第11次調査SI120、165、175、180、SK040
出土金属器実測図

1,2は土師器坏a。1は底部糸切り。2は底部ヘラ切り。3は白磁V-2-a類碗。4は龍泉窯系青磁I-3類碗。これは大宰府編年XIV期（12世紀中頃）の土器群である。

金属器

前11SI120出土金属器（Fig.11-41、PI.11-42）

1は青銅製鋤先である。全長4.35cm。袋基部の幅3.6 + cm、厚さ1.3cm、刃部の長さ0.6 ~ 0.9cm、幅3.6 + cm、厚さ0.6cm、袋部内法の長さ3.3cm、幅2.7 + cm、厚さ

前11ST090

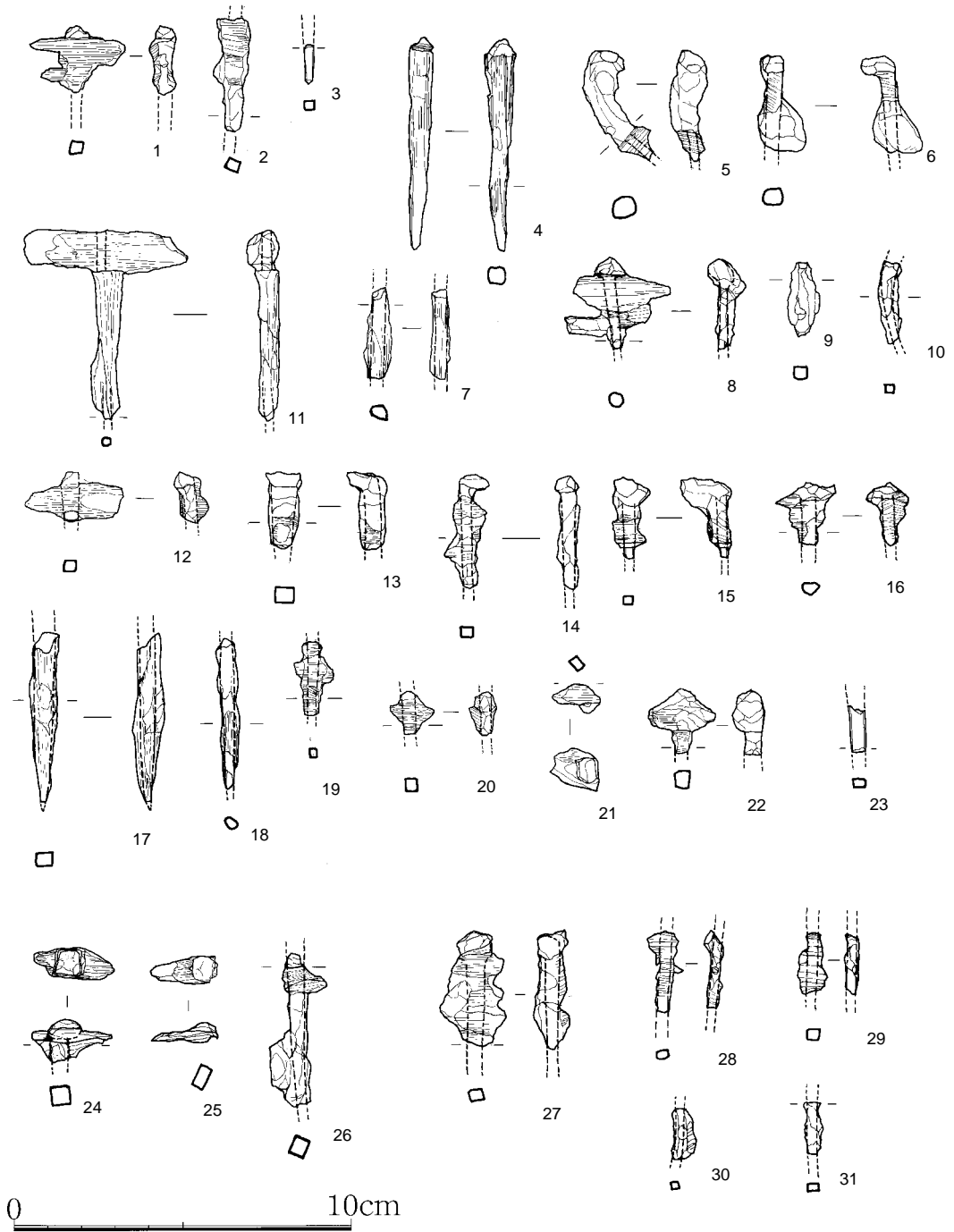


Fig.11-42 前田遺跡第11次調査 ST090出土金属器実測図(1)

前11ST090

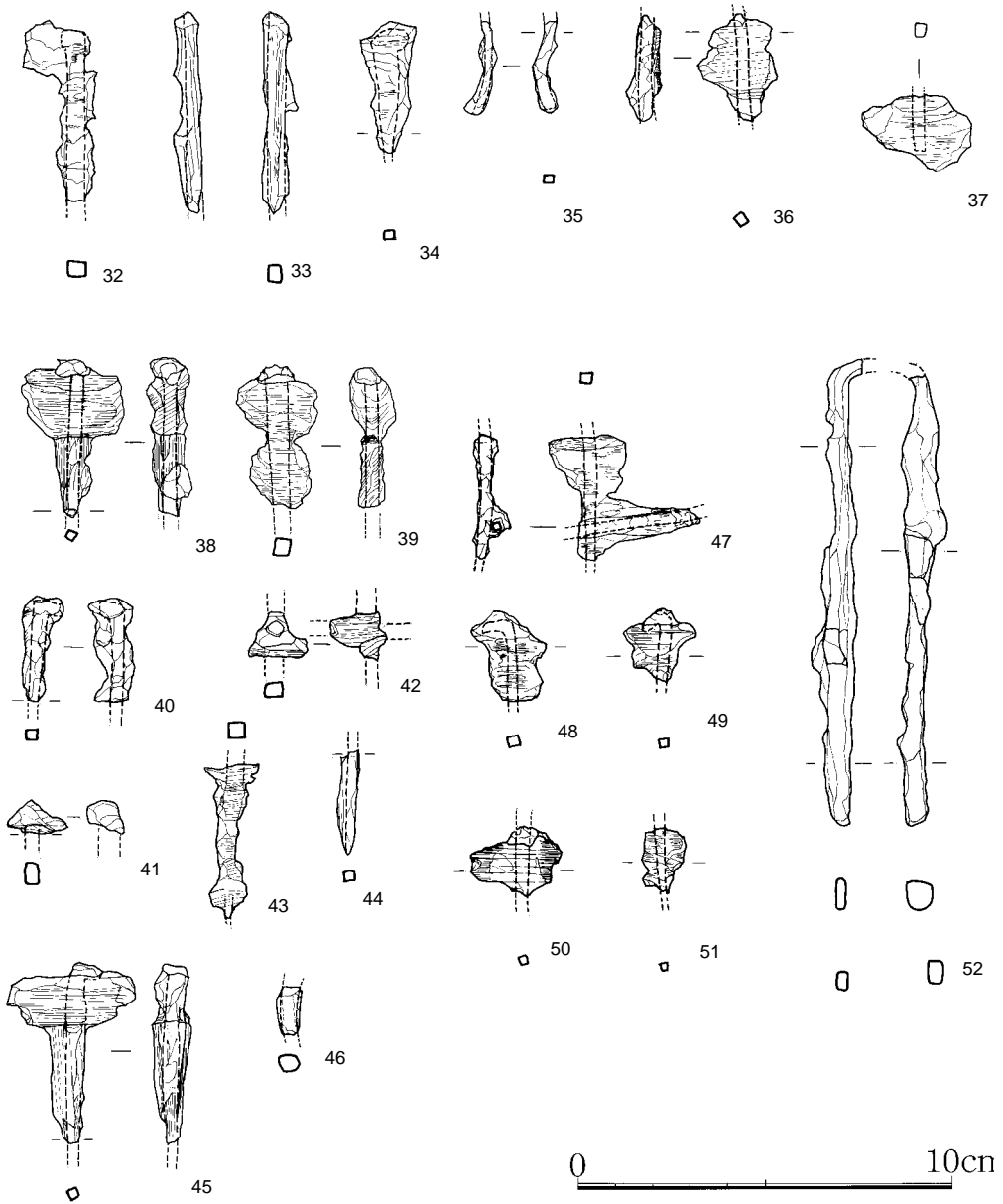


Fig.11-43 前田遺跡第11次調査 ST090出土金属器実測図(2)

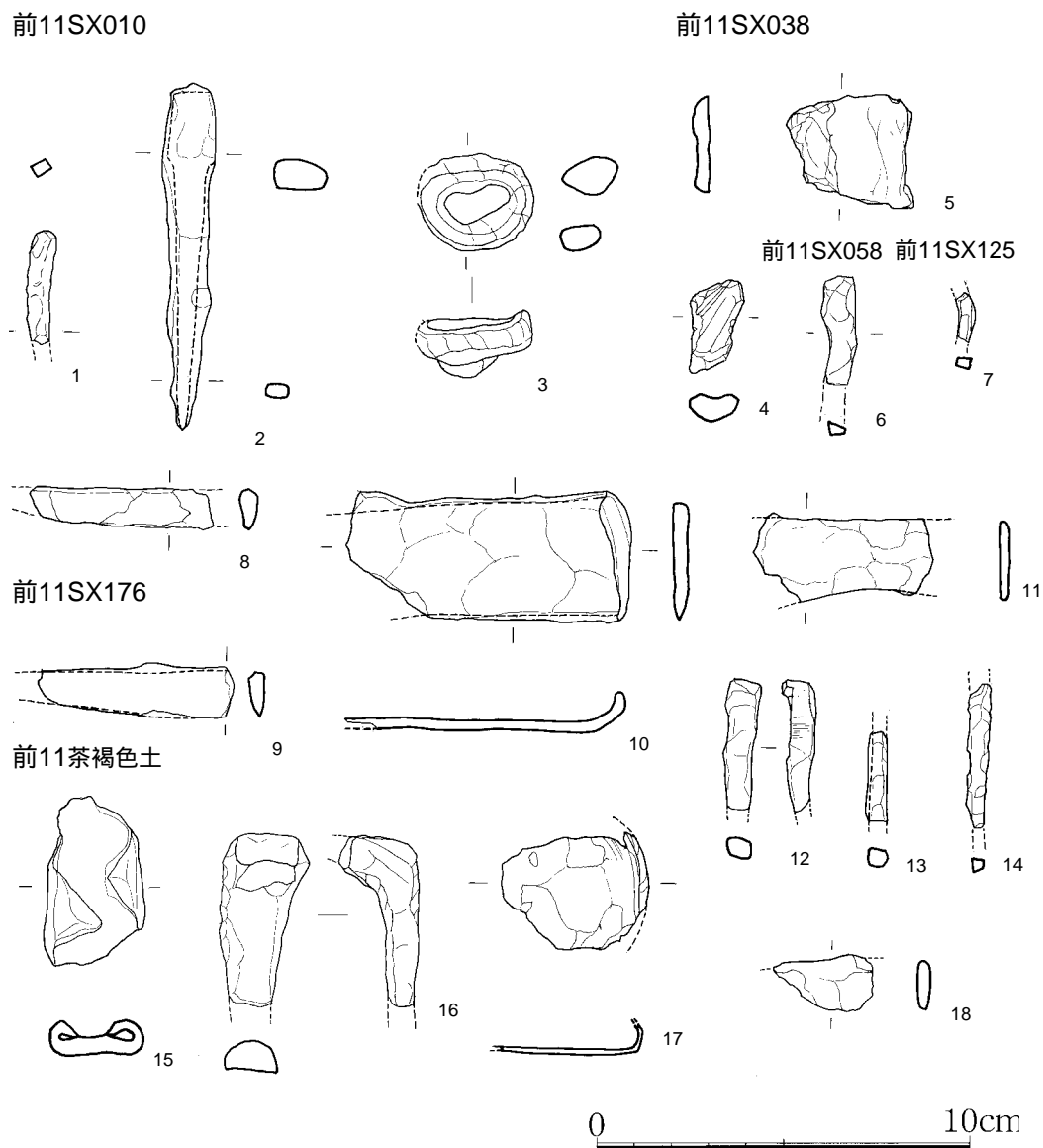


Fig.11-44 前田遺跡第11次調査 SX010、038、059、125、176、茶褐色土
出土金属器実測図

0.6 ~ 1.1cmを測る。刃部は中央部付近が变形して広がっている。

前11SI165出土金属器 (Fig.11-41、PI.11-42)

2は不明鉄製品である。U字形の断面形状から鉞の可能性が考えられる。3,4は不明鉄製品であるが断面形状は二等辺三角形を呈しており刀子の可能性が高い。

前11SI175出土金属器 (Fig.11-41、PI.11-42)

5は不明鉄製品である。幅2cmの鉄板を長さ1.5cm程度に折り曲げており、端部から1.3cmの所に直径5mmの鉞のようなもので留めている。

前11SI180出土金属器 (Fig.11-41、Pl.11-42)

6は鉄鏃である。三角形を呈し、抉りが深く無茎である。一部欠損している。

前11Sk040出土金属器 (Fig.11-41、Pl.11-42)

7～9,11は鉄釘である。10は袋状鉄斧で刃部は欠損している。12は鉄鏃である。先端部は菱形で有茎である。13は不明鉄製品である。刀子か。

前11ST090出土金属器 (Fig.11-42、11-43、Pl.11-42、Pl.11-43)

1～51は鉄製の釘である。これらの釘はすべて棺をとめるための釘と考えられる。完形のもの無く、木質の変化から棺材の厚さは約2cmと見られる。52は鉄製毛抜きである。

前11SX010出土金属器 (Fig.11-44、Pl.11-44)

1は鉄釘である。2は鉄鏃である。上部は台形型で、先端部にいくにしたがって狭まり、茎は直線的に伸びる。3は不明鉄製品である。下部方向に伸びる軸に輪状の上部がつくものと思われる。

前11SX038出土金属器 (Fig.11-44、Pl.11-44)

4,5は不明鉄製品である。

前11SX059出土金属器 (Fig.11-44、Pl.11-44)

6は鉄釘である。

前11SX125出土金属器 (Fig.11-44、Pl.11-44)

7は鉄釘である。

前11SX176出土金属器 (Fig.11-44、Pl.11-44)

8は不明鉄製品である。両端を欠損しているが、断面形状が二等辺三角形を呈しているため鉄製刀子の可能性はある。

前11茶褐色土出土金属器 (Fig.11-44、Pl.11-44)

10は現存の長さ7.6cm、幅3.6cm、高さ1.5cmを測る。1辺を丸く巻き込むように折り曲げられていることから鉄鎌と考えられる。刃部に当たる部分には刃の痕跡を見つけることができなかつたために断定はできない。11は不明鉄製品であるが10と同様の鉄鎌の可能性はある。12～14は鉄釘である。15は袋状鉄斧と考えられる。両端を欠損している。両側から鉄板を折り曲げて袋状にしていたと考えられる。16は不明鉄製品である。形状から鋸の可能性も考えられる。17は不明鉄製品である。合子の身になる可能性があるが、年代的には新しいものと考えられる。18は不明鉄製品であるが刀子の可能性はある。

石器・石製品

前11SI050出土石器 (Fig.11-45、Pl.11-44)

1は黒曜石の剥片である。2は黒曜石で微細剥離が認められる剥片である。

前11SI080出土石器・石製品 (Fig.11-45、Pl.11-45)

3は磨石。扁平な楕円形を呈し底面に平坦な窪みがある。火成岩製。4は磨製石斧である。体部下位両端の範囲に4～4.7cmにわたり確認された傷は柄装着時に付いたと考えられる。研磨は全体に及んでいるが、深い部位には及んでいない。刃部には斜位に多くの細擦痕が観察されるが、これは使用時のものと思われる。黒色片岩。5は安山岩を用いた石鏃で基部の挟りが深い。

前11SI100出土石器 (Fig.11-45、Pl.11-44)

6は安山岩を用いた石鏃で基部の挟りは浅く、先端部と基部の一部が剥離している。7は緑色片岩製の石包丁である。

前11SI120出土石器 (Fig.11-46、Pl.11-45)

1は黒曜石を用いた石鏃である。他に比べて肉厚である。2は黒曜石を用いた石鏃だが、形態から未製品と思われる。

前11SI175出土石器 (Fig.11-46、Pl.11-45)

3は黒曜石製石鏃で基部の挟りはほとんど認められない。非常に丁寧な調整を施しており、薄いつくりをしている。

前11SI210出土石器・石製品 (Fig.11-46、Pl.11-45)

4は黒曜石を用いた石鏃で基部には挟りを施し全体の調整は丁寧である。5は玄武岩製の台石である。中央に敲打痕が集中する。6は泥岩製の砥石である。扁平な長方形であったものが欠損してこのような形状になったと思われる。

前11SI220出土石製品 (Fig.11-46、Pl.11-45)

7は砂岩製の砥石である。断面四角形だが部分的に磨耗が進んでいるため断面は台形を呈す部位もある。四角柱状だったものが欠損によりこのような形状になったと思われる。

前11SI255出土石器・石製品 (Fig.11-46、11-47、Pl.11-45)

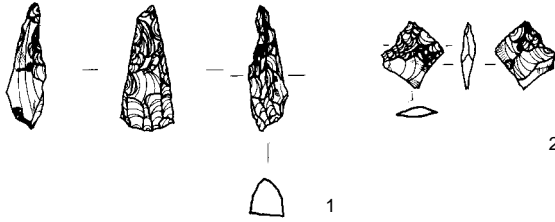
8は安山岩を用いた石鏃である。風化が進んでいる。9は黒曜石の石核である。一面を多方向に利用しており剥離の手法は一定していない。10は泥岩製の砥石である。主要な使用面は2面で、それぞれに対応するように指がかかる窪みが存在している。

前11SI260出土石器 (Fig.11-47、Pl.11-45)

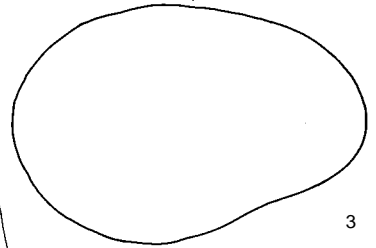
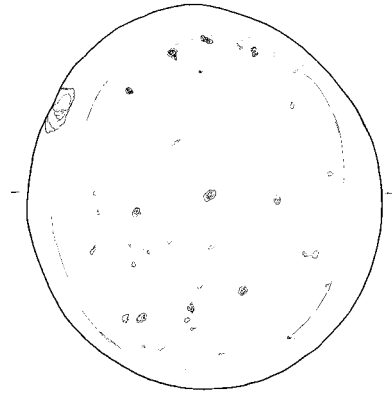
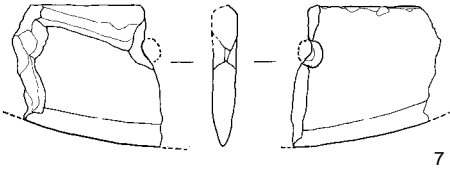
前11SI050 暗茶灰色土

前11SI050 淡灰褐色土

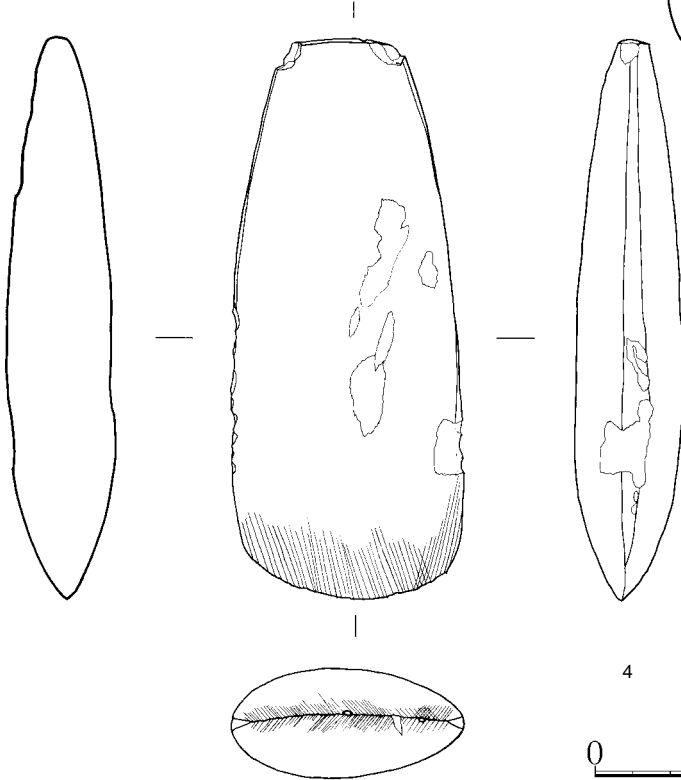
前11SI080 暗茶灰色土



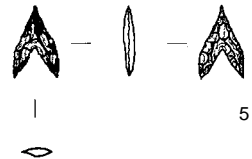
前11SI100 茶褐色土



前11SI180 暗茶灰色土



前11SI180 茶灰色土



前11SI100 茶褐色土

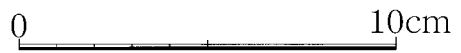
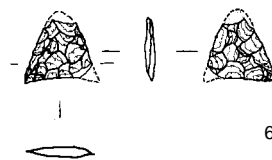


Fig.11-45 前田遺跡第11次調査 SI050、080、100出土石器・石製品実測図

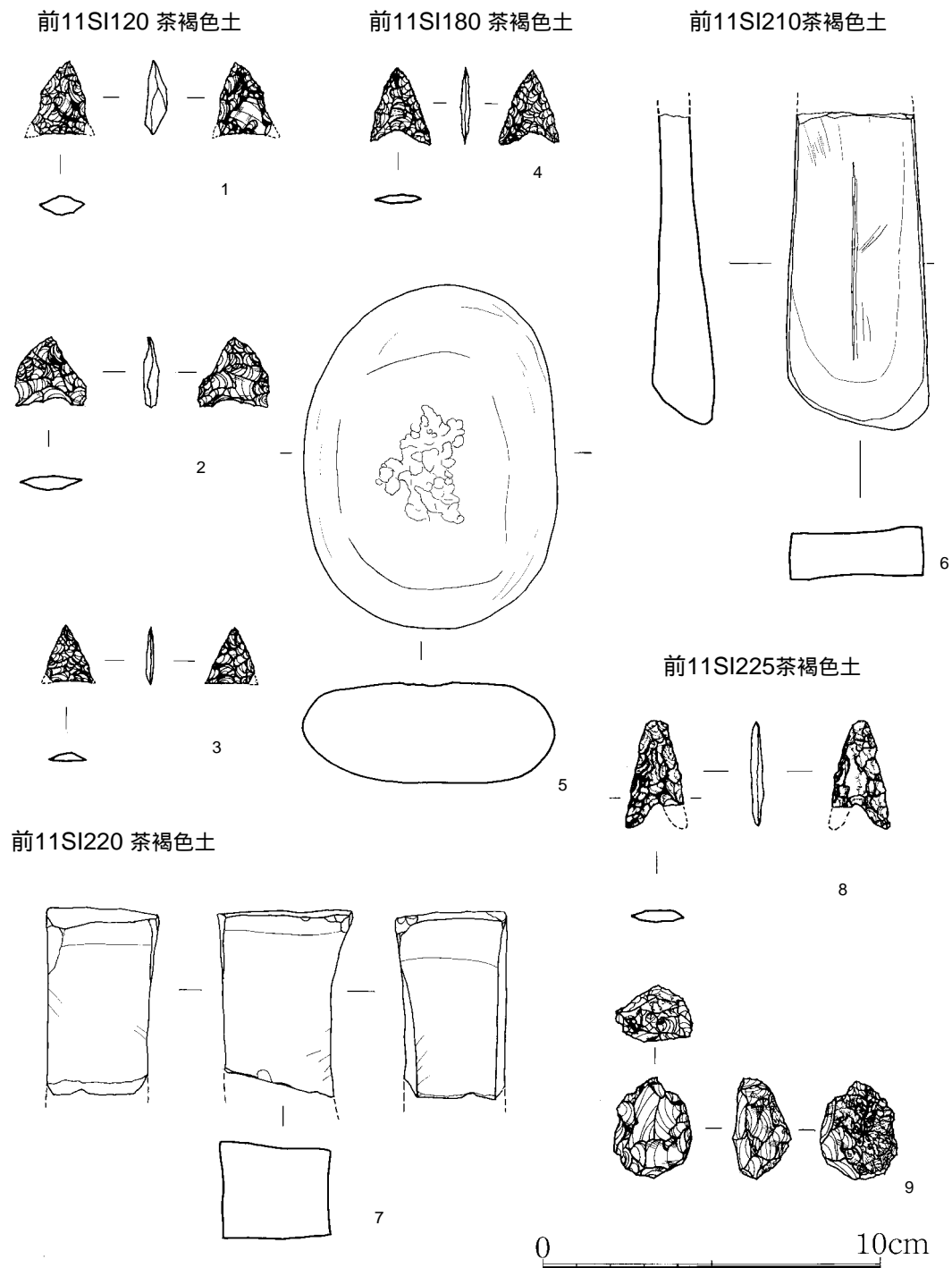
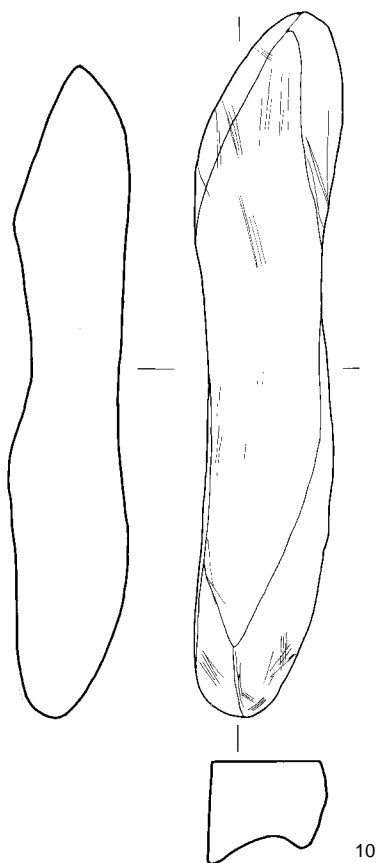
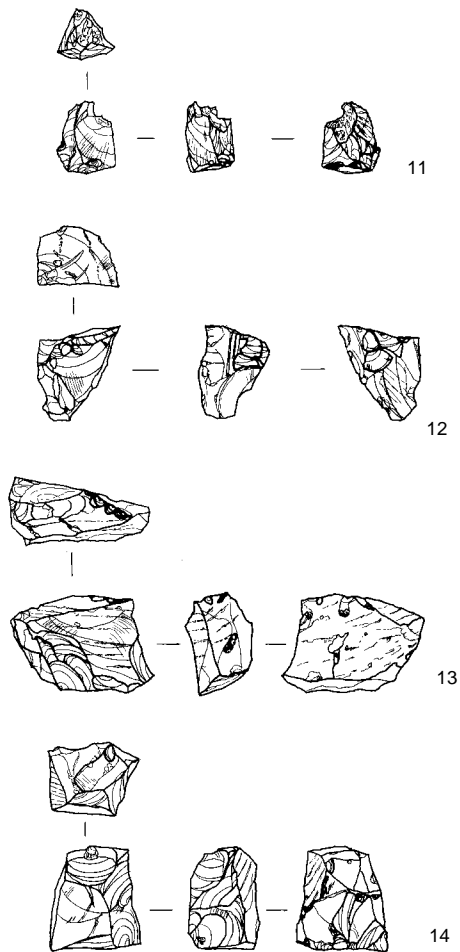


Fig.11-46 前田遺跡第11次調査 SI120、175、180、210、255
出土石器・石製品実測図(1)

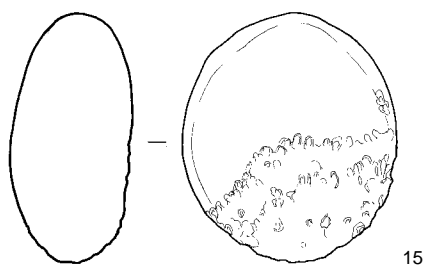
前11SI225茶褐色土



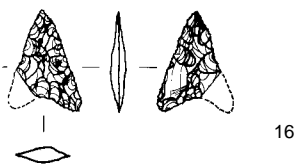
前11SI260茶褐色土



前11SI270茶褐色土



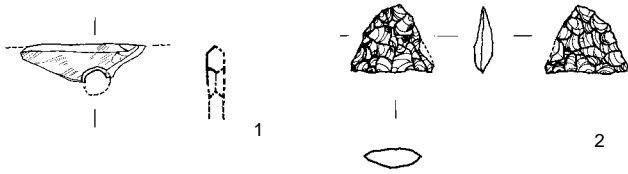
前11ST130茶褐色土



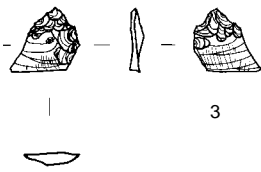
0 10cm

Fig.11-47 前田遺跡第11次調査SI255 (2)、260、270、ST130
出土石器・石製品実測図

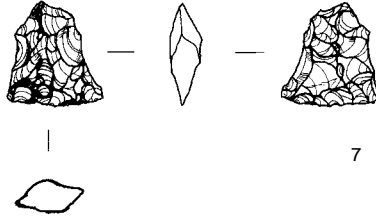
前11SK040淡黄茶色土



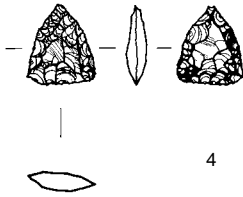
前11SX002



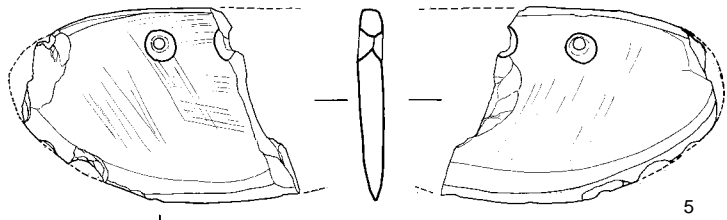
前11SX113



前11SX039



前11SX058



前11SX076



前11茶褐色土

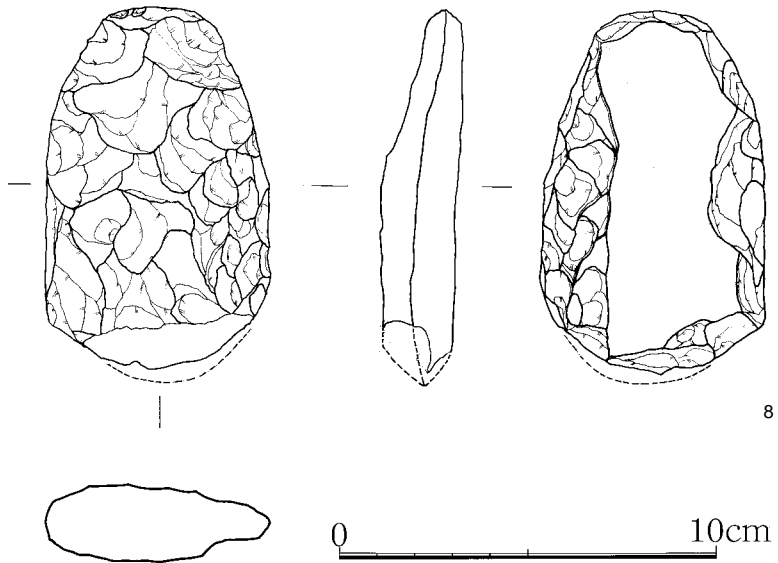


Fig.11-48 前田遺跡第11次調査 SK040、SX002、039、058、076、茶褐色土(1)
出土石器・石製品実測図

前11SX248

前11SX茶褐色土

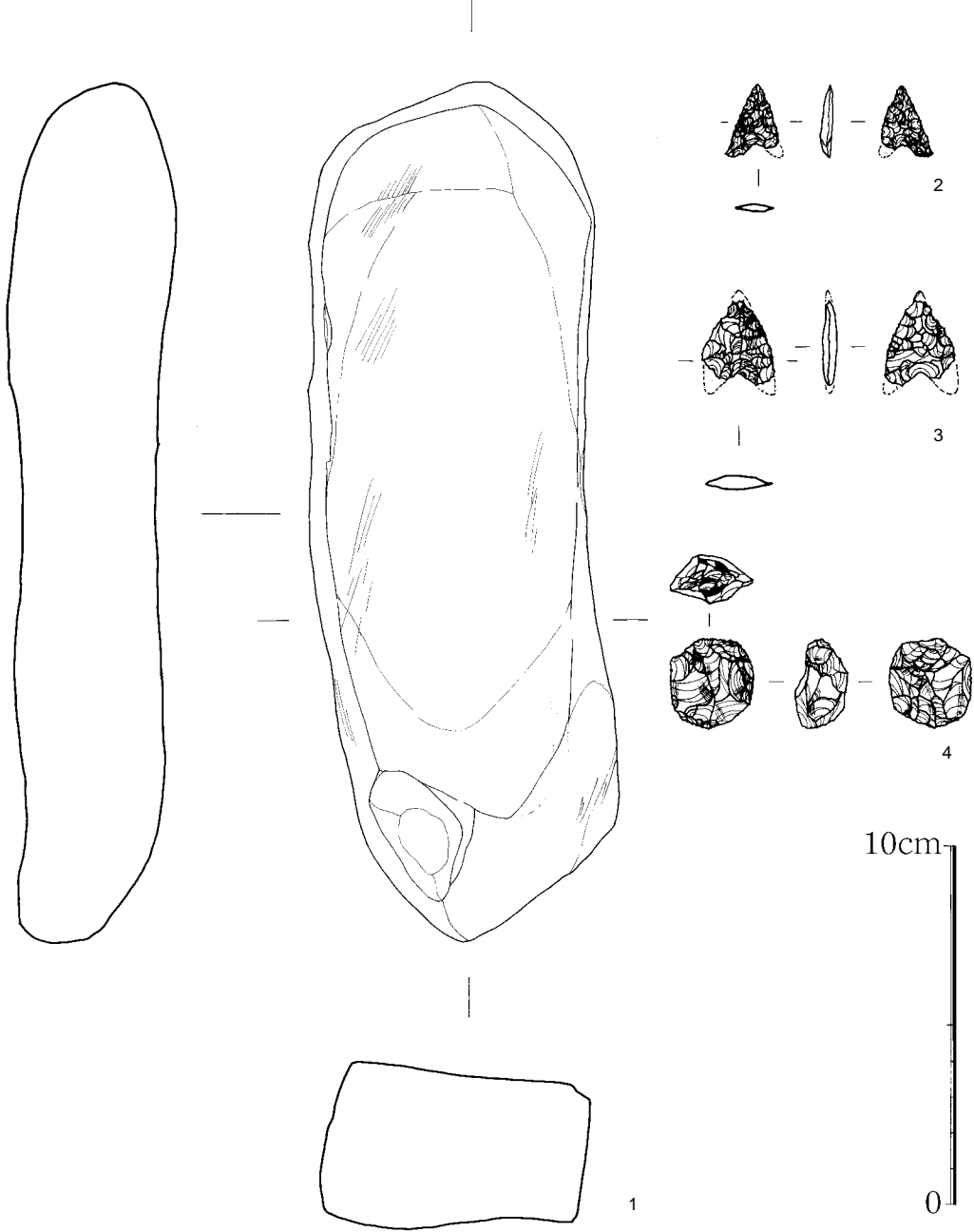


Fig.11-49 前田遺跡第11次調査 SX248、茶褐色土 (2) 出土石器・石製品
実測図

11～14は黒曜石の石核である。11～14は多方向から複数の剥離面で打面がつくられている。

前11SI270出土石製品 (Fig.11-46、Pl.11-45)

15は火成岩製の磨り石である。下半部は表面が磨耗しておらず、ざらついている。

前11ST130出土石器 (Fig.11-46、Pl.11-45)

16は黒曜石を用いた石鏃である。基部に抉りが施される。

前11SK040出土石製品 (Fig.11-48、Pl.11-46)

1は泥岩製の石包丁である。2は黒曜石を用いた石鏃である。

前11SX002出土石器 (Fig.11-48、Pl.11-47)

3は黒曜石の剥片で微細剥離が認められる。

前11SX039出土石器 (Fig.11-48、Pl.11-47)

4は黒曜石を用いた石鏃である。基部に抉りは認められない。

前11SX058出土石器 (Fig.11-48、Pl.11-46)

5は小豆色の輝緑凝灰岩製の石包丁である。紐穴間の芯心距離は2.1cm、背までは0.9cmである。

前11SX076出土石器 (Fig.11-48、Pl.11-47)

6は黒曜石を用いた石鏃である。本遺跡出土の他の石鏃に比べると小型である。

前11SX113出土石製品 (Fig.11-48、Pl.11-47)

7は黒曜石の剥片で微細剥離が認められる。

前11SX248出土石製品 (Fig.11-49、Pl.11-47)

1は泥岩製の大型の砥石である。全面を使用しているが、特に上面と右側面の使用が顕著である。

前11茶褐色土出土石器・石製品 (Fig.11-48、11-49、Pl.11-47)

8は緑色変成岩製の打製石斧である。刃部は欠損している。2,3は黒曜石を用いた石鏃である。2の基部の抉りは深い。3は全体に造りが雑であり未製品の可能性もある。4は黒曜石の石核である。不定方向から打ち割られて菱形を呈している。

4 . 前田遺跡第11次調査の小結

時代別遺構形成の概観

以上、検出した主要な遺構、遺物について述べたが、ここでは本調査区における時代別の所見の総括をおこなっておきたい。

弥生時代以前

本調査区内では旧石器時代の遺構、遺物は検出されなかった。縄文時代については、弥生時代の住居内埋土から後期、晩期の土器片が若干量出土している。出土土器の分布をみると、後期の土器片は前11SI100・210・280から、晩期の土器片は前11SI180から出土しており、傾向として調査区中央部東よりに集中して分布していることがわかる。このあたりに当該期の遺構が存在していたとすれば、明確な遺構を伴わない利用形態だったと思われる。これは前田遺跡の前報告で述べられているような小規模なキャンプ地という性格があてはまるだろう。

弥生時代前期

この時期に該当する遺構は前11SI255・260・265、前11SK285があげられる。ただし前11SI260・305は積極的な時期比定が難しいため可能性があるという程度にとどめておきたい。

前田遺跡全体からみた場合に本調査地区は、前期前田集落の中心部からやや南西に外れた場所に位置する。それは遺構の展開にも表れており、住居とそれに付随する貯蔵穴という組み合わせとしては検出例が少ないため、判断は付けにくい。集落内の位置づけなどは接続する調査の成果が出された時点で考えていくべきと思われる。

弥生時代後期

本調査では当該期の住居が密集しており活動が盛んだったことを思わせる。時期別に見ていくと、後期前半～中頃の住居は前11SI070、中頃～後半は前11SI100.195.210.230、後半～末は前11SI140.175.185.220.225.270などである。厳密な時期の特定はできないが後期の住居として前11SI170.240.250も含まれる。それぞれの時期で竪穴住居が構築されているが、規模・方位などの明確な規則性は認められない。とくに後期から末期にかけては調査区北部に帯状に密集しており、住居の建て替えが盛んだったことを示している。今回はあまり検討ができなかったが、残された課題の1つとして、前田遺跡の弥生時代後期から古墳時代前期前半にかけての集落変遷の分析が上げられる。これには当然周辺的生活環境の復原が不可欠であり、周辺遺跡との関係の中で弥生時代から古墳時代へ移行する段階での太宰府地域の歴史がより深く理解できるものと考えられる。

古墳時代前期

前期初頭の布留式段階の住居が多く、弥生時代後期末葉から連続して形成されたと思われる。前11SI120.155.165.180があげられる。ただしこれに継続する遺構は検出していない。

奈良時代

8世紀中頃～後半に掘立柱建物1棟、竈付き竪穴住居2棟、大型土壇2個が併存している。前11SB200は正方位に近い振れを持つ大型掘立柱建物で、各々の掘り方の断面形状が有段を持つ特色を有する。同様な構造を持つ掘立柱建物が前田遺跡第1次調査でも検出されている。竈付き竪穴住居は出入口を2棟とも南西方向に向けている。その理由としては前田遺跡第4次調査で検出されている古代官道（西門ルート）と同時期に併存していることが理由の1つと思われる。つまり官道から竪穴住居の入口が直接見えないようにする視覚的な規制が存在した可能性がある。周辺の調査事例と合わせて今後検討していきたい。前11SK040は最終的には8世紀後半から末期に埋没しているが、最初に掘られたのは8世紀前半である。多量の土器が廃棄されていた土壇だが、その大きさゆえ生活に関連する性格とは考え難く、何らかの祭祀に関連した土器を継続して廃棄した土坑の可能性もあるだろう。これらの奈良時代の遺構群は前田遺跡第7次調査の奈良時代の遺構群とほぼ同時期であるため密接な関連性があると考えている。ただし、前11SB200と前11SK040はそれらよりも若干先行する可能性を示唆しておきたい。

平安時代

平安期になると、隣接する宮ノ本丘陵を中心に展開していた墳墓群は前田遺跡の範囲まで下ってくる。前11ST090は木棺墓で、副葬品から9世紀前半から中頃と考えられ、方位は東へ大きく振れる。前11ST130は削平を受けているため不明な点が多いが、方位の振れが近いので前11ST090と同じ時期の木棺墓と推定しておきたい。また前11ST075は副葬品の土器から10世紀後半から11世紀前半の時期に帰属すると思われ、方位の振れはなくほぼ正方位に近い。

中世

11世紀以降、土地利用としては鎌倉時代までは何らかの土地利用がされていたと思われるが、ピットや土坑などが主で遺構の性格の把握は難しい。前11SX010は墓の可能性が指摘できるが大きく削平を受けており判断が難しい。それら以後、昨今まで耕作面として利用されていたと思われる。

前田遺跡第11次調査出土遺物一覽表1

表土		石製品	OB-CORE(3)、OB-F(109)
			OB-AP(2)、OB-錐(1)
須恵器	坏c、甕		OB-RF(1)、打製石鍬(1)
土師器	坏a、皿、甕、		AND-F(7)
石製品	OB-AP(1)、OB-F(2)	国産陶器	椀、壺
国産陶器	白磁椀	白磁	椀；V×VII、VIII×？
白磁	椀(1)	弥生土器 前	甕
弥生土器 後中	壺、甕	弥生土器 後	壺、甕、高坏、支脚
後後	甕	弥生土器 後中	壺、甕、高坏
		弥生土器 後後	大甕、鉢、高坏、支脚
攪乱		金属製品	鎌、刀子、鉄釘、不明
須恵器	坏c3、坏、甕	S-1	
土師器	古式土師器高坏、甕		
石製品	OB-F(3)、AND-F(1)	須恵器	坏×皿
国産磁器	白磁椀	土師器	坏
白磁	片	弥生土器	片
弥生土器 後中	甕		
		S-2	
西壁			
		弥生土器 後	甕
須恵器	坏		
越州窯系青磁	椀(1)	S-2 黒褐土	
石製品	AND-F(1)		
国産磁器	白磁椀	石製品	OB-RF(1)
		弥生土器 後	壺
調査区西壁住居			
		S-2茶灰土	
弥生土器 後中	甕		
		弥生土器	片
灰茶砂			
		S-3	
須恵器	蓋3、坏c3		
土師器	甕	土師器	甕
弥生土器	片	弥生土器	片
茶褐土		S-3 茶褐土	
須恵器	蓋3、坏a、坏c3、甕、鉢、鉢b	弥生土器 後	甕
	蓋c、短頸壺、長頸壺、高坏		
土師器	坏a、高坏、甕、竈	S-3 黒褐土	
	壺(山陰系)、小型丸底壺		
	古式甕	弥生土器 後中	壺、甕
黒土器B	椀		
瓦類	平瓦(縄目)、無文セン		

Tab.11-13 前田遺跡第11次調査 出土遺物一覽表1

前田遺跡第11次調査出土遺物一覽表2

S-4		S-11	
弥生土器 後中	壺	土師器	甕
弥生土器 後後	甕	石製品	OB-F(1)
S-5			
		S-12	
土師器	甕		
弥生土器	片	石製品	OB-F(1)
		弥生土器 後前	高坏
S-6		弥生土器 後中	甕
土師器	甕	S-13	
弥生土器 後	甕		
		須恵器	坏
S-7		土師器	鍋
		中国陶器	壺；褐釉(1)
弥生土器 後	甕		その他；無釉陶器(1)
		弥生土器	片
S-8			
		S-14	
石製品	OB-F(1)		
弥生土器	片	弥生土器	片
S-10 茶灰土		S-15	
須恵器	坏、甕	須恵器	坏a、坏c3、甕
土師器	坏a、坏c、椀	瓦類	平瓦（縄目）（1）
黒土器A	椀	石製品	OB-F(2)、AND-F(1)
瓦器		弥生土器	甕
石製品	OB-F(3)	弥生土器 後中	大壺
白磁	椀；V、V x		
弥生土器	片	S-16	
金属製品	刀子、鉄釘、不明		
		須恵器	坏a
S-10暗茶灰土		弥生土器	片
須恵器	蓋3、坏c3、高坏、甕	S-17	
土師器	小皿a		
瓦器	椀	須恵器	坏c3
白磁	椀；V x VII	黒土器A	椀
		瓦器	椀
S-10 淡茶土		弥生土器	片
土師器	坏a	S-18	
龍泉窯系青磁	椀c；I-3		
白磁	椀(1)	弥生土器	片

Tab.11-14 前田遺跡第11次調査 出土遺物一覽表2

前田遺跡第11次調査出土遺物一覽表3

S-19			
		S-30a	
弥生土器	片		
S-21		弥生土器	片
石製品	OB-F(1)	S-30b	
弥生土器	片		
		石製品	OB-F(2)
S-22		弥生土器	片
弥生土器	片	S-30c	
S-23		須恵器	甕片
		弥生土器	片
弥生土器 後	壺		
		S-31	
S-24			
		土師器	坏a、甕、鍋
須恵器	坏	瓦器	片
土師器	片	同安窯系青磁	皿；X(1)
弥生土器	片	弥生土器	片
S-25		S-32	
須恵器	坏c3	弥生土器	片
石製品	AND-F(1)	弥生土器 後	甕
弥生土器 後	甕、鉢、支脚		
		S-33	
S-26			
		須恵器	坏、坏c3
弥生土器 後	壺	土師器	甕
		瓦器	椀
S-27		石製品	OB-F(1)
		白磁	椀；片(1)
石製品	OB-F(2)	弥生土器 後後	甕
弥生土器 後	壺、高坏		
		S-34	
S-28		土師器	坏a
須恵器	甕	S-35	
弥生土器	片		
		須恵器	蓋3、蓋c、坏c3
S-29		土師器	蓋3、坏a、坏c3、甕
		石製品	OB-F(2)、AND-F(1)
須恵器	甕、小蓋(1)	弥生土器 前	壺
土師器	古式土師器壺	弥生土器 前中	甕
弥生土器 後	甕、高坏	弥生土器 後後	壺、甕
弥生土器 後後	壺、甕		

Tab.11-15 前田遺跡第11次調査 出土遺物一覽表3

前田遺跡第11次調査出土遺物一覽表4

S-36		S-40 暗茶土	
須恵器	片	須恵器	蓋VI、坏身IV-B、坏c3、甕
弥生土器	片		蓋c3、坏c、大坏c
		土師器	蓋c3、坏c、大坏c3、皿c、甕
S-37			大坏c、甕
弥生土器	片	製塩土器	焼塩壺II-b
		石製品	OB-F(4)
S-38		弥生土器 後後	器台
石製品	OB-F(2)		
弥生土器 前前	甕	S-40 暗茶黄粘	
弥生土器 後	支脚、器台		
弥生土器 後中	甕	須恵器	甕、蓋3、坏c、坏c3
金属製品	不明鉄製品	土師器	高坏甕、小甕、移動式竈
		石製品	OB-F(1)、OB-CORE(1)
S-39			OB-F(7)、姫島産OB-F(1)
		弥生土器 後	高坏
須恵器	甕	弥生土器 後後	甕
土師器	坏a	土製品	製塩土器
石製品	OB-AP(2)、OB-F(2)		
中国陶器	褐釉壺(2)	S-40 黄灰土	
弥生土器 後	器台		
		須恵器	蓋3、高坏
S-40 暗茶褐粘土		土師器	移動式竈
石製品	OB-F(1)	S-40 茶灰土	
S-40茶灰砂粘		須恵器	蓋、坏身IVB、坏c3
		土師器	甕
須恵器	蓋3、蓋c3、坏c、坏c3、高坏(1)	弥生土器	片
土師器	甕	土製品	製塩土器
S-40 淡黄茶土		S-40 赤灰土	
須恵器	坏身IVB、高坏、甕、鉢 × 蓋c	金属製品	鉄釘、不明
	蓋b、蓋c3、大坏、坏c、坏c3		
土師器	坏c3、高坏、高坏 × ?	S-40 灰赤土	
石製品	砥石(1)、OB-F(8)		
	OB-AP(1)、AND-F(1)	須恵器	坏身IVB、坏c3、皿 ×、壺蓋
	石包丁(1)		蓋3、蓋c3、大坏c、皿a、甕
弥生土器 後中	壺		大皿a
弥生土器 後後	長頸壺	土師器	甕
金属製品	鉄釘	石製品	OB-F(1)
		弥生土器 後	高坏、片
		弥生土器 後後	器台
		土製品	焼土塊

Tab.11-16 前田遺跡第11次調査 出土遺物一覽表4

前田遺跡第11次調査出土遺物一覧表5

S-40 灰黄茶砂		S-44	
須恵器	坏	須恵器	蓋、鉢b
土師器	甕	石製品	OB-F(6)
弥生土器	片	弥生土器	片
S-40 淡灰茶土		S-45	
須恵器	蓋3、小蓋1、坏c、壺蓋	須恵器	小蓋V(1)
	大坏c、坏c3、大皿a		
	高坏	S-46	
土師器	坏c3、高坏、高坏×?、甕		
弥生土器	片	石製品	OB-F(1)
金属製品	鉄鏃	弥生土器 後	高坏
		弥生土器 後後	甕
S-40 灰茶砂			
		S-47	
須恵器	蓋3、蓋c3、坏身IVB、坏c3、壺		
	蓋c、坏a、坏c、高坏、甕、鉢	弥生土器	片
	盤、小甕		
土師器	大坏c、高坏、高坏×蓋、甕	S-48	
	甕a		
瓦類	平瓦・無文(1)	弥生土器 後	高坏
石製品	OB-F(3)		
弥生土器 後中	壺	S-49	
金属製品	鉄斧、刀子		
須恵器	坏c(2)	須恵器	甕、坏c3
土師器	坏(1)、大坏c(1)	石製品	OB-F(1)
弥生	片	弥生土器 後後	甕、片
S-41		S-50 淡灰褐土	
弥生土器	片		
		土師器	蓋3、坏c3、甕
S-42		弥生土器	片
須恵器	坏、長頸壺	S-50 カマド本体	
弥生土器 後中	壺		
		土師器	片
S-43		S-50 黒茶土	
土師器	坏c		
弥生土器 後前	甕	弥生土器 後	支脚

Tab.11-17 前田遺跡第11次調査 出土遺物一覧表5

前田遺跡第11次調査出土遺物一覽表6

S-50 暗茶灰土		S-55 暗茶土	
須恵器	蓋、蓋c3、坏、甕、鉢b x	石製品	磨石
土師器	蓋3、甕、甕把手	弥生土器 後前	甕
石製品	OB-錐(1)	弥生土器 後中	壺、器台
弥生土器 後	甕、高坏、片	弥生土器 後後	甕、高坏
S-50 白黄砂土		S-55 黄茶砂	
弥生土器 後	高坏	須恵器	甕
		土師器	甕(布留系)
S-50 赤茶土		弥生土器 前	甕
		弥生土器 後	壺
弥生土器	片	弥生土器 後前	甕
		弥生土器 後中	甕
S-50a		弥生土器 後後	壺、甕
須恵器	蓋c(転用硯)	S-56	
土師器	甕、甕a		
弥生土器	片	弥生土器	片
S-51		S-58	
土師器	甕	須恵器	坏c
		土師器	片
S-52		石製品	石包丁(1)
弥生土器	片	弥生土器	片
		S-59	
S-53		須恵器	蓋c3、坏、長頸壺
須恵器	坏a	石製品	軽石(1)
弥生土器	片	弥生土器 後中	壺
		弥生土器 後後	甕、高坏、支脚
		金属製品	鉄釘
S-54		S-61	
弥生土器	片	弥生土器	片
S-55 柱痕		S-62	
石製品	OB-F(1)	弥生土器	片
弥生土器	片		
		S-63	
		須恵器	長頸壺

Tab.11-18 前田遺跡第11次調査 出土遺物一覽表6

前田遺跡第11次調査出土遺物一覽表7

S-64		S-65 淡灰褐粘	
弥生土器	片	弥生土器	片
S-65		S-67	
弥生土器	甕、高坏、片	須恵器	蓋3、坏、片
		土師器	坏 x
S-65 茶褐粘		弥生土器	片
弥生土器 後	壺、高坏、支脚	S-68	
弥生土器 後中	甕		
		土師器	甕
S-65 茶灰粘		弥生土器	片
		弥生土器 後	壺、器台
弥生土器	片		
		S-69	
S-65 灰黄砂		弥生土器	片
須恵器	片(混入か)		
石製品	OB-F(1)	S-70 茶灰土	
弥生土器 後前	甕		
弥生土器 後中	甕	須恵器	坏、甕(混入か?)
		土師器	坏
S-65 褐灰土		石製品	砥石(1)、OB-F(6)
		弥生土器 後	複合口縁壺、支脚
須恵器	蓋3(混入)	弥生土器 後中	壺、甕、高坏
弥生土器 後	高坏、器台		
弥生土器 後前	甕	S-70 灰黄土	
弥生土器 中	壺、甕		
		弥生土器	片
S-65 黄褐砂			
		S-70a	
弥生土器	片		
		土師器	甕片(混入か?)
S-65 褐灰粘		弥生土器	片
弥生土器 後中	高坏	S-70b	
弥生土器 後後	甕	弥生土器	片
S-65 茶褐土		S-71	
弥生土器	片	須恵器	坏
		石製品	OB-F(1)
S-65 暗灰砂		弥生土器	片
弥生土器 中	壺		

Tab.11-19 前田遺跡第11次調査 出土遺物一覽表7

前田遺跡第11次調査出土遺物一覧表8

S-72		S-80 茶灰土	
弥生土器	片	須恵器	蓋3、蓋c3、坏、坏c3、甕
		土師器	坏、坏c × 皿c、大坏c、坏c3
S-73		石製品	AND-AP(1)
		弥生土器 前中	甕
須恵器	坏	弥生土器 後	高坏
土師器	片		
弥生土器	片	S-80 茶褐土	
S-74		須恵器	坏、甕
		土師器	蓋3、甕
須恵器	坏	弥生土器 前中	甕
弥生土器	片	弥生土器 後	甕、高坏、器台
S-75		S-80 暗茶灰土	
須恵器	坏、坏c3	須恵器	蓋3、蓋c3、坏c、坏c3、甕
土師器	坏a(1)、坏c3	土師器	大坏c、皿a、甕
黒土器B	椀(1)、椀c	石製品	縄文系石斧(1)、磨製石斧(1)
弥生土器 後	甕		磨き石(1)、磨石(1)
		白磁	椀；V × (混入か?)
S-75 灰茶砂		弥生土器 後	高坏
弥生土器	片	S-80 褐灰土	
S-76		須恵器	蓋3
		土師器	片
石製品	OB-AP(1)、OB-F(1)	弥生土器	片
弥生土器	片		
		S-80 竈茶褐土	
S-77			
		弥生土器	片
須恵器	坏		
弥生土器 後中	壺	S-80 暗茶褐土	
S-78		弥生土器	片
弥生土器	片	S-81	
S-79		土師器	甕
		弥生土器 後後	支脚
弥生土器	片		
		S-83	
		須恵器	片
		土師器	片

Tab.11-20 前田遺跡第11次調査 出土遺物一覧表8

前田遺跡第11次調査出土遺物一覧表9

S-84		S-90 明灰黄土	
弥生土器	片	金属製品	毛抜き、鉄釘、釘(木質のみ)
S-85		S-90 暗灰土	
石製品	OB-F(1)	須恵器	蓋3、蓋c
弥生土器 後前	甕	土師器	坏、坏a、甕
		弥生土器	片
S-86		金属製品	鉄釘
弥生土器 後	甕、高坏	S-90 北部	
S-87		金属製品	鉄釘(7)
石製品	OB-F(1)	S-90 南部	
弥生土器 前	壺		
弥生土器 後中	壺	金属製品	鉄釘(11)
S-88		S-90 北西部	
須恵器	坏c3	土師器	鉢b
土師器	片		
弥生土器	片	S-90 北西暗灰土	
S-89		金属製品	鉄釘(7)
土師器	甕	S-90 北東暗灰土	
石製品	AND-F(1)		
弥生土器	片	金属製品	鉄釘
S-90		S-90 南東暗灰土	
須恵器	蓋3、坏c3、高坏	金属製品	鉄釘
土師器	高坏		
弥生土器	片	S-90 南西暗灰土	
金属製品	鉄釘		
		金属製品	鉄釘
S-90 棺内			
		S-91	
土師器	片		
金属製品	鉄釘	石製品	OB-F(1)
		弥生土器	片
S-90 灰茶褐土			
		S-92	
須恵器	片		
弥生土器	片	弥生土器	片

Tab.11-21 前田遺跡第11次調査 出土遺物一覧表9

前田遺跡第11次調査出土遺物一覧表10

S-93		S-100 淡黄土	
弥生土器 後	壺	弥生土器 前	甕
		弥生土器 後	甕
S-94			
		S-100a	
弥生土器	片		
		弥生土器	片
S-95			
		S-100b	
須恵器	蓋3、小蓋1、坏		
土師器	鉢b	土師器	小型丸底壺
弥生土器 後	高坏	弥生土器	高坏
		弥生土器 後	甕、高坏
S-96		弥生土器 後前	甕
弥生土器 前前	甕	S-100c	
弥生土器 後	高坏		
		弥生土器 前	甕
S-97		弥生土器 後	甕
弥生土器	片	S-101	
S-98		石製品	OB-F(1)
弥生土器 後中	壺、高坏、器台	S-102	
S-99		弥生土器	片
須恵器	小蓋1 (S-95と接合か)	S-103	
弥生土器	片		
		弥生土器 後	甕
S-100 ベット土手			
		S-104	
弥生土器	片		
		弥生土器	片
S-100 茶褐土			
		S-105	
土師器	古式甕		
石製品	OB-AP(1)、石包丁(1)	須恵器	片
	AND-AP(1)、OB-F(19)	弥生土器	片
	AND-F(2)		
弥生土器 後	甕	S-105a	
弥生土器 後中	壺、甕、高坏		
弥生土器 後後	甕、鉢、器台	弥生土器	片
縄文土器 後	深鉢		

Tab.11-22 前田遺跡第11次調査 出土遺物一覧表10

前田遺跡第11次調査出土遺物一覽表11

S-105a 掘り方		S-110 茶灰土	
弥生土器 後	器台	須恵器	坏c、坏c3、甕
		土師器	皿c、甕
S-105a 柱痕		石製品	OB-F(1)
弥生土器	片	S-110	
S-105b		須恵器	坏a
石製品	OB-F(1)	S-111	
弥生土器	片	弥生土器	片
S-105b 掘り方		S-112	
弥生土器	片	弥生土器	片
S-105b 抜取		S-113	
弥生土器	片	石製品	RF-AP(1)、OB-F(1)、OB-F(1)
S-105c		S-114	
弥生土器	片	土師器	甕
S-106		石製品	OB-F(1)
弥生土器	片	弥生土器 後前	壺
		弥生土器 後後	壺
S-107		S-115	
須恵器	坏	須恵器	蓋3
石製品	OB-F(1)	弥生土器 前	甕
S-108		S-116	
石製品	砥石(1)、OB-F(2)	石製品	OB-F(1)
弥生土器 後後	壺	弥生土器	片
S-109		S-117	
須恵器	坏c3	弥生土器 後中	甕
弥生土器 後	甕	S-118	
		弥生土器	片

Tab.11-23 前田遺跡第11次調査 出土遺物一覽表11

前田遺跡第11次調査出土遺物一覧表12

S-119		S-120b	
弥生土器	片	石製品	OB-F(1)
		弥生土器	片
S-120 茶褐土			
		S-120b 掘方	
須恵器	蓋3(3)、坏		
土師器	古式高坏	弥生土器	片
石製品	OB-F(7)、OB-AP(2)		
	OB-CORE(1)	S-120b 抜き取り	
弥生土器 前	壺		
弥生土器 前中	甕(2)	弥生土器	片
弥生土器 後中	壺、甕		
弥生土器 後後	壺、短頸壺、甕、高坏、器台	S-120c	
弥生土器	脚付鉢、支脚、器台、絵画土器		
	片	弥生土器	片
金属製品	銅鋤先		
		S-121	
S-120 茶土		弥生土器	片
土師器	古式脚付鉢	S-122	
弥生土器 後中	壺、高坏		
		須恵器	坏
S-120 黒茶土		弥生土器	片
弥生土器 後中	甕、鉢	S-123	
弥生土器 後後	鉢	弥生土器 後中	甕
S-120 淡茶土		S-124	
弥生土器 前中	甕	弥生土器 後	支脚、器台
S-120		S - 125	
弥生土器	鉢	須恵器	鉢b
		土師器	坏a × 甕
S-120a		金属製品	鉄釘
		土製品	めんこ(1)
弥生土器 後	壺		
		S-126	
S-120 掘方			
		弥生土器	片
弥生土器	片		

Tab.11-24 前田遺跡第11次調査 出土遺物一覧表12

前田遺跡第11次調査出土遺物一覧表13

S-127		S-134	
石製品	OB-F(1)		
弥生土器	片	弥生土器	片
弥生土器 後後	甕	土製品	坍塌
S-128		S-135 茶褐土	
須恵器	坏	弥生土器	甕
弥生土器	片		
		S-135	
S-129			
		石製品	OB-F(1)、AND-F(1)
須恵器	坏c3	弥生土器 前中	甕
弥生土器	片	弥生土器 後	甕、高坏
		弥生土器 後後	鉢
S-130 茶褐土			
		S-137	
須恵器	蓋IV-B(1)、甕		
石製品	OB-AP(1)、?-AP(1)	石製品	OB-F(1)
弥生土器	片	弥生土器 後	器台
S-130 茶黒土		S-138	
弥生土器 後中	壺	須恵器	坏片
		土師器	片
S-130 淡灰黄土			
		S-139	
弥生土器	片		
		須恵器	蓋3
S-131		土師器	甕
須恵器	坏、甕	S-140 褐茶土	
土師器	甕		
		須恵器	坏(2)、混入
S-132		石製品	OB-AP(1)
		弥生土器 後後	壺、甕、高坏、支脚
須恵器	坏c3		
土師器	片	S-140	
S-133		弥生土器	壺
石製品	AND-F(1)、OB-F(1)	S-140 淡黄土	
弥生土器	片		
		弥生土器	片
		土製品	手づくね鉢

Tab.11-25 前田遺跡第11次調査 出土遺物一覧表13

前田遺跡第11次調査出土遺物一覧表14

S-140a		S-146	
弥生土器 後後	支脚	土師器	蓋3
		弥生土器	片
S-140a 掘方		弥生土器 後	
弥生土器	片	S-147	
S-140b		弥生土器 後中	甕
弥生土器	片	S-148	
S-140c		弥生土器	片
弥生土器	片	S-149	
S-140d		石製品	OB-F(1)
弥生土器	片	弥生土器 前	甕
S-140e		S-150	
弥生土器	片	土師器	甕
		弥生土器 前中	甕
S-140e 掘方		弥生土器 後	壺、手づくね鉢、坏
弥生土器	片	土師器	めんこ(1)
		その他	炭化米
S-141		S-151	
弥生土器	片	石製品	OB-F(1)
		弥生土器 後	壺、甕、高坏
S-142		弥生土器 後後	鉢
須恵器	甕	S-152	
土師器	蓋3、皿c、甕	須恵器	坏
弥生土器	片	土師器	甕
S-143		石製品	OB-F(2)
須恵器	片	弥生土器 後中	甕、支脚
弥生土器 前	甕	弥生土器 後後	長頸壺、甕、高坏
S-144		S-153	
弥生土器	片	石製品	OB-F(2)

Tab.11-26 前田遺跡第11次調査 出土遺物一覧表14

前田遺跡第11次調査出土遺物一覧表15

S-154		S-155f	
須恵器	蓋3、坏	弥生土器 後後	鉢
土師器	甕		
弥生土器 後	甕、高坏	S-156	
S-154 柱痕		須恵器	蓋、鉢
		土師器	蓋
石製品	OB-F(1)	石製品	OB-F(1)
弥生土器 後	壺	弥生土器 後中	甕、支脚
S-155 黒茶土		S-158	
弥生土器 後	甕	石製品	OB-F(1)
弥生土器 後中	高坏	弥生土器 後	壺、(瀬戸内系)甕、高坏
S-155 茶褐土		S-159	
土師器	布留系甕	須恵器	坏a、坏c3
石製品	OB-F(4)、AND-F(1)	土師器	坏a、甕
弥生土器 後前	甕、坏	瓦器	小皿a
弥生土器 後中	壺、甕		
弥生土器 後後	鉢、高坏、器台、小型器台	S-160	
	甕		
		須恵器	蓋c1、蓋c3、坏c、坏身c3、甕
S-155a			蓋3、鉢b
		土師器	皿c、甕、蓋c3
弥生土器	片	石製品	OB-F(1)
		弥生土器	鉢
S-155b		弥生土器 後	高坏、支脚
		弥生土器 後中	壺
石製品	OB-F(1)	弥生土器 後後	壺
		土製品	棒状土製品、製塩土器
S-155c		S-162	
弥生土器	片		
		石製品	OB-F(1)
S-155 d		弥生土器 後中	壺
		弥生土器 後後	甕
土師器	布留系甕、山陰系甕		
弥生土器 後後	壺、高坏	S-163	
S-155e		弥生土器	片
弥生土器 後中	壺、甕	S-164	
		弥生土器	片

Tab.11-27 前田遺跡第11次調査 出土遺物一覧表15

前田遺跡第11次調査出土遺物一覧表16

S-165 茶褐土		S-166	
土師器	古式高坏	弥生土器 後中	壺、甕、高坏
石製品	OB-F(4)		
弥生土器 後中	壺、甕	S-167	
弥生土器 後後	壺、甕、高坏、支脚、鉢		
弥生土器 後末	甕(西新式)	土師器	小型丸底壺
金属製品	不明	弥生土器 後	支脚
土製品	めんこ		
		S-168	
S-165 茶黒土		弥生土器 後中	甕
土師器	古式壺、甕		
石製品	OB-F(2)	S-169	
弥生土器 後後	甕、鉢、高坏、脚付鉢、器台		
金属製品	刀子	弥生土器 後中	甕、高坏
S-165		S-170 茶褐土	
弥生土器	壺、甕、鉢、高坏	石製品	OB-F(1)
S-165a		弥生土器 後	壺、高坏
弥生土器 後後	甕	S-170	
S-165b		弥生土器	片
弥生土器 後中	壺、甕	S-171	
土製品	坏身、手づくね		
		石製品	OB-F(2)、AND-F(1)
S-165c		弥生土器 後中	壺
石製品	OB-F(1)	S-173	
弥生土器 後	甕、高坏		
		弥生土器	片
土製品	めんこ(2)		
		S-174	
S-165c 抜取り		弥生土器	片
弥生土器	片		
S-165d			
弥生土器	片		
S-165 淡黄土			
弥生土器 後中	壺		

Tab.11-28 前田遺跡第11次調査 出土遺物一覧表16

前田遺跡第11次調査出土遺物一覧表17

S-175 茶褐色		S-175-h	
須恵器	杯a、坏c3	須恵器	壺
土師器	甕、小型特殊器台	弥生土器 後前	短頸壺
石製品	OB-AP(1)、OB-F(11)		
	AND-F(1)	S-175 灰黄土	
弥生土器 前中	甕、鉢		
弥生土器 中	甕、	弥生土器 後中	甕
弥生土器 後	壺、甕、鉢、支脚、ミチア土器坏		
弥生土器 後前	甕	S-175 カマド	
弥生土器 後中	壺		
弥生土器 後後	脚付鉢	石製品	OB-F(1)
金属製品	手鎌	弥生土器 後後	甕
土製品	手づくね杯、小鉢、めんこ		
		S-176	
S-175a			
		弥生土器	片
土師器	鉢	金属製品	不明
弥生土器 後前	壺、中鉢		
		S-177	
S-175b			
		須恵器	坏
弥生土器	片	土師器	片
S-175c		S-178	
弥生土器 後	高坏	弥生土器	片
S-175d		S-179	
弥生土器	片	須恵器	甕
		石製品	OB-F(1)
S-175e		弥生土器 後中	壺、甕、高坏
石製品	AND-F(1)	S-180 茶褐色	
弥生土器 前中	甕		
弥生土器 後中	短頸壺、高坏	須恵器	甕
		土師器	古式壺、鉢b
S-175f		石製品	磨石(1)、OB-F(19)、軽石(1)
			OB-AP(1)、AND-F(1)
弥生土器 後	甕	弥生土器 後中	壺、甕
		弥生土器 後後	長頸壺、甕、鉢、高坏、支脚
S-175g		縄文土器 晩期	浅鉢
		金属製品	鍬
弥生土器	片	土製品	手づくね鉢、めんこ(2)

Tab.11-29 前田遺跡第11次調査 出土遺物一覧表17

前田遺跡第11次調査出土遺物一覧表18

S-180 茶土		S-183	
土師器	大坏c	土師器	甕片
石製品	石包丁(1)、OB-F(4)		
弥生土器 後	壺、甕、鉢、高坏	S-184	
弥生土器 後前	甕		
弥生土器 後後	支脚	弥生土器	片
S-180 淡黄土		S-185 茶褐土	
石製品	OB-F(1)	縄文土器 後中	甕
弥生土器	片	縄文土器 後後	壺、甕、鉢、高坏
		土製品	めんこ(2)
S-180a		S-186	
弥生土器 後	高坏、器台	弥生土器	片
S-180c		S-187	
弥生土器	片	石製品	OB-F(1)
S-180d		弥生土器 前	甕
弥生土器 後	甕	S-188	
S-180e		須恵器	坏
土師器	甕	弥生土器	片
弥生土器 後	甕	S-189	
弥生土器 後中	甕	弥生土器 後	器台
S-180f		S-190	
弥生土器 後	壺、甕	須恵器	蓋1、蓋C3、甕
S-180 炉		石製品	OB-F(1)
弥生土器	片	弥生土器 前	甕
		弥生土器 後	甕
S-181		S-191	
弥生土器 後	高坏	弥生土器 後後	甕、高坏、支脚
弥生土器 後中	壺		
S-182		S-192	
弥生土器	片	弥生土器 後	甕

Tab.11-30 前田遺跡第11次調査 出土遺物一覧表18

前田遺跡第11次調査出土遺物一覧表19

S-193		S-197b	
須恵器	蓋3、甕	弥生土器 後	高坏
土師器	蓋、坏c3、甕(1)		
同安窯系青磁	椀	S-197 堀り方	
S-194		弥生土器	片
弥生土器 後中	甕	S-197a	
弥生土器 後後	甕		
		石製品	OB-F (1)
S195 茶褐土			
		S-197c	
土師器	高坏		
石製品	OB-F(2)	須恵器	坏、甕
弥生土器 後前	甕	国産陶器 近代	壺、鉢、瓶
弥生土器 後中	壺	弥生土器	片
弥生土器 後後	長頸壺、甕、高坏、支脚		
		S-197c 堀り方	
S-195a			
		須恵器	坏
弥生土器 後	高坏	土師器	坏、皿b、甕
S-195b		S-198	
弥生土器 後	器台	土師器	小型特殊器台
		弥生土器 後中	壺
S-195 c		弥生土器 後後	甕
弥生土器	片	S-199	
S-195d			
		石製品	OB-F(1)
弥生土器	片	弥生土器 後	支脚
		弥生土器 後中	甕、脚付鉢
		弥生土器 後後	甕、鉢、高坏
S-195e			
		S-200	
土師器	坏c3		
		弥生土器 後中	壺
S-196		弥生土器 後後	甕、鉢
弥生土器	片	S-200暗茶粘	
S-197a			
		弥生土器 前前	甕
		弥生土器 後中	甕
弥生土器 後	壺、甕		

Tab.11-31 前田遺跡第11次調査 出土遺物一覧表19

前田遺跡第11次調査出土遺物一覧表20

S-202		S-210 a	
石製品	OB-F(1)	弥生土器	片
弥生土器	片	弥生土器 前	甕
S-203		S-210b	
土師器	坏c3	石製品	OB-F(1)
		弥生土器 後中	壺
S-204		S-210 c	
弥生土器	片	弥生土器	片
S-205 黄茶土		S-210 淡黄土	
石製品	OB-F(2)		
弥生土器 後	甕、器台	弥生土器 後中	壺
S-205 茶褐土		S-211	
弥生土器 後	器台	須恵器	蓋3、坏c3
		土師器	蓋3、坏c
S-205 暗茶土		弥生土器	片
弥生土器 後中	壺	S-212	
S-206		弥生土器	片
須恵器	坏片	S-214	
土師器	坏a		
弥生土器 後後	甕	弥生土器 後中	甕
		弥生土器 後後	高坏
S-207		S-215 茶褐土	
須恵器	坏		
弥生土器 後中	甕	石製品	OB-F(2)
		弥生土器 前	甕
S-209		弥生土器 後中	鉢
		弥生土器 後後	壺、器台
弥生土器	片	S-216	
S-210 茶褐土			
		須恵器	蓋3、坏c、甕
石製品	砥石(1)、OB-F(13)	土師器	甕
弥生土器 後後	壺、甕、高坏、器台	弥生土器	片
縄文土器 後	深鉢		
土製品	棒状土製品		

Tab.11-32 前田遺跡第11次調査 出土遺物一覧表20

前田遺跡第11次調査出土遺物一覧表21

S-217		S-222	
弥生土器 後後	高坏	弥生土器	片
S-219		S-223	
石製品	OB-F (1)	土師器	長頸壺
弥生土器 後後	甕、高坏	石製品	OB-F(1)
		弥生土器 後後	支脚
S-220		S-224	
石製品	OB-F(1)		
弥生土器 後後	壺、甕、大甕、高坏、支脚	弥生土器	片
S-220 茶褐土		S-225 茶褐土	
石製品	砥石(1)、OB-F(3)、AND-F(1)	石製品	OB-F(1)
弥生土器	壺×甕、甕、支脚、器台×甕	弥生土器 前	甕
弥生土器 前	甕、壺、瀬戸内系壺	弥生土器 後	壺、甕、鉢
弥生土器 後中	壺		
弥生土器 後後	壺、甕、鉢、器台	S-226	
S-220 a		弥生土器	片
石製品	OB-F(1)	S-227	
S-220 b		弥生土器	片
弥生土器	片	S-228	
S-220 c		弥生土器	片
石製品	OB-F(1)	S-229	
弥生土器	片	弥生土器	片
S-220 暗茶褐土		S-230 茶褐土	
須恵器	蓋3		
弥生土器 前	甕	弥生土器	鉢
弥生土器 後後	甕、鉢	S-230	
S-221		須恵器	坏、甕
弥生土器	片	石製品	OB-F(2)
		弥生土器 後後	甕、鉢

Tab.11-33 前田遺跡第11次調査 出土遺物一覧表21

前田遺跡第11次調査出土遺物一覽表22

S-231		S-240 a	
弥生土器	片	弥生土器 後	高坏
S-232		S-240 b	
弥生土器 前中	甕	弥生土器	片
弥生土器 後後	甕		
S-233		S-241	
弥生土器 後後	器台	弥生土器 土製品	片 手づくね鉢
S-234		S-242	
弥生土器	片	須恵器 弥生土器 後	坏 壺
S-235 茶褐土		S-243	
石製品	AND-F(1)	須恵器	片
弥生土器 後	鉢	石製品	AND-F(1)
S-236		弥生土器	片
弥生土器 前	壺	S-244	
弥生土器 後	壺、高坏	弥生土器 後	鉢、高坏
S-237		縄文土器 後	深鉢
須恵器	坏	S-245 淡灰茶土	
弥生土器 後中	壺	弥生土器 後後	甕
S-238		S-245 灰茶砂	
弥生土器	片	弥生土器	片
S-239		S-245	
弥生土器 後後	甕	弥生土器 後	高坏
S-240 茶褐土		S-246	
須恵器	坏c3	弥生土器 後中	壺、鉢
弥生土器 中前	甕		
弥生土器 後中	壺、鉢		

Tab.11-34 前田遺跡第11次調査 出土遺物一覽表22

前田遺跡第11次調査出土遺物一覽表23

S-247		S-255 淡灰茶土	
弥生土器	片	弥生土器 前	鉢
S-248		S-255a	
石製品	砥石(1)	弥生土器	片
弥生土器	片		
		S-255d	
S-249		石製品	OB-F(1)
須恵器	坏c		
弥生土器 後前	甗	S-256	
弥生土器 後後	高坏		
		石製品	OB-F(1)
S-250 茶褐土		弥生土器 後後	高坏
弥生土器 後後	壺、甗	S-257	
S-251		石製品	OB-F(1)
弥生土器	片	弥生土器	片
		S-258	
S-252		弥生土器	片
弥生土器	片		
		S-259	
S-253		弥生土器 後前	甗
石製品	OB-F(13)		
		S-260 茶褐土	
S-254		石製品	OB-CORE(5)、OB-F(9)
弥生土器	片	弥生土器 前前	鉢
		弥生土器 後後	甗
S-255 茶褐土			
		S-260 a	
石製品	砥石(1)、OB-AP(1) AND-AP(1)、OB-CORE(2)、 OB-F(8)、AND-F(1)、	石製品	OB-F(1)
弥生土器 前中	甗、壺	S-260 b	
S-255 淡茶褐土		石製品	OB-F(1)
弥生土器	鉢	S-261	
		弥生土器	片

Tab.11-35 前田遺跡第11次調査 出土遺物一覽表23

前田遺跡第11次調査出土遺物一覧表24

S-262		S-270a	
弥生土器 後	壺	弥生土器	片
S-263		S-270b	
弥生土器	片	弥生土器 後中	壺
S-264		S-270c	
弥生土器	片	弥生土器	片
S-265 茶褐土		S-270d	
土師器	布留系壺	弥生土器	片
弥生土器 後	高坏		
S-266		S-270e	
石製品	OB-F(1)	弥生土器	片
弥生土器 後	甕	S-270f	
弥生土器 後中	甕		
S-267		弥生土器 後	高坏
弥生土器 後後	甕	S-270g	
S-268		弥生土器	片
弥生土器	壺片	S-271	
S-269		弥生土器 後後	壺、甕、鉢、高坏、器台
弥生土器 後後	高坏	S-272	
S-270 茶褐土		弥生土器 後中	壺、甕
須恵器	坏	S-273	
石製品	磨石(1)、OB-F(4)、AND-F(2)	弥生土器	片
弥生土器 後後	壺、甕、鉢、高坏、器台	S-274	
S-270 淡黄土		石製品	OB-F(1)
石製品	OB-F(1)	弥生土器 後	鉢
弥生土器	壺、片		

Tab.11-36 前田遺跡第11次調査 出土遺物一覧表24

前田遺跡第11次調査出土遺物一覽表25

S-275		S-284	
弥生土器 前	甕	土師器	甕
弥生土器 後後	壺、鉢	弥生土器 後	甕
		弥生土器 後中	壺
S-276		S-285	
須恵器	坏	石製品	OB-F(1)、OB-姫島-F(1)
石製品	OB-F(2)		石鍬(1)、AND-F(1)
弥生土器	片		AND-?(1)
S-278		弥生土器 前	壺
		弥生土器 前中	甕
弥生土器	片	弥生土器 後	甕
弥生土器 後	壺		
		S-285 明茶灰土	
S-279			
石製品	AND-F(1)	弥生土器	壺、甕
弥生土器 前	甕		
弥生土器 後	壺	S-285 明茶灰砂	
S-280 茶褐土		石製品	OB-CORE(1)、OB-F(5)
		弥生土器 前前	大壺(壺棺)、甕
須恵器	坏		
石製品	OB-F(8)、AND-F(2)	S-285 明黄褐粘	
弥生土器	片		
弥生土器 前	壺、甕	石製品	OB-F(5)
縄文土器	浅鉢		
		S-285 明茶褐粘	
S-281			
		石製品	AND-F(2)
弥生土器 中	壺、甕	弥生土器 前	壺
弥生土器 後	甕		
弥生土器 後前	甕	S-285 茶粘	
S-282		弥生土器	片
石製品	OB-F(4)	S-285 暗茶土	
弥生土器 前	壺		
弥生土器 後	壺、甕	弥生土器	片
S-283		S-285 明茶褐土	
須恵器	高坏	弥生土器 前前	壺、甕
弥生土器 後	壺	弥生土器 前中	甕

Tab.11-37 前田遺跡第11次調査 出土遺物一覽表25

前田遺跡第11次調査出土遺物一覧表26

S-285 暗赤茶粘		S-298	
弥生土器 前	甕	弥生土器	片
S-286		S-299	
弥生土器 後前	甕、片	弥生土器	片
S-287		S-301	
弥生土器 後	器	弥生土器	片
S-288		S-302	
弥生土器 後中	壺、器台	弥生土器	片
S-289		S-303	
弥生土器 後	高坏	須恵器	坏、甕
S-292		弥生土器	片
弥生土器	片	S-304	
S-293		弥生土器	片
弥生土器	片	S-305 茶褐土	
S-294		石製品	OB-F(4)
石製品	AND-F(1)	弥生土器	甕
弥生土器	片	弥生土器 前	壺
S-295 茶褐土		S-306	
弥生土器 後後	鉢、器台	弥生土器	片
S-295 暗茶灰粘		S-308	
弥生土器 後前	壺、器台	弥生土器	片
S-296		S-313	
弥生土器	片	石製品	OB-F(1)
S-297		S-317	
弥生土器 後	甕	弥生土器	片
		S-318	
		弥生土器	片
		S-324	
		石製品	OB-F(1)
		S-325	
		弥生土器	片
		S-326	
		弥生土器	片

Tab.11-38 前田遺跡第11次調査 出土遺物一覧表26

前田遺跡第11次

前田11次遺物観察表(2)

遺 構	No.	器 種	Fig.	Pla.	R番号	口 径 cm	高 さ cm	底 径 cm	外 面					内 面						
									た	な	は	よ	か	み	な	は	け	み		
" (S-165茶褐土)	18	弥生 甕	11-30	11-40	002	-	16.4+	-												
" (S-199)	19	弥生 甕	11-31	11-32	001	24.0	30.6+	-												
" (S-165茶褐土)	20	弥生 甕	11-31	11-32	001	22.4*	32.0+	-												
" (S-165)	21	弥生 鉢	11-31	11-31	006	34.2*	9.1+	-												
" (S-165)	22	弥生 鉢	11-31	11-31	002	16.4*	5.7+	-												
" (S-165)	23	弥生 鉢	11-31	11-31	005	26.6*	6.8+	-												
" (S-165)	24	弥生 高坏	11-31	11-31	004	-	2.8+	-												
" (S-165茶褐土)	25	弥生 高坏	11-31	11-31	006	-	6.6+	11.8*												
11SI165a (S-165a)	26	弥生 壺	11-31	11-31	001	-	5.2+	5.1												
11SI165b (S-165b)	27	弥生 壺	11-31	11-31	001	13.9*	5.2+	-												
" (S-165茶褐土)	31	土製品 メンコ	11-31	11-31	007	2.4	2.4	0.9												
" (S-165茶褐土)	32	土製品 メンコ	11-31	11-31	008	3.2	3.3	0.7												
11SI165茶黒色土 (S-165茶黒土)	28	弥生 高坏	11-31	11-32	001	-	5.6+	19.2												
11SI165淡黄色土 (S-165淡黄土)	29	弥生 壺	11-31	11-32	001	-	5.0+	-												
" (S-165b)	30	手づくね 坏	11-31	11-31	002	5.1*	5.0	3.0*												
11SI175茶褐色土 (S-175茶褐土)	1	弥生 壺	11-32	11-32	008	13.5*	3.2+	-												
" (S-175茶褐土)	2	弥生 甕	11-32	11-32	004	26.0*	7.9+	-												
" (S-175茶褐土)	3	弥生 甕	11-32	11-32	001	43.2+*	8.0+	-												
" (S-175茶褐土)	4	弥生 鉢	11-32	11-32	003	12.0*	6.0	4.4												
" (S-175茶褐土)	5	弥生 鉢	11-32	11-32	006	-	3.9+	-												
" (S-175茶褐土)	7	土師 小型特殊器台	11-32	11-32	007	-	2.1+	-												
11SI175茶褐色土 (S-175茶褐土)	6	手づくね 小鉢	11-32	11-32	005	-	3.2+	-												
" (S-175茶褐土)	8	手づくね 坏	11-32	11-32	002	5.0×6.0	4.6	-												
11SI175灰黄色土 (S-175灰黄土)	9	弥生 甕	11-32	11-33	001	16.6*	4.7+	-												
" (S-175灰黄土)	10	弥生 甕	11-32	11-33	002	-	5.5+	-												
11SI175 a (S-175a)	11	弥生 壺	11-32	11-32	003	-	10.0+	-												
" (S-175a)	12	弥生 鉢	11-32	11-33	002	-	7.7+	-												
" (S-175a)	13	土師 鉢	11-32	11-32	001	13.7	5.7	13.5												
11SI175c (S-175c)	14	弥生 高坏	11-32	11-33	001	-	2.5+	-												
11SI175e (S-175e)	15	弥生 高坏	11-32	11-33	001	-	3.9+	-												
11SI175h (S-175h)	16	須 壺	11-32	11-33	001	-	3.2+	-												
11SI180茶褐色土 (S-180茶褐土)	17	弥生 壺	11-32	11-33	001	-	12.4+	-												
" (S-180茶褐土)	18	弥生 長頸壺	11-32	11-33	005	-	-	-												
" (S-180茶褐土)	19	弥生 甕	11-32	11-33	004	-	4.9+	-												
" (S-180茶褐土)	20	弥生 甕	11-32	11-33	003	21.2*	5.0+	-												
" (S-180茶褐土)	21	弥生 鉢	11-32	11-33	009	13.4*	5.5	-												
" (S-180茶褐土)	22	弥生 鉢	11-32	11-33	008	16.6*	4.8+	-												
" (S-180茶褐土)	23	弥生 鉢	11-32	11-33	007	-	2.6+	-												
" (S-180茶褐土)	24	弥生 鉢	11-32	11-33	006	-	4.6+	-												
" (S-180茶褐土)	25	弥生 高坏	11-32	11-33	002	29.6*	7.3+	-												
" (S-180茶褐土)	26	弥生 高坏	11-32	11-33	010	-	4.9+	14.0*												
" (S-180茶褐土)	27	弥生 高坏	11-32	11-33	011	-	6.0+	15.0*												
11SI180a (S-180a)	28	弥生 器台	11-32	11-33	001	10.2+*	14.8+	12.4+*												
11SI180e (S-180e)	29	弥生 甕	11-32	11-33	001	20.0*	4.1+	-												
11SI185茶褐色土 (S-185茶褐土)	30	弥生 壺	11-33	11-33	002	-	2.8+	-												
" (S-185茶褐土)	31	弥生 甕	11-33	11-33	001	-	3.7+	-												
" (S-185茶褐土)	32	弥生 甕	11-33	11-33	003	-	2.2+	-												
" (S-185茶褐土)	33	弥生 甕	11-33	11-33	004	21.2*	6.7+	-												
11SI195茶褐色土 (S-195茶褐土)	34	弥生 甕	11-33	11-33	002	-	3.4+	-												
" (S-195茶褐土)	35	弥生 甕	11-33	11-33	003	-	4.5+	-												
" (S-195茶褐土)	36	弥生 甕	11-33	11-33	001	-	4.3+	-												
" (S-195茶褐土)	37	土師 高坏	11-33	11-33	004	-	1.4+	-												
11SI210茶褐色土 (S-210茶褐土)	38	弥生 甕	11-33	11-34	003	22.0*	4.9+	-												
" (S-210茶褐土)	39	弥生 甕	11-33	11-34	002	-	7.7+	-												
" (S-210茶褐土)	40	弥生 高坏	11-33	11-34	004	-	4.8+	-												
" (S-210茶褐土)	41	弥生 器台	11-33	11-34	001	12.4	18.2+	14.1												
11SI210淡黄色土 (S-210淡黄土)	43	弥生 壺	11-33	11-34	001	-	1.8+	-												
11SI210b (S-210b)	44	弥生 壺	11-33	11-34	001	-	2.7+	-												
11SI210茶褐色土 (S-210茶褐土)	42	土製品 棒状×脚	11-33	11-34	005	-	3.6+	-												
11SI220茶褐色土 (S-220茶褐土)	1	弥生 壺	11-34	11-34	008	-	3.3+	-												
" (S-220茶褐土)	2	弥生 壺	11-34	11-34	004	-	3.5+	-												
" (S-220茶褐土)	3	弥生 壺	11-34	11-34	002	-	1.7+	-												

Tab.11-40 前田遺跡第11次調査 出土遺物観察表2

前田11次遺物観察表(4)

遺構	No.	器種	Fig.	Pla.	R番号	口径 cm	高さ cm	底径 cm	外面					内面						
									た	な	は	よ	か	み	な	は	け	み		
11SK40淡黄茶色土 (S-40淡黄茶土)	38	須蓋c3	11-36	11-37	008	13.8*	2.4	-												
" (S-40淡黄茶土)	39	須蓋c3	11-36	11-37	005	15.4*	1.8	-												
" (S-40淡黄茶土)	40	須蓋c3	11-36	11-36	001	16.4	2.5	-												
" (S-40淡黄茶土)	41	須坏c3	11-36	11-36	004	10.6*	3.2	7.6												
" (S-40淡黄茶土)	42	須坏c3	11-36	11-36	009	11.2*	3.7	8.0*												
" (S-40淡黄茶土)	43	須坏c	11-36	11-36	003	12.6*	3.7	8.9												
" (S-40淡黄茶土)	44	須坏c3	11-36	11-36	010	13.3*	3.6	9.9*												
" (S-40淡黄茶土)	45	須坏c3	11-36	11-36	006	14.2	4.7	9.4												
" (S-40淡黄茶土)	46	須坏c3	11-36	11-36	001	16.2*	4.8	10.8												
11SK040暗茶色土 (S-40暗茶土)	47	須蓋c3	11-36	11-36	003	15.6*	1.3+	-												
" (S-40暗茶土)	48	須坏c	11-36	11-36	002	14.6*	4.1	10.2*												
" (S-40暗茶土)	49	須大坏c	11-36	11-36	001	18.2*	5.8	11.4												
" (S-40暗茶土)	50	土師大坏c	11-36	11-36	004	-	2.3+	14.2*												
" (S-40暗茶土)	51	土師甕	11-36	11-39	008	14.0*	4.9+	-												
" (S-40暗茶土)	52	製塩土器 焼塩壺II-b	11-36	11-36	005	12.4*	6.2+	-												
" (S-40暗茶土)	53	製塩土器 焼塩壺II-b	11-36	11-36	006	12.0*	6.7+	-												
" (S-40暗茶土)	54	製塩土器 焼塩壺II-b	11-36	11-36	007	11.4*	8.3+	-												
11SK040暗茶黄色粘質土 (S-40暗茶黄粘質土)	55	須蓋3	11-36	11-39	002	19.0*	1.8+	11.5*												
" (S-40暗茶黄粘質土)	56	須坏c	11-36	11-39	001	13.6	4.0	9.8												
11SK150 (S-150)	57	弥生鉢	11-36	11-39	001	15.7*	6.2	6.1												
11SK150 (S-150)	58	弥生鉢	11-37	11-39	002	8.2	2.9	-												
11SK160 (S-140茶褐土)	59	須蓋c1	11-37	11-39	002	9.4	4.6	8.0												
" (S-140茶褐土)	60	須蓋c3	11-37	11-39	005	19.2*	1.4+	12.0*												
" (S-140茶褐土)	61	須蓋c3	11-37	11-39	003	14.1	2.1	7.9												
" (S-140茶褐土)	62	須坏c3	11-37	11-39	001	13.8*	3.6	9.9*												
11SK275 (S-275)	63	弥生壺	11-37	11-39	001	20.2*	6.0	-												
" (S-275)	64	弥生鉢	11-37	11-39	002	-	5.1+	-												
11SK285暗赤茶色粘質土 (S-285)	1	弥生壺	11-38	11-40	001	-	26.8+	-												
" (S-285暗赤茶粘質土)	2	弥生甕	11-38	11-40	001	-	8.6+	8.2												
" (S-285明茶褐土)	3	弥生甕	11-38		001	-	4.7+	-												
" (S-285)	4	土製品 メンコ	11-38	11-39	002	5.2	3.1	0.7												
11SK285暗茶灰色砂質土 (S-285暗茶灰砂質土)	5	弥生甕	11-38	11-39	001	-	4.7+	-												
11SK285明茶灰色土 (S-285明茶灰土)	6	弥生壺	11-38	11-39	002	-	6.4+	-												
" (S-285明茶灰土)	7	弥生甕	11-38	11-40	003	21.0*	10.7+	-												
" (S-285明茶灰土)	8	弥生甕	11-38	11-40	001	-	10.0+	7.2												
11ST075 (S-75)	1	土師坏a	11-39	11-41	002	11.0	2.2	7.5												
" (S-75)	2	黒B 椀c	11-39	11-41	001	14.8	5.8	7.5												
11ST90暗灰色土 (S-90暗灰土)	3	土師坏a	11-39	11-41	001	13.2	3.2	7.2												
11ST130茶褐色土 (S-130茶褐土)	4	須蓋IV	11-39	11-41	001	11.8*	3.5	8.8*												
11SX010茶灰色土 (S-10茶灰土)	1	土師坏a	11-40	11-41	003	-	1.5+	10.0*												
" (S-10茶灰土)	2	土師坏a	11-40	11-41	002	-	1.3+	11.2*												
" (S-10茶灰土)	3	白磁 椀V-2-a	11-40	11-41	001	16.8*	6.8	6.7												
11SX010淡茶色土 (S-10淡茶土)	4	青磁 椀I-3	11-40	11-41	001	14.9*	6.0+	-												

Tab.11-42 前田遺跡第11次調査 出土遺物観察表4

金属器観察表の凡例

Aは木質残存部の長さ(ただし、金属部は含まない)

Bは釘の頂部が残存している個体の木質残存部の上部からの長さ(ただし、金属部は含まない)

前田 11 次 金 属 観 察 表

遺 構	No.	種 別	器 種	Fig.	Pl.	R 番号	長さ cm	幅1 cm	幅2 cm	A cm	B cm
SI120茶褐色土 (S-120茶褐色土)	1	銅製品	鋤先	11-41	11-42	005	4.35	3.70	1.30		
SI165茶褐色土 (S-165茶褐色土)	2	鉄製品	不明	11-41	11-42	009	6.3+	1.00	0.25		
SI165茶黒色土 (S-165茶黒色土)	3	"	刀子	11-41	11-42	002	3.4+	1.30	0.40		
"	4	"	"	11-41	11-42	003	4.1+	1.40	0.50		
SI175茶褐色土 (S-175茶褐色土)	5	"	手鎌	11-41	11-42	010	3.0+	2.30	0.15		
SI180茶褐色土 (S-180茶褐色土)	6	"	鍬	11-41	11-42	014	3.95	3.10	0.80		
SK040赤灰色土 (S-40赤灰色土)	7	"	釘	11-41	11-42	002	5.20	0.35	0.30		
"	8	"	不明	11-41	11-42	004	1.7+	0.60	0.35		
"	9	"	"	11-41	11-42	003	1.8+	0.8+	0.30		
SK040灰茶色砂質土 (S-40灰茶砂)	10	"	斧	11-41	11-42	018	8.2+	3.20	1.50		
"	11	"	刀子	11-41	11-42	019	9.9+	1.30	0.40		
SK040淡黄茶色土 (S-40淡黄茶土)	12	"	釘	11-41	11-42	011	4.70	0.65	0.60		
SK040淡灰茶土 (S-40淡灰茶土)	13	"	鍬	11-41	11-42	009	6.9+	2.90	0.60		
ST090 (S-90)	1	"	釘	11-42		001	2.0+	0.40	0.40	1.60	
"	2	"	"	11-42		002	3.4+	0.40	0.30	2.10	
"	3	"	"	11-42		003	1.2+	0.30	0.30		
ST090北部 (S-90北部)	4	"	"	11-42	11-42	001	6.05+	0.52	0.40		0.20
"	5	"	"	11-42	11-42	003	3.25+	0.29	0.25	0.70	
"	6	"	"	11-42	11-42	004	2.8+	0.55	0.55	1.20	
"	7	"	"	11-42	11-42	002	2.6+	0.35	0.28	2.00	
"	8	"	"	11-42	11-42	007	2.2+	0.30	0.35		
"	9	"	"	11-42	11-42	005	2.7+	0.40	0.35		0.20
"	10	"	"	11-42	11-42	006	2.4+	0.35	0.28		
ST90南部 (S-90南部)	11	"	"	11-42	11-42	005	5.35+	0.25	0.25		1.20
"	12	"	"	11-42	11-42	010	1.4+	0.35	0.35	1.50	
"	13	"	"	11-42	11-42	003	2.25+	0.75	0.70	1.40	
"	14	"	"	11-42	11-42	004	3.4+	0.45	0.40	2.15	
"	15	"	"	11-42	11-42	007	2.4+	0.35	0.30	2.40	
"	16	"	"	11-42	11-42	006	1.2+	0.40	0.40	1.00	
"	17	"	"	11-42	11-43	001	5.0+	0.75	0.75		0.20
"	18	"	"	11-42	11-43	002	4.45+	0.40	0.30	4.35	
"	19	"	"	11-42	11-43	009	2.15+	0.50	0.40	2.15	
"	20	"	"	11-42	11-43	008	1.25+	0.45	0.45	1.25	
"	21	"	"	11-42	11-43	011	0.8+	0.40	0.30	1.30	
ST090暗灰色土 (S-90暗灰色土)	22	"	"	11-42	11-43	002	1.95+	0.55	0.45	1.95	
"	23	"	"	11-42	11-43	003	1.4+	0.40	0.30		
ST090北東暗灰色土 (S-90北東暗灰色土)	24	"	"	11-42	11-43	002	1.3+	0.60	0.50	1.10	
"	25	"	"	11-42	11-43	003	0.8+	0.65	0.40	0.60	
"	26	"	"	11-42	11-43	001	4.5+	0.60	0.50	1.20	

Tab.11-43 前田遺跡第11次調査 出土金属器観察表1

遺構	No.	種別	器種	Fig.	Pl.	R番号	長さ cm	幅1 cm	幅2 cm	A cm	B cm
ST090南西暗灰色土 (S-90南西暗灰土)	27	"	"	11-42	11-43	001	3.5+	0.40	0.35	2.90	
" "	28	"	"	11-42	11-43	002	2.4+	0.35	0.25	1.90	
" "	29	"	"	11-42	11-43	003	1.8+	0.40	0.35	1.80	
" "	30	"	"	11-42	11-43	005	1.6+	0.25	0.25	1.60	
" "	31	"	"	11-42	11-43	004	1.5+	0.35	0.25		
ST090明灰黄色土 (S-90明灰黄土)	32	"	"	11-43	11-43	002	4.6+	0.50	0.40	4.10	
" "	33	"	"	11-43	11-43	001	5.4+	0.50	0.50	5.40	
" "	34	"	"	11-43	11-43	003	3.3+	0.40	0.30	3.00	
" "	35	"	"	11-43	11-43	006	2.8+	0.31	0.31	2.10	
" "	36	"	"	11-43	11-43	005	2.8+	0.31	0.31	2.10	
" "	37	"	"	11-43	11-43	004	2.5+	0.35	0.20		
" "	52	"	毛抜き	11-43	11-43	007	12.45	1.15	0.70		
ST090北西暗灰色土 (S-90北西暗灰土)	38	"	釘	11-43	11-43	001	3.75+	0.25	0.20		1.80
" "	39	"	"	11-43	11-43	002	3.8+	0.45	0.40	3.80	
" "	40	"	"	11-43	11-43	003	2.8+	0.30	0.30	2.80	
" "	41	"	"	11-43	11-43	007	1.3+	0.60	0.35	0.90	
" "	42	"	"	11-43	11-43	006	1.25+	0.50	0.45	1.25	
" "	43	"	"	11-43	11-43	004	4.1+	0.45	0.40	4.00	
" "	44	"	"	11-43	11-43	005	2.8+	0.30	0.30	2.80	
ST090南東暗灰色土 (S-90北西暗灰土)	45	"	"	11-43	11-42	001	4.9+	0.25	0.25		1.40
" "	46	"	"	11-43	11-43	002	1.3+	0.40	0.40	0.40	
ST090棺内 (S-90棺内)	47	"	"	11-43	11-43	001	3.1+	0.30	0.30	3.30	
" "	48	"	"	11-43	11-43	003	1.8+	0.48	0.40	1.10	
" "	49	"	"	11-43	11-43	002	2.9+	0.30	0.30	2.90	
" "	50	"	"	11-43	11-43	004	1.5+	0.25	0.25	1.80	
" "	51	"	"	11-43	11-43	005	1.8+	0.40	0.40	1.60	
SX010茶灰土 (S-10茶灰土)	1	"	"	11-44	11-44	004	3.0+	0.50	0.30		
" "	2	鉄製品	刀子	11-44	11-44	005	9.3+	1.40	0.85		
" "	3	"	不明	11-44	11-44	006	1.85	1.50	1.10		
SX038 (S-38)	4	"	"	11-44	11-44	001	3.45	3.05	0.50		
" "	5	"	"	11-44	11-44	002	2.55	1.45	0.75		
SX059 (S-59)	6	"	釘	11-44	11-44	001	2.9+	0.50	0.40		
SX125 (S-125)	7	"	"	11-44	11-44	001	1.5+	0.40	0.35		
SX176 (S-176)	8	"	不明	11-44	11-44	001	4.9+	1.05	0.50		
茶褐色土 (茶褐色土)	9	"	刀子	11-44	11-44	002	5.25+	1.20	0.20		
" "	10	"	鎌	11-44	11-44	003	7.6+	3.15	0.40		
" "	11	"	不明	11-44	11-44	012	4.8+	2.20	0.20		
" "	12	"	"	11-44	11-44	005	4.55	2.50	0.90		
" "	13	"	"	11-44	11-44	006	4.65	2.40	0.90		
" "	14	"	"	11-44	11-44	010	4.05+	3.00	0.10		
" "	15	"	釘	11-44	11-44	007	3.55+	0.65	0.55		
" "	16	"	"	11-44	11-44	008	2.4+	0.55	0.45		
" "	17	"	"	11-44	11-44	009	3.9+	0.35	0.30		
" "	18	"	不明	11-44	11-44	004	2.70	1.50	0.35		

Tab.11-44 前田遺跡第11次調査 出土金属器観察表2

前田 11次石器観察表凡例

石器の設置方向は、剥片の場合は剥離面の打点部分を上とし、リングの広がりを中心部分を下としている。石核の場合は最終剥離面ないし最も明瞭な剥離面を正面としている。

長さの測定はノギスを、重量の測定には0.1桁表示の電子測りを使用した。

+は欠損値、*は復原値、-は測定不能の状況を示している。

石器観察表について
観察表中の略号は次のとおり。

OB (黒曜石)、AND (安山岩)、F (剥片)、RF (二次加工のある剥片)、
UF (微細剥離など使用痕のある剥片)、AP (石鏃)

前田 11 次 石 器 観 察 表

(+は欠損、 *は復原値)

遺 構	No.	石材	器種	Fig.	Pl.	R 番号	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g
SI050暗茶灰色土 (S-50暗茶灰土)	1	OB	F	11-45	11-44	005	3.300	1.000	1.100	4.0
SI050淡灰褐色土 (S-50淡灰褐土)	2	"	F	11-45	11-44	002	1.800	1.600	0.300	0.8
SI080暗茶灰色土 (S-80暗茶灰土)	3	火成岩	磨り石	11-45	11-45	007	10.250	9.400	6.350	818.6
"	4	黒色片岩	磨製石斧	11-45	11-44	008	14.950	6.150	2.900	410.2
SI080茶灰色土 (S-80茶灰土)	5	安山岩	AP	11-45	11-44	003	1.900	1.200	0.200	0.2
SI100茶褐色土 (S-100茶褐土)	6	安山岩	AP	11-45	11-45	005	1.7+	1.8+	0.300	0.9
"	7	緑色片岩	石包丁	11-45	11-45	004	3.5+	3.8+	0.700	12.8
SI120茶褐色土 (S-120茶褐土)	1	OB	AP	11-46	11-45	003	2.2+	1.2+	0.550	1.7
"	2	OB	APx	11-46	11-45	004	2.100	2.100	0.500	1.6
SI175茶褐色土 (S-175茶褐土)	3	OB	AP	11-46	11-45	009	1.7+	1.4+	0.250	0.4
SI180茶褐色土 (S-180茶褐土)	4	OB	AP	11-46	11-45	013	2.300	1.800	0.300	0.8
"	5	玄武岩	台石	11-46	11-45	012	10.250	7.500	3.000	443.7
SI210茶褐色土 (S-210茶褐土)	6	泥岩	砥石	11-46	11-45	006	9.450	4.250	1.850	112.3
SI220茶褐色土 (S-220茶褐土)	7	砂岩	砥石	11-46	11-45	006	5.65+	4.0+	2.900	103.3
SI255茶褐色土 (S-255茶褐土)	8	AND	AP	11-46	11-45	006	3.240	1.800	0.415	1.8
"	9	OB	CORE	11-46	11-45	007	2.300	2.935	1.670	9.5
"	10	泥岩	砥石	11-47	11-46	005	18.800	3.950	3.200	320.2
"		OB	F			008	2.385	2.685	0.500	2.3
"		OB	F			009	1.670	1.635	0.300	0.9
"		OB	F			010	1.775	1.385	0.230	0.6
"		OB	F			011	1.760	1.470	3.600	0.5
"		OB	F			012	1.280	1.645	0.385	0.4
"		OB	F			013	1.310	9.200	0.545	0.4
"		OB	F			014	1.790	1.200	0.500	0.7
"		OB	F			015	1.800	1.100	0.620	1.0
"		OB	F			016	1.280	1.025	0.335	0.3
SI260茶褐色土 (S-260茶褐土)	11	OB	CORE	11-47	11-46	004	1.500	1.890	1.270	2.9
"	12	OB	CORE	11-47	11-46	003	2.650	2.540	1.685	7.2
"	13	OB	CORE	11-47	11-46	002	2.620	3.565	1.640	15.5
"	14	OB	CORE	11-47	11-46	001	2.390	2.945	1.965	14.1
"		OB	F			005	2.355	3.340	1.100	6.4
"		OB	F			006	2.910	2.070	1.000	3.6
"		OB	F			007	2.145	2.325	0.640	2.2
"		OB	F			008	1.615	1.600	0.460	1.5
"		OB	F			009	1.420	1.575	0.280	0.5
"		OB	F			010	0.850	1.580	0.535	0.5
"		OB	F			011	2.220	1.340	0.580	1.5
"		OB	F			012	1.575	1.155	0.400	0.6
"		OB	F			013	0.850	1.085	0.290	0.3
"		OB	CHIP			014	0.525	0.875	0.325	0.1
"		OB	CHIP			015	0.320	0.950	0.140	-
SI260茶褐色土 (S-260茶褐土)		OB	CHIP			016	0.260	0.360	0.650	-
SI260a (S-260a)		OB	F			001	2.160	1.700	1.330	3.6
SI260b (S-260b)		OB	F			001	2.800	1.755	1.950	5.2

Tab.11-45 前田遺跡第11次調査 出土石器・石製品観察表1

遺構	No.	石材	器種	Fig.	Pl.	R番号	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g
SI270茶褐色土 (S-270茶褐色土)	15	火成岩	磨石	11-47	11-46	002	6.650	5.700	3.200	176.3
SI305茶褐色土 (S-305茶褐色土)		OB	F			002	2.200	3.375	0.845	3.2
" "		OB	F			003	2.285	2.850	0.435	1.9
" "		OB	F			004	2.725	1.720	0.550	1.8
" "		OB	F			005	1.970	1.900	0.475	1.3
SK040淡黄茶色土 (S-40淡黄茶土)	1	泥岩	石包丁	11-48	11-46	013	3.3+	1.0+	2.5+	0.6
" "	2	OB	AP	11-48	11-47	012	1.800	2.200	0.500	1.8
SK285 (S-285)		OB	F			003	2.785	3.500	0.700	4.3
" "		OB	F			004	3.850	2.215	1.245	7.0
" "		OB	F			005	3.000	1.760	0.670	2.7
" "		OB	F			006	21.000	1.880	1.100	2.2
" "		OB	F			007	2.100	2.050	0.645	1.2
" "		OB	F			008	1.990	1.945	0.700	1.9
SK285明黄褐色粘質土 (S-285明黄褐粘質土)		OB	F			001	3.160	2.665	0.615	4.3
" "		OB	F			002	2.690	2.650	0.350	1.6
" "		OB	F			003	2.345	1.835	0.670	1.7
" "		OB	F			004	2.000	1.100	0.380	0.6
" "		OB	F			005	1.000	1.615	0.335	0.4
SK285暗茶灰色砂質土 (S-285暗茶灰砂質土)		OB	F			002	1.650	3.040	0.780	2.3
" "		OB	F			003	1.330	1.885	0.800	1.2
" "		OB	F			004	2.050	1.520	0.230	0.2
" "		OB	F			005	1.240	1.650	0.280	0.4
SK285明茶灰色土 (S-285明茶灰土)		OB	F			004	2.200	3.940	1.500	10.4
" "		OB	F			005	1.040	3.835	0.555	1.1
ST130茶褐色土 (S-130茶褐色土)	16	OB	F	11-47	11-47	002	2.700	1.7+	0.350	1.1
SX002黒褐色土 (S-2黒褐色土)	3	OB	RF	11-48	11-47	001	1.700	1.850	0.330	1.0
SX039 (S-39)	4	OB	AP	11-48	11-47	001	2.200	1.800	0.500	1.7
SX058 (S-58)	5	凝灰岩	石包丁	11-48	11-46	001	7.3+	5.2+	0.700	38.2
SX076 (S-76)	6	OB	AP	11-48	11-47	001	1.500	1.250	0.350	0.4
SX113 (S-113)	7	OB	RF	11-48	11-47	001	2.800	2.600	0.800	4.4
SX248 (S-248)	1	泥岩	砥石	11-49	11-47	001	23.900	8.700	4.800	1364.0
茶褐色土 (茶褐色土)	2	OB	AP	11-49	11-47	015	2.0+	1.45+	0.210	0.6
" "	3	OB	AP	11-49	11-47	011	2.4+	2.0+	0.400	1.9
" "	4	OB	石核	11-49	11-47	001	2.500	2.300	1.400	7.5
" "	8	緑色変成岩	打製石斧	11-48	11-47	013	9.6+	5.950	2.050	0.9

Tab.11-46 前田遺跡第11次調査 出土石器・石製品観察表2



前田遺跡第11次調査 調査区遠景（上が北西）

凡例

写真図版右下の番号は、以下の要領で理解できる。

11-28-1

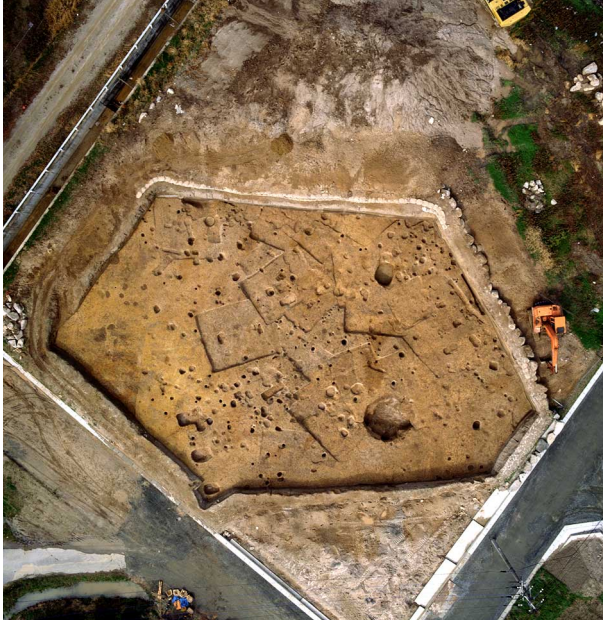
Fig.番号 挿図番号



前田遺跡第11次調査 遺構面検出状況近景（西から）



前田遺跡第11次調査 遺構面検出状況遠景（西から）



前田遺跡第11次調査 調査区全景（上が北西）



前田遺跡第11次調査 調査区北西部（上が北）



前田遺跡第11次調査 調査区北西部（上が北）



前田遺跡第11次調査 調査区北東部（上が北）



前田遺跡第11次調査 調査区中央部（北から）



前田遺跡第11次調査 調査区北壁土層観察（南から）



前田遺跡第11次調査 調査区南壁土層観察（北から）



前田遺跡第11次調査
SB200a検出状況（南から）



前田遺跡第11次調査
SB200完掘状況（上が北）
（ただし、前11SB200aは未検出段階）



前田遺跡第11次調査
SB200a土層観察（南から）



前田遺跡第11次調査
SB200a完掘状況（南から）



前田遺跡第11次調査
SB200b検出状況（北から）



前田遺跡第11次調査
SB200b完掘状況（北から）



前田遺跡第11次調査SB200b、前11ST075土層観察（南から）



前田遺跡第11次調査SB200c土層観察（南から）



前田遺跡第11次調査
SB200c検出状況（南から）



前田遺跡第11次調査
SB200c完掘状況（南から）



前田遺跡第11次調査SB200d検出状況（南から）



前田遺跡第11次調査SB200d土層観察（南から）



前田遺跡第11次調査SI050床面検出状況（西から）



前田遺跡第11次調査
SI050竈検出状況（西から）



前田遺跡第11次調査
SI050暗茶粘質土土層観察（西から）



前田遺跡第11次調査
SI050a土師器甕検出状況（西から）



前田遺跡第11次調査
SI050遺物検出状況（西から）



前田遺跡第11次調査
SI070検出状況（南から）



前田遺跡第11次調査SI070完掘状況（西から）



前田遺跡第11次調査SI080竈検出状況（西から）



前田遺跡第11次調査
SI080床面検出状況（西から）



前田遺跡第11次調査
SI080遺物検出状況（北から）



前田遺跡第11次調査SI080完掘状況（西から）



前田遺跡第11次調査
SI080遺物検出状況（北から）



前田遺跡第11次調査SI100床面検出状況（東から）



前田遺跡第11次調査SI120床面検出状況（北から）



前田遺跡第11次調査
SI120a土層観察（西から）



前田遺跡第11次調査
SI120b土層観察（西から）



前田遺跡第11次調査SI120遺物検出
状況（南から）



前田遺跡第11次調査
SI120青銅製鋤先検出状況（北から）



前田遺跡第11次調査SI120土層観察（西から）



前田遺跡第11次調査
SI120d土層観察（西から）



前田遺跡第11次調査SI140床面検出状況（西から）



前田遺跡第11次調査SI155床面検出状況（西から）



前田遺跡第11次調査SI155・165床面検出状況（南東から）



前田遺跡第11次調査
SI165c土層観察（南東から）



前田遺跡第11次調査SI170床面検出状況（北から）



前田遺跡第11次調査SI175床面検出状況（南から）



前田遺跡第11次調査
SI175c土層観察（南から）



前田遺跡第11次調査
SI175d土層観察（南から）



前田遺跡第11次調査SI175土層観察（北から）



前田遺跡第11次調査
SI175f土層観察（南から）



前田遺跡第11次調査SI180床面検出状況、前11SI265検出状況（東から）



前田遺跡第11次調査
SI180b土層観察（東から）



前田遺跡第11次調査
SI180c土層観察（東から）



前田遺跡第11次調査
SI180f土層観察（東から）



前田遺跡第11次調査SI185床面検出状況（南から）



前田遺跡第11次調査S1195床面検出（南東から）



前田遺跡第11次調査
S1210床面検出状況、S1255検出状況（東から）



前田遺跡第11次調査
S1210床面検出状況、S1255検出状況（南から）



前田遺跡第11次調査SI220床面検出状況（南から）



前田遺跡第11次調査
SI220a土層観察（南から）



前田遺跡第11次調査SI230床面検出状況（南から）



前田遺跡第11次調査SI225、SI235床面検出状況（東から）



前田遺跡第11次調査SI240床面検出状況（西から）



前田遺跡第11次調査SI250床面検出状況（北から）



前田遺跡第11次調査SI255床面検出状況（西から）



前田遺跡第11次調査SI255完掘状況（南から）



前田遺跡第11次調査
SI260完掘状況（上が北）



前田遺跡第11次調査SI270床面検出状況（南から）



前田遺跡第11次調査SI270床面検出状況（西から）



前田遺跡第11次調査SI280床面検出状況（北から）



前田遺跡第11次調査
SK040土層観察状況（南から）



前田遺跡第11次調査
SK040検出状況（南から）



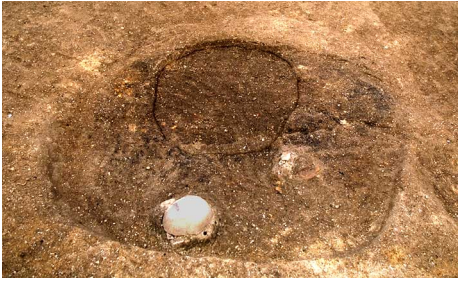
前田遺跡第11次調査
SK040土層観察状況（南から）



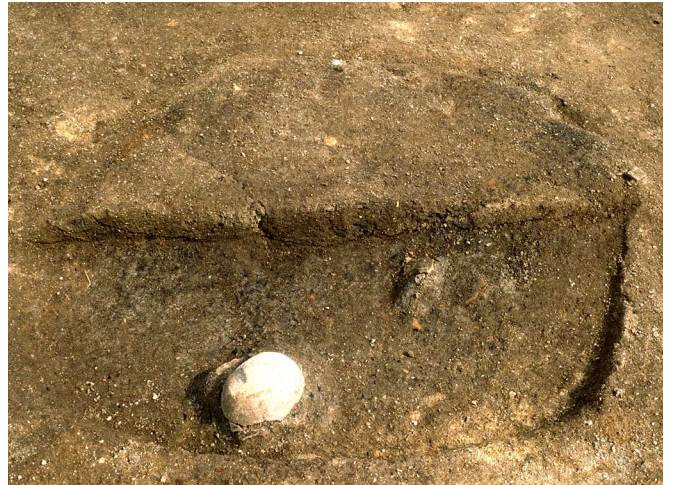
前田遺跡第11次調査
SK040淡灰茶色土層完掘状況（南から）



前田遺跡第11次調査SK040完掘状況（南から）



前田遺跡第11次調査
SK150検出状況（南から）



前田遺跡第11次調査SK150炭化米検出状況（南から）



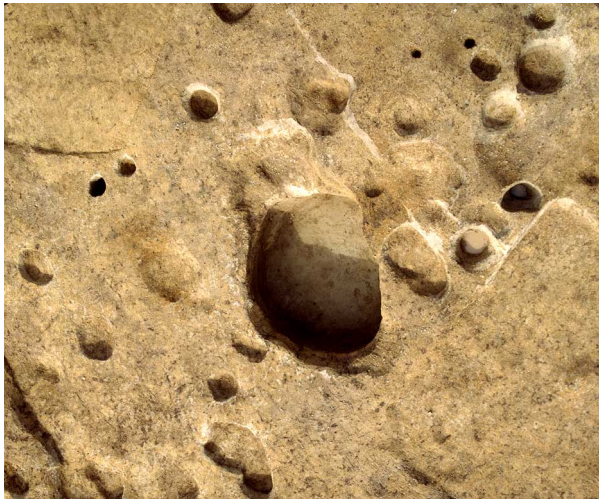
前田遺跡第11次調査SK150完掘状況（南から）



前田遺跡第11次調査SK275完掘状況（西から）



前田遺跡第11次調査SK160完掘状況（南から）



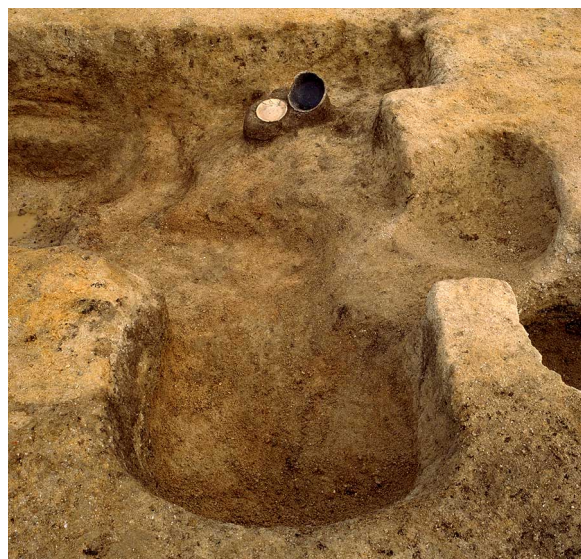
前田遺跡第11次調査SK285完掘状況（上が北）



前田遺跡第11次調査
SK285土層観察
（南から）



前田遺跡第11次調査ST075遺物検出状況（西から）



前田遺跡第11次調査
ST075遺物検出状況（西から）



前田遺跡第11次調査
ST090遺物検出状況（西から）



前田遺跡第11次調査
ST090毛抜き検出状況（南から）



前田遺跡第11次調査ST090完掘状況（南から）



前田遺跡第11次調査
ST090土師器坏a
検出状況（西から）



前田遺跡第11次調査ST130遺物検出状況（南から）



前田遺跡第11次調査ST130完掘状況（南から）



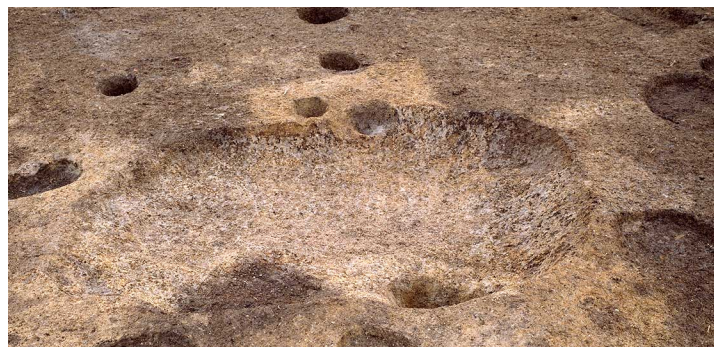
前田遺跡第11次調査SX010検出状況（北から）



前田遺跡第11次調査
SX010遺物検出状況（北から）



前田遺跡第11次調査
SX010土層観察（西から）



前田遺跡第11次調査
SX010完掘状況（北から）



前田遺跡第11次調査SX236土層観察（東から）

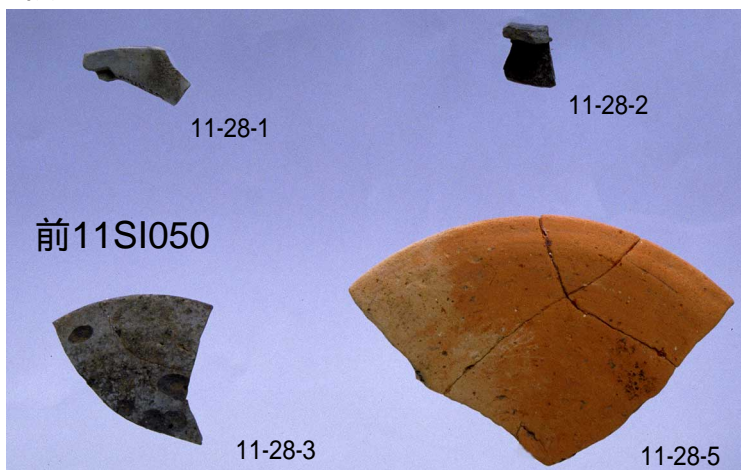


前田遺跡第11次調査SX321土層観察（南から）

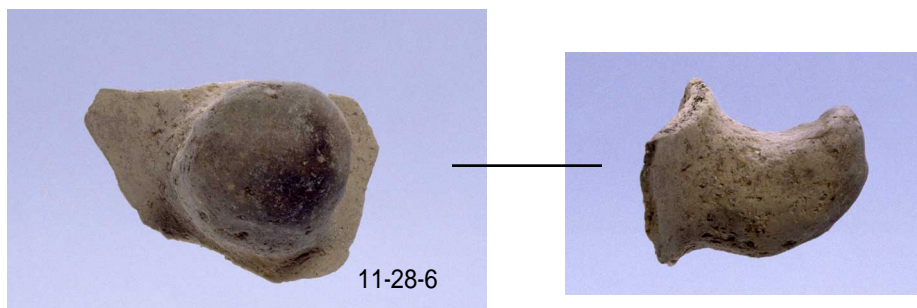


前田遺跡第11次調査 調査終了後遠景（西から）

前11SB200



前11SI050



前11SI080



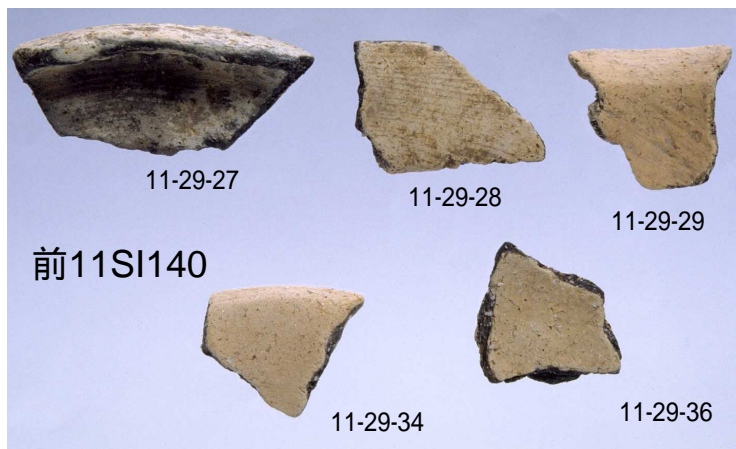
前11SI080



前11SI080



前11SI100



前11SI140



前11SI120



前11SI140

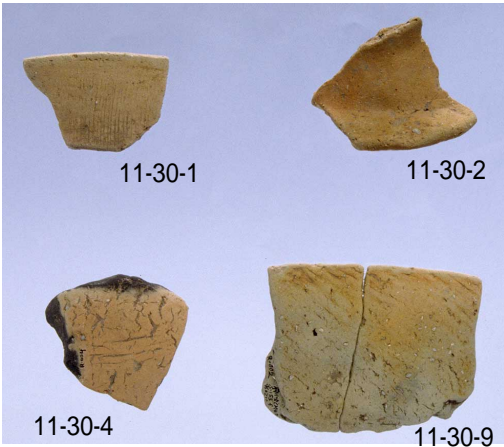


11-29-37



11-29-38

前11SI155



11-30-1

11-30-2

11-30-4

11-30-9



11-30-5



11-30-6



11-30-8



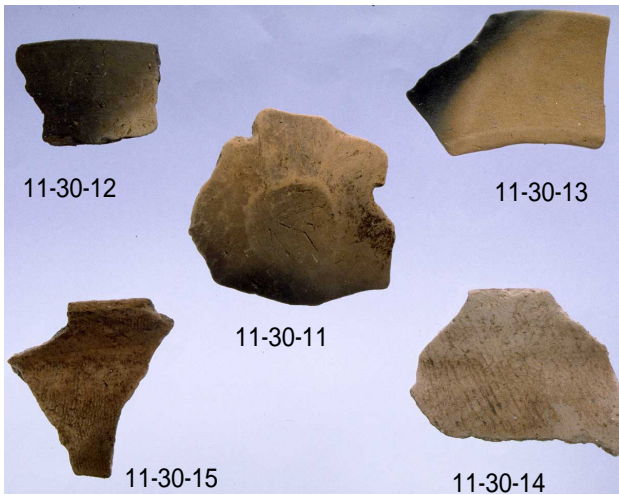
11-30-3

11-30-7



11-30-10

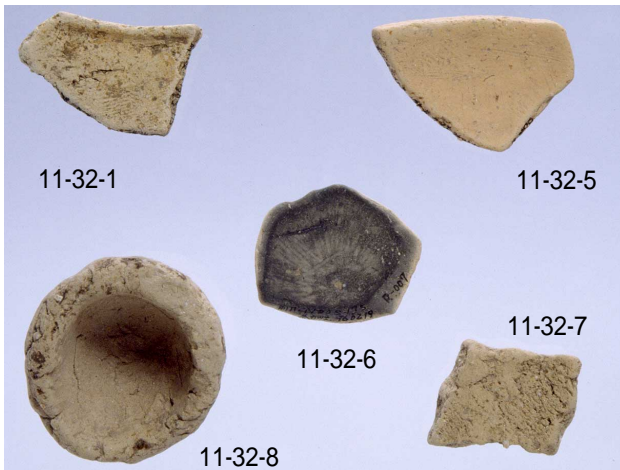
前11SI165



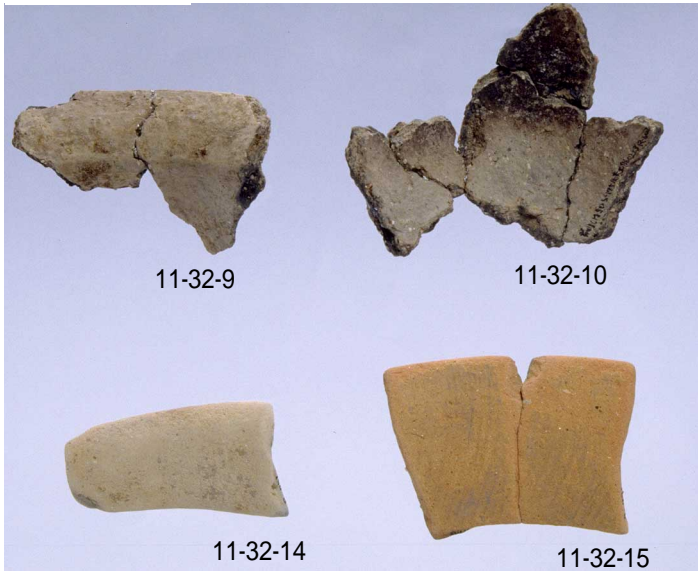
前11SI165



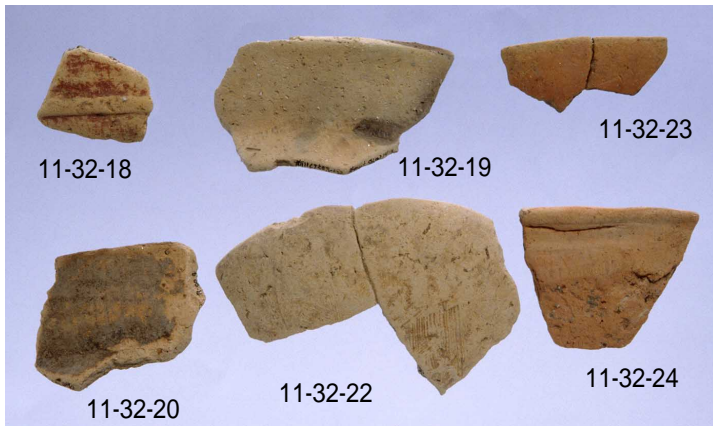
前11SI175



前11SI175



前11SI180



11-32-23



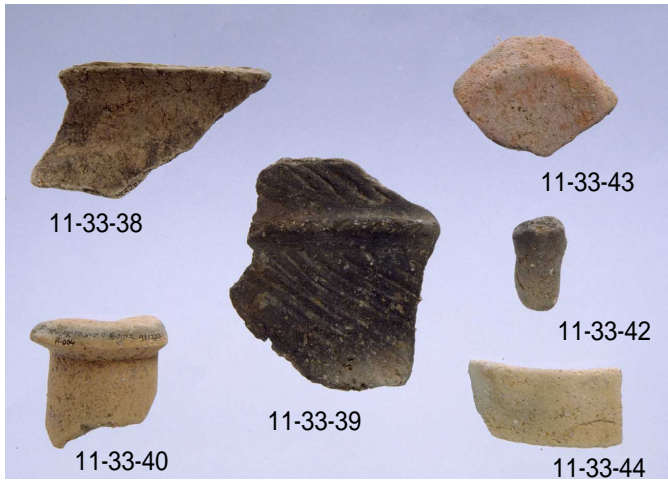
前11SI185

前11SI185

前11SI195

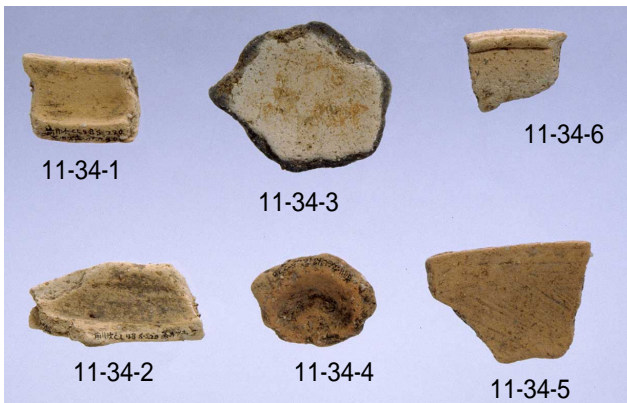


前11SI210



11-33-41

前11S220



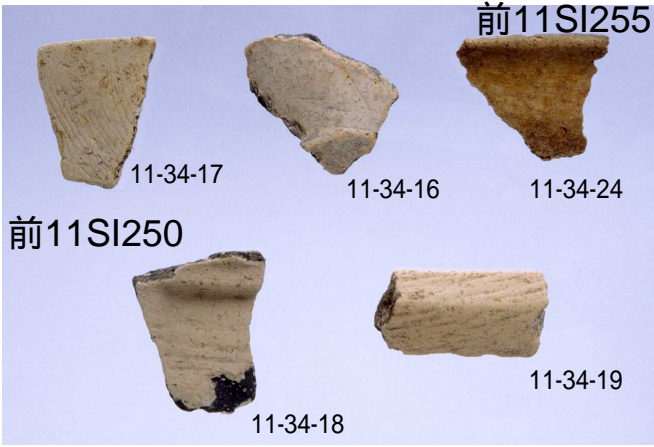
前11SI225,230,235



前11S230



前11SI240



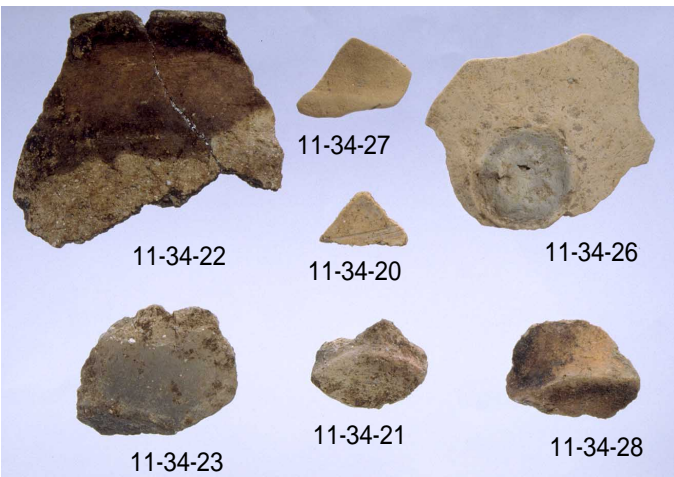
前11SK040



前11SI250



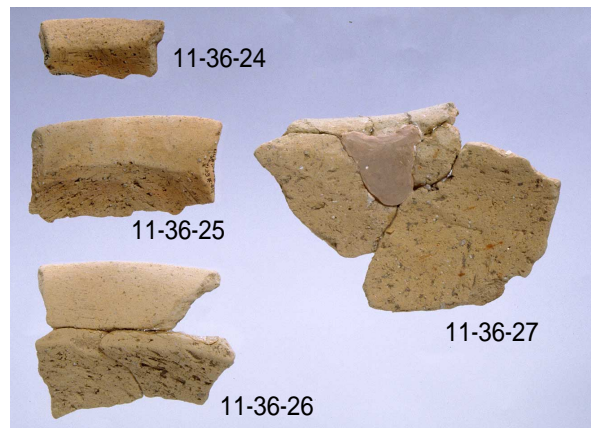
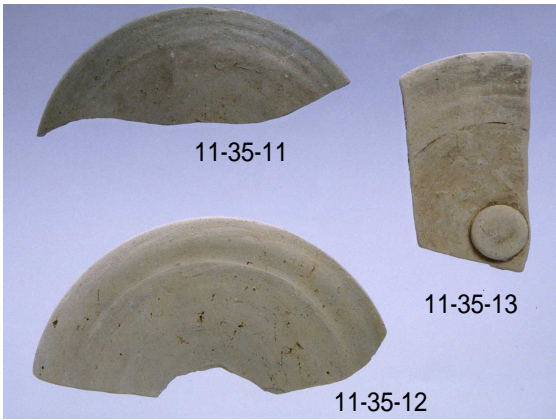
前11SI255,270,305



前11SI270



前11SK040



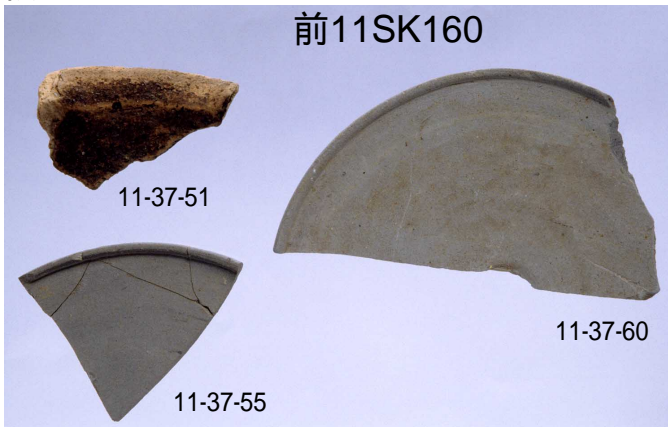
前11SK040



前11SK040



前11SK040



前11SK160



前11SK040



前11SK150



前11SK275

前11SK285



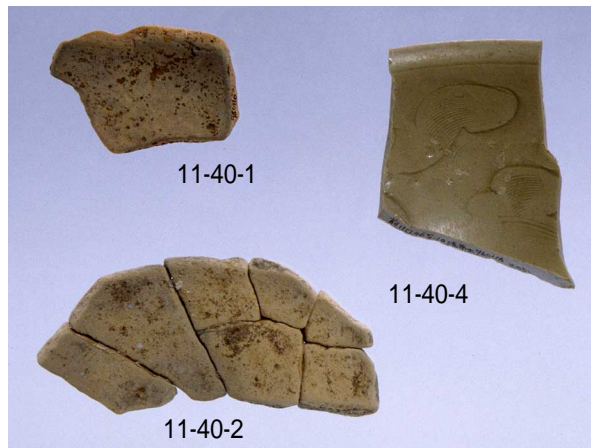
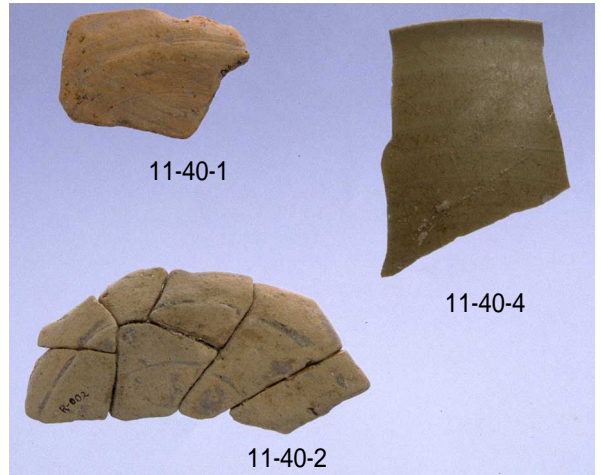
前11SK285



前11ST075



前11SX010



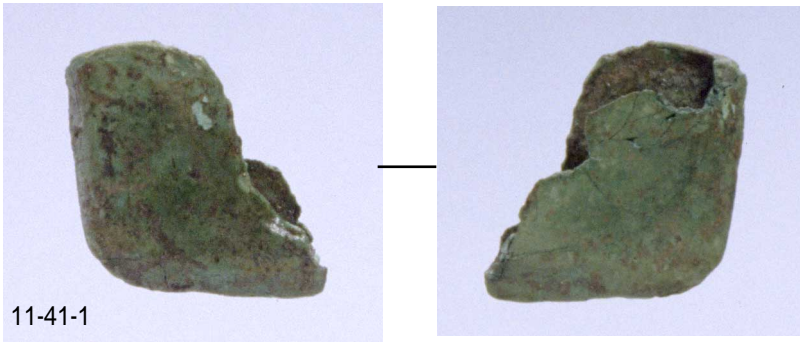
前11ST090



前11ST130



前11SI120

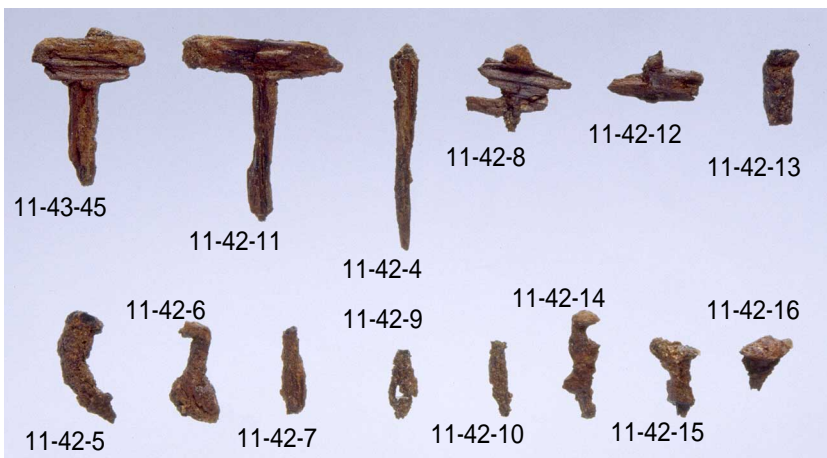


11-41-1

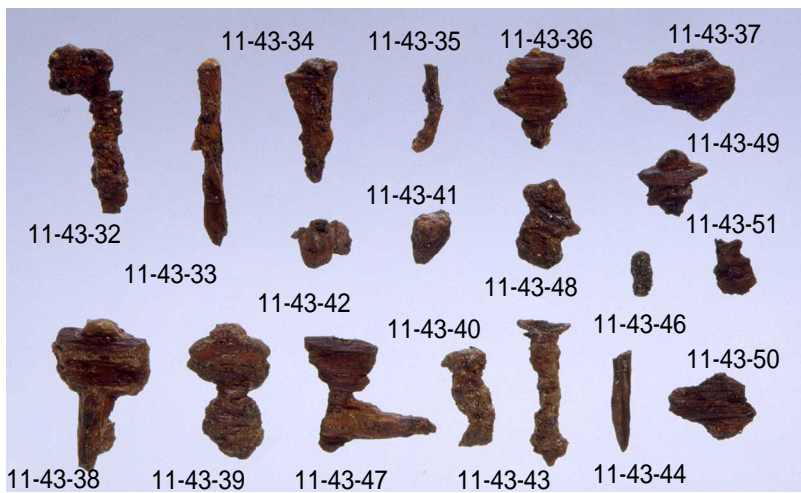
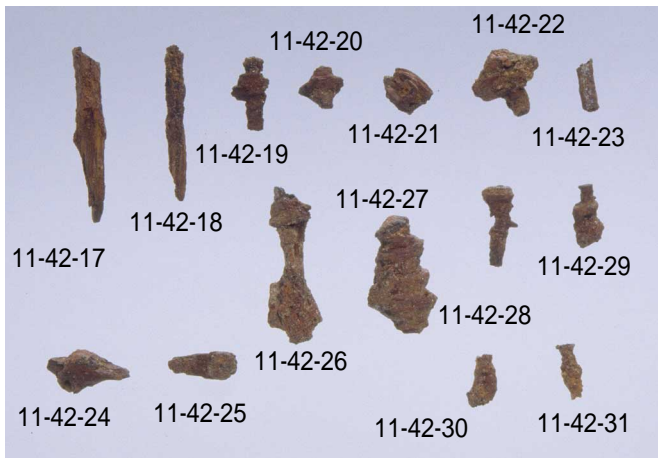
前11SI165,175,180、SK040



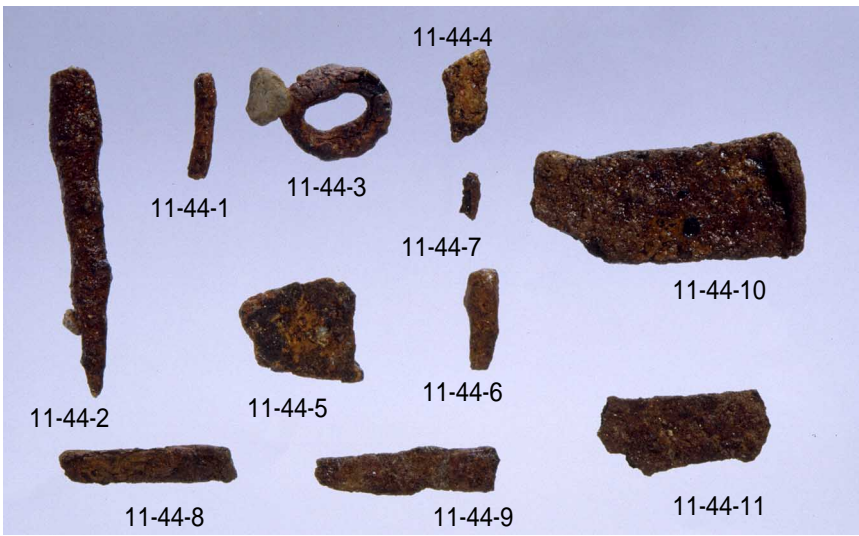
前11ST090



前11ST090



前11SX010,038,069,125,176,茶褐色土



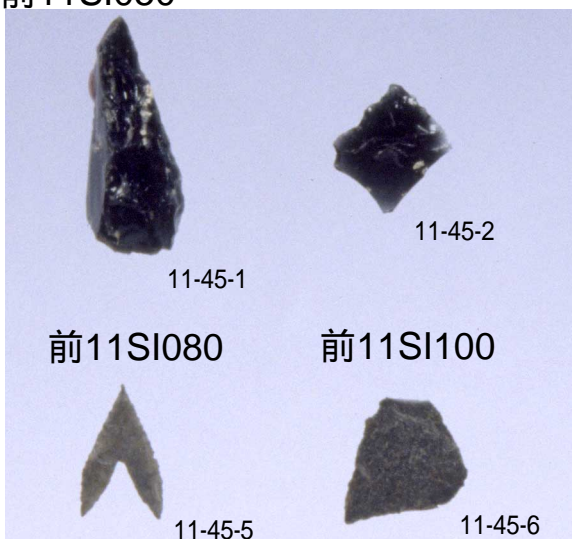
前11茶褐色土



前11SI050



前11SI050

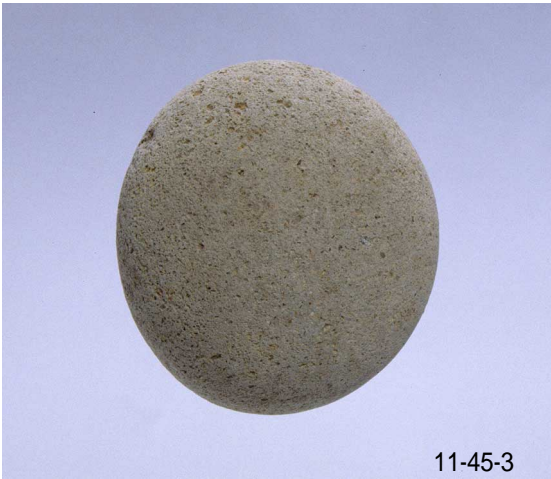


前11SI080

前11SI100



前11SI080



前11SI180



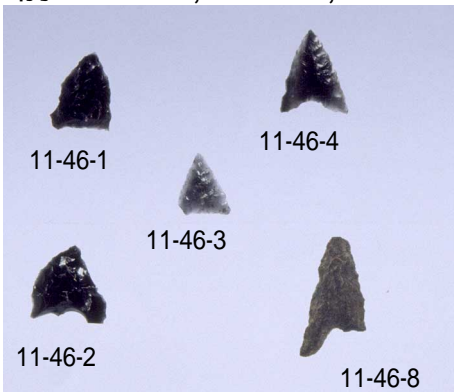
前11SI100



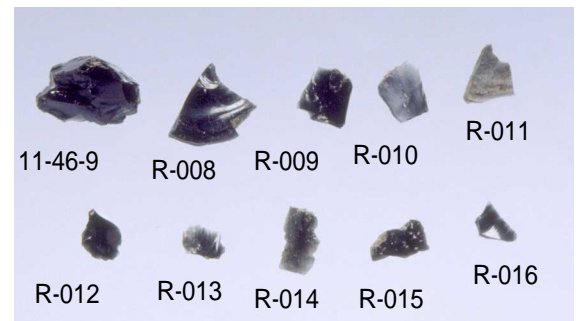
前11SI210



前11SI120,175,180,255



前11SI255



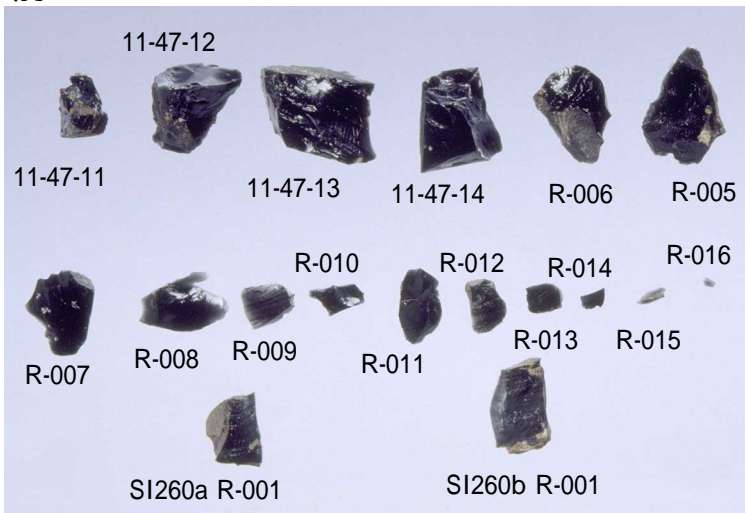
前11SI255



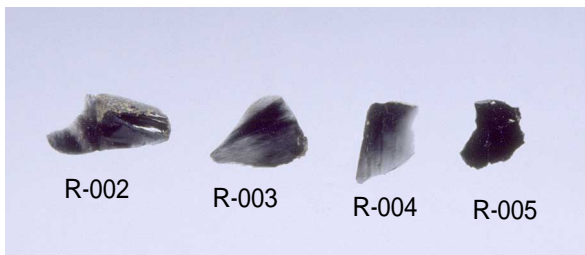
前11SI270



前11SI260



前11SI305

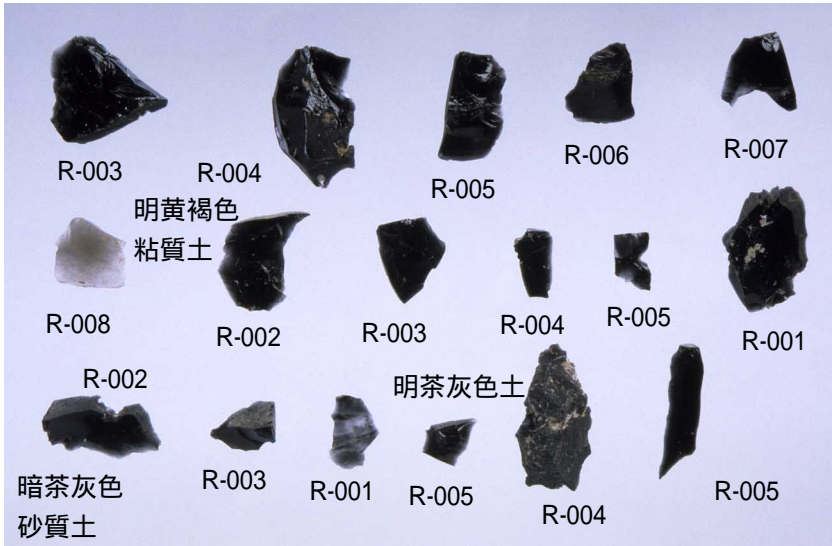


前11SK040

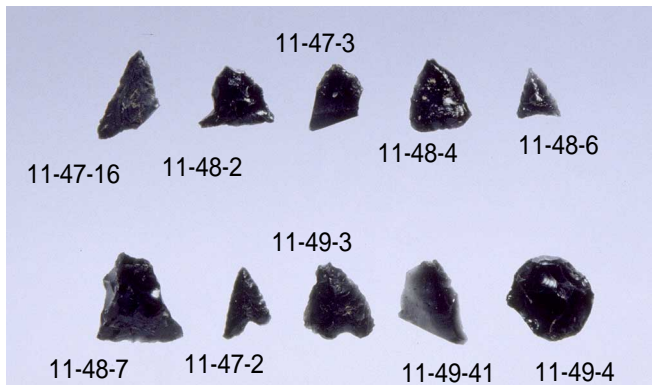
前11SX058



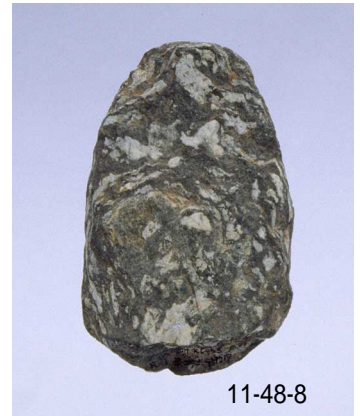
前11SK285



前11SK040,ST130,SX002
,SX039,SX076,茶褐色土



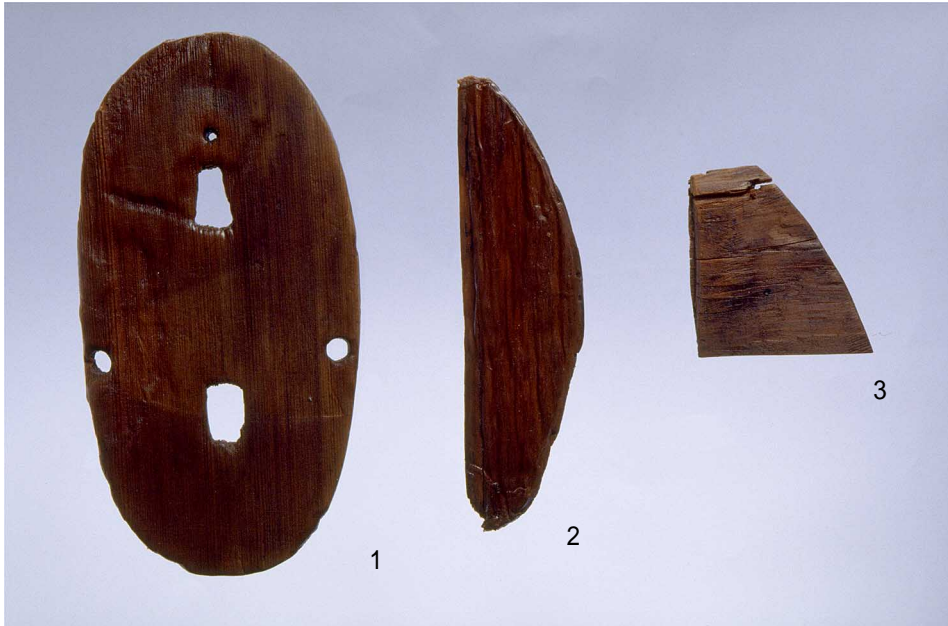
前11茶褐色土



前11SX248



Pl.28/29

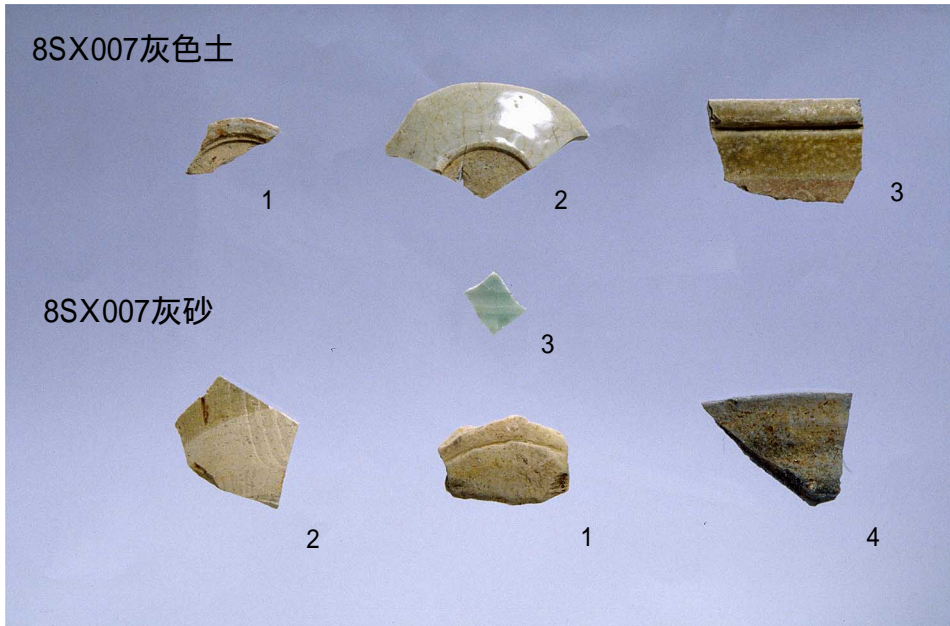


PL08-28 8SD001灰粘出土木製品1

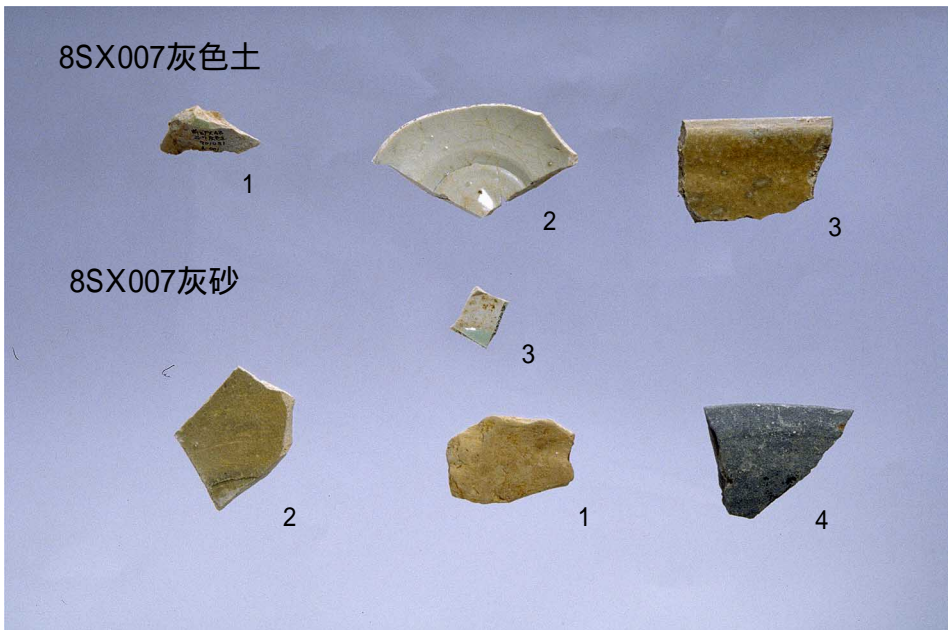


PL08-29 8SD001灰粘出土木製品2

Pl.30/31



PL08-30 8SX007出土遺物1



PL08-31 8SX007出土遺物2